

業務資料No.334

移 住 地 概 要

昭和50年度版

国 際 協 力 事 業 団
(移住部門)

1,38
176

は し が き

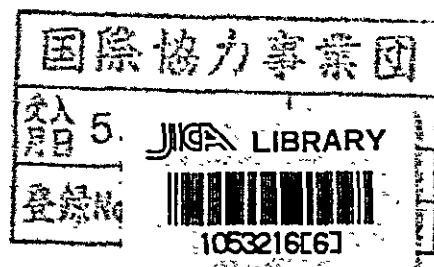
現在の「移住地概要」は、昭和44年11月に改訂されたものであるが、この間移住先国の社会情勢および移住地の諸事情もかなり変化してきているところから現状に即さない点多々あるので可能な限り最近の移住地情報の蒐集に努め加筆改訂したものである。

改訂に当っては活用の便も考慮してその後の新設移住地並びに移住先国の政治・経済・社会・移住地の自然および社会条件、入植状況、営農状況等の項を新たに加えた。

なお、部分的に若干不十分な面もあろうかと思われるので今後の改訂課題としたい。本資料が移住関係諸機関の方々の参考となれば幸いである。

昭和50年4月

移住第一業務部長



国際協力事業団	
受入 月日 '84. 5. 24.	700
登録No. 07693	23.4
	ES

目 次

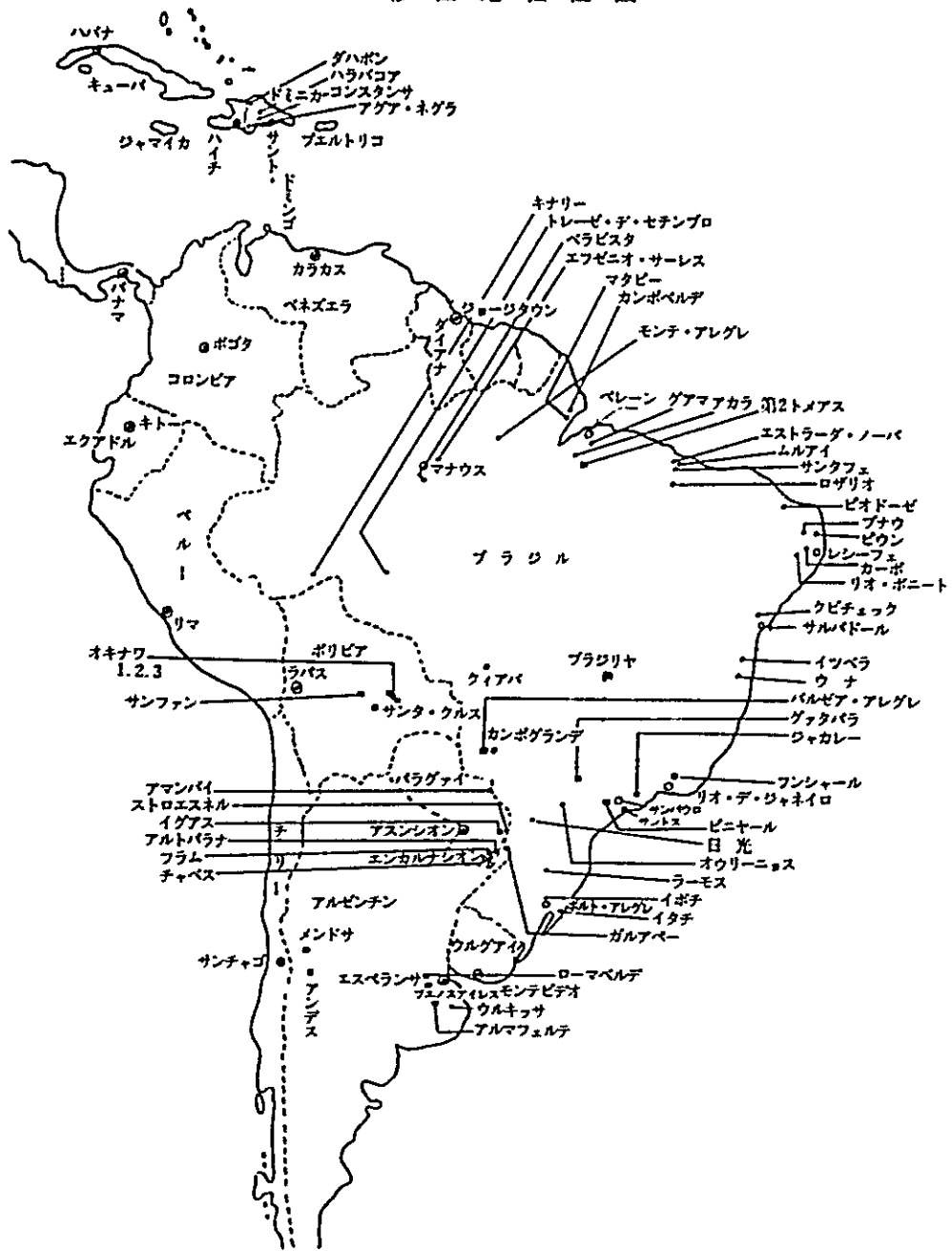
ブラジル国 政治・経済・社会	1
ベレーン支部管内	3
北伯 第1 トメアスー移住地	4
第2 トメアスー移住地	8
第2 トメアスー移住地入植状況	9
サンルイス近郊	13
モンテ・アレグレ移住地	17
ベラピスタ移住地	20
アルタミーラ移住地	23
グアマ移住地	28
アマバー移住地	30
トレゼ・デ・セッテンプロ移住地	34
キナリー移住地	38
エフゼニオ・サーレス移住地	42
アカラ移住地	46
レシーフェ支部管内	50
中伯 ビ・オ・12世移住地	51
ピウン移住地	54
ブナウ移住地	57
リオ・ボニート移住地	61
ウナ移住地	65
カーボ移住地	68
イツベラ移住地	71
クビチェック移住地	74

ガビラーバ移住地	77
タペロア移住地	80
リオ・デ・ジャネイロ支部管内	83
南伯 フンシャル移住地	84
サンパウロ支部管内	88
南伯 ジャカレイ移住地	89
○ グァタバラ移住地	93
ピニヤール移住地	98
バルゼア・アレグレ移住地	102
オウリーニョス移住地	106
日光移住地	109
桜・高森移住地	112
ポルト・アレグレ支部管内	116
南伯 ラーモス移住地	117
イボチ移住地	121
イタチ移住地	124
イタジャイ移住地	127
カッサドール移住地	130
バジェー移住地	134
アルゼンチン国 政治・経済・社会	137
ブエノス・アイレス支部管内	139
ガルアペー移住地	140
アンデス移住地	143
エスペランサ移住地	148
アルマ・フェルテ移住地	150
ローマ・ベルデ移住地	153

マルコス・パス移住地	156
エル・パット移住地	158
セラージャ移住地	161
エル・チャニヤール移住地	164
ブエノス・アイレス市近郊移住地	167
パラグアイ国 政治・経済・社会	169
アスンシオン支部管内	171
フラム移住地	172
チャベス移住地	176
<u>イグアス移住地</u>	180
イグアス移住地入植状況	182
アルト・パラナ移住地	185
アルト・パラナ移住地入植状況	187
ラ・コルメナ移住地	191
ストロエスネル移住地	195
アマンバイ移住地	198
ボリビア国 政治・経済・社会	203
サンタ・クルース支部	205
サンファン移住地	206
オキナワ第1移住地	210
オキナワ第2移住地	214
オキナワ第3移住地	217
ドミニカ国 政治・経済・社会	221
サント・ドミンゴ支部	223
ダハボン移住地	224
コンスタンサ移住地	227

ハラバコア移住地	231
アグアネグラ移住地	234

移住地位置図



ブラジル国

〔政治〕

ブラジルの政治的独立は他のラテンアメリカ諸国に比べ若干おそく 1822 年達成された。1822 年のポルトガル本国よりの独立以来、地方地主の勢力関係の上に立つボス政治が中央の政治を牛耳っていたが、1930 年（昭和 5 年）革命で勝利を得たゼフリオ・バルガス政権が旧来の陋習を破るべくあらゆる近代化への道に努力した。その後何度も政権が変わったがこの近代的民主政治の流れは 1964 年（昭和 39 年）の軍事革命政権樹立まで継続した。

第二次世界大戦後ブラジルの工業化は急速に進みサンパウロ・リオ等の工業地帯の実業家達は経済力をたくわえ政治的発言力も強くなり都市の労働者階級の政治的意識も高まってきた。しかし広汎な工業開発首都ブラジリア建設に見られるような大たんな投資を放任し、かつ放漫な経済政策のあったことも原因し財政的な破綻をきたし巨大なインフレーションにまきこまれ軍事革命政権の成立を招来したのであった。

1969 年（昭和 44 年）メジシ大統領就任以後実際の政治経済担当者に文官技官を積極的に採用し専ら経済政策を優先させインフレ抑圧と経済成長率上昇に努力した。その結果 100% を越えるインフレ率も 1973 年（昭和 48 年）には 13% 台に下がり 10% を越える経済成長率を 3 年連続して成し遂げブラジルの奇蹟とまで言われている。

1974 年（昭和 49 年）3 月ガイセル将軍が大統領に選ばれ、国民総生産の向上、地域・所得格差の是正雇用機会を増大、地域開発（農業、工業、鉱業）の重点施策を打ち出した。

ブラジルは代議制による連邦共和国で広汎な自治権を有する 22 州と 1 連邦都 4 直轄領からなっている。国家の組織は行政、立法、司法の三権分立制をとっているが軍事革命政権以来行政権が立法、司法に対し優位を占めている。

連邦の行政権は大統領が行使しその任期は 5 年である。各州の地方行政は連邦憲法の定める諸原則に従い広汎な自治権を有し政治機構は三権分立となっている。

上院下院とから成り上院議員の定数 66 名下院議員は州ごとに登録された有権者数に応じ夫々決められる。

政党は、ARENA（全国革新同盟）と MDB（ブラジル民主運動）とがあるが国会での勢力分野は前者の与党が強くまた共産党は非合法である。

〔経済〕

ブラジルの奇蹟と呼ばれた経済成長率をもってしても国民所得 1 人当り 700 US\$ でラテンアメリカの中でもアルゼンチンやチリーに劣り工業化を促進し先進国の仲間入りを目指して努力しているが極端な地域格差がその経済発展を遅らせている。

（農業） 輸金額の 1 位を過去から現在までコーヒーが独占しており基調は農業国である。小麦以外は国内で自給できるが農産品の大部分は地域的に見ると中南部に偏り 75% を占めている。最近の農業生産の中で特徴的なことは大豆の生産が急激に伸びていることで世界的な食糧逼迫の傾向により国際相場の上昇の影響を多分に受けていることである。

小農生産、移動農業、地域格差、低生産性等の問題を抱え農業の近代化を目指して政府は重点施策

を打ち出している。即ち農地改革、補助金的な融資の促進、改良種子の配布、農業知識の普及サービス、市場開拓、流通機構の整備などである。

(工業) ブラジル経済の近年の目ざましい発展は工業が軸となっている。1972年(昭和47年)の工業生産の実質増加率は13.8%を(1973年15%)示したがこれは製造工業並びに建設業の著しい伸びによるものであった。部門別にみると自動車工業、化学工業の設備が急速に進められている。又特に注目すべきは埋蔵されている鉱物資源の開発に伴う各種の生産計画である。急激に伸びている鉄鋼需要に対しアマソンの鉄鉱山の開発、或はボーキサイト鉱床の発見による壮大なアルミニウム製錬計画或は一貫したパルプ生産等々多種多様である。

(社会)

ポルトガル人は、ブラジル最初の植民者でこの国の根幹をなす民族であるが、それ以前に土着のインディオが存在しその後アフリカから導入された黒人が加ってこの国民の土台を形成した。19世紀に入ってからイタリア、スペイン、ドイツ等の欧州移住者また20世紀に日本人等アジア人も移住しこれらが混在し新しい型のブラジル人が生じつつある。国語はポルトガル語でまた国民の大部分はカトリックを信奉している。そして国民性は潤達寛容で人種的偏見はうすい。

初等、中等教育あわせて8年高等教育3年大学は3~6年である。国の優先施策として政府が力を注ぎ取り組んでいるのは文盲問題である。国土面積は8,512,000 Km² 1億人の人口を抱え人口抑制策はとっていない。サンパウロ・リオ等の大都市に人口が集中する傾向にあり過疎問題が大きい。

広い国土は豊かな資源に恵まれているので国民は楽天的で陽性で社交性に富んでいる。リオのカーニバルは黒人の祭りであるが世界的に有名で、スポーツはフットボールが盛んである。

食事は南部では米とパンが常食であるが北部ではマンジョカが多く、またうずら豆に似たフェジョンを食する習慣がある。

I ベレーン支部管内

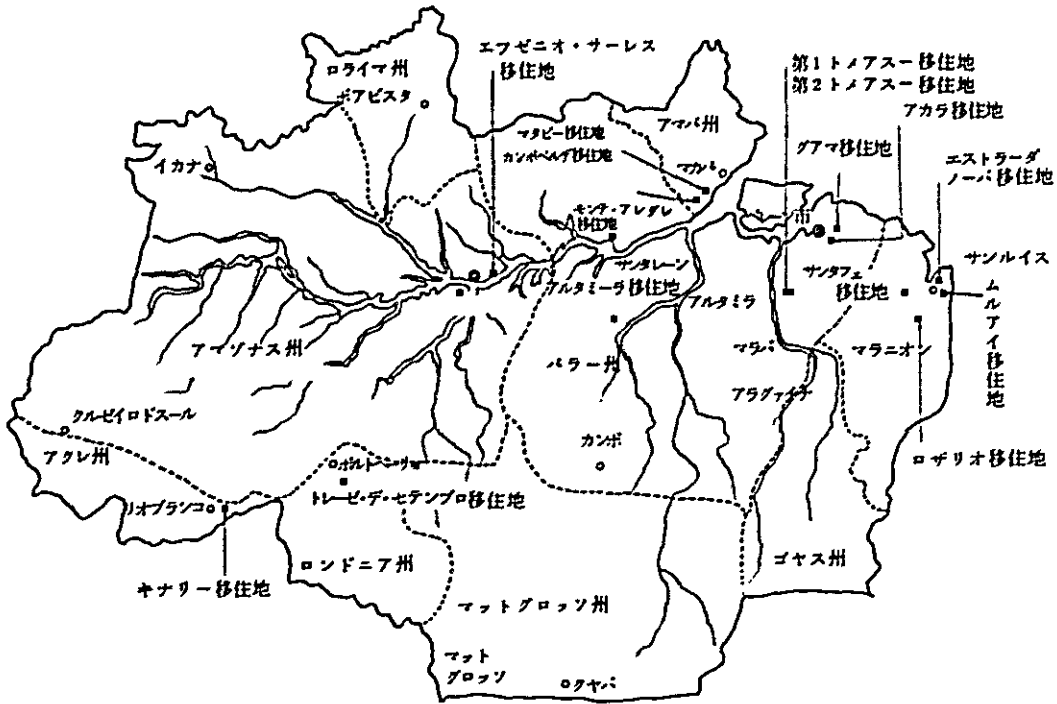
支部機構

ベレーン支部 (ベレーン市)

- マナウス支所 (マナウス市)
- 第2トメアスー事業所 (第2トメアスー移住地)
- アマゾン熱帯農業総合試験場 (#)

管轄州

パラ州、アマゾナス州、アクレ州、マラニオン州、ピアウイの5州、アマパ州、ロライマ州、ロンドニア州の3直轄州及びゴヤス州北部



移住地名 第1トメアスー

1 地区概要

所在地	所在地	パラ州トメアスー郡
	管理 者	MUNICIPIO DE TOMÉ- AÇU, ESTADO DO PARÁ
	入植開始年度	トメアスー産業組合
		昭和4年

経緯	経	昭和4年南米拓植株式会社に移住地として発足、戦前352家族の入植をみたが営農上の失敗やマラリヤの発生等により退耕者多く、89家族が定着、戦後ビメンタの栽培に成功、飛躍的発展をとげた。現在約1万トンを生産し、北米・ヨーロッパ・アルゼンチンに輸出している。戦前移住者の大部分は会社から土地分譲を受けて入植したが、戦後は戦前組の農場へ雇用契約終了後、雇用主の援助又は事業団融資等により独立するケースが多かった。入植者の営農はビメンタの国際価格の変動につれ一時停滞もあったが、近年の価格好調にささえられ入植者の生活は安定してきている。一方ビメンタ樹の病害拡大に伴い減産の傾向があるも新耕地への増殖によりカバーしている。
	緯	

自然条件	位置	W 48° 50' S 1° 50'
	地形	標高 11 ~ 30 m (平均 20 m) 概ね平坦地区内をアカラ河の支流クシユー川及びアカラミリ川が横断している。
	地質・土壌	ラテライト系の肥沃度中程度の土壌で表土は比較的有機質に富む暗灰色砂壤土、埴土
	植性・林相	熱帯性原生林に覆われ、アカブー、マサロンドウバ、ジャラナその他の有用材も若干混在している。
気候		熱帯性の高温多湿なるも(年間平均 27.2℃ 1973年)ベレン周辺よりは乾湿の変化が顕著である。雨期は 12 ~ 5 月、乾期は 6 ~ 11 月、平均年間降雨量 2,500 mm。

社会条件	交通	トメアスー港よりベレン市までは水路(アカラ河)で 270 km 組合経営の定期船が就航している他、テコテコ機が毎日ベレン〜トメアス間(約 30 分)を往復している。外部への陸路はベレンまでアカラ經由ブジャール、グアマ、サンタイサベルの 250 km ブラジリア街道パラゴミナス經由約 500 km の 3 本の州道が完成しており毎日 6 往復のバス便も運行されている。
	市場	消費市場ベレン市人口 70 万、アマゾン流域最大の都市で行政、文化、商業の中心である。アマゾンの農産物輸出港で主な取引物はビメンタ・ジュート・ゴム・カスター

社 会 条 件		ニヤなどが出荷されており、なかでもビメンタはベレン港を経て北米・ヨーロッパ・アルゼンチン等世界各地に輸出されている。
	医療・教育	昭和49年11月には州立病院が完成され医療業務に当たっている外ベレン援協の日系医師が定期的に巡回している。域内に小学校が4校、中学校が1校ある州政府派遣の警察官がトマスー町に常駐しており、トマスー郡全体の治安を管轄下においている。

2 入植状況

入 植 戸 数 と (内 人 地) 員	年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	戸数	29	77	71	6	6	6	6	30	35	4	1	1	
	人員													
	年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49	現在入植者	合計	定着数	
	戸数												340	
	人員												2110	

昭和49年9月末

退耕者の主なる転住先	ブラジル南部	パラプァイ	アルゼンチン	船 国	そ の 他
率 (%)					

主なる出身県名	熊本	宮城	北海道	福島	広島	鹿児島	山形	福岡	群馬	その他県	合計
戸 数	55	34	26	22	19	18	17	16	15	118	340

総 面 積	50,000 ha
ロ ッ テ 面 積	25 ha
電気・飲料水	49年11月アグアブランカ地区に発電所が完成。 各地区において配電工事中(3相3300ボルト60サイクル)飲料水は10m~20m程度の深さで水を得ることが可能であり、自家掘り井戸で賄っている。
地区内道路	幹線は砂利道の州道、支線は盛土である。
主なる事業団援護施設	小学校1
組合等所有施設	組合事務所本館1(3階レンガ建)倉庫3乾燥機1、発電施設1、給水施設1、機械修理所1
車輛・機械等	大型貨物トラック2、普通トラック3、タンクローリー1
そ の 他	鋼鉄船1

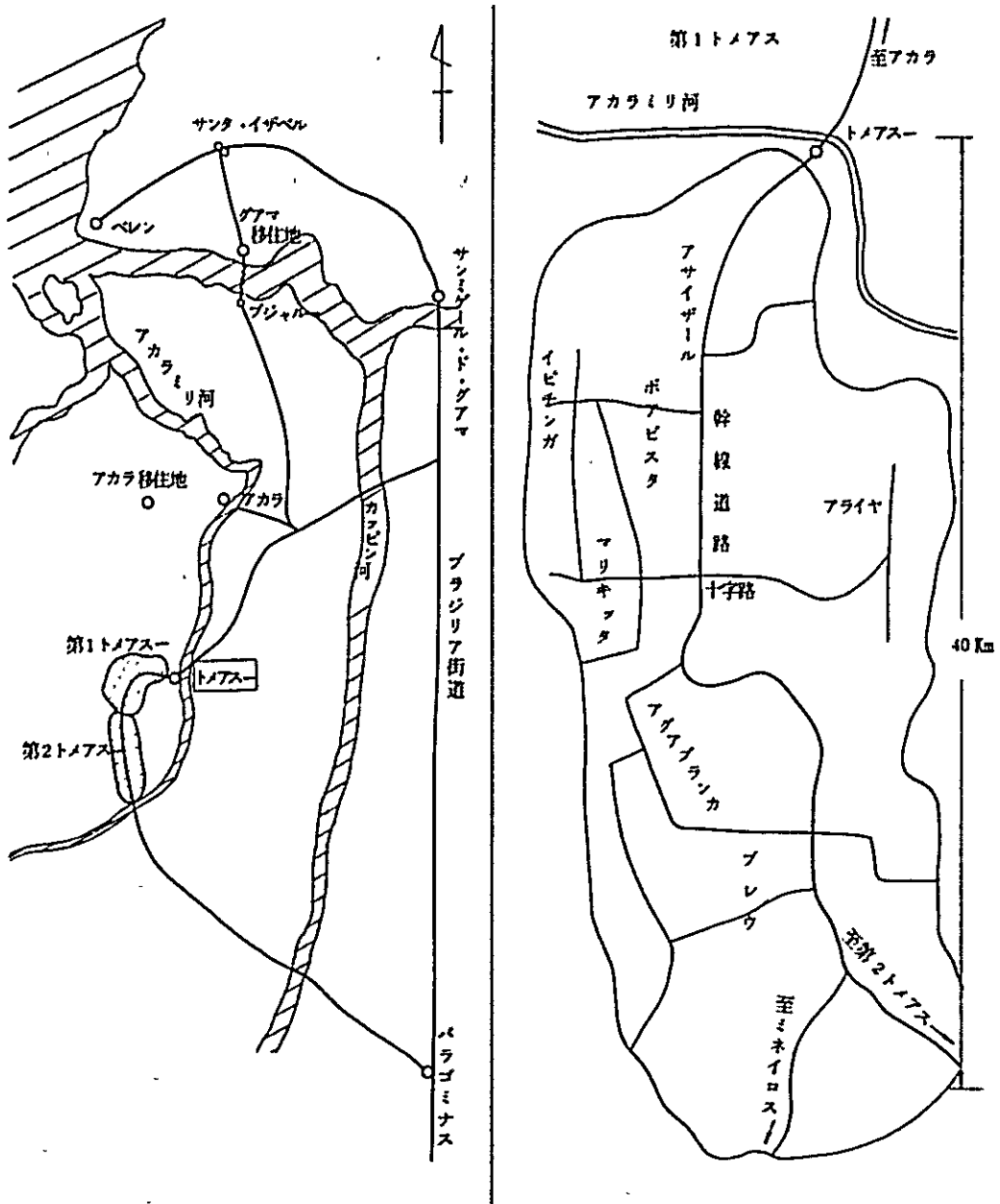
3 營 農

主 作 目	胡 椒
営 農 状 況	従来当トメアスー地区の営農は胡椒の単一栽培によりなりたって来たが、根腐病、胴枯病等の病害の関係からあらためて当地の農業経営の検討がなされ、その第1段階としてカカオの導入がはかられ昭和49年来現在140万本が栽植されている。また昭和48年12月末パラゴミナス〜トメアスー經由ベレン間の州道が開通したことによる社会的環境の変化に伴った蔬菜、雑穀を採り入れた新しい農業形態が生れようとしている。
農機具等の普及状況	脱粒機0.9台、発動機1.1台、動力噴霧機0.3台、自動車0.8、トラクター0.9台、チェーンソー0.5台（昭和48年度調べ農家1戸当平均）
営農の指導機関	トメアスー産業組合農事部 パラ州農村信用援護協会（ACAR-PARA） 事業団アマゾニア熱帯農業総合試験場
利用金融機関	銀行、事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	トメアスー産業組合を通じ、北米、ヨーロッパ、アルゼンチン等世界各地に輸出されている。
農 家 所 得 （1戸当り平均48年度）	1,647千円（37,276 CrS）

4 組 織 活 動

自 治 会	「トメアスー文化協会」を組織しこの下に各地区会があり、教育・文化・衛生・土木・治安等の事業を行っている他に、トメアスー青年会、二世会、4Hクラブ、婦人会等がありそれぞれ地区全域で活動を行っている。
農 協	「トメアスー産業組合」はトメアスー十字路地区に本部を置き集荷調整購売所、肥料部、農機部の諸施設を設置し他に農事部、運輸部がある。 ベレン支店は海外市場との取引、銀行関係胡椒輸出購売品の仕入れ等またサンパウロ支店は胡椒の国内販売、商品の仕入れ渉外等の業務を行っている。 現在、組合加入者は約270名である。

5 地区略図



移住地名 第2トメアスー

1 地区概要

所在地	パラ州トメアスー郡 MUNICIPIO DE TOMÉ-AÇU, ESTADO DO PARÁ
管理 者	事業団
入植 開始 年度	昭和37年

経緯	昭和34年トメアスー産組は同移住地入植30周年の記念事業として後続移住者を受け入れビメンタの増産を図ることを目的とし、新たな移住地の創設を計画した。この事業は、その後旧移住振興会社が引継ぎ昭和35年末旧パラ州有地の譲渡を受け、直営移住地として移住地の建設が始まった。この移住地の問題は、ビメンタの単作に近い営農形態であり、この価格に相当な変動があるため、経営が不安定な面もあることから、最近ではカカオ、番産、香料作物等を組み合わせた経営が研究されている。現在地区内に事業団第2トメアスー事業所、アマゾン熱帯農業総合試験場、及び直営診療所がある。
----	--

自然 条件	位置	W 48° 20' S 20° 30'
	地形 地質・土壌 植性・林相 気候	第1トメアスーと同じ

社会 条件	交通 市場	ベレン市～第2トメアスー間はバス便1日2往復が運行されている。 第1トメアスーと同じ
	医療・教育	事業団直営の診療所があり、医師1名、看護婦2名が常駐している。救急車1台が配置されている。ベレン援協よりの巡回診療も随時実施されている。マラリア等の風土病は近年殆んど発生を見ていない。 地区内には事業団交付金で建設した小学校が2校あり(4年制)、教師8名(日系2名)が配属されている。生徒は自転車、徒歩等で通学。中学校は地区外トメアスー町に1校あり、他はベレン市に寄宿通学している。就学状況は一般に良好であり高校進学も近年増えている。また大学進学者も毎年2～3名が出ている。
治安		地区内3カ所に警察官が3名(うち州警官1名)常駐しており、事業団より治安用オートバイ各1台が貸与されている。治安状況は良好である。

2 入 植 状 況

入 植 戸 数 (内 地 人 員)	年 度	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	
	戸 数		8	2	4	17	11				1	5	
	人 員		37	16	23	72	42				2	17	
	年 度	48	49	現 地 入 植 者	合 計	定 着 数							
	戸 数	2		81	131	117							
人 員	8		293	510	447								

昭和49年9月末

退耕者の主なる転耕先	ベレン近郊	東 伯 中	伯 掃 国	そ の 他	
率 (%)	14 (2戸)	14 (2戸)	7 (1戸)	43 (6)	22 (3戸)

主なる出身県名	青 森	宮 崎	栃 木	秋 田	東 京	山 形	熊 本	その他	合 計
戸 数	25	21	8	7	5	5	4	42	117

総 面 積	25,800 ha			
ロ ッ テ 面 積	25 ha			
分譲条件及び価格	(一括払) 230,000円 (分割払) 頭金 23,000円 4年据置 5年払 年賦金 41,400円			
分譲可能面積	22,000 ha			
分 譲 状 況	分 譲 済 面 積	未 分 譲 面 積	道 路 市 街 地 等 利 用 地	除 地
	8,558 ha	13,442 ha	411 ha	3,389 ha
地 権 交 付	交付済 107名 未交付 名			
電 気 ・ 飲 料 水	電気は自家発電 (110ボルト使用), 飲料水は13m~25mの深さで水を得ることが可能であり, 自家掘り井戸で賄っている。水質良く水量は豊富。電化は電化工事中の第1トメアスーに次ぎ近い将来実現の見込となっている。			
地 区 内 外 道 路	47年に第2トメアスー~パラゴミナス間州道2号線が開通し, 続いて域内及び第1トメアスー幹線道路, アカラ經由州道1号線等が次々と巾員10M位砂利舗装で完成し, 道路状況は一変した。域内支線も事業団の手により砂利舗装している。			
主なる事業団援護	施 設	小学校2, 教員宿舎4, 診療所1, 医師宿舎1, 看護婦宿舎1, 警察屯所3, 移住者宿泊所3		
	車 輛	教急車1, 治安用オートバイ3, 営農改善用ブルドーザー1, トラック2		
組 合 ・ 自 治 会 等 所 有	施 設	組合支所1, 公民館1, 青年会館1, 総合グラウンド1, 出荷場1, 組合ガソリン		

車両・機械等	ポスト1 精米機1
--------	--------------

3 営 農

主 作 目	胡 椒
営 農 状 況	ビメンタの市況の好転に支えられ、営農は安定しているが長期的な展望に立てば、第2作目（香料作物、畜産等）の導入は欠くことが出来ず、移住地に於ても除々にこれらの導入が計られつつある。
農機具等の普及状況	脱粒機0.2台、発動機0.2台、動力噴霧機0.1台、自動車0.2台、チェーンソー0.2台、トラクター0.2台、（昭和48年度調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	アマゾン熱帯農業総合試験場、協力機関として北伯農業試験場、パラ州農村信用援護協会（ACAR-PARA）トメアスー産組農事部等
利用金融機関	銀行・事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	トメアスー産業組合を通じ北米・ヨーロッパ・アルゼンチン等世界各地に輸出されている。
農 家 所 得 （1戸当平均昭和48年度）	2,761千円（62,493 crS）

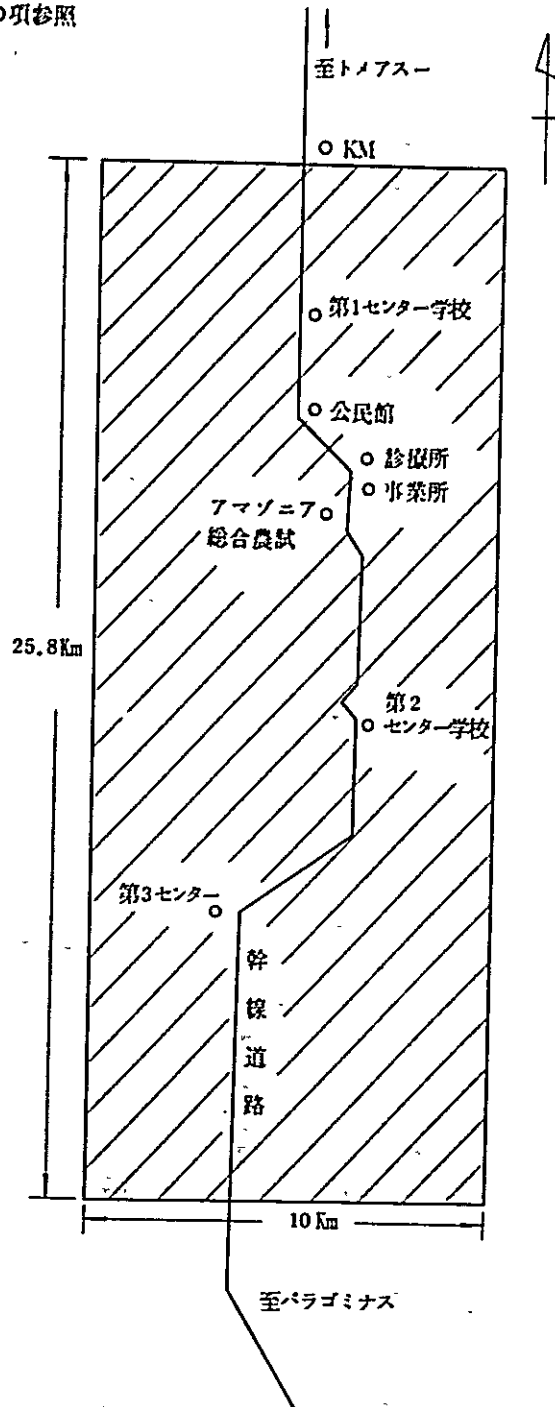
4 組 織 活 動

自 治 体	「第2トメアスー自治会」を組織し、教育・文化・医療・衛生・治安・防疫・産業等の事業を行っている。
農 協	他に、第2トメアスー青年会、婦人会があり、それぞれ地区全域で活動を行っている。 第2トメアスー入植者の殆どはトメアスー産業組合に加入している（第1トメアスーを参照）

5 地区略図

移住地位置図

第1トメアスーの項参照

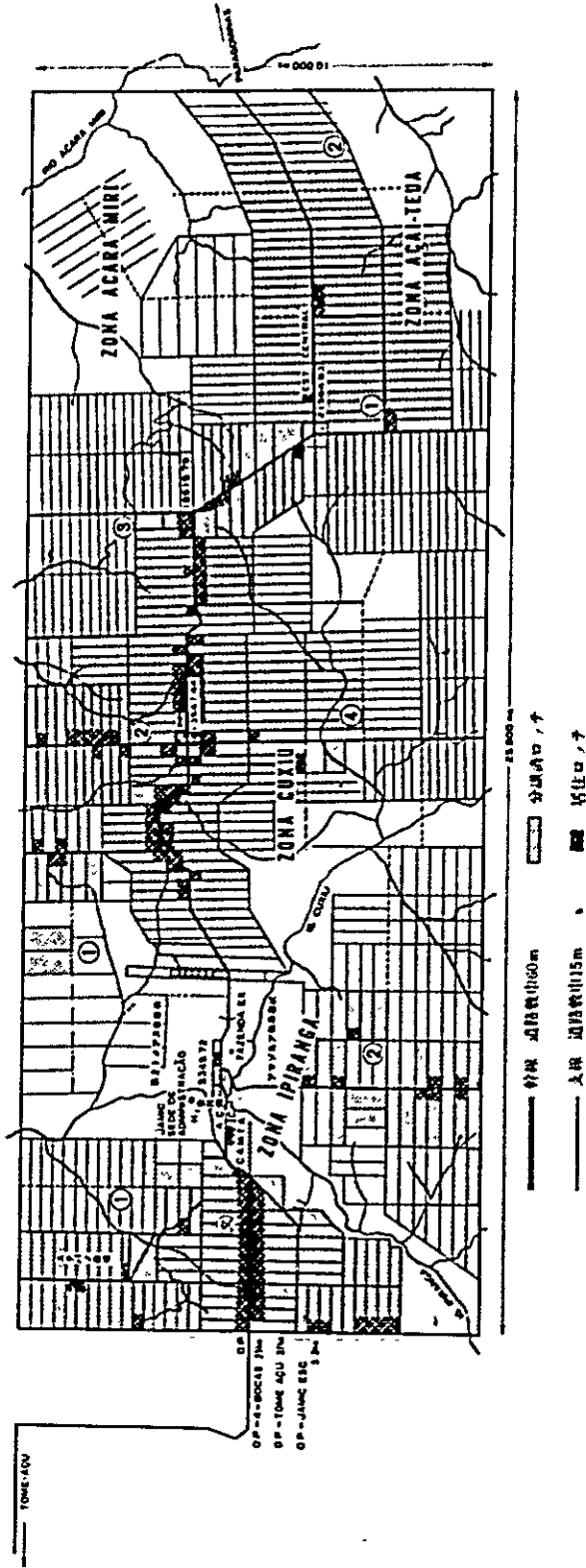


COLÔNIA DAINI TOMÉ - AÇU

AREA 25.800 HECTARES

ESCALA 1 : 100.000

第二トメアスー移住地入植状況 (1974年 (昭和49年) 3月末現在)



移住地名 サンルイス近郊 (マラニオン)

1 地区概要

所在地	マラニオン州 ESTADO DE MARANHÃO
管理者	州, 集団独立
入植開始年度	昭和39年度
経緯	マラニオン州政府は市民に蔬菜, 鶏卵等食品を豊富に供給する事を目的として日本人移住者導入を計画した。 昭和35年7月にロザリオに19家族が入植したのがマラニオン州への日本人移住の始まりである。そして翌年昭和36年ムルアイ地区にマラニオン州と日本政府との協定による養鶏移住者10家族が入植した。 その後, ロザリオ地区より転住しサンタフェ, エストラダ・ノーバ地区等に分散してトマトを中心とした蔬菜栽培が営まれるに至った。現在もなおサンルイス市に対する蔬菜類の供給を主とした営農を行っている農家が大部分であるが近年南伯と道路の開通に伴い他州よりの生産物の移入が頻繁となり経営が一般的に苦しい。
自然条件	位置 W 44° 16' S 2° 31' 地形 一般に台地状の平坦地である標高4m 地質・土壌 一部高台には粘土量の多い所もあるが全体的に第3紀層に属する砂壤土で透水性が良い 強酸性 pH=4 植性・林相 殆どが再生林でパプーヤンが相当数あるが, 他は灌木林で乾燥型植生である。 気候 1月~6月 乾期 7月~10月 最高平均気温 33.5℃ 最低平均気温 21.5℃ 年間平均気温 26.5℃ 年間平均降雨量 1,818mm
社会条件	交通 各地区からサンルイスまで幹線は舗装された BR 21 国道が走っている。 市場 消費市場はサンルイス市である。 近傍主要都市 サンルイス市, 人口40万人 西北西最も遠い, ロザリオ地区から陸路80km 医療・教育 各地区内に医療施設はなく, サンルイス市の医療機関を利用している。 サンルイス市には慈善病院, 州立病院, 中央マラニオン病院, ポルトガル病院, 精神病院, 産院, 結核療養所等の医療機関ならびに事業団特約医制度を実施している。 又各地区に学校施設もなく全員サンルイス市にバス通学している。

治 安	警官は駐在していないが、治安は概ね良好である。
-----	-------------------------

2 入 植 状 況

入 植 戸 数 (内 人 地 人 員)	年 度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸 数						19	10					
	人 員						111	52					
	年 度	42	43	44	45	46	47	48	49	現 地 入 植 者	合 計	定 着 数	
戸 数				1					2	32	22		
人 員				3					8	174	112		

昭和49年9月末

但し、ロザリオ2戸、ムルアイ11戸、サンタフェ1戸、エストラーダノーバ3戸、その他5戸

退耕者の主なる転住先	ブラジル国内	ボリビア国	アルゼンチン国	場 国	そ の 他
率 (%)	80			20	

主なる出身県名	高 知	長 崎	愛 媛	宮 崎	熊 本				その他	合 計
戸 数	6	5	3	4	1				3	22

ロ ッ テ 面 積	10～30 ha
分譲条件および価格	州有地 実費有償
地 権 取 得	取得6名、申請中14名、未申請2名
電 気 ・ 飲 料 水	電気は導入されていない、ただし自家発電の農家がある。 飲料水は、井戸水(素堀井戸)を利用しており、水質は良い。
地 区 内 道 路	私道、郡道、州道、国道があり交通は良好である。
主なる施設車両	なし

3 営 農

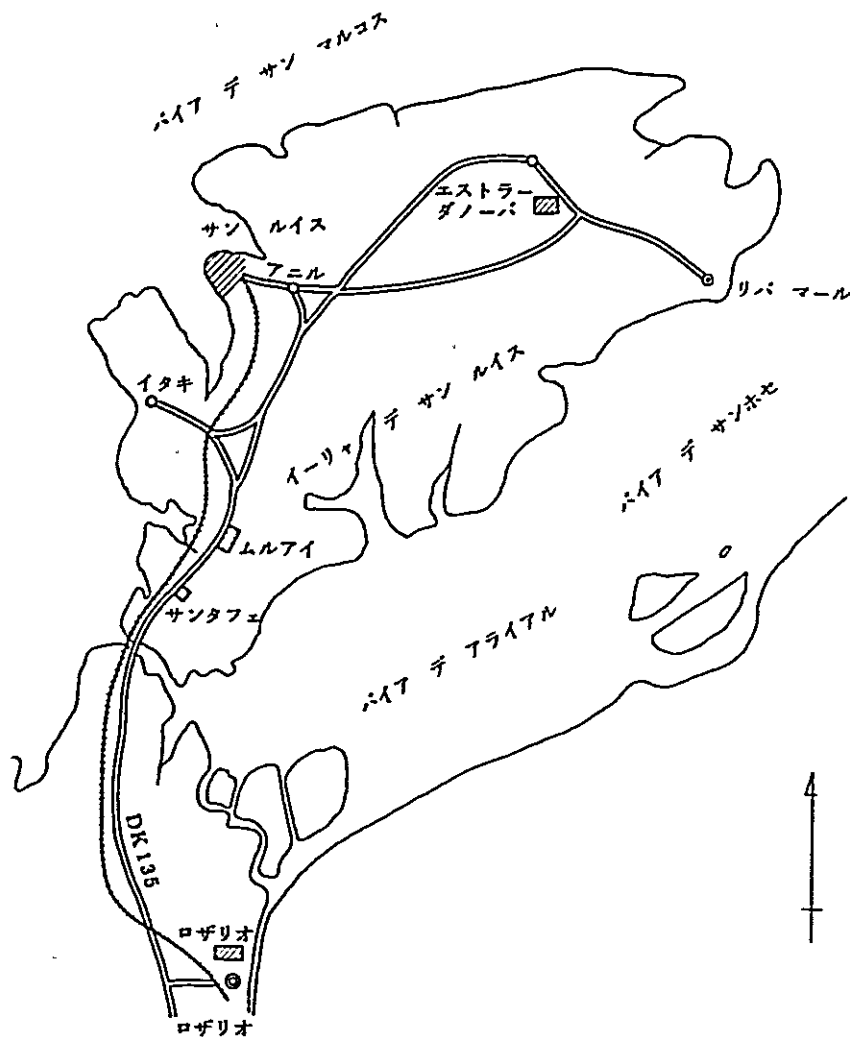
主 作 物	トマト、その他の野菜、養鶏、ピメント
営 農 状 況	典型的な近郊農業形態であり、トマト野菜農家が殆どで、2戸養鶏専業の農家である。この2戸は安定しているが野菜農家は市場が小さいため永年作物の切り換えが急務である。北伯総合開発(イタキー港)等に歩調を合わせ農業も発展する可能性は大である。
農機具等の普及状況	発動機2.4台、動力噴霧機0.7台、運搬用機械0.6台 (昭和48年度調べ農家1戸当り平均)

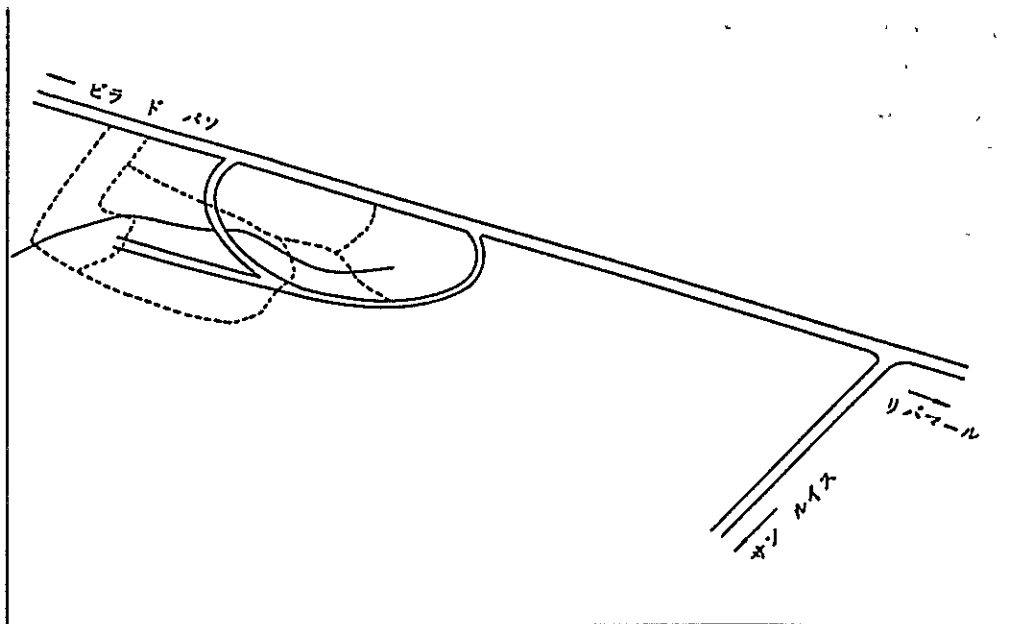
営農指導機関	事業団ベレン支部, 州農務局
利用金融機関	銀行・事業団
主作物の販売取扱 機関並に主市場	仲買人および直売を行っている。
農家所得	1,631千円(36,928 crS) 昭和49年度推定 49,824 crS

4 組織活動

自治会	ロザリオ, エストラダ・ノーバ, サンタフェ, 及びサンルイス近郊の邦人とともに昭和43年に「マラニョン州日系自治会」を結成。
農協	邦人の農協はない。

5 地区略図





大西洋

マラ

サンルイズ

ロザリオ

ニ

ヨルン

州

ティモン

移住地名 モンテ・アレグレ

1 地区概要

所在地	パラ州モンテアレグレ郡モンテアレグレ町 MUNICIPIO DE MONTE ALEGRE EST. PARA
管理者	連邦政府 (INCRA)
入植開始年度	昭和28年

経緯	日本人受け入れは昭和28年(1953年)から開始された連邦直営の混合移住地である。日本人入植者は日本から直来その他、ベルテラ・ゴム園からの転住で一時は相当数に達したが、市場が狭くまた、充分な子弟への教育が行われない等の理由から他へ多数の転住者を出した。本移住地は牧畜(肉牛)、ビメントに雑作を組み合わせた営農を行っているが今後は、多角的な営農形態に移っていくものと思われる。
----	---

自然条件	位置 W 0°54' S 2°00'
地形	起伏に富んだ丘陵地で、丘陵間に平坦地や2~3の川が流れている。
地質・土壌	テラ・ロッシャが散在しており、地味は良い。
植生・林相	奥地には熱帯性林が繁茂し、有用林も比較的多い。
気候	雨期 1~6月、乾期 7~12月 年間平均降雨量 1,301.5mm、気温平均最高 37.8℃ 平均最低 19.0℃、年平均 28.1℃

交通	地区よりモンテアレグレ町間は無舗装であるが雨期でも交通の途絶することはない。アマゾン南岸のサンタレン市までは水路109km、定期便で8時間かかる。水路で650kmのベレン市には定期船が週3回程度運行されている。飛行便は大型機が週に一往復している他に、小型機(テコ・テコ)もベレンより直行している。
市場	モンテアレグレ市場及びサンタレンその他へ出しているが、現地商人に販売を余議なくされている。 たゞしビメントはベレンの商社を通じ輸出されている。蔬菜はサンタレンおよびマナウスへ出荷販売している。
近傍主要都市	モンテアレグレ町人口2千人 西方 陸路38km サンタレン市 人口10万人 南西方 水路109km ベレン市 人口70万人 東方 水路650km
医療・教育	移住地内に小学校があるが、教師(1名)が無資格なため、1~2年のみで、3年生以上は全員モンテアレグレ町へ寄宿している。モンテアレグレ町には、町立小学

治	安	校1、教会立小学校1、中学校2がある。移住地内には医療施設はないが、当団では毎年巡回診療を実施している。モンテアレグレ町に連邦病院が昭和35年に開設されているが、医師がいなく看護婦のみなので、重病人はサンタレーンへ送っている。移住地内に警官は常駐していないが、治安は良い。
---	---	--

2 入植状況

入植戸数へ と内地 員	年度	28	29	30	31	32	33	34		38	39	40	41
	戸数	24	43				3			2		1	1
	人員	160	264				19			2		1	1
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49	現 地 入 植 者	合 計	定 着 数	
	戸数			1		2				59	136	27	
	人員			1		2		2		354	806	112	

昭和49年9月末

退耕者の主なる転住先	ブラジル国内	ポリビア国	アルゼンチン国	綿 国	そ の 他
率 (%)	100				

主 なる 出身 名	高 知	群 馬	宮 城	東 京	長 崎	熊 本	和 歌 山	神 奈 川	福 島	その他	合 計
戸 数	4	2	2	2	2	1	1	1	1	11	27

総 面 積	360,000 ha
ロ ッ テ 面 積	30 ha
分譲条件および 価格	ブラジル植民農地革院 (INCRA) の分譲条件による
地 権 取 得	取得 名 申請中 27名 未申請 名

電気：飲料水	電気は導入されていないが、自家発電の農家がある。飲料水は井戸水を使用しており水質は良く量も豊富である。
地区内道路	移住地事務所が機械で道路補修をしているが、テラ・ロッシェのアサイザル地区は雨期ともなると交通困難となる。
組合等所有施設 車 両	モンテアレグレ農協：農協事務所兼倉庫 1 トラック 1

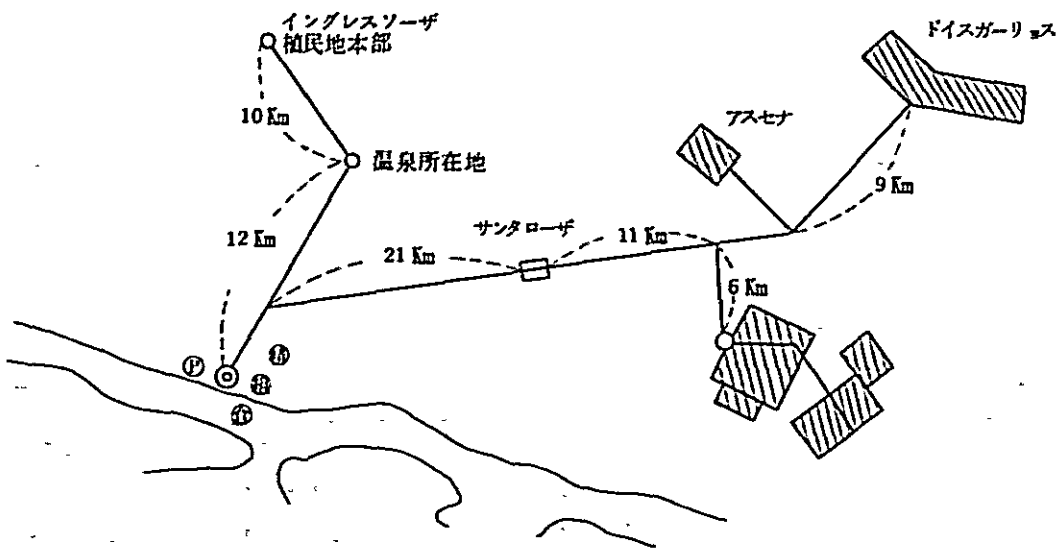
3 営 農

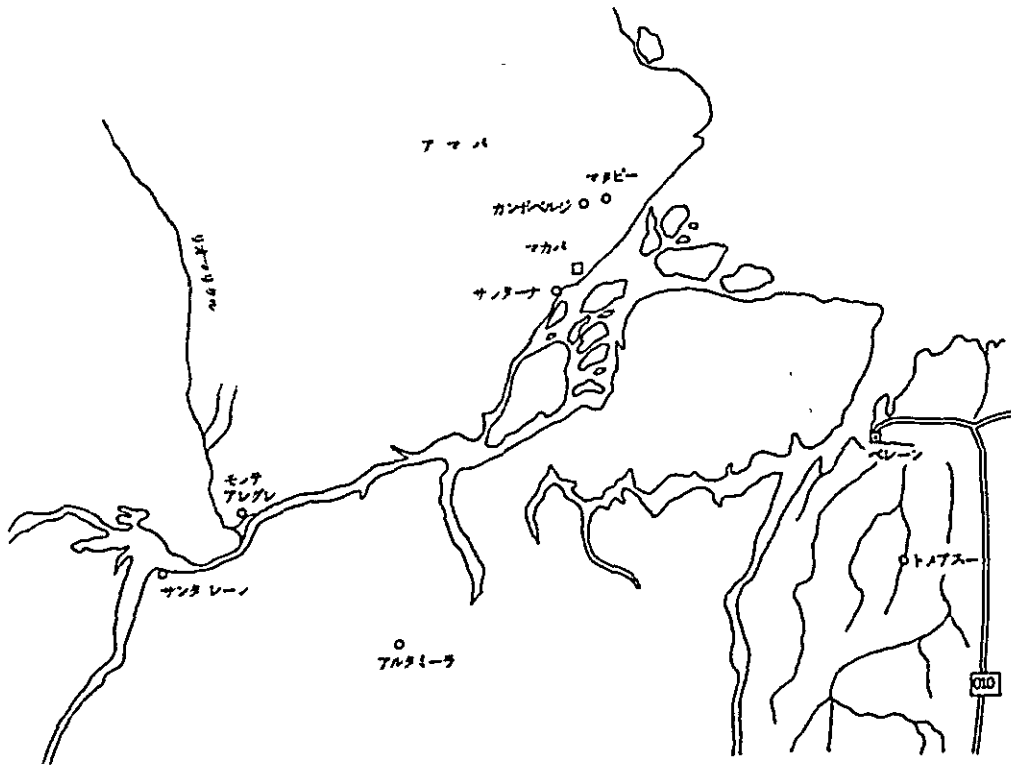
主 作 目	胡椒, 野菜, 牧畜 (肉牛)
営 農 状 況	牧畜, ビモンタを組合わせた営農形態であるが, 起伏がはげしいため大面積にビモンタ栽培する事が困難であり市場も遠い。
農機具等の普及状況	脱粒機 0.5 台, 発動機 1.3 台, 耕耘機 0.4 台, 運搬用機械 1 台, 精米機 0.4 台 (昭和 48 年度調べ農家 1 戸当り平均)
営 農 指 導 機 関	事業団ベレン支部
利 用 金 融 機 関	銀行・事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	一般に仲買人と農協を經由してベレン商社に出荷している。
農 家 所 得 (一戸当り平均) (昭和 48 年度)	1,568 千円 (35,684 cr S) 昭和 49 年度推定 45,000 cr S

4 組 織 活 動

自 治 会	なし
農 協	モンテ・アグレ農業協同組合 (法定) 他にサンタローザ農牧協会 (牧畜主体) がある。

5 地 区 略 図





移住地名 ベラピスタ

1 地区概要

所在地	アマゾナス州マナウス郡及びマナカプルー郡 MUNICIPIO DE MANAUS. MUNICIPIO DE MANACAPURU. 州都 マナオス市より移住地本部まで約 100 Km (マナオス市対岸)
管理者	従来連邦政府が管理していたが昭和 49 年より州政府が管理することとなった。
入植開始年度	昭和 28 年 (1953 年)
経緯	アマゾン中流地域の開発を目的として創設された連邦直営の混合移住地で、日本人の入植は昭和 28 年から開始され翌 29 年までに 153 家族が入植したが、営農形態が確立されておらず、受入態勢も整っていなかったことから多くの転出者を出した。転出者の多くは、ベレン近郊地域および南伯方面へ移転した。

経緯	その後昭和37年に「アリアウ地区」に14家族を受入れた本移住地は、昭和42年マナウス地区の自由貿易港化のため、マナウス市の人口急増、経済活動の活発化とともに養鶏事業による鶏卵・鶏肉の市場供給、蔬菜の需要増大等により急速に安定して来ている。最近はグアラナの値上りもあって、グアラナの新植熱も盛んであるが自由港化によるマナウス市の目覚ましい経済成長は、ジャンボ機発着可能な第2国際空港建設まで及んでおり、アマゾン開発基地としてマナウス市の発展とともにその食糧供給基地として移住地の将来は明るい。
----	---

自然条件	位置	W 60°0' S 3°08'
	地形	第3紀層を母岩とするゆるやかな起伏のある比較的平坦な段丘地形と段丘をきざむ谷とからなる標高12～20mで、傾斜やや急、地質は第3紀層の砂岩、頁岩段丘をきざむ谷底の沖積層。
	地質・土壌	土壌はラテライト土壌で砂質土土色は黄褐色ないしは茶褐色を呈す先端に一部テラ・プレッタがあり、高台は概ね、テラフィルムで一般に強酸性土壌である。
	植生・林相候	熱帯降雨林地帯に属し、直径1m以上の巨木が散在し林相はやや疎である。 雨期12～5月、乾期6～11月、気温年間平均31.4℃、最高温37.8℃、最低気温22.6℃、年間平均降雨量2,100mm

社会条件	交通	州都マナウス市より移住地本部まで約100km(マナウス市対岸)日本人が入植している地域は対岸からペレイラ港より15kmの地点、三叉路を中心にカカオペレイラ、カルデロン、アリアウの3地区に分かれている。
	社	マナウス市、ペレイラ港間水路6km、昭和47年9月よりフェリーボートが就航 現在1日に5便港より移住地区を8m幅砂利道が貫通、定期バス便(カカオペレイラ～マナカプル市)1日1往復、但し土・日曜日は2便運行している。出荷物は庭先よりトラックにてそのまま積換えないでマナウス市場に直接出荷している。
	市場	消費市場 マナウス市 人口40万。 ボリビア、ペルー、コロンビア、ベネズエラ等は勿論、遠くソヴィエト、北欧との貿易(主として輸入)拠点ともなっており、極く稀に日本船の入港もあるが、日本商品の多くはパナマ国経由の再輸入である。
医療・教育	自由港地域として非関税とされる商品は一般雑貨の外、カメラ、テレビ等の耐久消費財も含まれるが、酒、タバコ、香水その他ぜい沢品は除外され乗用車も除外される。農業生産用機械等は当然免税であり、この点生産者には有利である。 マナウス市よりINCRAによる定期巡回診療あるも急患はその都度マナウス市に船で送る。マナウス市に事業団特約医があり、ベレン援協の巡回診療班も来る。 INCRA経営の小学校が3校あり、日本人子弟38名、教師5名 小・中学校の就学状況は良好(就学率85%) マナウス市には、事業団援助による寄宿舎がある。	

治 安	地区内カカオベレイラ地区に警察屯所がある。治安状況は良好
-----	------------------------------

2 入 植 状 況

入 植 戸 内 と 地 内 の 人 員	年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	戸数	24	102		4				2	1	14	1		
	人員	148	579		21				2	1	84	1		
	年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49	現 地 入 植 者	合 計	定 着 数	
	戸数			1				1	1	2		153	35	
人員			1				2	5	19		863	200		

昭和49年9月末

退耕者の主なる 転 住 先	ベレン近郊	トマスー	マナウス近郊	他のアマゾン 地 域	南 伯	その他	船 国
率 (%)	14	9	21	7	33	3	13

総 面 積	15,000 ha
ロ ッ テ 面 積	平均 50 ha
分譲条件及び価格	無償(但し、測量その他諸経費自己負担)
地 権 取 得	取得 18名、申請中 20名、未申請 0名
電 気 ・ 飲 料 水	電気は各戸自家発電、飲料水は 10 m内外の掘抜井戸また湧水を利用。水質は普通。
主なる事業団援護 施設・車両	トラック 2台、木造船 1船、精米機 1台
組合等所有施設・ 車 両 等	なし

3 営 農

主 作 目	胡椒、グアラナ、養鶏、果樹、野菜
営 農 状 況	マナウス市の市場要求に応じて鶏卵、鶏肉、野菜、果樹等の当地生産は増大し、エフィゼニオ・ナールス移住地とともにこれら生産物の供給基地として重要な地位を占めるようになって来た。 かかる経済環境の変化に伴い当地の営農形態は安定性の高い胡椒と集約性が要求される養鶏、野菜を組合せたものとなって営農は安定して来ている。しかし急速な生産増大に伴い養鶏市場は限界に近づきつつあり飼料の高騰と相俟って、養鶏は頭打ちの状況にあって、鶏糞利用による永年作物の植付拡大の気運にあり、特に近年好況であったグアラナの新植熱が盛んである。
農機具等の普及状況	脱粒機 0.1台、発動機 0.5台、動力噴霧機 0.5台、耕耘機 0.3台、運搬用機械 1.5台。(昭和48年度調べ農家1戸当り平均)

営農指導機関	事業団ベレン支部及び同支部マナウス支所、協力機関としてアマゾナス州農村信用 援護協会カカオベレイラ駐在員事務所等
利用金融機関	銀行、事業団
主作物の販売 取扱機関並に主市場	個人別またはグループ別に夫々が特約店（卸商、小売店、スーパーマーケット、ホ テル、食堂等）を有し週1～3回定期的に出荷する方法がとられている。市場はマ ナウス市である。
農家所得 （1戸当り平均昭和 48年度）	25,374千円（57,418 cr S）

4 組織活動

自治会	ベラピスタ自治会（任意団体）現在会員39戸225名（近郊も含む） 当地日系社会の中心組織として、移住地社会の発展向上のため文化活動を中心とした 活動を行っている。
農協	組合は昭和47年解散

移住地名 アルタミーラ

所在地	パラ州アルタミーラ郡 MUNICIPIO DE ALTAMIRA EST. PARA
管理者	連邦政府 INCRA
入植開始年度	昭和45年

経緯	以前は全く未開の原始林地帯であったが、政府により国家統合計画が実施されるに 伴い、INCRA（ブラジル植民農地改革院）は同計画によって建設されたトランスア マゾニカ道路沿線を5分轄し、造成された植民地の1つである。アルタミーラ郡へ の日本人入植は1962年ベレン近郊からの転住が最初で、同移住地への入植は昭和45 年からである。移住者は入植歴も浅いこともあって、営農形態は確立されておらず、 指導機関が推奨する作物として、サトウキビ、陸稲、トウモロコシ、フェジョン、 大豆、マンジョカ、コーヒー、胡椒、牧畜等となっている。
----	---

自然条件	位置 地形 地質・土壌 植生・林相	W 52°13' S 3°12' 波状形の起伏に富んだ地形を呈し、シンダー川、イリリ川に注ぐ小川が多数入り込 んでいる。高台は平坦を呈している。 テラロシア土壌が広く分布しており、この他赤黄色ポドソルも分布している。 テラロシア PH = 5.9 ~ 6.7 常緑熱帯雨林に被われ、多種多様な樹種が幾重にも重なって構成されている。
------	----------------------------	--

気 候	雨期 12～6月, 乾期 7～11月, 気温平均最高 30℃以上, 平均最低 20～21.4℃, 年間降雨量 1,696 mm
-----	---

社 会 条 件	交 通	アルタミエラ～マラバー間 1日 3 往復, アルタミエラ～イツイーパー間にバスが 1日 1 往復, また移住地内 Km 112 地点までも 1日 1 往復がある。トランスアマゾニカ道路もアマゾン開発の大動脈として活用されつつある。完全な飛行場があり, ジェット機の発着も出来る滑走路を持っている。飛行機便は毎日ある。
	市 場	アルタミエラ及び近傍都市が消費市場であるが, 市場の狭さ及び品不足による価格上昇のあった場合, サンパウロ物が流入し市場を覚乱される。
	近傍主要都市	アルタミエラ市 人口 1万人 東北東 陸路 90 Km サンタレーン市 人口 10万人 北南 陸路 590 Km
	医療・教育	移住地内のアグロポリスに週 1 回一般医師, 1 回歯科医の診療がある。手術及び重病の場合はアルタミエラ市の SESP (特別衛生局) 経営の病院を利用している。アルタミエラ市にはこの他個人病院 1, 薬局 2 がある。 教育について, 移住地子弟は近くのアグロポリスまたはアグロピラの小学校に通学し, 中学以上は町に寄宿する必要がある。アルタミエラ市及び郡には, 小学校 51, 中学校 1, 師範学校 1, 高等学校 (夜間) 1 がある。

入 植 戸 数 内 と 地 人 員	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数												
	人員												
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49	現 地 入植者	合 計	定着数	
戸数				1	3	14	4	3		25	25		
人員				6	18	74	24	18		140	140		

昭和 49 年 9 月末

主なる出身県名											その他	合計
戸 数											25	25

総 面 積	201, 200 ha (造成済のみ)
ロ ッ テ 面 積	100 ha
分譲条件および価格	ブラジル植民農地改革院 (INCRA) の分譲条件による有償
地 権 取 得	取得 名, 申請中 名, 未申請 名 入植者は, 入植と同時に仮地権を取得し, その後 3 年間に 25% 以上開拓した場合, 本地権を取得する。1 部取得者がいる。

電気・飲料水	市内には電力会社があり、配線は市内全域に完了している。 入植者の大部分は、湧水、小川等の水を飲料水としている。
地区内道路	地区内にトランスアマゾニカ道路が通っている。
主なる施設車両	なし。

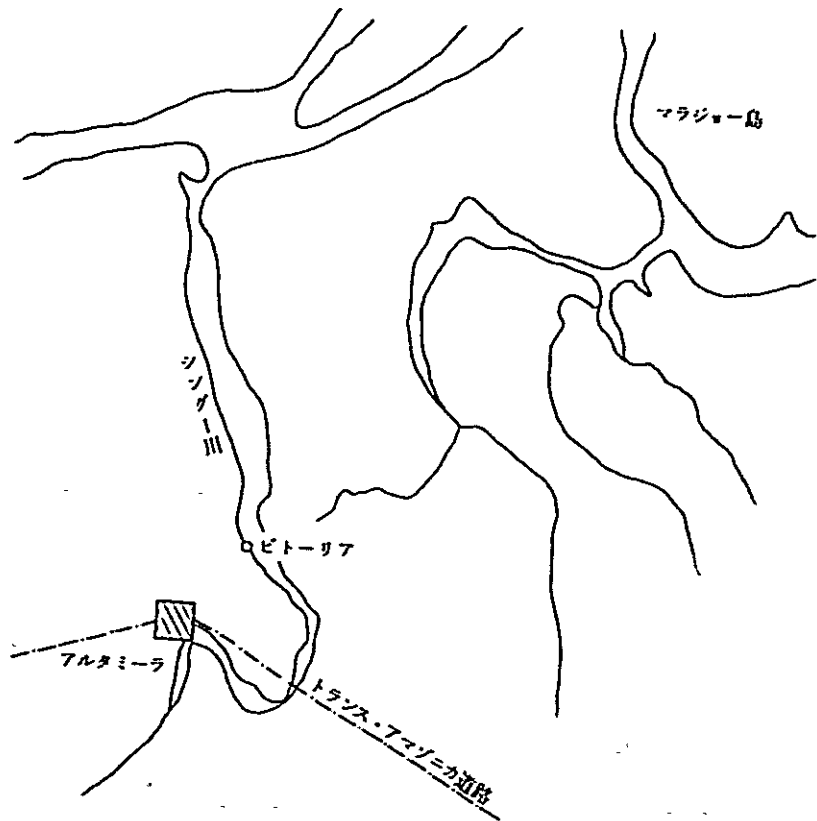
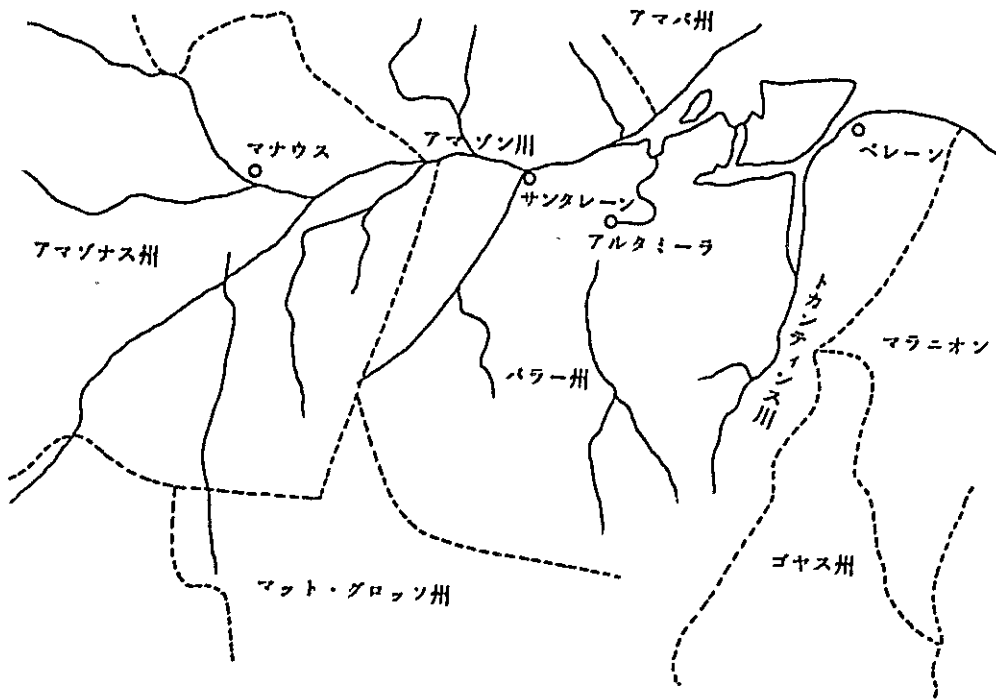
3 営 農

主 作 物	陸稲、甘蔗、フェジョン、マンジョカ、タバコ、トウモロコシ、胡椒、バナナ、コーヒー、ビモンタ。
営 農 状 況	一部の入植歴の古い農家はビモンタを主体に安定した営農を行っているが、入植歴の浅い農家は未だ安定の域に達していない。土地が肥沃である事から近い将来農業生産地域としての発展が期待されている。
農機具の普及状況	小型トラック、揚水ポンプ、エンジン等
営 農 指 導 機 関	INCRA、パラ州農村信用援護協会 (ACAR-PARA) 事業団ベレン支部
利 用 金 融 機 関	銀行、事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	商人に卸ている。
農 家 所 得 (一戸当り平均) (昭和 49 年度)	3 8,000 (推定)

4 組 織 活 動

自 治 会	日本人入植者も 25 戸にもなって、今後、増加も予想され、昭和 49 年度に汎アマゾニア日伯支部が結成された。
農 協	他のブラジル人入植地と同様、経験、知識の欠如から、政府機関の強力な指導がなければ、農協は生れず、運営できないものと思料される。

5 地区略図



移住地名 グ ア マ

1 地区概要

所在地	パラ州サントイザベル郡、イニヤングッピー郡 MUNICIPIO DE SANTA ISABEL, E INIHANGAPI EST, PARA. ベレン市南方グアマ河沿いに上流 48 Km, 陸路サントイザベル経由約 80 Km
管理者	連邦政府 (INCRA)
地入植開始年度	昭和 31 年 (1956 年)

経緯	グアマ河 (アマゾン河の支流) 沿いに創設された連邦直営の混合移住地で、当初、連邦としてはアマゾン地帯開発の一環としての大殺倉地帯の造成を考えたものであった。この地区への入植は、昭和 30 年ベルテラゴム園からの転住者を皮切りに日本からも 100 戸以上が移住したが、連邦が行うことになっていた排水溝の建設等基本的工事が果されなかったため、移住者の多くが転出した。現在残留している移住者の営農は、タカジョース地区においてはビメンタと蔬菜等の組合せ、ベルナンブーコ地区はビメンタを主体に蔬菜を一部に組合せた経営であり、両地区ともビメンタの好況に伴い順調に発展している。
----	---

自然条件	位置	W 48° 5' S 10° 30'
	地形	標高 0 ~ 20 m アマゾン河支流のグアマ河右岸 標高 10 m 前後の高台である。また、河沿に 500 m 前後の低湿地が分布している。
	地質・土壌	高台は、黄色ラテライト土壌で比較的砂が多い。
	植生・林相	再生林、一部原始林、常緑熱帯雨林に被われ、多種多様な樹種が幾重にも重なって構成されている。
気候	雨期 1月~6月 乾期 7月~12月 年間平均最高 31.8℃ 平均最低 22.2℃ 年間降雨量 2,186 mm	

社会条件	交通	ベレンまで出荷は陸路で約 1 時間であり、移住地本部まで陸路 62 Km アスファルト舗装の州道が昭和 49 年開通した。
	市場	ベレン市が消費市場。蔬菜・果実類はベレン市へ出荷する。胡椒はベレン市の商社を通じ輸出している。
	医療・教育	移住地内にはベルナンブーコ、センター、タカジョースに各 1 小学校がある。就学児童 64 名。中学校以上はサントイザベル市あるいはベレン市に寄宿通学している。

社 会 条 件	治 安	る。 INCRAの簡易診療所2ヶ所（センター及びベルナンブーコ）があるが看護婦のみ 駐在している。地区外ではベレン市のアマゾニヤ援協病院等を利用している。 常駐警官はいないが治安状況は良好。
------------------	--------	--

2 入 植 状 況

入 植 戸 （ 数 内 と 人 地 員 ）	年 度	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸 数	31	97		1	1	1					
	人 員	105	605		5	5	5					
	年 度	42	43	44	45	46	47	48	49	現 地 入 植 者	合 計	定 着 数
	戸 数		1							3	135	66
	人 員		1							18	744	345

昭和49年9月末

退耕者の主なる 転 住 先	ベレン近郊	他 アマゾン地域	南 伯	そ の 他	帰 国
半 (%)	58	24	14	4	

主なる出身県名	熊 本	宮 崎	福 島	山 形	福 岡	三 重	そ の 他	合 計
戸 数	14	10	10	4	2	2	24	66

総 面 積	33,510 ha
ロ ッ テ 面 積	25 ha
分 境 条 件 及 び 価 格	ブラジル植民農地改革院（INCRA）分境条件に準ずる有償実費負担。
地 権 取 得	取得（日系）30名（49年1月末現在）
電 気 ・ 飲 料 水	電気の導入はないが自家発電の農家が多い。飲料水は素掘井戸。水質は良好。
地 区 内 道 路	タカジョース地区：地区入口より移住地本部まではアスファルト舗装。 ベルナンブーコ地区：近年、整備よく良好。 カラバル地区：道路なく水路による。（カラバル地区に在住者1戸のみ）
主なる施設車輛	なし

3 営 農

主 作 目	胡椒、蔬菜
営 農 状 況	ビモンタ病虫害が一番大きな問題であり、ここ2～3年特に被害が見られ転住する者が

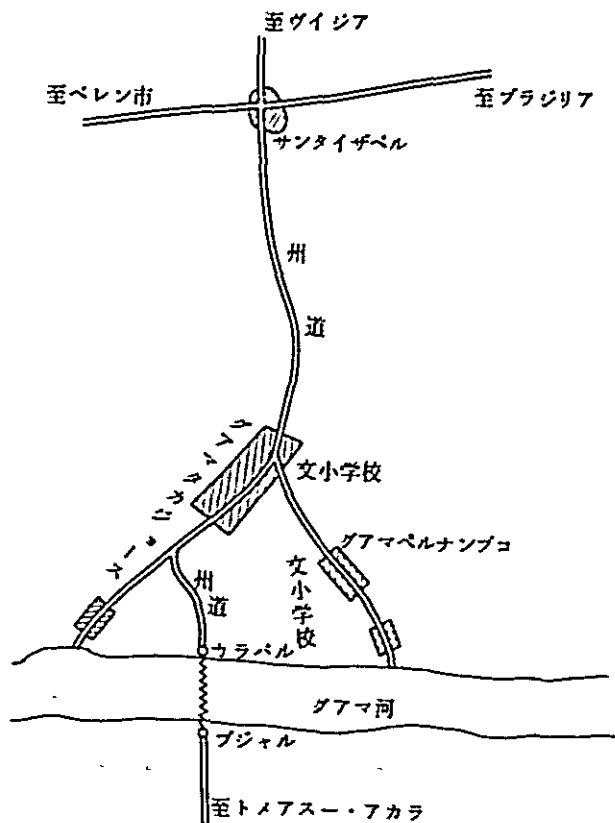
営農状況	増えているが、一方、跡地を利用してカカオ、グアラナ等が栽培されている。
農機具等の普及状況	脱穀機0.04台、脱粒機0.4台、発動機1.2台、動力噴霧機0.3台、耕耘機0.7台、運搬用機械1.3台、精米機0.1台(昭和48年度調べ農家1戸当り平均)
営農指導機関	事業団ベレーン支部、パラ州農村信用授護協会(ACAR-PARA)
利用金融機関	銀行、事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	ベレーン市の一般商社および個人商人に出荷している。
農家所得(1戸当り平均)(昭和48年度)	2,864千円(64,815 CrS)

4 組織活動

自治会	グァマ・タカジョース日本人会とグァマ・ベルナンブーコ日本人会がある。
農協	サンタイザベル農業協同組合がある。

5 地区略図

アカラ移住地を参照。



移住地名 ア マ バ ー (マタビ カンポベルディ
 サンターナ マカバ市周辺)

1 地区概要

所在地	アマバ直轄州マカバ郡 MUNICIPIO DE MACAPA, TERRITORIO FEDERAL DO AMAPA'
管理者	直轄連邦政府 (INCRA)
入植開始年度	昭和28年度

経緯	<p>マタビはアマバ直轄州の農業振興およびマカバ市への食料供給の目的をもった直轄州直営移住地として創設された移住地である。日本人の入植は昭和28年29年にかけておこなわれ45世帯が入植した。だが、当地でゴムの植付強制から資金的に困難になり多数の転住者を出した。その主は、マカバ市近郊、ベレン市近郊、トマスー、サンパウロ方面への移住である。</p> <p>一方カンポベルデは昭和32年マサゴン移住地より昭和37年転入しICOMI、鉱山従業員に対する野菜を供給する目的で営農されていたがその後ICOMI鉱山の縮小等もあり現在2戸のみ在住している。</p> <p>現在、移住者はICOMI鉱山(マンガン鉱山) BRUMASA(合板会社)東綿系合板会社等向けに野菜養鶏に従事している。他にビメンタ・ゴムの植栽をしているが成績は芳しくない。</p>
----	---

自然条件	<p>位置 W51°2' S0°1'</p> <p>地形 花崗岩片磨岩その他の古期岩類の石礫からなる洪積世の石礫層の台地は極めて平坦だが、谷をのぞむ所は急な傾斜になっている。</p> <p>地質・土壌 土壌は砂礫質のラテライト化、PH=4.2テラ・フィルム地である。</p> <p>植生・林相 草地帯と森林地帯との分岐地点にあたる森林の中に位置している。</p> <p>気候 雨期1~8月、乾期9~12月、年間平均降雨量3,000mm、気温平均最高33.5°C、平均最低21.5°C、年平均25.5°C</p>
------	---

社会条件	<p>交通 マカバ市~セーラ・ナブイウ鉱山間230kmにはICOMI鉄道が走っておりマタビ移住地はその中間に位置している。マカバ市から移住地入口までは草原で、雨期にも交通不能になることはない。マカバ市~ベレン市間には毎日2便の航空便がある(約1時間)</p> <p>市場 マカバ市 ICOMI 鉱山 BRUMASA 東綿系合板会社その他発電道路工事会社を対象としている。</p>
------	---

社会条件	近傍主要都市	マカパ市人口15万人南東マタピーより陸路120km
	医療・教育	地区内に簡易診療所の施設があり医師は常駐している。マカパ市には連邦内科病院(127ベッド)、産院(17ベッド)の他に最新の設備をもったICOMI 欽山経営の病院がある。また当国の特約医制度実施中である。 地区内に州立小学校1校があり、上級の中学校・高校はマカパ市に寄宿し通学している。
治安		警察は駐在しており治安は良い。

2 入植状況

入植戸数と人員 (内地)	年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39		
	戸数	29	21		7	1	1		3	2					
	人員	177	123		42	1	1		3	2					
	年度	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	現地入植者	合計	定着数	
	戸数												64	34	
人員												349	171		

昭和49年9月末

退耕者の主なる転住先	ブラジル国内	ポリビア国	アルゼンチン国	他国	その他
率 (%)	92.3			3.4	4.3

主なる出身県名	鹿児島	福島	宮城	熊本	福岡	広島			その他	合計
戸数	7	6	3	2	2	1			13	34

総面積	4,875 ha
ロッテ面積	30 ha
分譲条件および価格	有償 INCRA 基準に準ずる
電気・飲料水	電気は導入していない、ただし自家発電の農家もある。飲料水は井戸(素堀)水を利用している。水質は良好である。
地区内道路	カンポベルデ移住地内をベルトラルノルテ国道が開通し雨期の通行も可能である。
主なる施設車輛	なし

3 営農

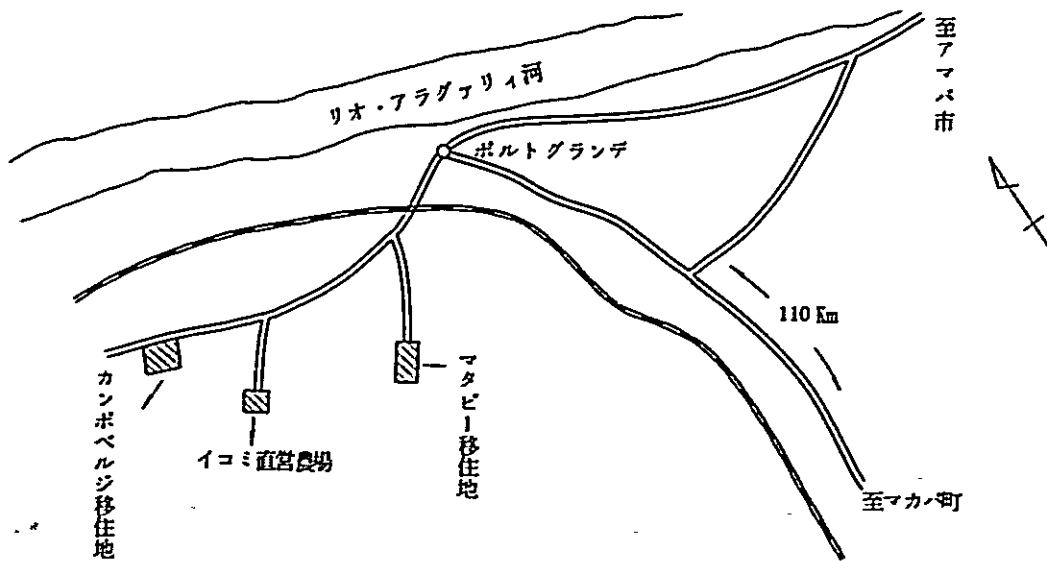
主作目	蔬菜、養鶏、ビメンタ、果樹
営農状況	養鶏とビメンタを営農している農家は1戸のみで一応安定している。他は蔬菜栽培のみであり永年作目による産地形成を計る事が急務である。

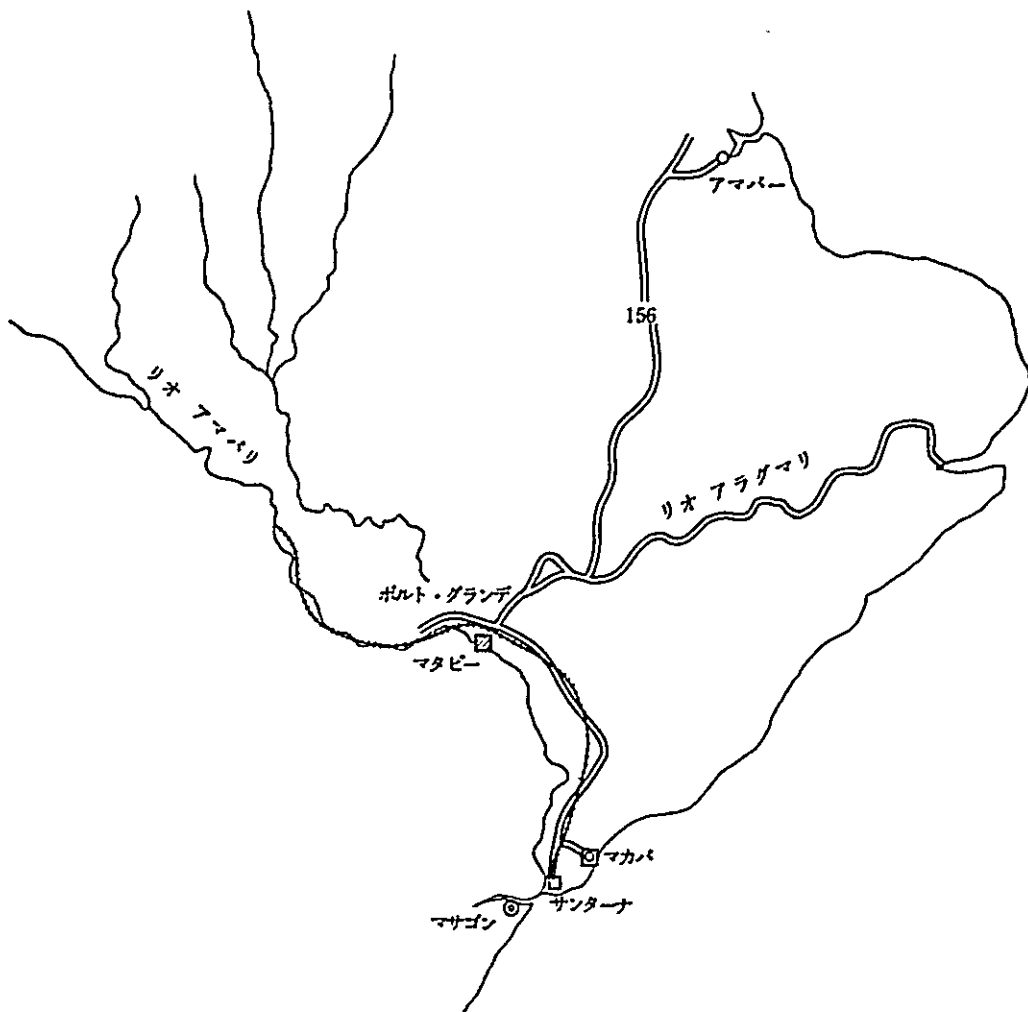
農機具等の普及状況	発動機7.9台動力噴霧機0.2台耕耘機0.7台運搬用機械1.0台（昭和48年度調べマカパー周辺農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団ベレーン支部 州農務局
利用金融機関	銀行 事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	仲買人および市場で直売している。
農家所得 （一戸当り平均） （昭和48年度）	12,834円（29,045 CrS）マカパー周辺農家昭和49年度推定 38,000 crS

4 組織活動

自治会	アマパー州邦人全体でアマパー日本人会が結成されている。
農協	なし

5 地区略図





移住地名 トレーゼ・デ・セッテンプロ

所在地	ロンドニア・直轄州 TERRITORIO FEDERAL DE RONDONIA
管理者	直轄州政府
入植開始年度	昭和29年

経緯	同州の農業振興並びにポルトベリョ市の市場供給を目的として昭和28年に直轄州直営で創設された混合移住地である。日本人移住者は昭和29年に初めて入植した。その後間もなくゴム園失火の為に転住者を出し、混迷苦悶の状態であったが、ポルトベリョ市の発展に伴ない同地区の鶏卵、プロイラー、蔬菜等の農産物の需要も伸び漸く基礎が固まりつつある。現在、実質家族数は24戸で、同地区のポルト
----	--

	ペーリョ市場で卵 100 %、蔬菜 70 %を占めるに至っている。
--	-----------------------------------

自然条件	位置	W 63°00' S 8°00'
	地形	第三紀層段丘地域で平坦な段丘をさざむ谷、標高 12 ~ 20 m 傾斜急である。
	地質・土壌	地質は第三紀層の砂岩、頁岩、段丘をさざむ谷底の沖積層、土壌はラテライト土壌で砂質土、土色は黄褐色から褐色を呈す崖端に一部テーラ、プレッタ黄色土があり高台はテーラ、フィルムで一般に強酸性土壌である。
	植生・林相	熱帯降雨林地帯に属し樹高 30 m を越す巨木も見られ建築用材豊富、林相密で深い
	気候	雨期 11 ~ 4 月、乾期 5 ~ 10 月、気温平均最高 38° C 平均最低 15° C 平均年間降雨量 2,292 mm

社会条件	交通	ロンドニア州都ポルトペーリョ市より同地区入口まで 9 Km、日本人耕地まで 11 Km あり、その間は事業団貸与トラック、農務局トラック定期便および日本人入植者の農産物出荷（個人車）が毎日走っている。
	市場	ポルト・ペーリョ市を市場とし、入植者が生産する卵、および蔬菜は同市場で夫々 100 %、70 %を占るようになっている。
	近傍主要都市	ポルトペーリョ市人口 8 万人陸路 9 Km、マナウス市人口 40 万人航路約 800 Km
	医療・教育	地区内には医療施設はなく、ポルト・ペーリョ市の慈善病院等を利用している。また、年 1 回事業団嘱託医が巡回診療を行っている。
		地区内には公立の小学校があり、教員宿舍（2 棟）も設けられている。また、ポルトペーリョ市には小・中・高・大学（現在建設中）があり、私学は寄宿設備もある。通学には、往復共商乗車を利用している。また日系子弟就学児童は全員ポルト・ペーリョ市に通学するが自治会が委託する伯人経営通学バスをもって通学し午前、午後 2 往復運行されている。
	治安	地区内に警官 1 名が常駐しておりこの外最近日本人入植者 2 世の内 2 名が正式に警察官としての資格を与えられ日本人入植地区内の治安に従事している治安には不安はない。

2 入植状況

入植戸数と人員	年度	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	戸数	29							2				
	人員	174							8				
	年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49	現地入植者	合計	定着数
	戸数											31	24
	人員										182	130	

昭和 49 年 9 月末

退耕者の主なる転住先	ボリビア国	アルゼンチン国	パラグアイ国	ブラジル国内	その他
率 (%)				100 (7戸)	

主なる出身県名	熊本	山形	福島	長崎	東京					その他	合計
戸数	7	4	2	2	2					7	24

総面積	1,570 ha			
ロッテ面積	30 ha			
分譲条件および価格	無償(但し測量その他諸経費自己負担)			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	730 ha			
(注) 日本人のみ				
地権取得	取得 名, 申請中 28 名, 未申請 名			
電気・飲料水	電気はきていないが一部の家庭(10戸)では自家発電を行っている。飲料水は井戸(深堀 約10m)の水を利用しており水質は良である。			
区内道路	無舗装であるが道路状態は良好である。 連邦政府ないし郡の機械により年2回補修をするが、その際入植者は賦役を提供している。			
主なる事業団援護施設	教員宿舍 2			
車輛組合等所有施設	トラック3台 トレーラー1台 精米機3台 発動機1台			
車輛機械	トレーゼ・デ・セテンプロ日本人会, 小学校 1 ※事業団より譲渡: 発動機1, 精米機1, トラック1			

3 営 農

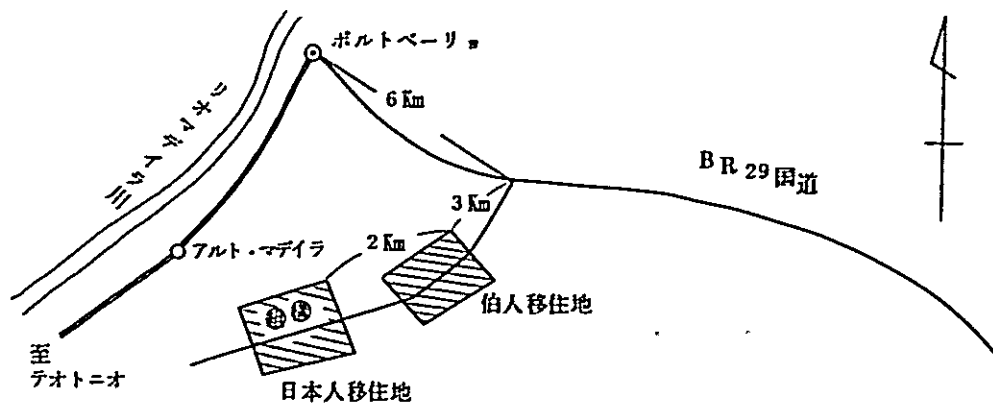
主 作 目	養鶏 野菜 胡椒 果樹(柑橘類)
営 農 状 況	鶏卵鶏肉野菜等のポルト・ベリョ市に対する生産基地として重要な地位を占めかつ州政府からモデルコロニアとして注目されている移住地である移住地の営農形態は養鶏野菜を基幹作物とし、生産物は仲介業者を通さず直接販売をとって極めて有利な経営を行っており経済的に安定し豊かな移住地を形成している。しかしポルト・ベリョ市を中心とする地域経済圏市場が狭隘なことから現在以上の規模拡大は不可能である。胡椒 果樹 グァラナ等の永年作物は少規模ながら導入されており今後の営農方向としては第2第3圃場の確保と前記永年作物の他牧畜を加えた営農を行うことが検討されている。

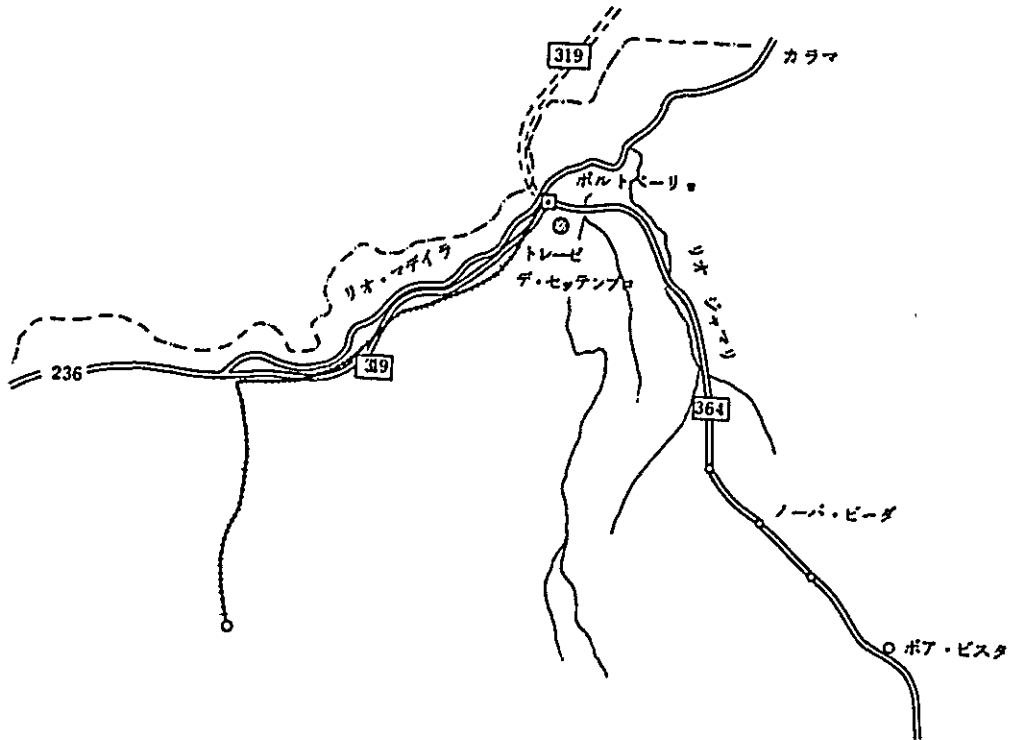
農機具等の普及状況	発動機0.1台耕耘機0.3台運搬用機械1.9台(昭和48年度調べ農家1戸当り平均)
営農指導機関	事業団ベレーン支部及び同支部マナウス支所, アマゾナス州農村信用援護協会ポルトベレーン支所
利用金融機関	銀行, 事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	移住者各自がポルト・ベレーン中央市場に売場を持ち自家生産物を販売している外夫々が特約店(ホテル, 食堂, スーパーマーケット, 軍隊等)に配達している, その他グアヂャラミリン, ウマイタ, マリコレ等の地方都市にも仲介業者を通じ販売されている。
農家所得 (一戸当り平均) (昭和48年度)	2,973千円(67,286 crS)

4 組織活動

自治会	昭和43年「トレーゼ・デ・セテンプロ日本人会」を結成。
農協	なし 但し養鶏農家のみで任意団体として養鶏組合(組合員7名)を結成している 他ロンドニア畜産組合に1名が加入している。

5 地図略図





移住地名 キナリー

1 地区概要

所在地	アクレ州、リオ・ブランコ郡
管理 者	ESTADO DO ACRE 州政府
入植開始年度	昭和34年

経緯	昭和28年アクレ直轄州（現在のアクレ州）の農業振興を目的として同移住地が創設され、昭和33年および34年に最初の日本人農業移住者13家族が入植したが、市場の狭小さが決定的な要因となって間もなく8家族が転住していった。その後、更に1名転住。現在、日本人移住者は3家族となってしまったが、リオ・ブランコ市を市場として養鶏並びに短期作の米、フェジョン、マンジョカ、野菜、落花生等を栽培している。短期作については、精米精粉等の加工販売に主力が置かれつつある。
----	---

自然条件	位置	W 67°00' S 9°00'
	地形	極めて平坦な波状地。地区内に小川が数本流れている。
	地質・土壌	第3紀層を母岩とするラテライト土壌にして黄色または暗赤褐色の埴土。一部に、テラ・ロシア地帯がある。地味肥沃で一般に酸性。
	植生・林相	自生するカスタニア・ド・パラ（パラ栗）の巨木が相当見られ、植生の繁茂は良く、林相は密で深い。
気候	雨期11月～4月、乾期5月～10月、気温平均最高31.7℃、平均最低15.4℃、平均年間降雨量1,679mm	

社会条件	交通	アクレ州首都のリオ・ブランコ市まで陸路で28Kmあり、移住地入口までの24Kmは完全舗装道路。移住地入口より各自耕地まで約4Km程度は未だ無舗装のため雨期になると道路状況が悪くなるが、トラック、ジープによる通行であれば通行不可能となることはない。自動車での所要時間約30分。リオ・ブランコ～ポルトベリョ間に1日2往復、バスが運行している。
	市場	リオ・ブランコ市のみで、生産物は商人が庭先まで買付に来る。昭和45年に中北伯難民が約500家族地区周辺に入植営農したため、一時雑穀の市価が下落したこともあるが、現在、アマゾン開発ブームは国道、州道の急速な拡充と相まって当地区まで押し寄せており、市の人口も急増傾向にあり市場の将来に不安はない。
	近傍主要都市	リオ・ブランコ市 人口8.5万人 陸路28Km
	医療・教育	地区内に診療所はないが州衛生局の看護婦が必要に応じて派遣、また、事業団嘱託医が年1回巡回診療をも行っている。また、リオ・ブランコ市内には日系医師（南伯出身）が開業しており、伯人間においても評判が高く、日本人移住者はいずれも同日系医師の診療を受けている。
治安	地区内に公立小学校があるだけであるが、リオ・ブランコ市には小学校、中学校、高校、師範学校、大学がある。大学は専門学部によってはマナウス市およびベレン市まで出なければならない。	
治安	地区内に連邦警察職員1名常駐しており、治安は良好である。	

2 入植状況

入植戸数と人員 (内地)	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数					13							
	人員					81							
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49	現地入植者	合計	定着数	
戸数										13	3		
人員										81	15		

昭和49年9年末

退耕者の主なる転住先	ボリビア国	アルゼンチン国	パラグアイ国	ブラジル国内	その他
率 (%)				100 (10戸)	

主なる出身県名	熊本	長崎	徳島							合計
戸数	1	1	1							3

総面積	1,500 ha			
ロッテ面積	30 ha			
分填条件および価	(アクレ直轄地政府と駐ベレーン領事との契約) 無償。			
分填状況	分填済面	未分填面積	道路、市街地等 利用地	除地
	150 ha			
地権取得	取得名 申請中 5名 未申請名 (合1戸3ロッテ申請者)			
電気・飲料水	飲料水は10m内外の細抜井戸を利用しており、水質は良好である。			
地区内道路	雨期の1~4月までは地区内のみ道路状況が悪化するが、従来の様に交通困難となる事は少なく、地区内の道路も州提供の機械で補修をしている。			
主なる事業団 援 施設	精米機 1台			
車 輛	ジープ 1台			
組合等所有 施設	なし			
車輛機械	なし			

3 営 農

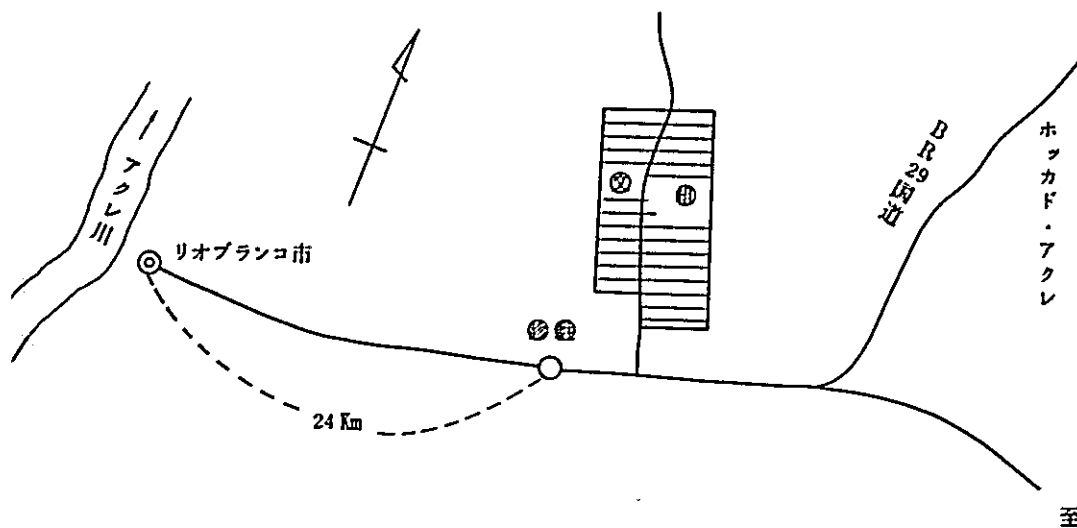
主 作 目	米、蔬菜、養鶏
営 農 状 況	米、フェジョン等の雑作を主作目とし、これに蔬菜を組合せた営農形態で営農を行っていたが、リオ・ブランコ市の人口増加と経済発展により養鶏、蔬菜が有利となったため雑作と養鶏、蔬菜を組合せた営農形態に移行し、経済的に安定して来ている。将来の営農の発展方向として永年作目(牧畜、胡椒)の導入が検討されている。
農 機 具 等 の 普及状況	運搬用機械 1.3台 (昭和48年度調べ農家1戸当り平均)
営農指導機関	事業団ベレーン支部、アクレ州農村信用授産協会アクレ本部
利用金融機関	銀行

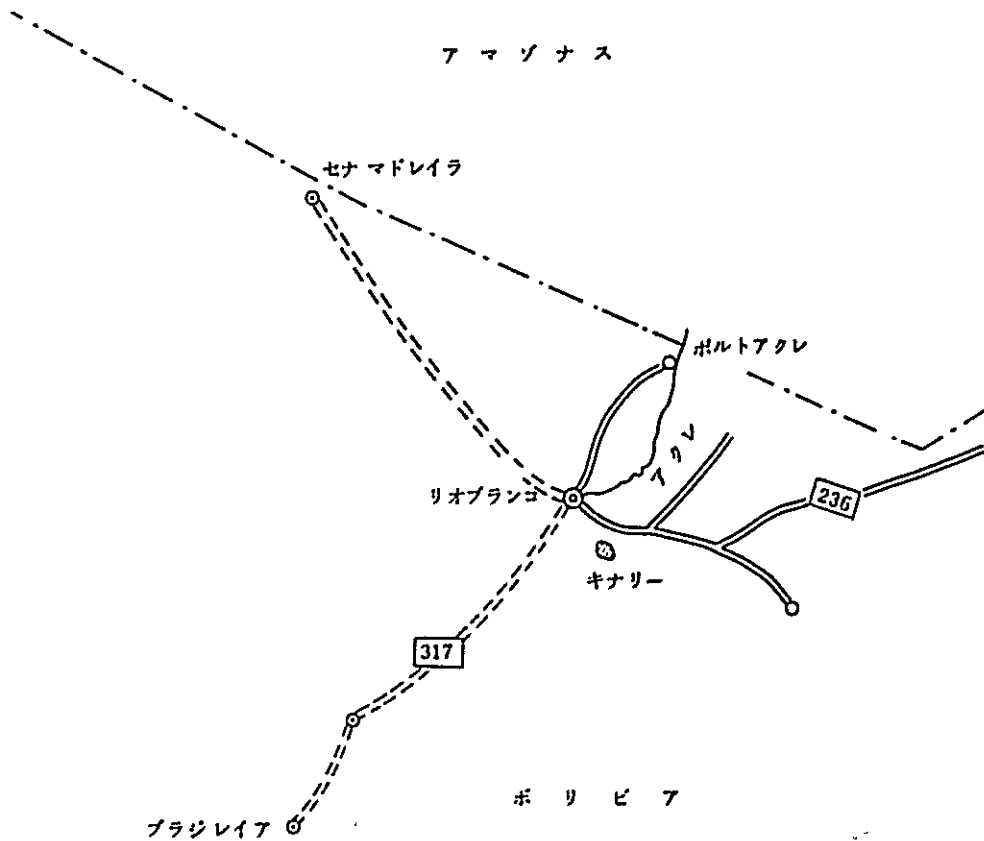
主作物の販売 取扱機関並びに 主市場	移住者各自が夫々特約店（卸売店、小売店、ホテル、食堂等）を有しそれらに出荷している。なお、1戸はキナリー町に店を持ち直売をとっている。主なる市場はリオ・ブランコ市およびキナリー町。
農家所得 (1戸当り平均) (昭和48年度)	949千円(21,489 CrS)

4 組織活動

自治会	なし
農協	なし

5 地区略図





移住地名 エフゼニオ・サーレス

1 地区概要

所在地	アマゾン州マナウス郡 MUNICIPIO DE MANAUS, ESTADO DO AMAZONAS
在	州都マナウス市より東方 42 ~ 65 Km (陸路)
管理	従来は州政府であったが昭和 49 年より連邦政府 (INCRA) に移管された。
地	入植開始年度 昭和 33 年 (1958 年)

経緯	アマゾン州の農場振興およびマナウス市への生鮮食料品の供給を主目的として州が創設した日伯混合の移住地である、日本人の入植は昭和 33 年から開始された。この移住地の営農はビノントを中心に、蔬菜、養鶏等を組合せたものであり、区内を縦貫するアスファルト道路があるため極めて恵まれた立地条件にあり、移住者の経済も順調にのび、現在ほぼ営農生活の安定をみるに至っている。しかしながら、アマゾン開発の進展と共に南伯との道路が開通し安価な南伯農産物の流入が漸増の傾向にあり従来型営農の転換を強いられようとしている。
----	---

自然条件	位置	W 60° 00' S 3° 10'
	地形	標高 50 ~ 100 m のゆるやかな起伏に富む地形であるが地区内の起伏はかなり大きい。
	地質・土壌	第3紀層を母岩とするラテライト土壌で灰褐色の灰橙色の礫を含まない粘土含量の高い重粘な土性かなり土層は深いテラフィルム地帯である。一般に酸性は強い。
	植生・林相	熱帯降雨林に被われ多様な樹種が幾重にも重って構成される原始林を形成し有用材も多い林相は比較的密である。
	気候	雨期 12月~5月, 乾期 6月~11月 気温平均最高 27.8℃ 平均最低 22.6℃ 平均年間降水量 2,100 mm

社会条件	交通	移住地内をアスファルト舗装のマナウス~イタコチアラ州道が走っており, 移住地中心部までバスの便がある。(1日5回往復) 農協出荷のトラック便も頻繁にあり利用できる。
	市場	消費市場, マナウス市人口 40 万, ポリビア, ベルー, コロンビア, ベネズエラ等への貿易拠点となっており, 近年「ZONA FRANCA (非関税地域)」の指定を受けたことから経済は活気を呈しており, 移住地も諸々の恩恵を受けている。
	医療・教育	マナウス市に事業団特約医がおり, 診療は無料で入院は市価より 30% となっている。ベレン援協による巡回診療も年 2 回実施されている。5 年制小学校が 1 校あり (52 Km 地点に分校がある) 日本人子弟 44 名, 教師 5 名, 中学はマナウス・サンパウロ等に寄宿通学している。(小・中学校就学率 90%)
	治安	アマゾン州警のマナウス署より常駐警官 1 名が派遣されている。

2 入植状況

入植戸数 (内地人)	年度	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
	戸数	17	6	16	17	2	2				
	人員	108	30	95	95	9	5				
	年度	43	44	45	46	47	48	49	現 地 入植者	合 計	定着数
	戸数									60	47
人員									342	274	

昭和 49 年 9 月末

退耕者の主なる転住先	ベレン近郊	トマスー	他のアマゾン地域	南 伯	そ の 他	掃 国
率 (%)				38 (5 戸)	38 (5 戸)	24 (3 戸)

主なる出身県名	石川	長崎	熊本	福岡	青森		その他	合計
戸数	9	8	7	5	3		15	47

総面積	575 ha
ロッテ面積	25 ha
分譲条件および価格	土地代は crS 3,750.00 を 1 年据置, 4 ヶ年分割払 (5 年以上定住のこと)
地権取得	取得 7 名 申請中 40 名 未申請 1 名
電気・飲料水	電気は各戸自家発電なるも近い将来州道沿線の電化が予定されている。飲料水は, 47 年度事業団予算にて掘抜き井戸 4 基が完成し永年の飲料水問題が一挙に解決した。
地区内道路	全戸アスファルト舗装の州道沿いにあり極めて恵まれている。
主なる事業団援護施設	深井戸 4 基高架鉄筋コンクリート水槽 2 塔, その他揚配水設備
組合等所有施設	事務所兼販売所, 共同販売所 (在マナウス事業団貸与) 倉庫, 車庫, 乾燥場, 鶏解体処理場, ガソリンスタンド, 発電小屋, 職員住宅, 労務者住宅等各 1 棟, 車輻 5 台, 胡椒乾燥機 1 基, 土地 1,500 ㎡ この他自治会が自治会館 1 棟

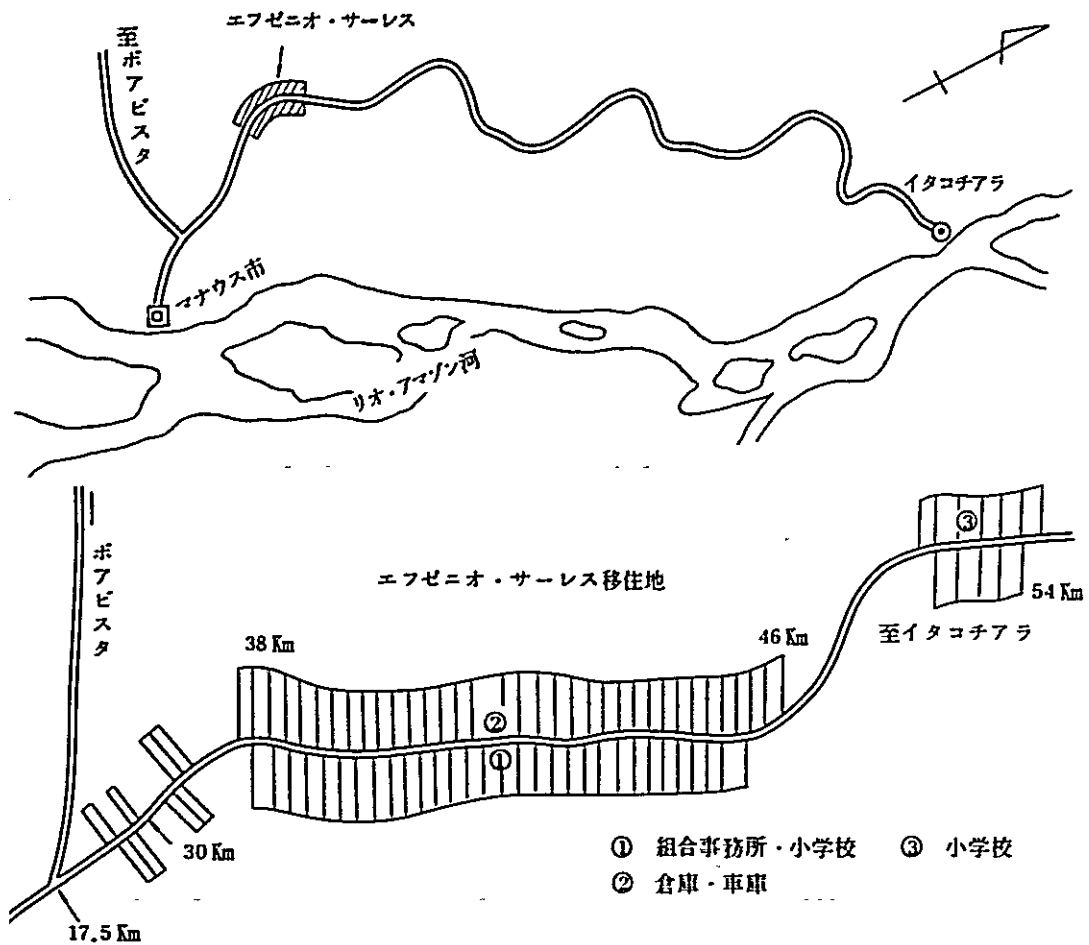
3 営 農

主作物	胡椒, 養鶏, 果樹, 蔬菜
営農状況	マナウス市の発展に伴い鶏卵鶏肉, 蔬菜等の市場要求が強まりこれに対応してアスファルト道路で結ばれ好的な立地条件にある当移住地の営農は養鶏, 蔬菜に重点を置いた営農が進められるようになった。経済的には豊かであるが市場変動をまともにかぶり易い養鶏, 蔬菜を基礎とする営農形態は必ずしも安定した営農であるとはいえず蔬菜, 鶏卵市場の停滞低迷と生産資材の高騰 (飼料, 肥料等) 等により現在は必ずしも容易な条件下になく従来の営農に反省が加えられ, 胡椒グアラナ果樹等の永年作物の導入が検討されている。
農機具等の普及状況	脱粒機 20 台, 発動機 39 台, 動力噴霧機 23 台, 耕耘機 23 台, 自動車 27 台, 単車 23 台
営農指導機関	事業団ベレーン支部, 同支部マナウス支所, アマゾン州農村信用援護協会本部。
利用金融機関	銀行, 事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	組合員は農協, 非組合員は夫々特約業者を通じ販売市場はマナウス市である。
農家所得 (1 戸当り平均昭和 48 年度)	2,073 千円 (46,914 crS)

4 組織活動

自治会	エフィゼニオ・サーレス自治会（任意団体）を昭和40年4月に結成，現在会員47戸272名。 移住地社会の発展向上のための文化活動を中心とした活発な活動を行っている下部組織に婦人部，青年部を有す。
農協	昭和34年4月26日マナウス農業協同組合（任意）として発足。 昭和39年4月7日公認組合，エフィゼニオ・サーレス農業協同組となり，事業は販 購買事業，信用事業，加工機事業で活発な活動を行いアマゾン州唯一のものであり マナウス市の発展とともに今後の発展が期待される。現在組合員38名。

5 地区略図



移住地名 ア カ ラ

1 地区概要

所在地	パラ州アカラ郡 MUNICIPIO DE ACARÁ, ESTADO DO PARÁ
管理者	州政府
入植開始年度	昭和34年(1959年)

経緯	グァマ移住地からの転住者受入地としてアカラ郡が州有地の解放を受けて創設した移住地で別名「パーエス・カルバーリョ植民地」ともいう。 昭和35年にグァマ・ベルナンブコ地区からの転住者23戸を中心に入植した。この移住地の営農は大半がビメンタの単作であるが、ビメンタの適地であることもあって、比較的安定している。数年前よりトマスベレン近郊からの転住者が増えつつある。
----	--

自然条件	位置	W 48° 25' S 1° 15'
	地形	第3紀層段丘地域で平坦な段丘面と段丘をきざむ谷からなる地帯である。
	地質・土壌	地質は砂岩、頁岩。土壌はラテライト化土。 PH = 4.2で酸度強
	植性・林相	熱帯雨林で有用材、アカプー、カスタニア樹等巨木が密生する。
自然条件	気候	雨期 12月～6月、乾期 7月～11月 年間平均気温 25.6℃ 関係湿度 85.3度 年間降雨量 3,077.5mm

社会条件	交通	昭和47年9月、ベレン市からブラジリア街道經由州道1号線と昭和49年10月ベレン市グァマ～ブジャル～トマスベレン～アカラ線が開通し、陸路による外部連絡が可能となり、ベレンとの間に1日1往復のバス便もある。
	市場	アカラ町は人口5,000人程度のため、ベレン市を主な消費市場としている。
	医療・教育	移住地内に小学校が2校ある。教師は3名、就学児童は35名で域外通学者8名を含め就学率100%、中学はベレンにあり13名が寄宿通学(就学率100%)。アカラ町に診療所があるが、医師は常駐していない。看護婦1名が駐在年2回程度のベレン援協による巡回診療がある。
	治安	常駐警官なくも、治安状態良好。

2 入植状況

入植戸数 (内 入地) 員	年 度	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	
	戸 数	3	20		2							
	人 員	15	133		8							
	年 度	44	45	46	47	48	49	現 地 入植者	合 計	定着数		
戸 数							15	40	40			
人 員							71	227	227			

昭和49年9月末

主 なる 出 身 県 名	福 岡	北 海 道	山 形	宮 崎	山 口	熊 本	そ の 他	合 計
戸 数	6	6	5	3	2	2	16	40

ロッテ面積	50 ha
分譲条件等	グァマ移住者を主体とする既入植者が州と個別契約し、転入植したもので州有地の無償払い下げを受けた。
地権取得	全員取得済
電気・飲料水	電気は導入していないが、自家発電を殆どの農家で利用している。飲料水は良質の井戸水。
地区内道路	州が建設した道路に沿って入植、良好。 域外道路は陸路（アカラ～サンミゲル・ド・グァマ～ベレンとアカラ～ブジャル～グァマ～ベレン）が開通。但し、途中2カ所フェリーボートで渡る。
主なる事業団援護施設	なし
組合等所有施設	なし

3 営 農

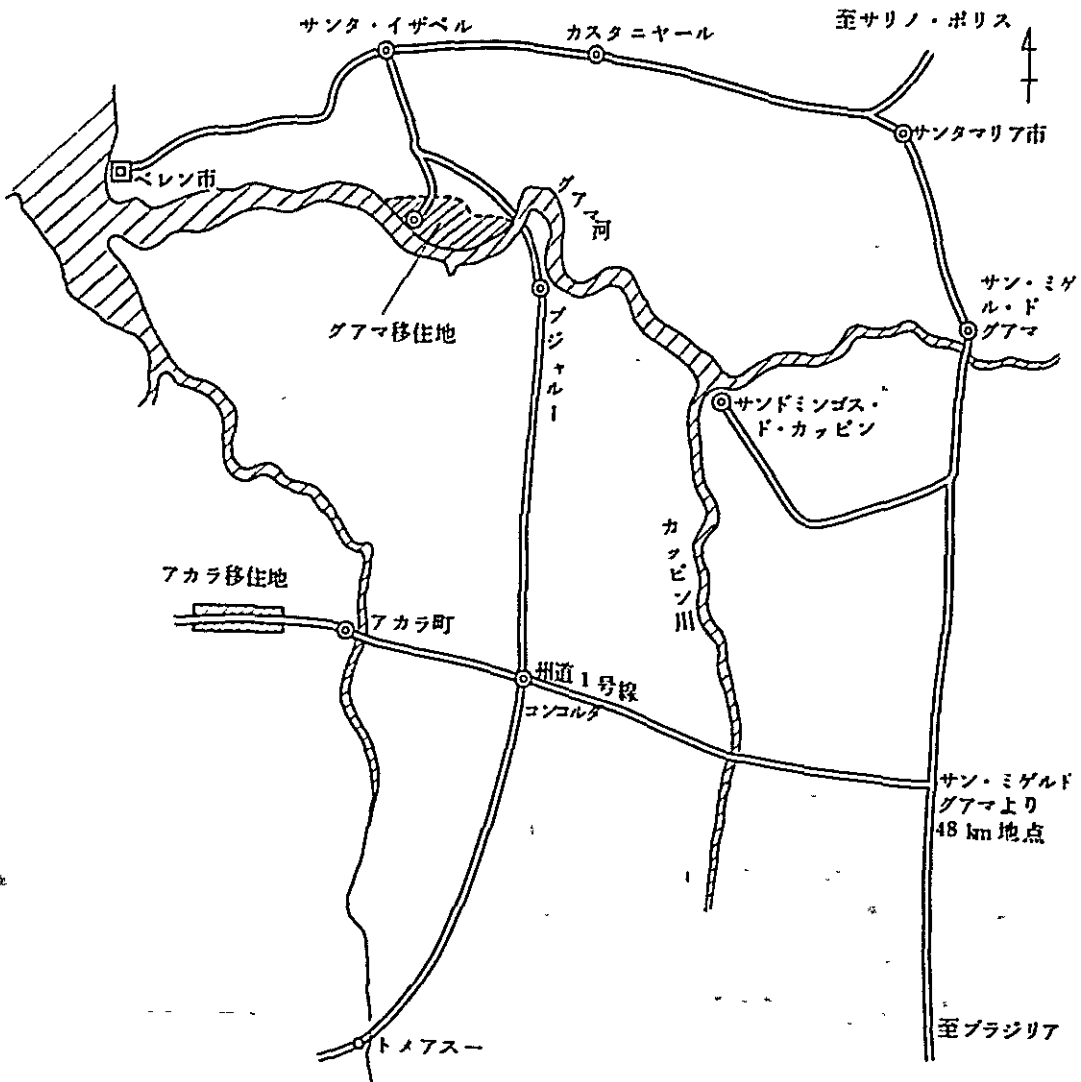
主 作 物	胡椒
営 農 状 況	ビメンタと単作の営農型態であるが、ビメンタ好況の波によって一応安定しているが第2第3作物の開発が必要である。
農機具等の普及状況	脱粒機0.5台、発動機1.2台、動力噴霧機0.5台、耕耘機0.1台、運搬用機械1.7台 精米機0.1台（昭和48年度調べ農家1戸当り平均）
営 農 指 導 機 関	事業団ベレン支部、同支部アマゾン熱帯農業総合試験場、パラ州農村信用援護協会（ACAR-PARA）
利 用 金 融 機 関	銀行、事業団

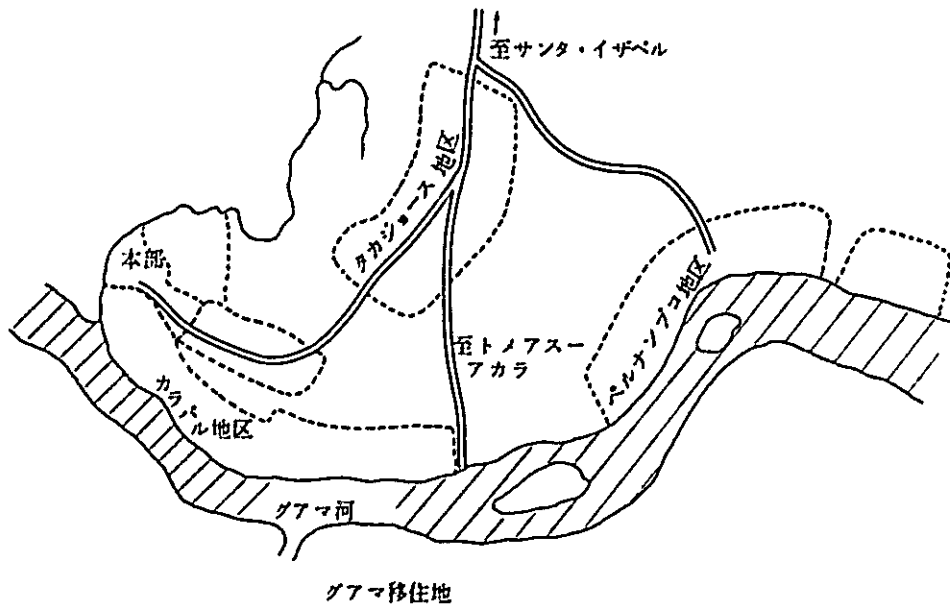
主作物の販売取扱 機関並びに主市場	ビメンタはベレン市の一般商社
農家所得 (1戸当り平均昭 和48年度)	2,945千円(66,853 crS) 昭和49年度推定76,000 crS

4 組織活動

自治会	アカラ日本人会がある。
農協	日本人の農協(任意)があるが活動は肥料の共同購入程度である。最近トメアスー産組に加入する者が増えている。

5 地区略図(アカラ及びグァマ)





II レシーフェ支部管内

支部機構

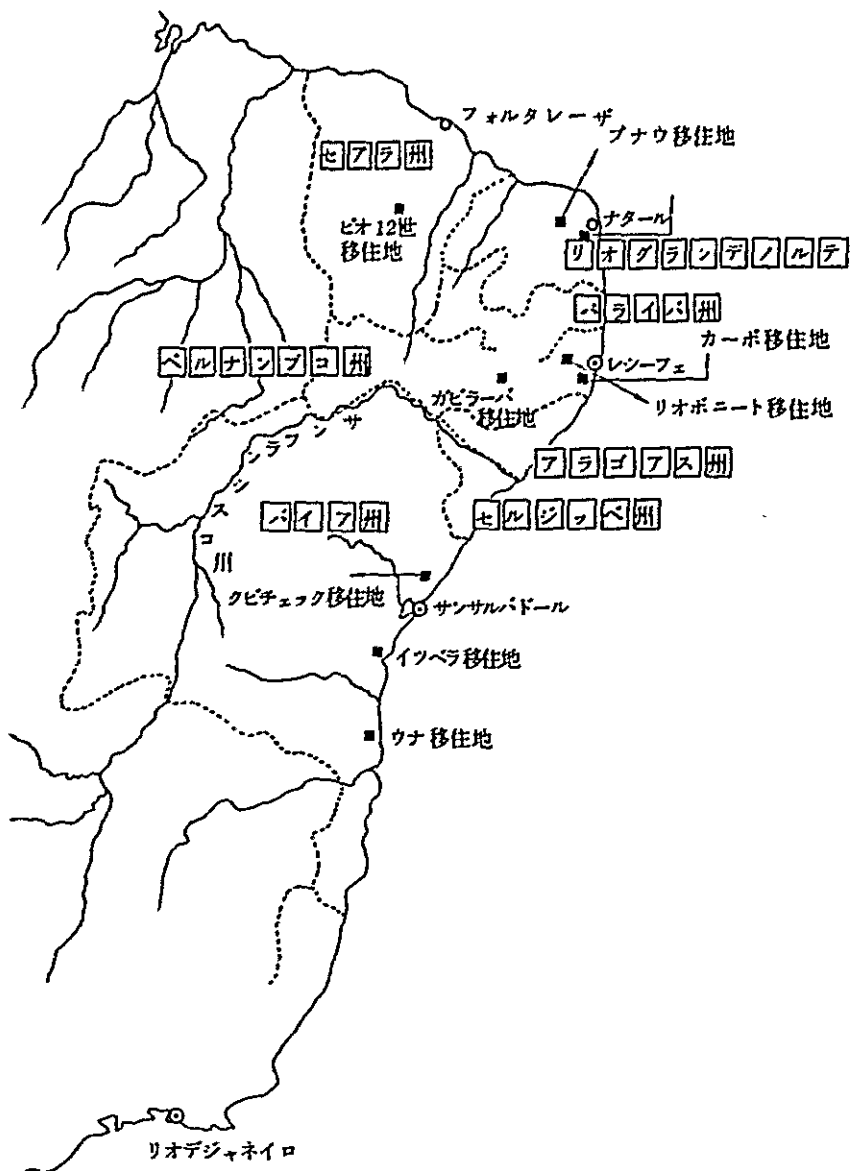
レシーフェ支部 (レシーフェ市)



サルパドール出張所 (サルパドール市)

管轄州

セアラ州, ペルナンブコ州, リオグランデノルテ州, パライーバ州, アラゴアス州, セルジッペ州, バイア州



移住地名 ピオ 12 世

1 地区概要

所在地	セアラ州パカトゥバ郡ピオ 12 世 PIO XII, MUNICIPIO DA PACATUBA, ESTADO DA CEARA'
管理者	昭和 48 年に地権が交付され同時に INCRA も引き上げた。
入植開始年度	昭和 35 年

経緯	東北地方に集約的近代農業を普及させると共に、フォルタレーザ市へ蔬菜を供給する必要があるとの、カンピナ・グランデのカトリック教会の提唱により、連邦政府が私有農場を買収して連邦直営として創設した混合移住地であったが、昭和 48 年 INCRA の引き上げにともない郡に編入された。日本人は昭和 34 年日本直来の 8 世帯、レシーフェからの現地入植 1 世帯の計 9 世帯。 この地域は有名な乾燥地帯で、灌漑水に頼る営農であるため、水の配分が問題である。 そのため一部転出者が出たが、現在残っている 6 戸は蔬菜に養鶏を組み入れた営農を行っている。
----	--

自然条件	位置 W 38°48' S 4°10' 地形 標高 30~40 m の高台地、緩傾斜地、低地より成る大波状地形 土質・土壤 花崗岩系母岩から成る植填土または砂質土 植生・林相 開墾地、森林、疎林、貯水池 気候 年平均気温 平均最高気温 29.3℃、平均最低気温 24.3℃、 雨量 800~1,000 mm
------	--

社会条件	交通 移住地~ガイウバ間砂利道 8 Km 雨天通行差支えなし。 ガイウバ~フォルタレーザ 完全舗装 52 Km バス便多い 鉄 路 37 Km 移住地のジープ・トラック類の利用可。 市場 フォルタレーザ市 近傍主要都市 フォルタレーザ市 セアラ州都人口約 90 万人 60 Km ガイウバ町 人口 2~3 千人 8 Km フォルタレーザには SUDENE (東北伯開発庁) の工業開発計画地として工場大団地がある。
------	---

社 会 条 件	医療・教育	<p>ガイウバ町には医師が在住している。 フォルタレーザ市には総合病院あり。日系の二世医師が在住している。 地域内に農村小学校1校あり。 日本人入植者子弟は全員、ナタール市にある※「日本人生徒の家」に寄宿し、ナタール市内の小・中学校に通学している。 ここでは、日本語教育も行われている。</p> <p>(注) ※「日本人生徒の家」 ビオドーゼ、フォルタレーザ、ナタール、ピウン、ブナウの父兄で組織されている法定団体で、宗教団体・市・州政府から援助を受けている。</p>
	治安	良好 ガイウバ町警察管下

2 入植状況

49年末現在 入植累計 10戸 (うち現地入植1戸)
 退耕累計 4戸
 現在 6戸 29名 昭和49年9月末

主なる出身県名	長野	鹿児島			合計
戸数	5	1			6

総面積	1,390 ha
ロッテ面積	1ロッテ約10 ha
分譲条件及価格	<p>進邦の募集条件は土地代 60 cr S 2年据置 10年分割払い。 住宅 100 cr S 3年据置 17年分割払いであったが、現在なお未確定。 (従って入植者は全く払込みを行っていない)</p>
地権取得	取得6戸
電気・飲料水	<p>電気中心地区のみ配電済み。 飲料水は川水</p>
地区内道路	雨天通行支障なし。
地区内主要施設	小学校1

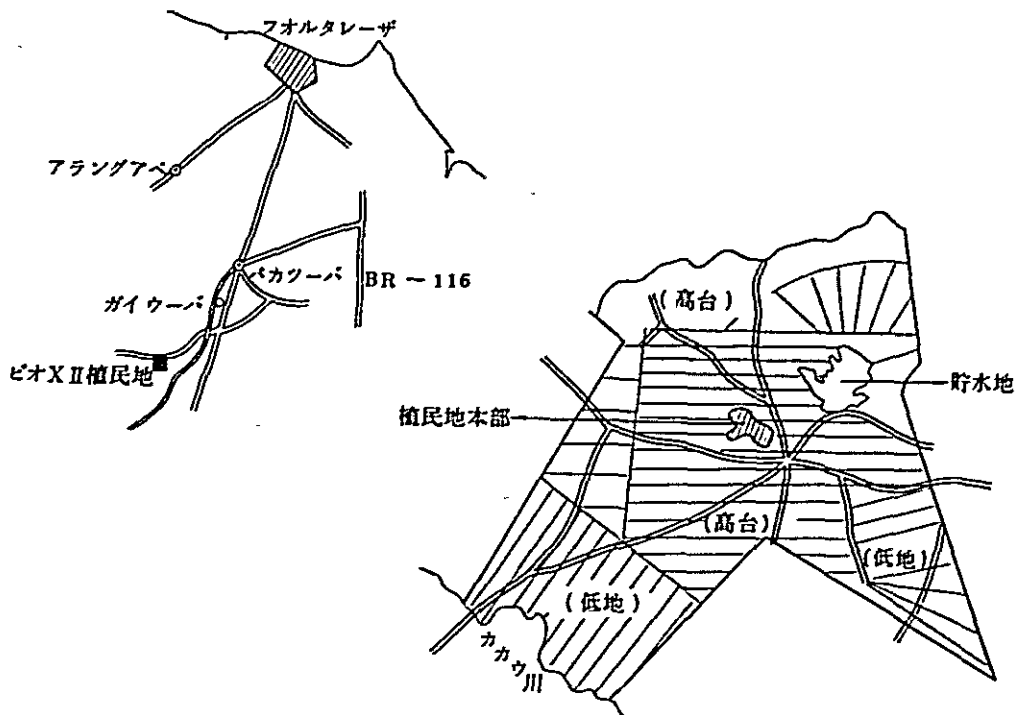
3 営農

主作目	養鶏、メロン、西瓜、陸稲、マラクジャ
営農状況	<p>昭和41年、事業団の指導融資により鶏を導入してこれを主体とし、また貯水池の農業用水を利用して野菜。雨期には陸稲も栽培している。 果樹類は試作段階にある。</p>
農機具等の普及状況	発動機 2.2台、動力噴霧機 0.4台、耕耘機 0.4台、トラック 0.6台、揚水機 1.2台

営農指導機関 利用金融機関 主作目の販売 取扱機関並主市場 農家所得 (一戸当り平均) (昭和48年度)	粉砕機0.6台(昭和48年度調べ農家1戸当り平均) 事業団レシーフェ支部 銀行 各農家が個別に自家所有の車両でフォルタレーザ市の食料品店、レストランなどへ直接販売している。 1,261千円(27,120 cr S)
--	---

4 組織活動

自治会 農協	ビオドーゼ日本人会を組織している。 ビオドーゼ農協はあるが、邦人の参加は少ない。 僅かに購買事業がみられる程度である。
-----------	---



移住地名 ピ ウ ン

1 地区概要

所在地	リオ・グランデ・ノルテ州, ニシア・フロresta郡 (ナタール市西北22 Km) MUNICIPIO DA NISIA FLORESTA, ESTADO DA RIO GRANDE DO NORTE
管理者	連邦 (INCRA)
入植開始年度	昭和31年

経緯	地域の農業技術の向上と州都ナタール市への蔬菜、果実の供給を目的として日本人と伯国人を混合入植させるべく計画。昭和31年創設された州と連邦の共営移住地である。 入植当初はメロンが大当たりし、前途に大きな希望がもたれた。 昭和35年に集中豪雨があり一時移住者は動揺し、更に昭和45年8月家長の集団交通事故が発生、転住が続いて現在は5戸となっている。
----	--

自然条件	位置 W 35°10' S 5°55' 地形 河岸の湿地帯とそれに連なる緩傾斜の高台地 地質・土壌 低地は有機質の多い黒泥質土壌。台地は砂質土。 植生・林相 低地は湿地帯草類。高台は疎林。附近高台に椰子園あり。 気候 年平均気温 26.3℃, 平均最高気温 30.0℃, 平均最低気温 21.6℃, 年間降雨量 1,400 mm 雨期 2~8月 乾期 9~1月 区別明りょう
------	---

交通	移住地~ナタール市間は完全舗装道路でバスその他車輛交通ひんぱん。移住地事務所ジープ、トラックも毎日往復している。 ナタール~レシーフェ間も完全舗装道路で、バスその他車輛の交通が非常に多い。(バス5時間)
市場	ナタール市が主な出荷先であるが、市場狭小なため乾期はレシーフェ市にも出荷している。(主として個人出荷) ナタール市は近年発展が著しく将来性はある。
近傍主要都市	ナタール市 州 都 人口約 27万人 22 Km レシーフェ市 ベルナンブコ州首都 人口約 120万人 400 Km
医療・教育	地区内に診療所があり毎週内科医、歯科医が出張していたが、INCRA移管後は中断している。

社会条件	医療・教育 治安	ナタール市には各種医療機関が完備している。 地区内に小学校1校。日本人子弟は全員在ナタール市の「生徒の家」から市内の小・中・高校に通学している。 良好。ナタール市警察管下。
------	-------------	--

2 入植状況

入植累計	11戸 (うち現地入植2戸)
退耕累計	7戸
現在	4戸 14名 (昭和49年9月末)

退耕者の転住先

主なる出身県名	神奈川	長野	茨城	合計
戸数	2	1	1	4

総面積	3,300 ha
ロッテ面積	1 ロッテ 50 ha 台地 47.0 ~ 47.5 ha 低地 2.5 ~ 3.0 ha
分譲条件及価格	連邦の募集条件は土地代Cr\$25, 3年据置, 10年分割払い。(但し, 4年以上定住) 現在のところ未定である。
地権交付	取得 7戸
電気・飲料水	全戸配電済み。 飲料水は素堀共同井戸で水質良好, 水量豊富。
地区内道路 地区内の設 主要施設	砂道。雨期通行支障なし。 INCRA事務所1, 小学校1, 工芸学校1, 修理工場1, クラブ1

3 営農

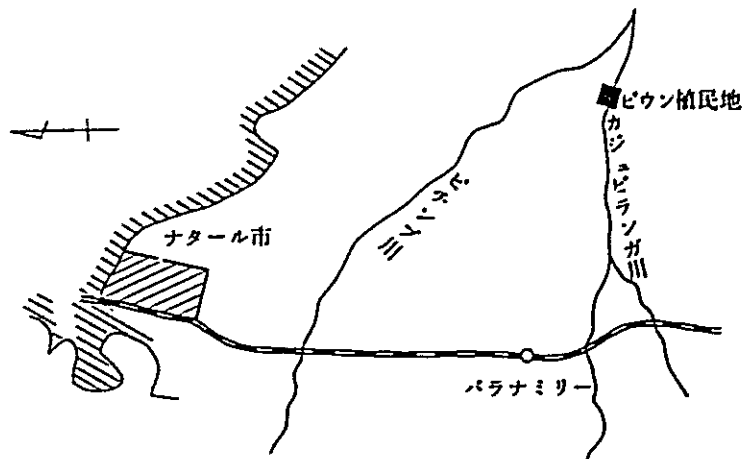
主作目	バナナ, 西瓜, メロン, グラジオラス
営農状況	1 ロッテ 50 ha の 90 % は砂質土の台地で占め, 住宅周囲にココヤシ, カジュウが僅か植えられているにすぎず, 営農は低地約 5 ha の 1 部が利用されているのみである。雨期は陸稲のみで乾期の西瓜, メロン, グラジオラス等が中心である。家長の老化や他地区への転住, 子弟の農業以外への就業等により営農の発展は余り期待できない。
農機具等の普及状況	脱穀機 0.25 台, 発動機 0.25 台, 動力噴霧機 0.88 台, 耕耘機 0.7 台, トラック 0.5 台, 揚水機 0.25 台 (昭和 48 年度調べ農家 1 戸当り平均)
営農指導機関	事業団レンシーフェ支部

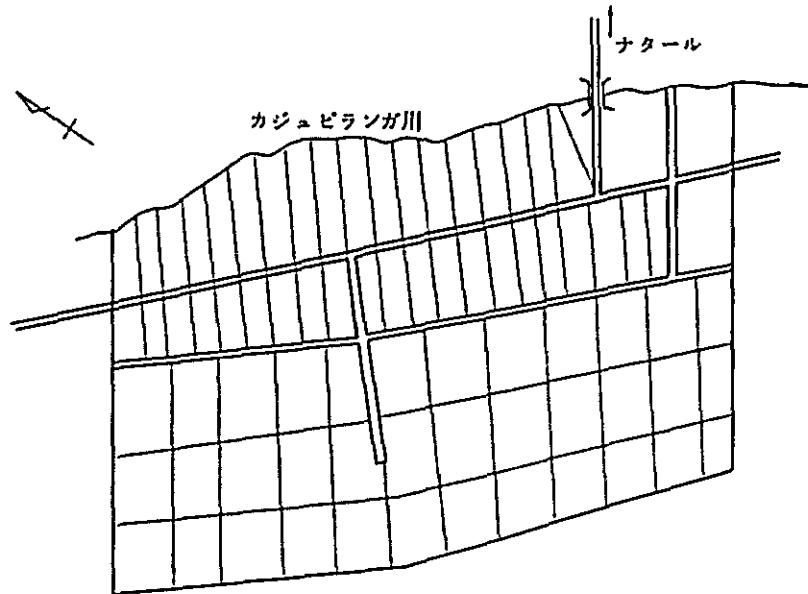
利用金融機関	銀行
主作物の販売 取扱機関並びに 主市場	ナタール市、レンシーフェ市
農家所得 (1戸当り平均) (昭和48年度)	814千円(17,502 CrS)

4 組織活動

自治会	北伯日本人連合自治会(ビウン日本人会) ブナウ、ビオドーゼ、ナタール市近郊邦人と共にナタール市に「日本人生徒の家」を運営している。
農協	ビウン農協(伯人との混合、法定)に加入しているが、殆ど活動していない。

5 地区略図





移住地名 プ ナ ウ

所在地	所在地	リオグランデ ノルテ州 トーロス郡 (ナタール市北方 86 Km) MUNICIPIO DO TOUROS ESTADO DA RIO GRANDE DO NORTE
	管理者	ピオ 12 世財団 (当初はリオグランデ ノルテ州)
	入植開始年度	昭和 34 年

経緯	経緯	先に日本人を受け入れたピウン移住地の成績 (蔬菜栽培) が極めて良かったため、リオグランデ ノルテ州に於ける第 2 の移住地として昭和 33 年創設した州直営の混合移住地である。 日本人は昭和 34 年および 35 年に 13 世帯が入植した。 日本人の入植当時は INIC 扱いの州直営であったが後「ピオ 12 世財団」に移管され分譲条件が変わった経緯がある。 入植者は当初しばらくは順調であったが、その後連続災害に見舞われたため一世帯を残して他は転出した。 転出者はレシーフェ近郊、カーボ、リオポニート移住地へ移転した。
	位置	W 35° 30' S 35° 15' 地区東辺をフォンセツカ川が北から南に流れている。 地区南・西・北部は低い緩波状形の丘地でこれらに囲まれた中央に平坦な低地がある。

地質・土壌	丘地は砂質土で肥沃でない。 低地は黒色の有機質にとむ沖積土。土層3～5m。 PH5～5.5
植生・林相	丘地はカシュー、アングーバ等が自生している。地区内に椰子園もある。低地は草原。
気候	年平均気温26.2℃平均最高気温29.4℃平均最低気温20.6℃ 年間雨量1500mm 雨期2～8月 乾期9～1月

社会条件	交通	トーロス～プナウ～セアミリン間砂利道 定期バス1日1回その他移住地ジープその他が1日数回往復。 セアミリン～ナタール間完全舗装 バスその他車輛の交通多い。
	市場	ナタール市 乾期には他州ジョンベソア市レシーフェ市等にも出荷
	近傍主要都市	セアミリン 人口約5千人 南方 30km ナタール市 リオグランデ ド ノルテ州都 人口約35万人 セアミリン経由 南方 60km トーロス 人口約3千人 北方 15km
	医療・教育	医療 移住地市街地に診療所あり(準看護婦常駐)毎週医師がセアミリンより出張診療 セアミリンに総合病院(産院が主体)ナタール市に各種医療施設完備 教育 地区内に農村小学校1校(4年制有資格女教師1名) 日本人子弟は全員ナタール「日本人生徒の家」に寄宿しナタール市内の小・中・高校に通学している。 セアミリンには中学校あり大学はナタール市にある。
治安	良好 トーロス警察管下	

2 入植状況

入植累計	14戸(うち現地入植1戸)
退耕累計	13戸
現在	1戸 4名 昭和49年9月末

退耕者の主なる転住先	サンパウロ州	ベルナンブコ州	パイア州	リオグランデ ドノルテ州	帰国
率(%)	15(2戸)	23(3戸)	23(3戸)	15(2戸)	23(3戸)

主なる出身県名 熊本県1戸

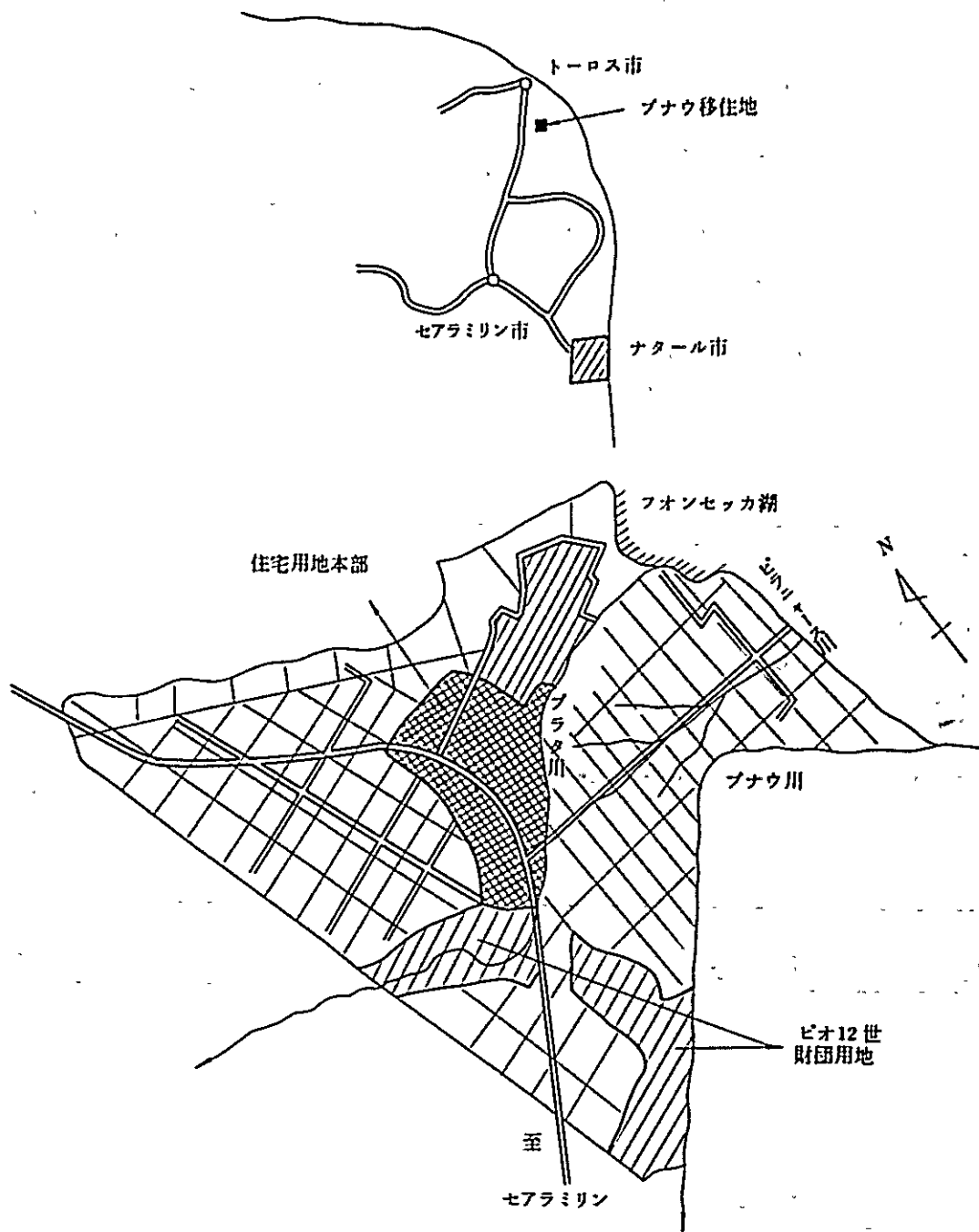
総面積	907 ha (51 ロツテ)
ロツテ面積	1 ロツテ低地7 ha 丘地5~8 ha
分譲条件及価格	(当初) 低地7.5 ha 丘地4.5 ha 計12 ha 全額130 crSを2年据置8年分割払い (現行) 低地7 ha 丘地5~8 ha 無償贈与
分譲状況	全戸無償分譲完了
地権取得	地権交付は条件付(第三者への転売禁止条項)であるため担保権設定および退耕する場合は、財用の承認を必要とし、財団が保証および買取り(地上権)を行う。
電気・飲料水	電気 なし 飲料水は水道
地区内道路	丘地、低地とも良好、雨期通行支障なし
地区内主要施設	診療所1、学校1、事務所1、車庫兼修理所1

3 営 農

主 作 目	米、バナナ、蔬菜類
営 農 状 況	ビウンと同様、低地を利用して米、バナナ、蔬菜類を栽培している。
営農指導機関	農業改良普及機関(州)、事業団レシーフェ支部
利用金融機関	銀行、事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	トラックを所有し大部分の生産物はナタール中央卸市場へ販売している。
農 家 所 得	331千円(昭和47年度推定)

4 組 織 活 動

自 治 会	なし
農 協	ビウン農協(法定)



移住地名 リオ・ボニート

1 地区概要

所在地	ベルナンブコ州ボニート郡 MUNICIPIO DO BONITO, ESTADO DO PERNAMBUCO
管理者	郡に編入
入植開始年度	昭和33年

経緯	<p>昭和31年パライーバ州で開催された東北伯カトリック司教会議の決議により、東北伯地域の経済および社会の発展と東北伯人の定着、更にはレンソフェ市の食糧供給地帯とする目的でINIC(現INCRA)が創立したものである。</p> <p>日本人に対しては、特に夏季乾燥期に標高の高い土地を利用しての蔬菜栽培が期待されていた。</p> <p>日本人は昭和33年に5世帯、昭和35年に9世帯が日本からの直来で入植した。その後貸与物件(車輛)の利用をめぐる感情的な対立が生じ転出する者が出た。逆にブナウ移住地からの転出者が入植する等、一時的移転が激しかったが、結局、現在日本人は17世帯が入植している。移住地は昭和48年INCRAの引き上げにともない郡に編入された。</p> <p>営農面では当初マラクジャの栽培により極めて順調に伸びていたが、値下りにより蔬菜に転向した。</p> <p>現在柑橘、マラクジャ、ゴヤバ等永年作物を中心にキャベツ、ニンジン、西瓜等を組合化した経営に転換、営農は急速に進んだ。</p>
----	---

自然条件	<p>位置 W 35° 41' S 8° 29'</p> <p>地形 全体として起伏の多い丘陵地。溪流各所にあり。</p> <p>地質・土壌 高地部砂壤土 低地部(谷間)は植壤土~壤土</p> <p>植生・林相 森林多い(主として再生林)</p> <p>気候 年平均気温 23.4℃ 平均最高気温 32.5℃ 平均最低気温 16.0℃ 年間降雨量 1,436 mm 雨期 3~8月 乾期 9~2月 区別は比較的明確</p>
社会条件	<p>レンソフェ~ベゼーホス間は舗装。ベゼーホス~ボニート間はまだ舗装されていない。</p> <p>レンソフェ市~ボニート市は定期バス1日3往復。</p> <p>ボニート移住地は無舗装だが、雨期の車輛通行に支障なくタクシー利用も可。</p>

社 会 条 件	市 場	主体はレシーフェ市、一部カルアニー市 ポニート農協のポスト（レシーフェ市中央市場内および市場直売所）がある。 出荷は個人によりトラック積合せ出荷。
	近傍主要都市	レシーフェ市 州都人口約120万人 130km ポニート市 人口約1万人 7km
	医 療・教 育	医療 地区内に診療所あり ポニート市には無料診療所のほか、FUN RURAL（農業救済基金）の診療所 がありレシーフェ市に事業団特約病院（ベルナンブコ大学病院）あり。 また厚生省直轄病院（内・外・産婦人科）は、移住地の管理人の証明により診療 無料 教育 地区内に農村小学校1校（4年制） 小学校 } 中学校 }ポニート市 高 校 }
	治 安	良好

2 入 植 状 況

入 植 戸 数 と 人 員 （ 内 地 ）	年 度	33	34	35	36	37		40	41	42	43
	戸 数	5		9							
	人 員										
	年 度	44	45	46	47	48	49	現 地 入 植 者	合 計	定 着 数	
戸 数							13	27	17		
人 員									69		

昭和49年9月末

退耕者の主なる転住先	レシーフェ近郊	バイヤ州	サンパウロ
率 % (戸)	70 (7戸)	20 (2戸)	10 (1戸)

主なる出身県名	福岡県	長野県	県	県	その他	計
戸 数	5	4			8	17

総 面 積	1,380 ha
プ ッ テ 面 積	1 ロ ッ テ 約 25 ha
分 譲 条 件 及 び 価 格	募集要項では土地代75CRS 2年据置10年賦 住宅100CRS 3年据置10年賦であったが現在なお未確定。

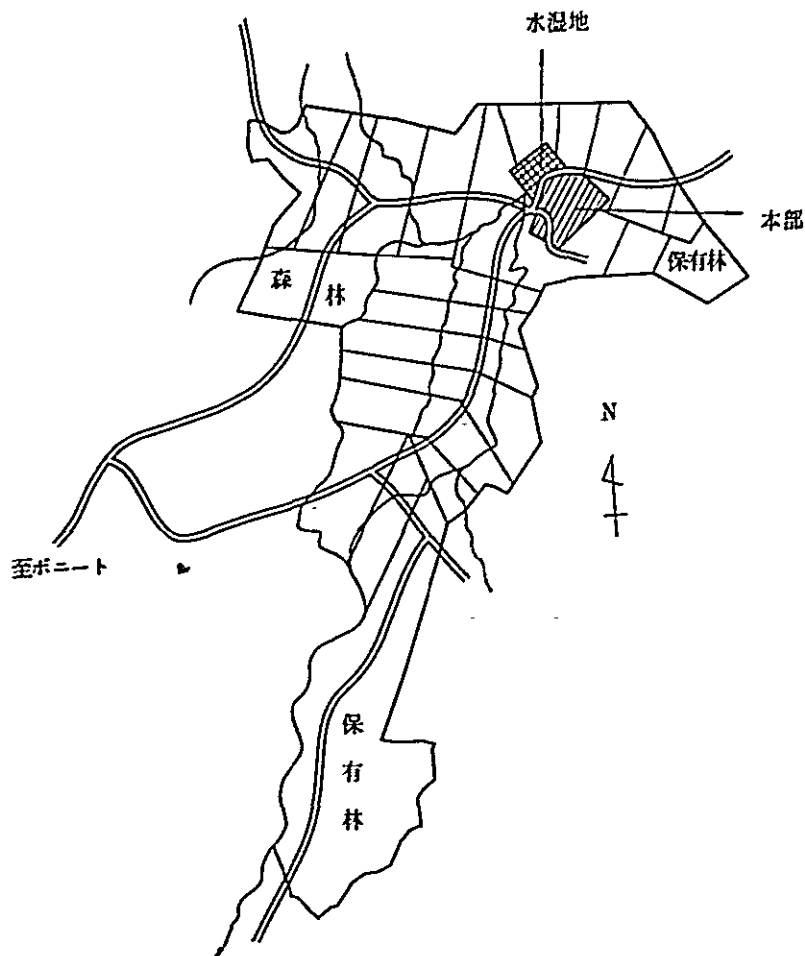
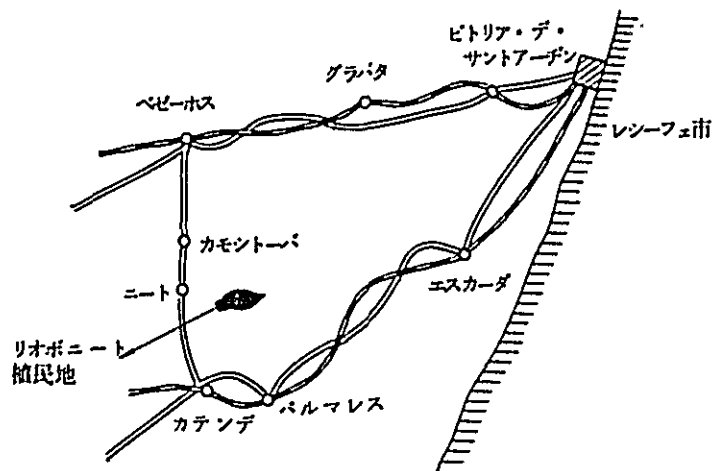
地 産 取 得	取得17戸
電 気 ・ 飲 料 水	全地区は電化済 飲料水は各戸索堀井戸、水質良好、水量豊富。
地 区 内 道 路	良好 幹線8m巾 支線6m巾
地 区 内 主 要 施 設	
並 に 車 輛 等	小学校1, 農協事務所1, 売店1, 倉庫1, 修理工場1, 製材所1, 移住所1

3 営 農

主 作 目	バラ、西瓜、蔬菜、柑橘、
営 農 状 況	地区は比較的急な傾斜地が多くすべての作物は灌漑により栽培されている。
農機具等の普及状況	発動機1.8台、動力噴霧機2.1台、耕耘機0.4台、トラクター1.8台、トラック1.8台、揚水機1.4台(昭和48年度調べ 農家1戸当り平均)
営 農 指 導 機 関	事業団レシーフェ支部
利 用 金 融 機 関	銀行、事業団
主作物の販売取扱	レシーフェに農協販売所があり大部分はそこへ出荷。
機 関 並 に 主 市 場	ポニート町のフェイラやマラクジャ加工会社への出荷もある。
農 家 所 得	2,291千円(49,264Cr)
(一戸当り平均 昭和48年度)	

4 組 織 活 動

自 治 会	昭和45年 リオポニート共栄会結成
農 協	レシーフェ近郊カルビーナ在住日本人、カーボ移住地日本人とともに、中伯産組(任意)を組織していたが、法定組の発足により解散した。 昭和46年 リオポニート法定組合結成 活動は運輸、販売を行っている。



移住地名 ウ ナ

1 地区概要

所在地	所在地	バイヤ州ウナ郡 MUNICIPIO DA UNA ESTADO DA BAHIA
	管理者 入植開始年度	連邦 (INCRA) 昭和28年
経緯	経緯	昭和16年バイヤ州が民有地を買収し、州内農業者の定着を目的として創設した移住地であったが、昭和24年連邦直営となった。 昭和28年になってこの地方の農業振興を考え、日本人農業者の受入れを認めることになったものである。日本人移住者は入植後まもなく一部の煽動者により事件を起し、15世帯の離脱者を出した。 内10世帯はイツペラ移住地へ、5世帯はジョイーバ移住地へ移転した。 残留家族はゴムの植栽を中心としたが、近年カカオ・胡椒等を取り入れた経営が実施されている。
	緯	
自然条件	位置 地形	W 39°6' S 15°20' 派状地形、小河川およびその流域低湿地、傾斜地および高台から成る。
	地質及土壌 植生・林相 気候	低地は有機質に富む土壌。傾斜地および高台地は第三紀層の砂質土または砂質土壌 熱帯降雨林地帯 年平均気温 24.8℃、平均最高気温 31.0℃、平均最低気温 16.6℃、 年間降雨量 2,224 mm 雨期 4～8月、乾期 9～3月
社会条件	交通	ウナ移住地～イタブナ間 砂利舗装道、毎日バス4往復 イタブナ～サルパドール間 定期バス毎日ひんばん、所要8～10時間 ウナ～イレウス間 直通道路建設中 イタブナ、イレウスに空港あり、移住地内にテコテコ発着場あり。
	市場 近傍主要都市	イタブナ市、ウナ町 イタブナ市 人口約2万人 130 Km ウナ町 人口約5千人 10 Km イレウス市 人口約1万人 イタブナ経由 160 Km サルパドール市 州都人口約100万人 640 Km

社 会 条 件	医療・教育	地区内に診療所、薬局あり。医師、看護師が常駐している。 教育 地区内に5年制の小学校あり。 中学校はウナ町、イタブナ市 高校 大学進学希望者はイタブナの高校に寄宿、通学している。 大学はサルバドール市
	治安	良好

2 入植状況

入植戸数と人員 (内地)	年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数	38	1	4	8										
人員	年度	42	43	44	45	46	47	48	49	現 地 入 植 者	合 計	定 着 数			
	戸数									23	74	38			
人員												151			

昭和49年9月末

退耕者の主たる転住先	サンパウロ近郊	イツベラ	クビチュック	その他
率(%)	80	9	6	5

主たる出身県名	北海道	京都	東京	その他	合計
戸数	9	5	5	19	38

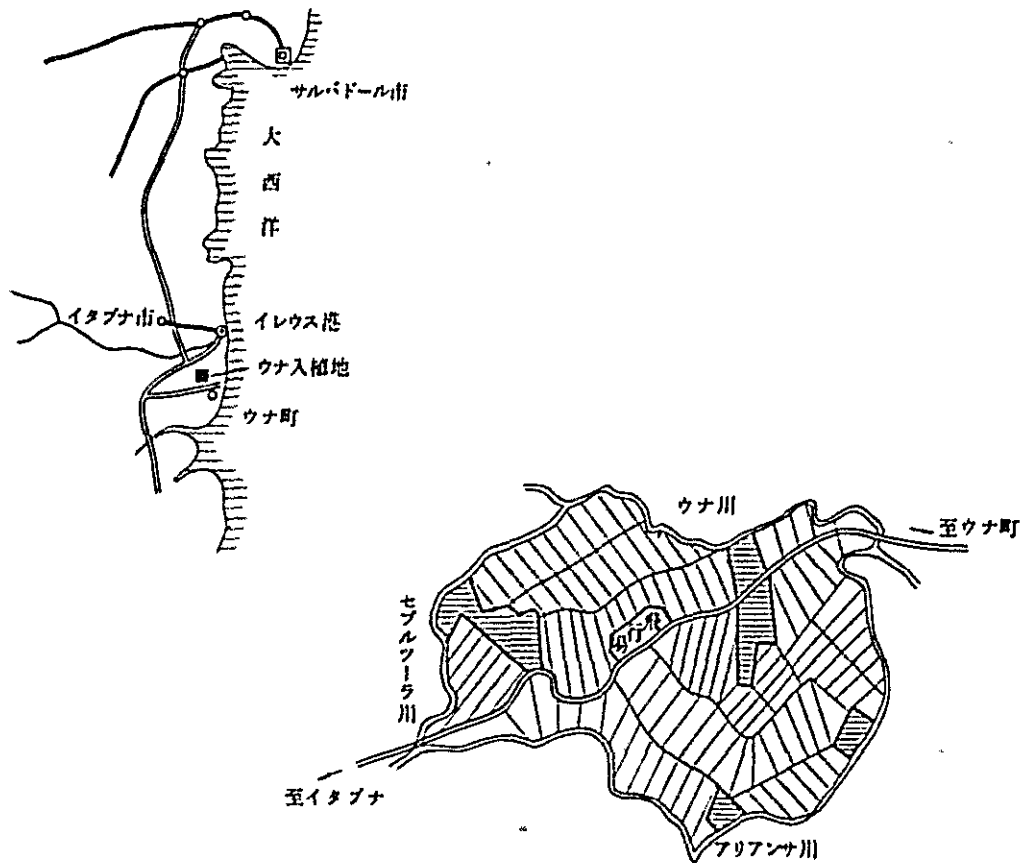
総面積	5,494 ha
ロッテ面積	30 ha
分譲条件及価格	募集要領では土地代CR30~45、3年据置10年分割(5年以上定住者)であったが現在なお未確定
分譲状況	満植
地権取得	取得39戸
電気・飲料水	センター地区はウナ町より送電々化済またロッテ内電化は伯国銀行より3年据置4年均等払いを条件とする資金導入で電化される予定
地区内道路	良好
地区内の主要施設	小学校2、会館1、倉庫1、修理工場1、売店1

3 営 農

主 作 目	ゴム、マンジョカ、トマト、マラクジャ、ピメント、カカオ
営 農 状 況	ゴムは、昭和44年頃から病虫害により次第に採液量が低下しているため抵抗性品種への更新が進められている。また胡椒カカオ等の導入も盛んであるが、収入にまだ結びつかず短期作でカバーしており資金繰は楽ではない。
農機具等の普及状況	発動機0.9台 動力噴霧機0.5台 耕耘機0.1台 トラクター0.1台 トラック0.7台 揚水機0.4台 延圧機0.6台 (昭和48年度調べ農家1戸当り平均)
営 農 指 導 機 関	事業団レシーフ支部、協力機関としてカカオ栽培地帯農業振興審議会 (CEPLAC)
利 用 金 融 機 関	銀行、事業団
主作物の販売取扱機関並びに主な市場	ゴム等永年作物については仲買人に懸先販売をしている。
農 家 所 得 (一戸当り平均 昭和48年度)	1040千円 (22,364 Cr\$)

4 組 織 活 動

自 治 体 農 協	ウナ日本人会は昭和46年解放し、ウナ日伯文化協会を設立 伯人混合の法定ウナ農協がある。
--------------	--



移住地名 カ - ボ

1 地区概要

所在地	所在地	ペルナンブコ州カーボ郡 MUNICIPIO DE CABO DE PERUNAMBUCO
	管理者	ペルナンブコ州公社
	入植開始年度	昭和40年

自然条件	経緯	ペルナンブコ州政府は土地を持たない農民に土地を与え生産意欲を向上させるため昭和38年レシーフェ市南方30kmの不良甘蔗耕地を接収し州直営の移住地として創設した。
		この移住地に対しブナウ移住地の転出者レシーフェ近郊分益農の日本人合計11家

自然条件	位置	族が昭和39年から41年にかけて入植した。 現在、当移住地で農業を営んでいる者は7戸、うち専業農家4戸、兼業農家2戸、 借地農1戸である。 経営はレシーフェ市へ供給する蔬菜栽培を行なっている。
	地形	W 35°7' S 8°20" 標高13m 緩傾斜の起伏に富む。
	地質・土壌	砂質キビ腐礫あとのやせ地。下層に不透性粘土層あり 永年作適地に乏しい。
	植生・林相	砂質キビ畑の跡地に入植した。
	気候	年平均気温26.1度 最高平均28.9 最低平均23.5 雨量1,957mm (観測地 オランダ)

社会条件	交通	移住地入口近くをレシーフェ～サルパドール間国道(BR 101号線完全舗装)が通っている。
	市場	レシーフェ市、カーボ市 専業農家4戸は自家用車で出荷する程度
	近傍主要都市	レシーフェ市 州都人口約120万人 35km カーボ市 人口約5万人 徒歩20～30分
	医療・教育	医療：移住地内には特になし カーボ市、レシーフェ市に各種医療施設完備 教育：地区内に小学校1校 小学校・中学校・高等学校共日本人子弟はカーボ市に徒歩通学している。 大学はレシーフェ市 3名医学部に在籍中
	治安	良好

2 入植状況

入植累計	12戸	ブナウ・リオポニート退耕者及びレシーフェ近郊分益農
退耕累計	7戸	レシーフェ市内
現在戸数	5戸 20名	昭和49年9月末

総面積	3,500 ha
ロッテ面積	1ロッテ50 ha
分譲条件及価格	土地代3,300 cr S据置なし10年分括又は一括払い(同額)
地権取得	仮地権取得

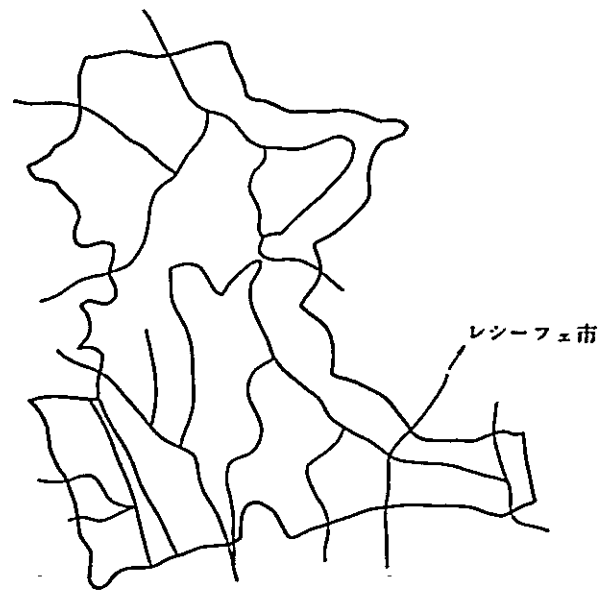
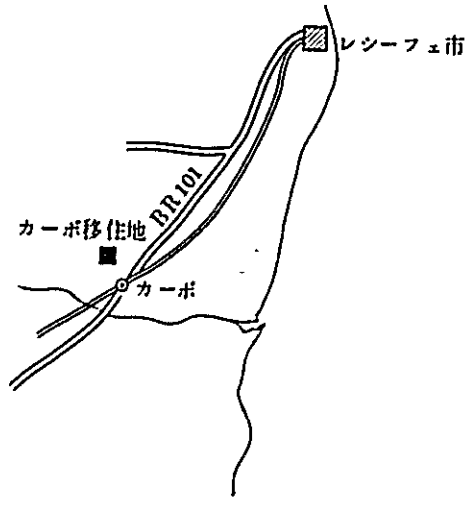
電気・飲料水	電気なし 飲料水は井戸水および河川水を利用
地区内道路	整備がおくれており降雨が続くと車輛の通行が非常に困難となる。
地区内の主要施設	移住地事務所1 小学校1 売店1 倉庫1 職員住宅1

3 営 農

主 作 物	柑橘, ゴヤバ, 胡瓜, グラジオラス, 鶏卵
営 農 状 況	永年作と短期作, 短期作専作, 養鶏短期作等の営農類型に分類できるが地力が悪く水害にも屢々見舞われやすい立地にあり営農の向上は極めてであるが都市近郊(レシーフェまで30 Km)にある有利さを生かしている。
農機具等の普及状況	発動機 1.4 台 動力噴霧機 0.2 台 耕耘機 0.6 台 トラクター 0.2 台 トラック 0.4 台 揚水機 1.0 台 (昭和48年度調べ農家1戸当り平均)
営農指導機関	事業団レシーフェ支部
利用金融機関	銀 行
主作物の販売取扱機関並主市場	レシーフェおよびカーボのフェイラへ自家所有の車輛で直接輸送
農 家 所 得 (一戸当り平均) (昭和48年度)	1,115千円(23,976 c r S)

4 組 織 活 動

自 治 会	な し
農 協	な し



移住地名 イツベラ

1 地区概要

所在地	所在地	バイア州イタブナ郡
		MUNICIPIO DA ITABUNA ESTADO DA BAHIA
	管理者	ブラジル植民農地改革院 (INCRA)
	入植開始年度	昭和28年

経緯	経緯	昭和29年に州内農業者の定着を目的として創立された州政府の移住地である。日本人の入植は、ウナ移住地の事件で離脱した15世帯のうち、10世帯が昭和28年入植した。当時この移住地は正式に開設されていなかった。入植者は転住後間もなく、マラリヤの流行が猛威をふるい、8世帯が離脱したが、その後他からの転住者もあり、現在16世帯になっている。
	緯度	これ等の入植者は、丁字、油桐子、カカオ等の他蔬菜を栽培し、今日に至っているが、最近では試作試験の結果、ビメンタ栽培に適していることが判明したので、これを取り入れた多角経営を行っている。

自然条件	位置	W 39°15' S 13°45'
	地形	標高160～230m、起伏の多い山陵地、水流に恵まれている。
	地質・土壌	第3紀層砂岩母材、鉄分の含有が多く、粘土ないし砂質壤土。
	植生・林相	原生林、再生林あり、林相は相当厚く有用材も含まれる。
	気候	最高平均気温27.8℃、最低平均気温20.2℃ 雨期2～7月、乾期8～1月、平均年間降雨量2,100mm
	交通	移住地よりイツペラ町まで10kmで、州都サルバドール市へは西方ガンドウ町を経て国道101号線により通じている。 サルバドール市より国道101号の州道545号分岐点迄250kmは完全舗装、パレンサ市およびガンドウ町経由はそれぞれ未舗装であるが、道路整備は良好である。
	市場	イツペラ町、パレンサ市、サルバドール市が主な市場である。
	近傍主要都市	イツペラ町 人口5千人 陸路10km、パレンサ市 人口2万人 陸路52km、サルバドール市 人口1,007千人 海上130km
	医療・教育	イツペラ町に病院があり、パレンサ市にも入院可能な病院がある。小学校は移住地内にある。中学校・高校はイツペラ若しくはパレンサの学校に通学している。
	治安	概ね良好

2 入植状況

入と(内地戸数員)	年度	28	32	44	45	46	48					現地入植者	合計	定着数	
	戸数	10	6	2	3	1	2						4	28	18
	人員														79

昭和48年9月末

退耕者の主なる転住先	サンパウロ近郊	パイア州	サルバドール市	その他	楳 国
率 (%)	10 (11戸)	10 (1戸)	10 (1戸)	70 (7戸)	0

主なる出身県名	福島	福岡	三重	青森				その他県	合計
現戸数	2	2	2	2				10	18

総面積	5,000 ha
ロツテ面積	25 ha
分譲条件および価格	25 ha 当り 6,500 cr S 5年分割払、1時払可能。
分譲可能面積	5,000 ha
地権取得	取得18名
電気：飲料水	地区内に電気が導入され燈火用、動力用に使用されている。飲料水は30m程度掘削すると飲料水が得られるが、現在は河川水、湧水を利用している。
地区内道路	砂利道路および盛土である。
主なる事業団施設	作業所 1
車両	なし
機械	なし
組合等施設	組合事務所 1
車両	なし

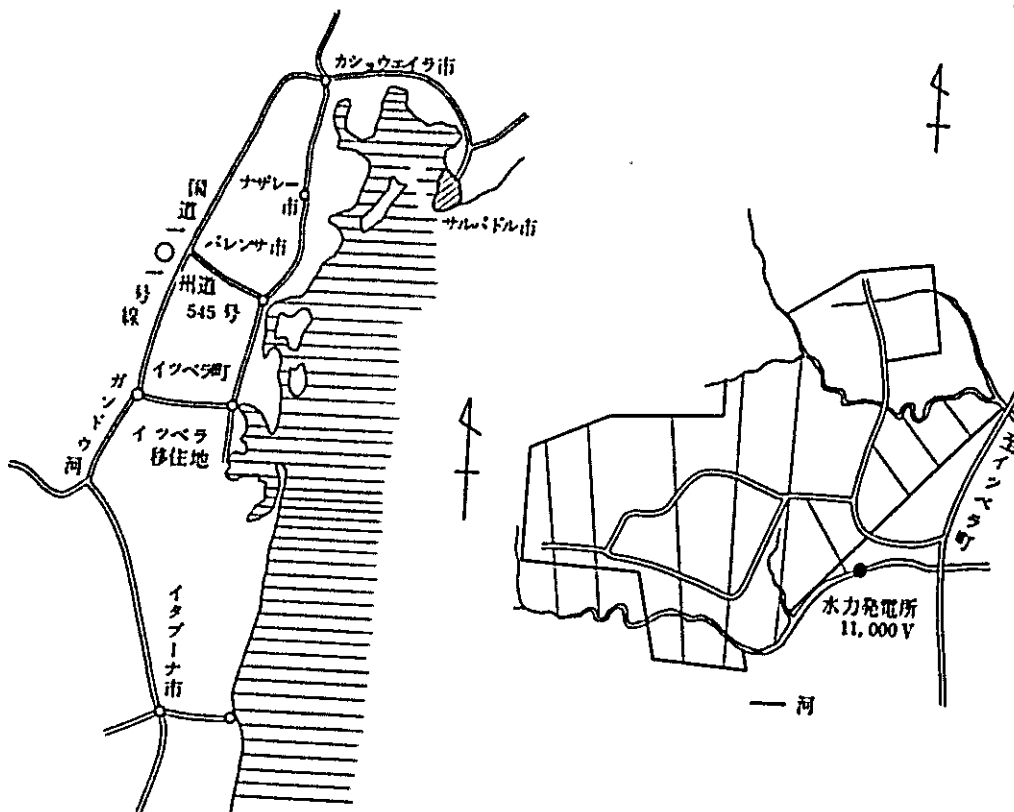
3 営 農

主 作 目	胡椒、丁字、マラクジャ、トマト
営 農 状 況	丁字、胡椒（混植）を基幹作物としトマト等の短期作を副作物として経営している上位農家と、短期作を主体とする下位農家とあり、その較差は大きい。
農機具等の普及状況	脱粒機0.14台、発動機1台、動力噴霧機1.3台、耕耘機0.4台、トラック0.3台 (昭和48年度調べ農家1戸当り平均)
営農指導機関	事業団レシーフェ支部、協力機関としてカカオ栽培地帯農業振興審議会（CEPLAC）
利用金融機関	銀行
主作目の販売取扱機関並びに主市場	サルバドール市およびサンパウロ市に個人出荷している。
農家所得 (一戸当り平均) (昭和48年度)	493千円 (10,593 cr S)

4 組織活動

自治会	「イッベラ日本人会」があり全戸が加入している。
農 協	「イッベラ混合農協」(法定)があるが、殆んど活動していない。

5 地区略図



移住地名 クビチェック (JK)

1 地区概要

所在地	パイア州マタ・デ・サンジョアン郡
管理 者	MUNICIPIO DA MATA DE S. JOÃO ESTADO DA BAHIA 郡に編入
入植開始年度	昭和35年

経緯	サルバドール市およびフェラー・デ・サンターナ市を中心とした地域への生鮮食糧の供給、州内農業者の定着を目的として連邦及び州が共営で創設を計画した移住地であるが、他地域の日本人移住者の優秀な成績を知るに及んで、日本人の優秀な農業技術を公開し、パイア州の農業振興をはかるべく考慮し日本人の導入を追加計
----	---

経緯	緯	西したものである。
	緯	日本人の入植は昭和33年に始まり今日までに123世帯が入植したが、道路問題、経営不振等により多く転出し、現在約半数に減じている。 問題の道路は昭和44年に整備され、また経営は一時蔬菜(トマト)にかたよりすぎ、収入が思わしくなく田舎におちいった者もあったが、最近は柑橘、胡椒、マラクジャ等の永年作物に投資、花卉を組み入れた経営が多くなって来ており、経営は平均的に上昇する傾向にある。

自然条件	位置	W 38°30' S 12°40'
	地形	標高は90～100m 緩やかな起伏のある丘陵地
	地質・土壌	第3紀砂岩母材、植填土ないし砂填土
	植生・林植	林相は厚く、再生雑木林
	気候	最高平均気温28.3℃ 最低平均気温22.2℃ 雨期3～8月 乾期9～2月、平均年間降水量1,800mm
	交通	移住地よりマタ・デ・サンジョアン市まで6Km、マタ・デ・サンジョアン市～サルパドール市間は鉄道および道路が通じている。道路は舗装され所要時間約2時間。
	市場	サルパドール市が主な市場である。
	近傍主要都市	マタ・デ・サンジョアン 人口7千人 陸路6Km サルパドール市 人口1,007千人 陸路82Km
	医療・教育	地区内に診療所兼病院がある。小学校は地区内4校、中学校はマタ・デ・サンジョアンに通学し、高校・大学はサルパドール市に寄宿通学している。
	治安	概ね良好。

2 入植状況

入植戸数と 人員(内地)	年度	33	34	35	36	37	38			現地入植者	合計	定着数
	戸数	5	49	25	30		1			9	119	65
	人員											277

昭和49年9月末

退耕者の主なる転出先	バイヤ州	ゴヤス州	その他		帰国
率(%)	30	5	60		5

主なる出身県名	愛媛	長崎	福岡	青森	鹿児島	新潟	東京	宮城		その他県	合計
現戸数	16	11	10	6	3	3	3	2		11	65

総面積	4,900 ha
-----	----------

ロッテ面積	イタビシリカ地区 25 ha ルンダ地区 20 ha			
分譲条件および価格	cr S 400～500 2年据置 10年分割払			
分譲可能面積	0 ha			
分譲状況	分譲面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	4,900 ha	0		
地権取得	取得 64名			
電気・飲料水	中心地区は配電されている。飲料水は 20 m～30 m 掘削すると飲料水が得られるが、殆んどは河川水、湧水を利用している。			
地区内道路	砂利道路および盛土であるが、雨期は道路状況が極度に悪化し、車の運行は不可能となる。			
主なる事業用援護施設	作業所 1			
車両	なし			
機械	なし			
組合等施設	事務所 1, 作業所 1, 孵卵場 1, 診療所 1, 鶏肉処理場 1, 種鶏場, 飼料配給設備			
車両	小型トラック 2, コンビ 1, トラクター 1			

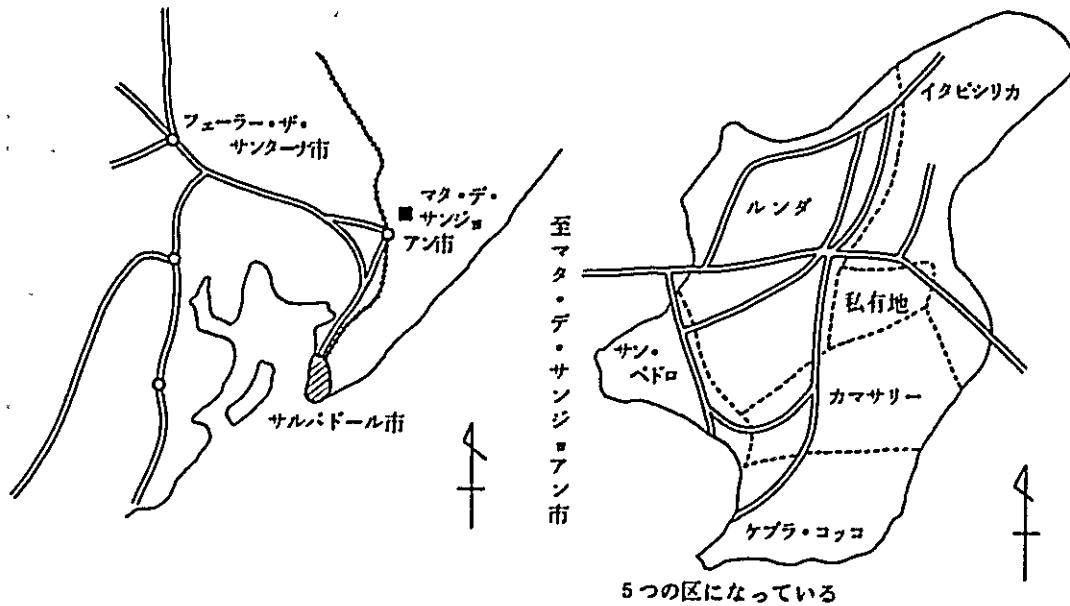
3 営 農

主 作 目	胡椒, トマト, 花卉, 柑橘, 蔬菜, マラクジャ
営 農 状 況	サルバドール市へ 89 Km の近郊に立地して、蔬菜、花卉の農業が中心で一部に胡椒、柑橘類、養鶏が導入されている。しかし青年層に農産物仲買業をするものが多いので自家労力が分散している。 現在、農産物仲買業の専業化とあわせ、専業農家の分化が進み現地営農は比較的向上している。
農機具等の普及状況	発動機 2.6 台, 動力噴霧機 1.1 台, 耕耘機 0.1 台, 運搬用機械 0.5 台, 揚水機 1.7 台 (昭和 48 年度調べ農家 1 戸当り平均)
営農指導機関	事業団レシーフェ支部
利用金融機関	銀行, 事業団
主作目の販売取扱機関並びに主市場	仲買業を営む移住者子弟が仲買をし、サルバドール市に出荷するほか、うち 3 戸がマッタデサンジョアン市でも直売する。
農 家 所 得 (一戸当り平均) (昭和 48 度)	1,349 千円 (29,012 cr S)

4 組 織 活 動

自治会	「J・K自治会」があり64戸が加入している。
農協	「J・K農協」(法定)があり、全戸組合員である。 鶏卵事業が順調に伸びつつある。

5 地区略図



移住地名 ガビラーバ

1 地区概要

所在地	ペルナンブコ州バハ・デ・ガビラーバ郡 MUNICIPIO DA BARRA DE GABIRABA ESTADO DE PERUNAMBUCO
管理者	ペルナンブコ州公社
入植開始年度	昭和42年

経緯	南伯から転住してきた日本人により昭和42年入植が始まったが営農は思わしくなく現在わずかに2戸
----	--

自然条件	位置	W 35° 45' S 8° 20'
	地形	全体として起伏の多い丘陵地
	地質・土壌	高地部砂壤土、低地部は植壤土ないし壤土。
	植生・林相	主に再生林
	気候	リオ・ポニート移住地とほぼ同じ
	交通	カモン市よりガビラーバ町に入る道は良くないレシーフェ市～カビラーバ町間はバスの運行1日2往復、レシーフェ市まで車で約2時間半
	市場	主にレシーフェ市
	近傍主要都市	レシーフェ市ポニート市カモン市
	医療・教育	学校はカビラーバ町に小学校1、カモン市に中学校1、カルアルー市に大学1、あり、あるいはレシーフェ市に出て教育を受けている。 医療はカモン市に産院、カルアルー市に総合病院がある。
	治安	良好

2 入植状況

入と植戸数 人員	年度										現地 入植者	合計	定着数
		戸数										5	5
	人員												5

退耕者の主なる転住先	サンパウロ近郊	レシーフェ市	リオポニート	その他	帰国
率 (%)	33 (1戸)	33 (1戸)	33 (1戸)		

主なる出身県名	広島	群馬										合計
現戸数	1	1										2

ロッテ面積	30 ha
分譲条件および価格	CrS 3,300 据置なし10年分括または一括払い。
地権取得	取得1名 地代支払中1名
電気・飲料水	電気なし 飲料水は井戸を利用
地区内道路	雨期は交通遮断することがある。
主なる施設・車輛	なし

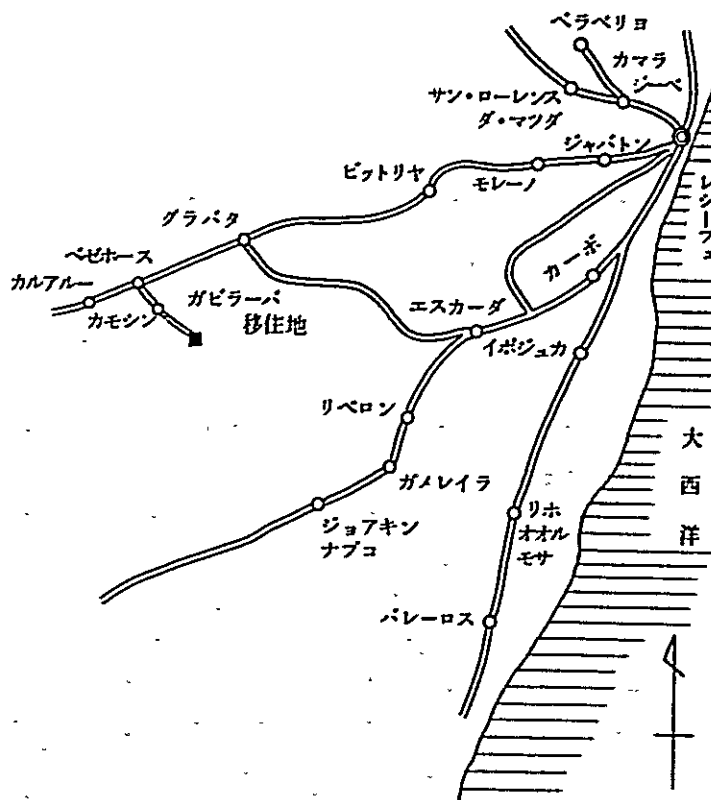
3 営農

主 作 目	花卉、蔬菜、バナナ、柑橘
営 農 状 況	蔬菜栽培により資金の回転を計りつつバラ、グラジオラス、バナナ、柑橘へと営農を切り換えつつある
農機具等の普及状況	動力噴霧機、発動機、揚水機
営農指導機関	野菜団レシーフェ支部
利用金融機関	銀 行
主作目の販売取扱機関並びに主市場	主にレシーフェ市に個人出荷
農 家 所 得 (一戸当り平均) (昭和48年度)	2,060千円(44,300 cr S)

4 組織活動

自 治 会	な し
農 協	な し

5 地図略図



移住地名 タペロア

1 地区概要

所在地	所在地	バイア州タペロア郡
	管理者	MUNICIPIO DA TAPEROA, ESTADO DA BAHIA
	入植開始年度	タペロア郡 昭和45年

経緯	経	ベレン支部第1トマスー移住地に入植していた一部農家が、同移住地に胡椒病害が大発生したため、新しく胡椒栽培を求めて、各地を調査した結果、当移住地と同一自然条件下のイツベラ移住地で胡椒、丁字が立派に栽培されているのを見て第1トマスー移住者を中心とする転住者のみによって形成された移住地である。これらの転住者は第1トマスー移住地における豊富な胡椒栽培経験と、イツベラ移住地で成功した丁字栽培技術を生かし従来当地域で見られなかった栽培農業をはじめたところ、タペロア郡及びニローベッサニア郡居住のブラジル人も注目し、こうして同移住地に積極的に入植をはじめた。
	緯	現在入植者戸数は第1トマスー移住地からの入植者と他地域からの入植者を加えて日本人は28戸とブラジル人10数戸が入植しタペロア混合移住地管理委員会を組織し自主的管理体制をとっている。

自然条件	位置	W 39° 3' S 13° 6'
	地形	海岸山脈標高 40 ~ 180 m にあり水流に恵まれている。
	地質・土壌	壤土。ラトゾールの大型粒状をもつ。土壌構成はきわめてよいが肥沃地でない。
	植生・林相	原生林、再生林あり。林相は相当厚く有用材も含まれている。
	気候	イツベラ移住地とほぼ同じ
	交通	州都サルバドール市より国道 101 号線の州道 545 号分岐点迄 250 Km は完全舗装、州道 545 号によるバレンサ市經由タペロア間は未舗装であるが道路整備は良好である。サルバドール～バレンサ間は 1 日 3 ~ 4 回のバス便あり。1 日 4 便のエア・タクスの便もある。
	市場	バレンサ市、サルバドール市が主な市場である。
	近傍主要都市	バレンサ市人口 2 万人陸路 24 Km サルバドール市人口 1007 千人陸路約 300 Km
	医療・教育	現在入植者は概ねタペロア町内に居住している。同町には入院治療可能な病院がある。さらに大型施設病院での診療を要するものであれば最寄都市バレンサ市にサンタ・カーザ病院がある。
		タペロア町に小学校州立中学校があり高等学校はバレンサ市に普通高校・商業高校

治	安	・師範高校がある。 概ね良好
---	---	-------------------

2 入 植 状 況

入植戸数 (内地) 人員	年 度	45	46	47	48	49	50	現 地 入植者	合 計	定着数
		戸 数							28	28
	人 員									93

昭和49年9月末

主なる出身県名	宮 城								その他県	合 計
現 戸 数	10								14	24

総 面 積	1,500 ha
ロ ッ テ 面 積	30～130 ha
分譲条件および価格	平均150～200 CrS/ha
分譲可能面積	個人取引による(タペロア移住地は集団化による任意移住地)
地 権 取 得	申請中28名
電 気 ・ 飲 料 水	イツペラ発電所から送電されているが農耕地迄は導入されていない。近い将来パレンツァ市より引込みの計画がある。電力および飲料水については大部分の者がタペロア市内に居住していることから完備している。
地 区 内 道 路	砂利道および盛土である。昭和49年度、州道路局が道路舗装を実施したため、極めて良好近い将来国道に直結する計画
主なる施設車輛	な し

3 営 農

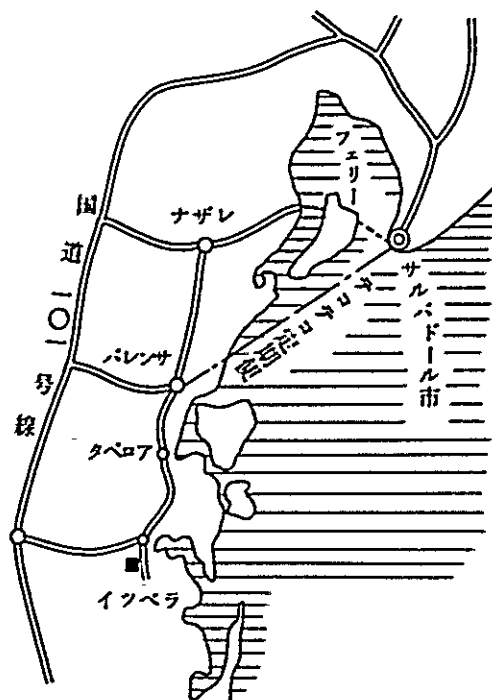
主 作 目	胡椒、デンデヤシ、丁字、オールスパイス、カルダモン、なおセイロンニッケ、マカダミアナッツを試作中。
営 農 状 況	ビメンタの病虫害も殆ど見られず現状は極めて順調
農機具等の普及状況	脱粒機0.14台発動機0.07動力噴電機0.3台耕耘機0.07台トラック0.21台(昭和48年度調べ農家1戸当り平均)
営 農 指 導 機 関	事業団レシーフェ支部、カカオ栽培地帯農業振興審議会(CEPLAC)
利 用 金 融 機 関	銀行、事業団
主作目の販売取扱機関並びに主市場	ビメンタ生産者により設立された商社(タローゼン)が一手販売を行っている。市場はサルバドール市であり胡椒はサンパウロ市に出荷している

農 家 所 得 一戸当り平均 昭和48年度	604千円 (12,994 Cr S)
-----------------------------	---------------------

4 組 織 活 動

自 治 会	コロニア・ミスタ・タペロアと称し入植者30数名(内日系人28名)をもって組織し自主的に耕地の管理運営に当たっている。
農 協	タローザン商会(資本金20万Cr S)を設定し生産物の販売、市場開拓を行い入植者全員が加入することとしている。

5 地 区 略 図



Ⅲ リオデジャネイロ支部管内

支部機構

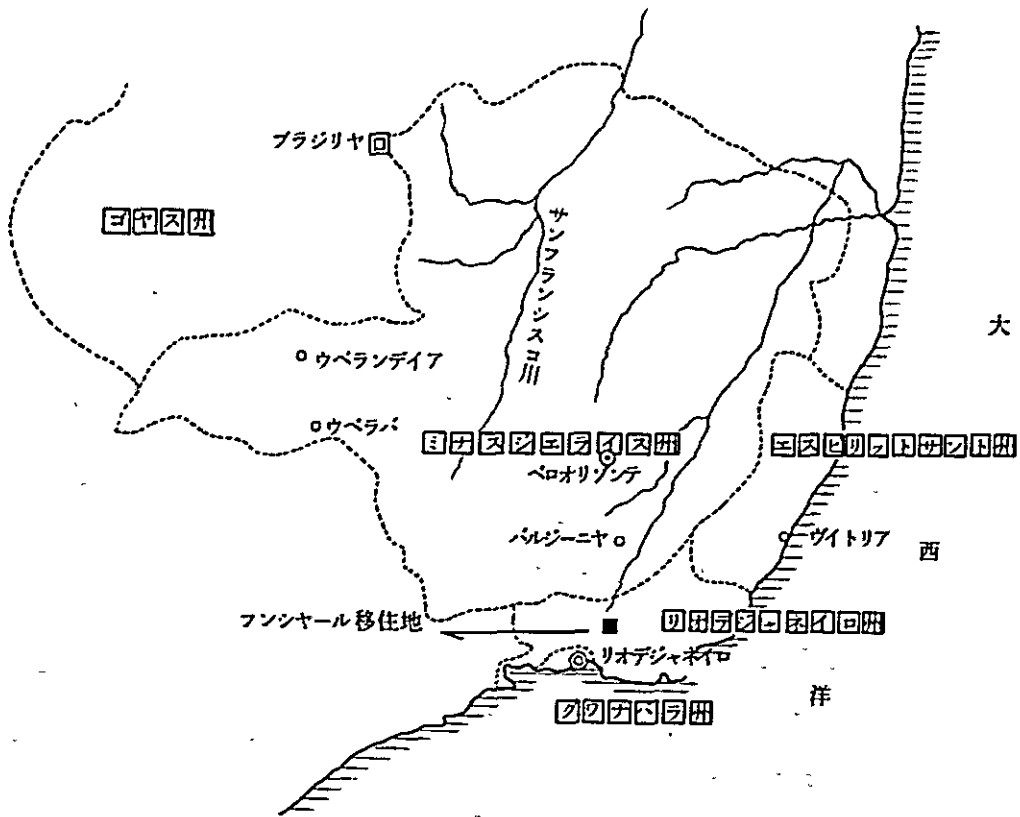
- ┌ リオデジャネイロ支部 (リオデジャネイロ市)
- └ ブラジリヤ出張所 (ブラジリヤ)

主要都市移住地間の距離

フンシャル移住地 - リオデジャネイロ市 85 Km

管轄州

リオデジャネイロ州, グワナバラ州, エスピリットサント州, ミナスジェライス州, (除く三角ミナス) ブラジリヤ連邦区, ゴヤス州南部



移住地名 フンシャル移住地

1. 地区概要

所在地	所在地	リオ・デ・ジャネイロ州 カシヨエイラ・デ・マカク郡 COLONIA FUNSHAR MUNICIPIO DE CACHOEIRAS DE MACACU ESTADO RIO DE JANEIRO グアナバラ州リオデジャネイロ市の北東 85 Km
	管理者 入植開始年度	事業団 昭和 34 年

経緯	経緯	<p>蔬菜、果樹、養鶏等を中心とした近郊型の集約農業を行う移住者を受け入れる移住地とし、昭和 34 年旧移住振興会社が購入した事業団直営の移住地である。</p> <p>入植は昭和 35 年からはじまった。入植者はリオ・デ・ジャネイロ市を市場として蔬菜栽培及び養鶏に従事しているが、最近ゴヤバ、柑橘、マラクジャ等の永年作物が栽培されている。</p>
----	----	---

自然条件	位置	W 22° 60' S 42° 50'
	地形	平坦地と数十米の山地が混在し複雑な地形で利用できる土地は概ね 70 % 内外である。
	地質・土壌	台地は填土ないし砂填土。低地は粘土質或いは場所によっては砂填土で石が多い。
	植生・林相	大体再生林、低地の部分に混地性草木がある。
	気候	<p>乾期 5～10 月、雨期 12～3 月であるがその区分は不明瞭。</p> <p>年間平均気温 23.6 度 (最高 28.8 度、最低 19.8 度)</p> <p>年間降雨量 1817.5 mm (1967 年 NITEROI 市の観測)</p>

社会条件	交通	カシヨエイラ・デ・マカク町 (人口約 7,000 人) まで 11 Km リオ・デ・ジャネイロまで約 85 Km
	市場	大消費都市リオ・デ・ジャネイロを対象としており、立地条件は良好である。
	近傍主要都市	<p>リオ・デ・ジャネイロ市 人口約 425 万人 85 Km</p> <p>ニテロイ市 人口約 33 万人 75 Km</p> <p>ノヴァ・フリブルゴ市 人口約 10 万人 58 Km</p>
	医療・教育	カシヨエイラ・デ・マカク町には総合病院 1 と保健所が 2 ケ所あり、特別な病気についてはノヴァ・フリブルゴ市またはニテロイ市の病院を利用する。移住者の大部分はコチア産組の医療保健に加入しておりリオの指定病院を利用する。

社 会 条 件	治	移住地内には4年生までの農村小学校がある。卒業した子弟の多くはカシロエイラ・デ・マカク町の中学校(4年)に通学し、更に上級学校を希望する者は同町の実業高校またはリオ・デ・ジャネイロ市、ニテロイ市、ノヴァ・フリブルゴ市の高校に入学している。
	安	治安上の問題は少ない

2. 入植状況

入 植 戸 数 と (内 地 人 員)	年 度	36	37	38	39	40	41	42	43	44
	戸 数	42	4	1	1					
	人 員									
	年 度	45	46	47	48	49	50	現地入植	合 計	定 数
戸 数							7	55	38	
人 員									170	

昭和49年9月末

退耕者の主なる転住先	サンパウロ市	そ の 他
率 (%)	10	90

主なる出身県名	北 海 道	福 岡	東 京	山 口	そ の 他	合 計
戸 数	13	15	1	3	6	38

総 面 積	1.015 ha			
ロ ッ テ 面 積	1 ロ ッ テ 11.3 ha			
分譲条件及価格	一括払 805,000 円 分割払頭金 80,500 円 4年据置 5年分割払 利息 12%			
分譲可能面積	840 ha			
分 譲 状 況	分 譲 済 面 積	未 分 譲 面 積	道 路 市 街 地 等	除 地
	831	9	32	143
地 権 収 得 状 況	取得済 9 ロ ッ テ 地 権 済			
電 気 ・ 飲 料 水	1970年(昭和45年)電化工事完成。事業団半額補助飲料水は各戸10m内外の井戸を利用し動力ポンプで給水。			
地 区 内 道 路	土道であり雨期でも運行可能			
地 区 内 主 要 施 設 並 所 有 車 輛 機 械 等				

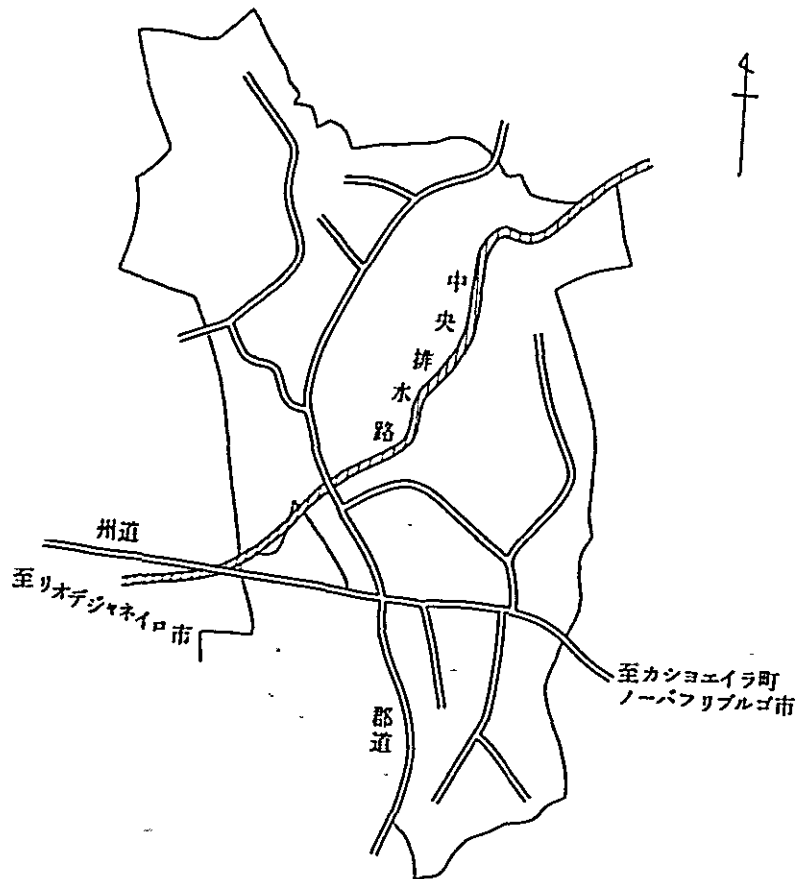
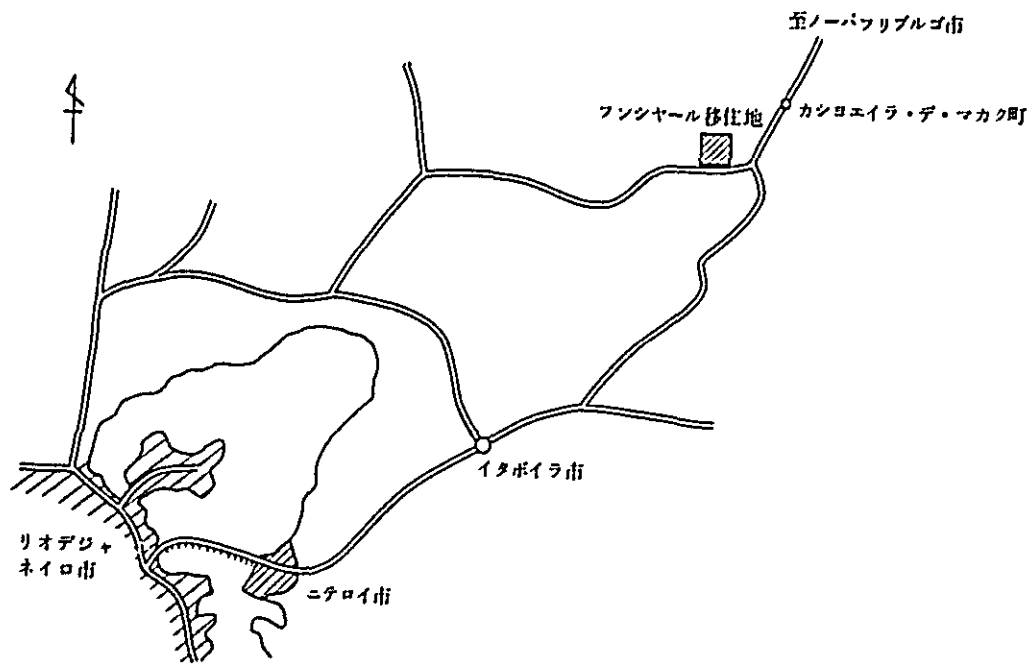
事業団貸与	小学校1 収容所2 (内1は集会所として利用)
組合等所有	ゴヤバ加工場、機械 出荷組合事務所、倉庫車庫兼宿舍2棟

3. 営 業

主 作 物	ゴヤバ、相橋、きゅうり、ジロー、ミドリナス、ピーマン、養鶏、マラクジャ、アバカテ、レモン、マンガ
営 農 状 況	果樹主体型、養鶏主体型の二つの営農類型に固まりつつあり、農家一戸当り平均耕作面積普通畑1.6 ha、樹林地4.9 ha、鶏雛578羽、成鶏1,683羽であり、昭和48年度農家経済調査農業粗収入は、農家平均5,062千円となっている。
農機具等の普及状況	耕耘機0.8台 動力噴霧機0.3台、ジェットミスト1.1台、発動機0.2台、揚水ポンプ1.2台 (昭和48年度調べ農家1戸当り平均)
営農指導機関	事業団リオデジャネイロ支部およびコチヤ産組の専門技術員
利用金融機関	銀行、事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	コチヤ産業組合 リオデジャネイロ市、ニテロイ市一部サンパウロ市
農 家 所 得 (一戸当り平均 昭和47年度)	1,246千円 (28,205 Cr S)

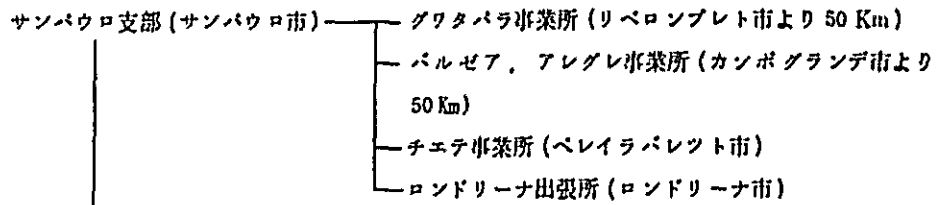
4. 組 織 活 動

自 治 会	フンシャル部落会を結成している外に養鶏グループ、ゴヤバ加工場運営委員会がある。
農 協	コチヤ産業組合リオ単協に加入し、同単協の下部組織である出荷組合を結成している。



Ⅳ サンパウロ支部管内

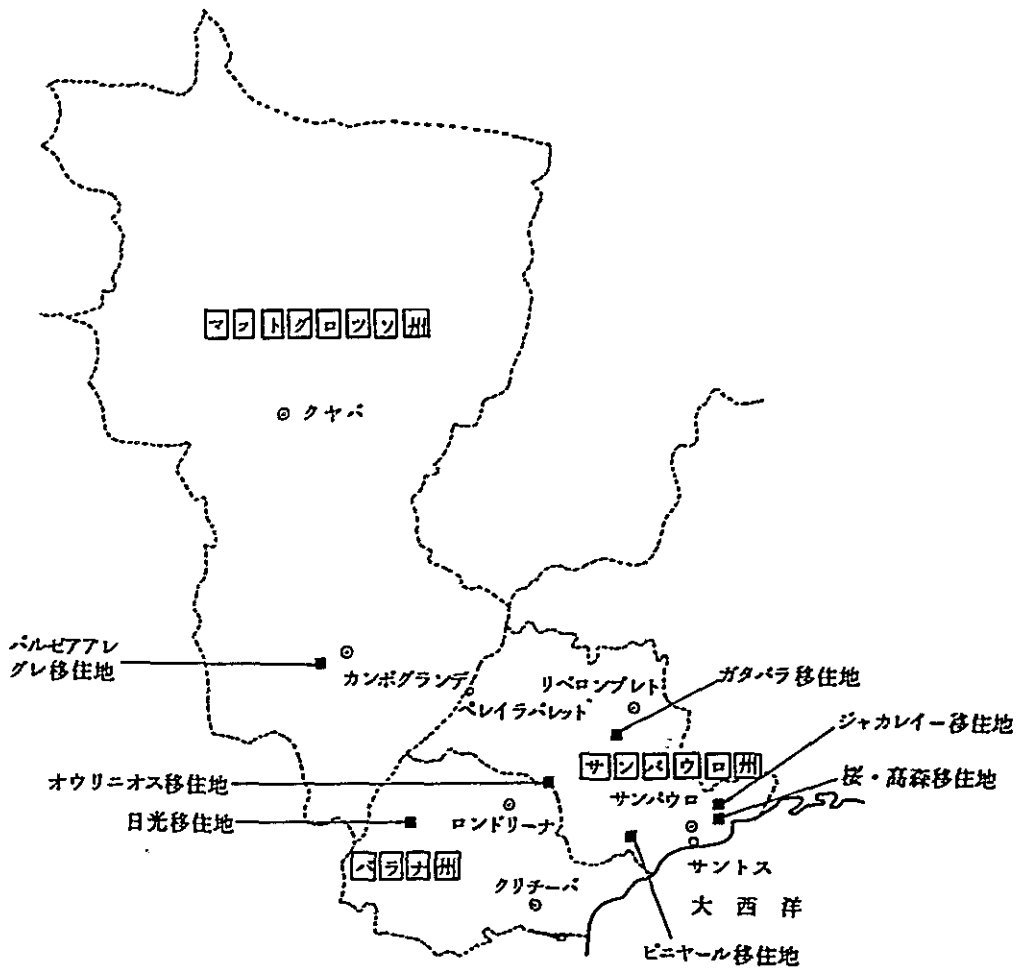
支部機構



技術移住者訓練センター (サンパウロ市)

管轄州

サンパウロ州, バラナ州, マットグロソ州, ミナスジェライス州の一部 (三角ミナス)



移住地名 ジャカレイ移住地

1. 地区概要

所在地	所在地	サンパウロ州ジャカレイ郡 COLONIA, JACAREI MUNICIPIO DE JACAREI, ESTADO DE SÃO PAULO 州都サンパウロ市より 67 Km
	管理者 入植開始年度	事業団 昭和36年(1961年)

経緯	経緯	蔬菜、果樹、養鶏等を中心とした近効農業を行う移住者の受入地として昭和34年に旧移住振興社が取得、造成した移住地である。移住者の受入れは昭和35年から始まった。営農はサンパウロ市並びにリオデジャネイロ市を一部市場とした果樹、養鶏、花卉を中心に行っている。
----	----	--

自然条件	位置 地形	W 46° 0' S 23° 15' 北部および南東部に 40 ~ 130 m の丘陵あり、この丘陵に挟まれた中央部は盆地でパラテイ河が貫流している。
	地質・土壌	丘陵地：花崗岩系、砂填土および填土 低地：冲積性植填土
条件	植生・林相	丘陵地、果樹園、低地は水田蔬菜用地
	気候	年平均気温 19.5°C 年間降雨量 1215.9 mm 乾期 4 ~ 9月 雨期 10 ~ 3月 年により降雪あり

社会条件	交通	移住地入口から各都市への道路は完全舗装。 バス便はひんばんでサンパウロまでの所要時間は1時間半。
	市場 近傍主要都市	サンパウロ市およびリオデジャネイロ市の青果市場等 ジャカレイ市 人口7万人 8Km、サンパウロ市 人口700万人 67Km、 モジダスクルーゼス市 人口30万人 40Km
条件	医療・教育	ジャカレイ市に病院があり、移住地内に事業団補助による小学校が1校あり教師3名が教育に当たっている。中学校、高等学校へはジャカレイ市に自転車通学をしている。大学はサンパウロで寄宿して通学している。
	治安	良好である。

2. 入植状況

入植戸数と(内地)	年度	35	36	37	38	39	40	41	42	43
	戸数	33	2					1		
	人員	176	9					4		
	年度	44	45	46	47	48	49	現地入植	合計	定着数
	戸数						1	26	63	50
	人員						6	141	336	273

(注) ブラジル1戸含む 昭和49年12月末

退耕者の主なる転進先	サンパウロ	ジャカレイ	サン・ジョゼ・ドス・カンポス	モジダスクルーゼス	その他
率 (%)	36	22	15	8	19

主なる出身地名	長野	熊本	広島	山形	その他	合計
戸数	6	4	4	2	33	49

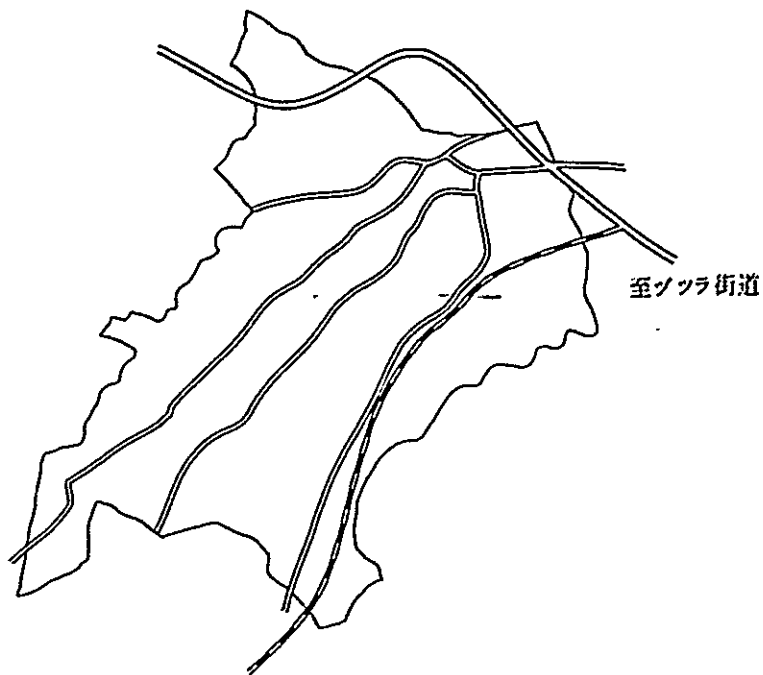
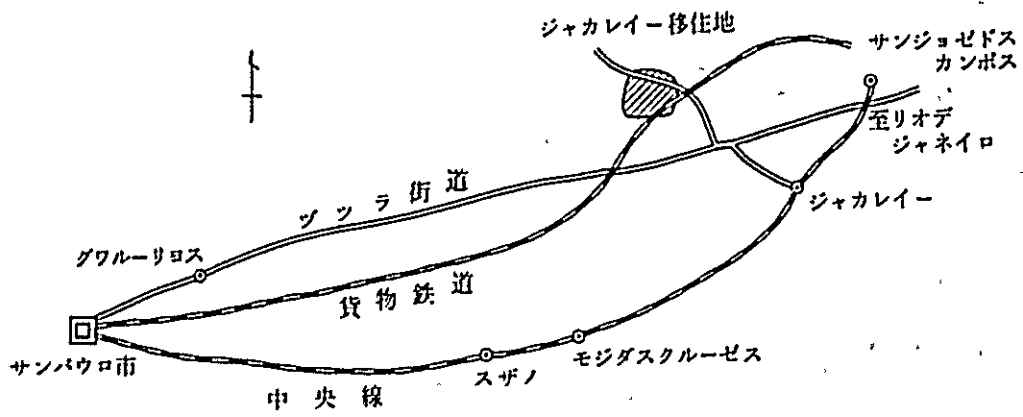
総面積	613 ha			
ロッテ面積	5.9~8.2 ha (平均6.2 ha)			
分譲条件及び価格	一括払並びに分割払い 分割払いは4年据置5年均等払い。但し土地代金額について全期間年12%の利息を加算する。 1ロッテ(標準6.2 ha) 864,000円相当伯貨			
分譲可能面積	506 ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	454	52	22	85
地権取得	取得11名 申請中 名 未交付 名			
電気・飲料水	昭和46年度(施行は昭和47年)事業団補助により電化 飲料水は素掘井戸で水質は良好である。			
地区内道路状況	良好とは言えない。雨期には通行困難な箇所がある。			
地区内主要施設並 所有機械車輛等				
(1) 事業団貸与	小学校1棟 木造建物2棟(1棟は旧小学校で現在は利用していない。1棟は公民館として利用) 木造宿舍1棟			
(2) 組合所有等	なし			
(3) その他	FAZENDA時代の倉庫1棟 煉瓦建て家屋1棟			

3. 営 農

主 作 目	養鶏(採卵・肉鶏)果樹(イタリアブドウ柑橘、柿等)花卉(カーネーション、グラジオラス、バラ、キク)蔬菜
営 農 状 況	養鶏、果樹、花卉を主体とした近郊型営農で、昭和48年度における一農家当り平均耕地作付面積は田地0.04ha、普通畑1.9ha、樹園地1.2ha、鶏所有羽数仔1,796羽、成2,955羽で、農業粗収入は7,998千円である。農業依存度91%、農家1戸当り家族労働人数3.3人。
農機具等の普及状況	発動機0.5台、動力噴霧機1.1台、耕運機0.6台、運搬用機械0.9台、トラクター0.2台、ポンプ1.3台(昭和48年度調べ、農家1戸当り平均)
営 農 指 導 機 関	特になし、コチア産業組合ジャカレイ倉庫の指導を時に受ける。
利 用 金 融 機 関	銀行、事業団、組合
主 作 物 の 販 売 取 扱 機 関 並 に 主 市 場	コチア産業組合 主にサンパウロ市場で一部リオデジャネイロ市場
農家所得(1戸当り平均昭和48年度)	1,464千円(31,060 CrS)

4. 組 織 活 動

自 治 会	移住地内住民で構成している中央バラテイ日本人会(昭和37年1月結成)がある。
農 協	コチア産業組合の組合員でジャカレイ倉庫利用



移住地名 グァタパラ移住地

1 地区概要

所在地	所在地	サンパウロ州リベロンプレト郡 NUCLEO COLONIAL GUATAPARA', RIBEIRÃO PRETO, EST. DE SÃO PAULO
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和36年度(1961年)

経緯	経緯	当初、全国拓植農協連が、山形、茨木、長野、岡山、山口、島根、佐賀の7県(各県拓連)から資金的協力を得、コチア産組と協約してグァタパラ耕地の一部を購入することとして、旧移住振興会社に代理取得を依頼した。その後、造成、分譲に関するすべての事業を移住振興会社が行うことになり、全拓連、コチア産組はそれぞれ日本国内と伯国内でのあっせんおよび指導、生産物の販売等で協力することとなった。移住は昭和36年から開始されたが、移住者は当初前記7県からあっせんされた。(後全国対象にあっせんが行われたが7県以外からの移住者はない)。営農は、低地を利用しての水田および蔬菜作と丘地を利用したの柑橘、雑作栽培を予定したが必ずしも順調に進展せず、現在では営農型態が変り養蚕、果樹の導入がはかられこれらの組み合わせで進められている。
----	----	---

自然条件	位置	W 47°55' S 21°30'
	地形	約60%が大波状形丘地、40%がモジグワス河の低地である。
	地質・土壌	丘地は輝緑岩および砂岩の風化土壌より成るテラロンシア、ミストラータ PH 4~4.5
	植生・林相	低地は黒泥土および泥炭土(強酸性)部分的に白色砂壤土。 丘地 小灌木林または草地 低地 河に沿って原生林密生
	気候	年平均気温 22.6℃ 平均最高気温 31.8℃ 平均最低気温 13.3℃ 年間雨量 1128 mm 雨期 10月~3月 乾期 4月~9月

交通	交通	移住地~リベロンプレト市間 急行バス等頻繁 所要時間1時間 リベロンプレト~サンパウロ市間 急行バス等頻繁 所要時間5時間 グァタパラ町~サンパウロ市間 鉄道 約7時間
----	----	--

社 会 条 件	市 場	サンパウロ市、リベロンプレト市、その他周辺の各都市 主として共同出荷であるが一部個人出荷および庭先販売
	近傍主要都市	(1) グァタバラ町 人口約2千人 陸路、郡道12Km 無舗装であるが雨天通行可 (2) リベロンプレト市 人口約30万人 陸路50Km サンパウロ州北部の中心都市 (3) アララクアラ市 人口約15万人 陸路35Km 果樹加工工場など多い (4) サンカルロス市 人口約15万人 陸路45Km 大学が多い (5) リオクラロ市 人口約50万人 陸路100Km (6) サンパウロ市 人口約700万人 陸路285Km 以上(2)以下は各都市間完全舗装
	医療・教育	移住地内に診療所があるが医師は常駐して居らずグァタバラ町の病院より定期的に 通院している。これに対し事業団より特約医謝金を助成している。 また歯科医は、週に一回リベロンプレト市より来診している。 隣接農場（ファゼンダ ガタバラ）には医師が常駐している。 リベロンプレト市には、総合病院3、個人病院数多くあり。 移住地内には4年制の小学校1あり教師4名。 5年生以上の義務教育の大部分並びに高校生、大学生はリベロンプレト市、その他 の都市に通っている。 日本語学校は、週2回程移住地内で有志の教師により開かれている。
	治安	大学 リベロンプレト市（医大）、ピラシカーバ市（農大）、サンカルロス市（工 法大）その他各種の大学あり。 移住地内に事業団補助による警察署建物あり。治安は良好である。 文化会で治安部を組織している。

2 入 植 状 況

入 植 戸 数 （ 内 地 人 員 ）	年 度	昭和 36	37	38	39	40	41	42	43	44
	戸 数	16	26	40	32	1				
	人 員	83	135	210	146	5				
	年 度	45	46	47	48	49	現地入植	合 計	定 着 数	
戸 数			11			36	162	133		
人 員			48			178	805	756		

昭和49年12月末

退耕者の主なる転住先	ブラジリア	サンパウロ	リベロンプレット	帰 国	そ の 他
率 (%)	31	28	7	21	13

主なる出身県名	茨 城	山 形	長 野	島 根	岡 山	山 口	佐 賀	その他	合 計
戸 数	32	25	21	18	14	9	4	10	133

総 面 積	7,294 ha			
ロ ッ テ 面 積	低地 3 ha 丘地 6 ha (雑作) 2 ha (柑橘) 1.5 ha (宅地)			
分譲条件及び価格	一括払及び分割払 (頭金 1割以上残額は 4年据置 5年払, 利息 12%) 150万円			
	交換分合後	低地	3 ha 600,000 円 3 ha 300,000 円	
		丘地	6 ha 506,400 円 2 ha 168,800 円 1.5 ha 225,000 円 1.5 ha 126,600 円	
	上記円換算伯貸			
分譲可能面積	4,698 ha			
分 譲 状 況	分 譲 済 面 積	未 分 譲 面 積	道路市街地等利用地	除 地
	4,186	512	541	2,055
地 権 取 得	発給 368 ロ ッ テ			
電 気 ・ 飲 料 水	昭和 44 年事業団補助により電化完成 その後交換分合により移転した丘地の一部は未電化 飲料水は主として自家用井戸 (15m 位) による。一部共同簡易水道 公共施設用水は深井戸 (120m 位) 昭和 45 年度事業団補助により建設			
地 区 内 道 路	総て土道である。状態は普通 <u>交換分合後の丘地道路が整備されていない。</u> <u>低地道路は、雨期劣悪となる。</u>			
地区内主要施設並びに機械車輛等事業団貸与	事業団事業所 1 所長宿舍 1 職員宿舍 1 小学校 1 診療所 1 警察官宿舍 1 揚排水機を含む灌漑施設 ブルドーザ 3 (小松 D 50, 2 キョータビラ D 4, 1) トラクター 6 (ホイールタイプ, 4 クローラタイプ, 2) } 水利組合に貸与 ドラダライン 2 コンバイン (大型自走) 1			

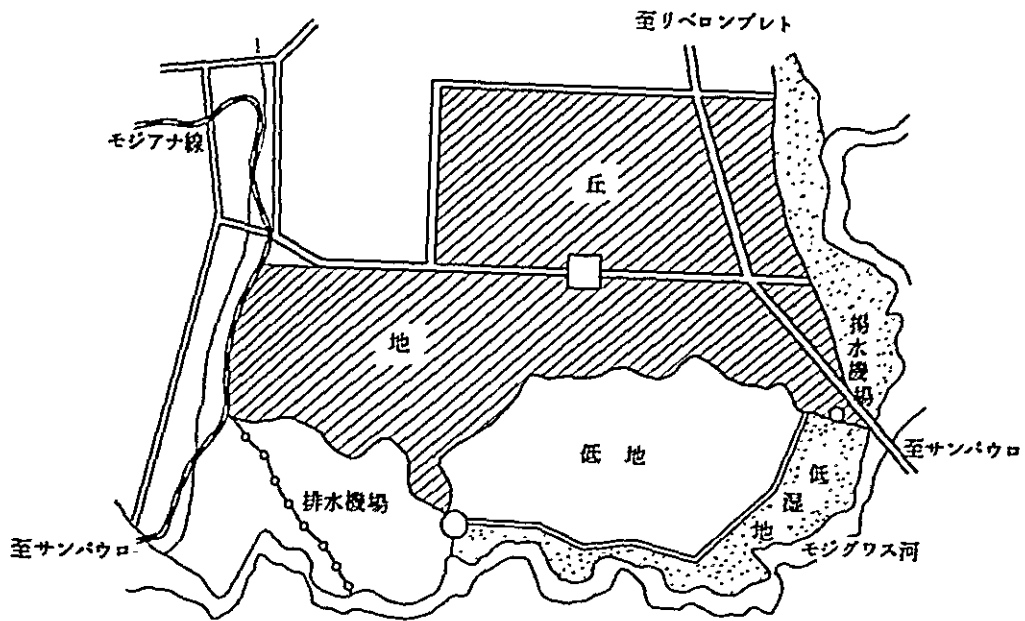
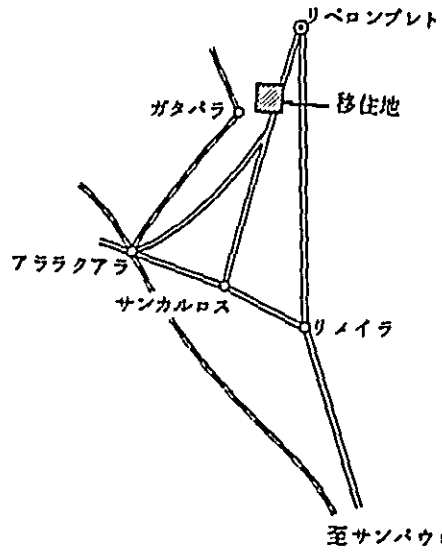
組合所有 その他の	コチア産組事務所 1 販売所 1 飼料配合所 1 精米所 (水利組合所有) 野球場 全拓連農場並びに各種建物施設および車輛、機械等。 宿舍: 3 (土地購入以前のもの)
--------------	--

3 営 農

主 作 目	養鶏 (採卵)、養蛋、米、トウモロコシ、柑橘、パイナップル、マラクジヤ
営 農 状 況	米作、養鶏、養蛋を中心とした3つの営農に分類され、最近養鶏、養蛋の専業化が進んでいる。 昭和48年度の農家当り平均耕作面積水田 1.7 ha、普通畑 2.9 ha、樹園地 3.6 ha、鶏所有羽数仔 445 成 1,653 である。農業依存度 95%、平均農業粗収入 4,401 千円。
農機具等の普及 状況	発動機 0.3 台、動力噴霧機 0.7 台、耕耘機 0.7 台、運搬用機械 0.2 台、トラクター 0.7 台、コンバイン 0.2 台 (昭和48年度調べ農家一戸当り平均)
営農指導機関	事業団サンパウロ支部及び同支部グァタバラ事業所。協力機関としてカンピーナス (200 Km) ピラシカーバ農大等研究機関並びに、コチア産業組合、ブラ拓製糸等がある。
利用金融機関	銀行、事業団、組合 (コチア産業組合)
主作物の販売取 扱機関並主市場	鶏卵 コチア産業組合 繭 ブラ拓製糸 果樹 各種加工場 米 庭先販売
農 家 所 得 (一戸当り平均 昭和48年度)	1,103 千円 (23,399 Cr \$)

4 組織活動

自 治 会 農 協	グァタバラ文化会が昭和43年に結成され活動は盛んである。 コチア産業組合中央会、聖北単協 (法定) に加入。 下部組織としてグァタバラ部落会、その下部に養鶏、野菜等の出荷組合が夫々ある。 また水利組合があり全戸加入している。この水利組合には事業団貸与の営農改善用機械 (ブルドーザ、トラクター、ドラグライン等) があり賃貸している。
--------------	---



移住地名 ビニヤール移住地

1 地区概要

所在地	所在地	サンパウロ州サンミゲルアルカンジヨ郡 PAZENDA DO PINHAL MUNICIPIO DE SÃOMIGUEL ARCANJO, ESTADO DE SÃO PAULO
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和37年

経緯	経緯	蔬菜、果樹、養鶏を中心とした近郊農業を行う移住者の受入地として、昭和37年旧移住振興公社が取得、造成した移住地である。この移住地の指導は事業団の依頼を受けて南伯産業組合中央会があたっている。 営農は養鶏を営むものは殆どなくなり果樹（イチヤブドウ・モモ等）蔬菜が中心となってきている。
----	----	--

自然条件	位置	W 47°45' S 23°50'
	地形	緩波状形、丘陵部はやゝ平坦その他はゆるやかな傾斜（5～7°） 谷間に小川数本あり。
	地質・土壌	頁岩を母材とする土壌で植填土が主体。丘陵部にテラロッサ系の土壌が部分的にある。
	植生・林相	40%が再生林、20%が灌木林、40%が畑地および放牧地。
	気候	年平均気温 18.1℃ 平均最高気温 26.9℃ 平均最低気温 7.2℃ 年間雨量 1,293.4mm 雨期 12～4月 乾期 5～11月

社会条件	交通	移住地～各都市間 バス便頻繁 サンパウロ市より国道経由で大部分アスファルト、一部砂利舗装 所要時間 車で2時間半、バスで4時間
	市場	主としてサンパウロ市、その他近隣都市
	近傍主要都市	サンパウロ市 人口約 700万人 陸路 163 Km イタベチニンガ市 " 6万人 " 60 Km ソロカバ市 " 18万人 " 100 Km ビエダーデ市 " 3万人 " 80 Km

社 会 条 件	医 療 ・ 教 育	ビラールドスール市 # 1万人 # 22Km サンミゲールアルカンジ市 人口約 1万4千人 陸路約 20 Km
		<p>移住地区内には医療施設なし</p> <p>最も近い町ビラールドスール市並びにサンミゲールアルカンジ市（事業団特約医あり）に2、3の病院がある。</p> <p>地区内に小学校1校（木造）教師2名、日語学校1校あり。</p> <p>中学校は、ビラールドスール市並びにサンミゲールアルカンジ市にバス通学。</p> <p>高等学校、大学はソロカバ市並びにサンパウロ市で寄宿により通学している。</p> <p>治安 良好</p> <p>警察並びに裁判所はサンミゲールアルカンジ市営下</p>

2 入 植 状 況

入 植 戸 数 （ と 内 地 人 ）	年 度	昭和37	38	39	40	41	42	43	44
	戸 数	3	7	4	3	1			
	人 員	14	31	23	11	3			
	年 度	45	46	47	48	49	現地入植者	合 計	定 着 数
	戸 数						52	70	50
人 員						204	286	221	

昭和49年12月末

退耕者の主なる転住先	サンパウロ	未 入 植	帰 国	そ の 他
率 (%)	28	15	10	47

主なる出身県名	福 井 県	富 山 県	福 島 県	千 葉 県	そ の 他	合 計
戸 数	18	3	3	2	24	50

総 面 積	756 ha			
ロ ッ テ 面 積	1 ロ ッ テ 10.5～12.4 ha 平均 12 ha			
分 譲 条 件 及 価 格	一括払並びに分割払い			
	分割払いは4年据置5年均等払い。但し土地代金額について全期間年12%の利息を加算する。			
	1 ロ ッ テ (標 準 12 ha) 650,000 円相当伯貨額			
分 譲 可 能 面 積	727 ha			
分 譲 状 況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除 地
	727	0	27	2

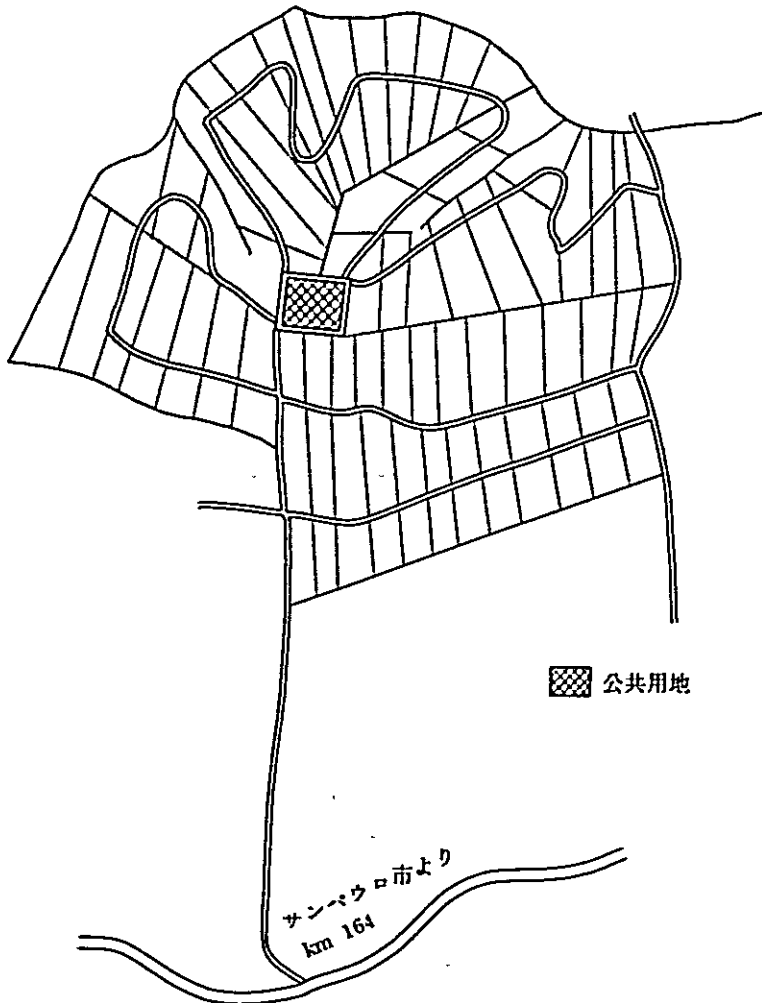
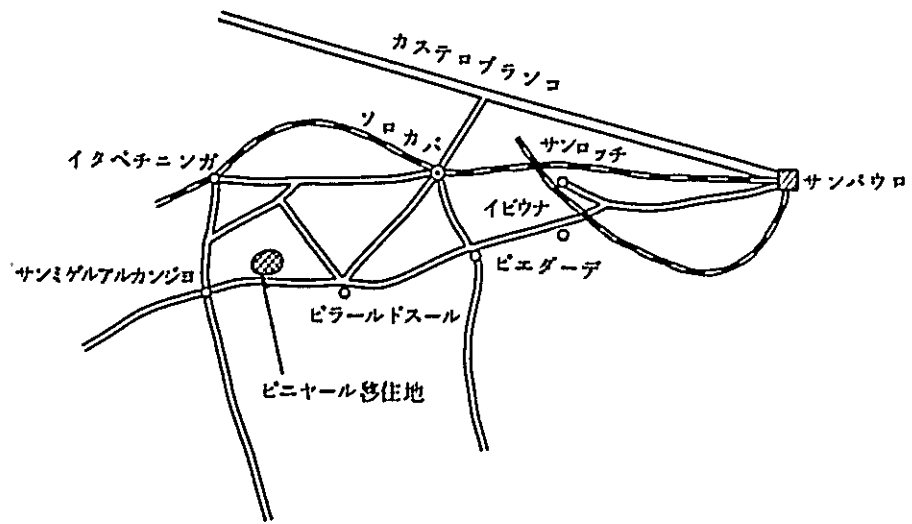
地権取得	取得 18名(21ロツテ) 申請中 名 未申請 名
電気・飲料水	昭和45年度事業団補助により電化 飲料水は各戸深井戸で良好 公共用地飲料水は昭和49年事業団補助により200mの深井戸掘削。
地区内道路	全部土道である。雨期に一部悪路となる。
地区内の主要施設並に機械車輛等	
(1)事業団貸与	小学校1校(木造)、教員宿舍(煉瓦)1、倉庫1、公共用地深井戸
(2)組合所有	組合事務所並販売所 1棟

3 営 農

主 作 目	果樹(イタリアブドウ、桃、柑橘) 蔬菜(トマト、エンドウ)
営 農 状 況	果樹(イタリアブドウ)専業農家がほとんどで、一部トマト、エンドウ等蔬菜との組合せによる営農を営む。昭和48年度一農家当り耕作面積平均は普通畑4.8ha 園地3.2ha、農業粗収入平均2,327千円、農業依存度93%、農家の家族労働人数3.0人である。
農機具等の普及状況	発動機0.2台、動力噴霧機0.9台、耕耘機0.4台、トラクター0.2台、ポンプ1.1台、車輛0.3台(昭和48年度調べ農家一戸当り平均)
営農指導機関	南伯産業組合指導部、事業団
利用金融機関	銀行、事業団
主作物の販売取扱機関並に市場	南伯産業組合中央会、ビニヤール単協 主にサンパウロ市場、一部近傍都市
農 家 所 得 (一戸当り平均 昭和48年)	1,116千円(23,682 Cr S)

4 組 織 活 動

自 治 会	ビニヤール自治会(昭和44年結成)全戸加入
農 協	南伯産業組合中央会のビニヤール単協に全戸が加入している。



移住地名 パルゼア・アレグレ移住地

1 地区概要

所在地	ブラジル国マトグロソ州テレーノス郡 FAZENDA VARZEA ALEGRE MUN. DE TERENOS, EST. DE MATO GROSSO
管理者	事業団
地入植開始年度	昭和33年

経緯	昭和32年、邦人自営農受入地として旧海外移住振興会社が、購入造成した移住地である。入植は昭和33年から開始され山口県の人が多い。 当初はバナナ及び米を中心にした営農に従事したが思わしくなく、その後養鶏を導入し柑橘、アバカシなどの果樹と組み合わせての経営は順調である。
----	--

自然条件	位置	S 20°26' W 55°00'
	地形	北部は平坦地、南部は緩傾斜丘陵地
	地質・土壌	主に砂壤土、砂質土、若干のテラロシヤ地帯が斑点状に散在。
	植生・材相	いわゆるカンボセラード地帯である。原始林や再生林が散在するが有用材乏しく、草生地帯も極めて少い。
気候	年平均気温	24.7℃
	平均最高気温	34.0℃
	平均最低気温	10.0℃
降雨量		1313mm
雨期		10月～3月 乾期 4月～9月 区別は明瞭。

社会条件	交通	鉄道はノロエステ線の駅が地区内に2ヶ所あり、カンボグランデ市まで約1時間 テレーノス市まで約30分 1日に2便ある。 カンボグランデ市からサンパウロ市間870kmには、鉄道、バス便、航空機が利用される。	
	市場	鉄道	毎日2、3回で 30時間
		バス	夜行含めて毎日6往復 13時間
		航空機	毎日2本、時により3本 1時間半
近傍主要都市	カンボグランデ市、クヤバ市(10万人)、サンパウロ市	テレーノス町(人口4千人) 距離 20km カンボグランデ市(人口14万人) # 45km	

治 安	医 療 ・ 教 育	移住地内には医療機関はない。 カンボグランデ市にカトリック教団経営慈善病院（サンタカーザ） 私立病院 事業団特約医（日系）あり 移住地内に小学校1校（事業団建設） 中学校、高等学校、大学は何れもカンボグランデ市にあり通学又は寄宿している。
		良好 警察署はテレーノス市にカンボグランデ警察署の分署あり 裁判所はカンボグランデ市

2 入 植 状 況

入 植 戸 数（ と内地 人員）	年 度	昭和33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
	戸 数	8	9	24							
	人 員	37	41	129							
	年 度	43	44	45	46	47	48	49	現地入植	合 計	定着数
戸 数									22	63	41
人 員									107	314	207

退耕者の主なる転住先	カンボグランデ	サンパウロ	ロンドリーナ	カンピーナス	そ の 他
率 (%)	40	16	8	8	8

主なる出身県名	山 口 県	広 島 県	島 根 県	大 阪 府	そ の 他	合 計
戸 数	29	3	2	2	5	41

総 面 積	36,363 ha				
ロ ッ テ 面 積	25 ha				
分譲条件及価格	一括払い並に分割払い 分割払いは4年据置5年均等払い。但し土地代全額について全期間年12%の利息を加算する。				
分譲可能面積	24,500 ha				
分 譲 状 況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除 地	
	ha 1,096	23,404	116	11,747	
地 権 取 得	取得9名	11 ロ ッ テ	申請中	名	未申請 名

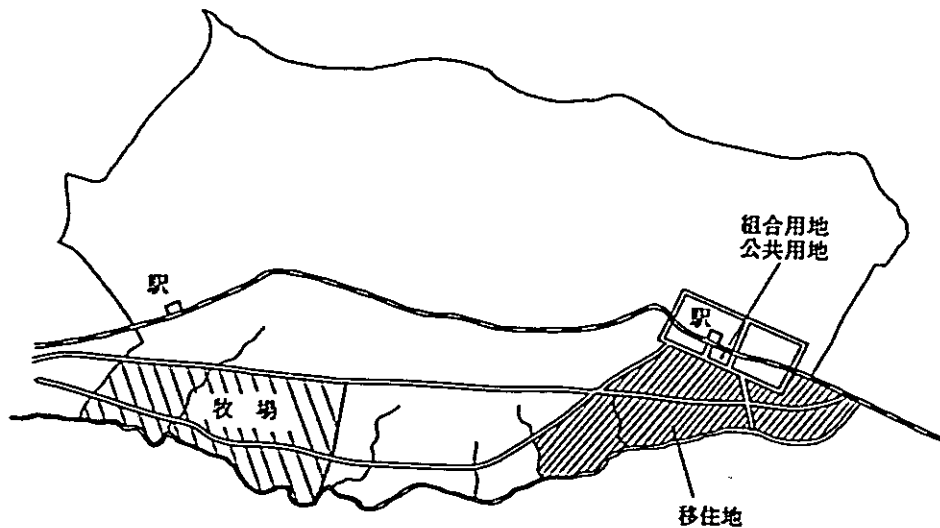
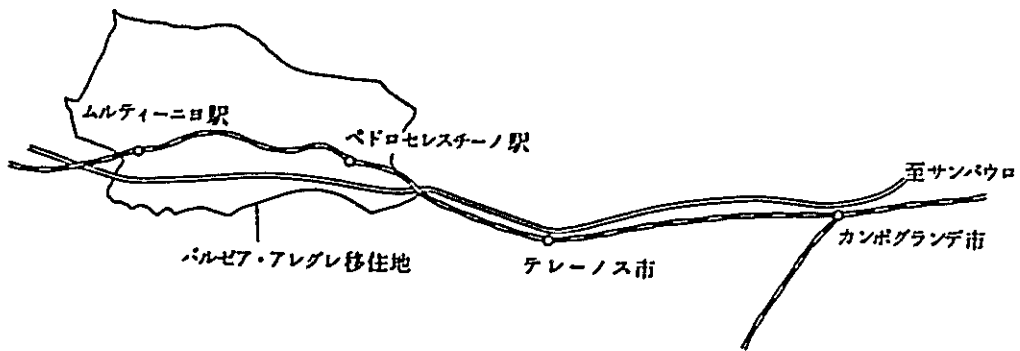
電気飲料水	電気 なし 飲料水 入植者は素堀井戸、公共団地並に市街地の組合団地の事業所、学校、組合などは鉄道用水道を借用利用中。
地区内道路	土道であるが良好 地区内に国道 BR 262 号（アスファルト）が通っている（カンボグランデ～アキダウアナ～ポリビア国境）
地区内主要施設	
(1) 事業団貸与	小学校 1 事業所 1 職員宿舍 2
(2) 組合所有	倉庫 2 飼料配合所 1 組合事務所 1
(3) その他	

3 営 農

主 作 目	養鶏 20 万羽 果樹 柑橘 アバカテ フルタデコンデ
営 農 状 況	養鶏専業農家がほとんどで、一部蔬菜、果樹を組合せた複合経営を営む。昭和 48 年度における一農家当り耕作面積平均は、普通畑 1.8 ha、樹園地 2.9 ha、鶏所有羽数仔 909 成 6,508、農業租収入平均 10,100 千円、農業依存度 90%、家族労働人数平均 2.6 人である。
農機具等普及状況	発動機 0.5 台、動力噴霧機 0.2 台、耕耘機 0.2 台、運搬用機械 0.5 台、トラクター 0.4 台、発動機 0.8 台（昭和 48 年調べ、農家一戸当り平均）
営農指導機関	事業団サンパウロ支部および同支部バルゼアアレグレ事業所また農協が鶏卵専門の取扱いであり、サンパウロ農協中央会に加盟しているので、同会の養鶏技師を招いて時々技術指導を行っている。 協力機関としてカンボグランデ市並にカンボグランデ市～テレノス市間に IPEÃO あり
利用金融機関	銀行、事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	バルゼアアレグレ産業組合（鶏卵）カンボグランデ市クヤバ市一部サンパウロ市 果樹については商人或は個人直接カンボグランデ市
農 家 所 得 一戸当り平 （均昭和 48） 年度	1,783 千円 （37,833 Cr S）

4 組織活動

自治会	なし
農協	<p>全戸バルゼアアレグレ産業組合に加入しており全農協が代替している。</p> <p>バルゼアアレグレ産業組合（法定）昭和37年設立され全戸がこれに加入している。</p> <p>主な業務 鶏卵販売事業（対象地域カンボグランデ市クヤバ市一部サンパウロ市） 飼料供給事業</p> <p>職員数 36名</p> <p>事務所 カンボグランデ市</p> <p>なお、移住地内に購買部（日用品、販売）飼料工場などあり</p>



移住地名 オウリーニョス移住地

1 地区概要

所在地	所在地	サンパウロ州オウリーニョス郡 BAIRRO MUNDONOVQ MUNICIPIO DE OURINHOS ESTADO DE SÃO PAULO
	管理者 入植開始年度	オウリーニョス産業組合 昭和36年

経緯	経緯	サンパウロ産業組合中央会、傘下のオウリーニョス産業組合が旧ムンドノーボ耕地を 買収し組合員となる日本人移住者を受け入れるために創設した移住地で、移住者は 昭和36年および37年に日本から17世帯現地から7世帯が入植した。入植者は旧 耕地から引継いだコーヒーを中心に養鶏、落花生、トウモロコシ等を組み合わせた 経営に従事した。その後果樹（柑橘等）を導入し近時養蚕も手がけている。
	緯度	

自然条件	位置	W 49° 53' S 22° 57'
	地形	緩傾斜波状地の高台及び緩傾斜の台地
	地質・土壌	テラロンシアに微細砂の混じった土、保水力に優れ極めて肥沃
	植生・林相	一部に原始林地帯があるが大部分は既耕地
	気候	年平均気温 26℃ 平均最高気温 34℃ 平均最低気温 12℃ 年間雨量 1200 - 1500 mm

社会条件	交通	移住地～オウリーニョス市間 砂利道、良好、自転車、トラック等 オウリーニョス市～サンパウロ間 完全舗装バス、頻繁 所要時間8時間 鉄道1日1便
	近傍主要都市	オウリーニョス市 人口約4万人 北東 7 Km サンパウロ市 人口約700万人 東北方向 380 Km
	医療・教育	移住地内には医療施設なし オウリーニョス市に医療施設完備 移住地内に小学校1校 中学校・高校はオウリーニョス市通学
	治安	良好 オウリーニョス警察管下

2 入植状況

入植戸数と人員 (内地)	年度	昭和36	37	38	39	40	41	42	43	44
	戸数	8	8							
	人員	43	41							
	年度	45	46	47	48	49	現地 入植者	合計	定着数	
	戸数						9	25	18	
	人員						43	127	100	

昭和49年12月末

退耕者の主なる転住先	サンパウロ	マリンガ	イタハイパー	帰国
率 (%)	50	12.5	12.5	25

主なる出身県名	受援	北海道	長崎	その他	合計
戸数	3	3	2	10	18

総面積	239ha
ロッテ面積	10ha
分譲条件及価格	一括払い 652 cr \$ 分割払い 渡航前に 391 千円 2年目より毎年 210 千円相当借賃を 3年間に支払う。
分譲可能面積	なし
地権取得	取得 23名 (全員)
電気・飲料水	電気・水道共に一応備わっている。 ただし一部に他人のロッテの井戸から水を借りているものもある。
地区内道路	泥土であるが良好
地区内主要施設	小学校 1 校

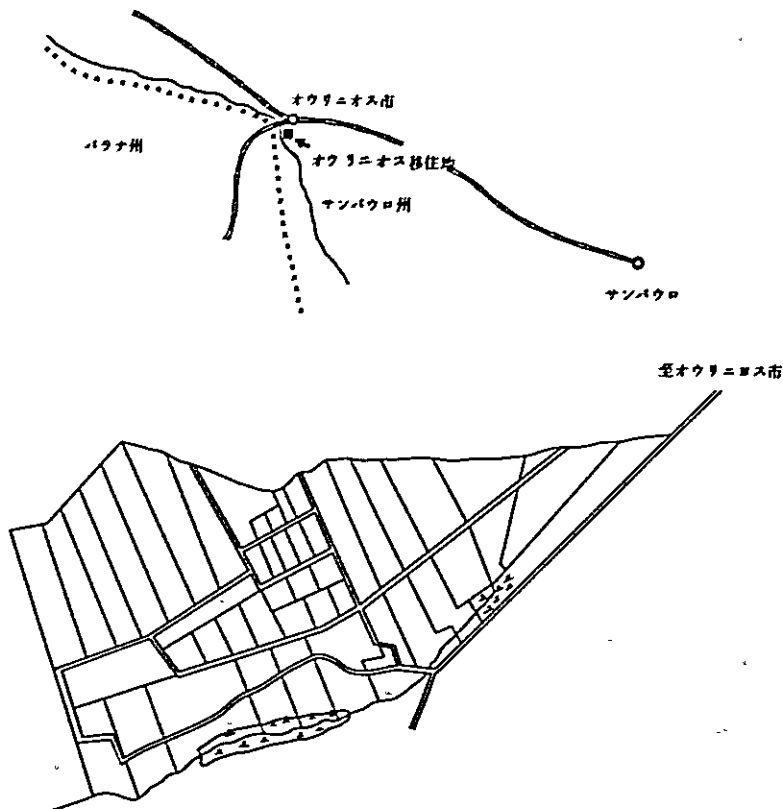
3 営 農

主 作 目	果樹、養鶏、コーヒー、養蚕、蔬菜、雑作
営 農 状 況	主要永年作目のコーヒーがサビ病で打撃を受け、果樹の中で期待されていたボンカンの市場値がふるわずこれといった基幹作目がない。 しかしイタリヤブドウは健全で好成績を挙げている。 鐘紡、神戸生糸など製糸会社の進出により昭和48年末より養蚕の導入を5戸がはじめこれらの進出企業、事業団などの応援を得て桑の育成、蚕の飼育を開始した。

農機具等の普及状況	動力噴霧機 1.12 台 耕耘機 0.06 台、トラクター 0.93 台、ポンプ 0.43 台、運搬用機械 0.75 台 (昭和 48 年調べ、農家一戸当り平均)
営農指導機関	事業用サンパウロ支部、事業団助成による専門家が年数回個別指導に当たっている。移住地近傍には特になし また、サンパウロ産業組合中央会より時々果樹関係の営農指導員がまわっている。
利用金融機関	銀行、事業団
主作物の販売取扱機関並主市場	オウリニオス産業組合
農家所得 (一戸当り平均) 昭和 48 年度	958 千円 (20,330 cr S)

4 組織活動

自治会 農協	特になし オウリニオス市にオウリニオス産業組合があり、これに全戸が加入している。(法定) オウリニオス産業組合はサンパウロ産業組合中央会に加入している。 販売、購買、運輸業の事業を行っている。
-----------	---



移住地名 日 光

1 地区概要

所在地	所在地	パラナ州マリアエレナ郡 COLONIA NIKKO MUNICTPIO DE MARIA HELENA, ESTADO DE PARANÁ
	管理者 入植開始年度	Associação Cultural e Esportiva de Vila Formosa 昭和37年

経緯	経緯	戦後の雇用移住者が協同して事業団から土地購入資金の融資を受けて集团的に独立した地区である。経営の主体はコーヒーであるが最近では果樹に力を入れている。
----	----	--

自然条件	位置	W 53° 30' S 23° 50'
	地形	緩やかな起伏のある波状地 地区内に小川が2-3本あり。
	地質・土壌	テラロシヤミスク砂壤土。 P・H 6.5
	植生・林相	原生林(灌木、喬木が密生)
	気候	年平均気温 24℃ 平均最高気温 33℃ 平均最低気温 17℃ 年間降雨量 1,200mm内外

社会条件	交通	移住地～マリアエレナ バス1日3便 所要約1時間 # ～ウムアラマ # 2便 # 2 # # ～ドラ・ジーナ # 3便 # 30分 # ～ロンドリーナ # 1便 # 7時間
	近傍主要都市	マリア・エレナ市 人口 約1万人 25 Km ウムアラマ市 # 11万人 40 Km ドラ・ジーナ市 # 12 Km ロンドリーナ市 # 25万人 350 Km
	医療・教育	地区内に医療機関なし ウムアラマ市に、サン・ルカ病院(総合)他あり。事業団特約医あり。 地区内に小学校1校 (校舎は郡、教員宿舎は事業団建設)日語学級を開設している。 中学校・高校はウムアラマ市で寄宿
	治安	良好。マリア・エレナ警察署管内

2 入 植 状 況

入 植 戸 数 と (内地) 人 員	年 度	昭和 37	38	39	40	41	42	43	44	45
	戸 数									
	人 員									
	年 度	46	47	48	49		現 地 入 植 者	合 計	定 着 数	
戸 数						58	58	30		
人 員						301	301	215		

昭和 49 年 12 月 末

退耕者の主なる転住先	パラナ ウムアラマ	サンパウロ 近 郊	パラナロン ドリーナ	パラナ グアイーラ	パラナ マリンガ	その他
率 (%)	35	19.5	13.2	7.6	7.6	17.1

主なる出身県名	高 知	愛 媛	鹿児島	その他	合 計
戸 数	6	2	2	20	30

総 面 積	904.9 ha
ロ ッ テ 面 積	1 ロ ッ テ 約 12.10 ha (56 ロ ッ テ)
分譲条件及価格	契約の当事者並びに入植者団体と地主との契約 土地代は ha 45～75 cr 4 年分割 (但し入植当時の価格で現在は満植)
地 権 取 得	全戸取得済
電 気 ・ 飲 料 水	電気なし 飲料水各戸の井戸水利用 水質良好
地 区 内 道 路	泥道 雨天通行は可能だが極端に悪路となる部分あり。
地区内の主要施設 事業団貸与	収納倉庫 公民館
そ の 他	小学校(郡建設)

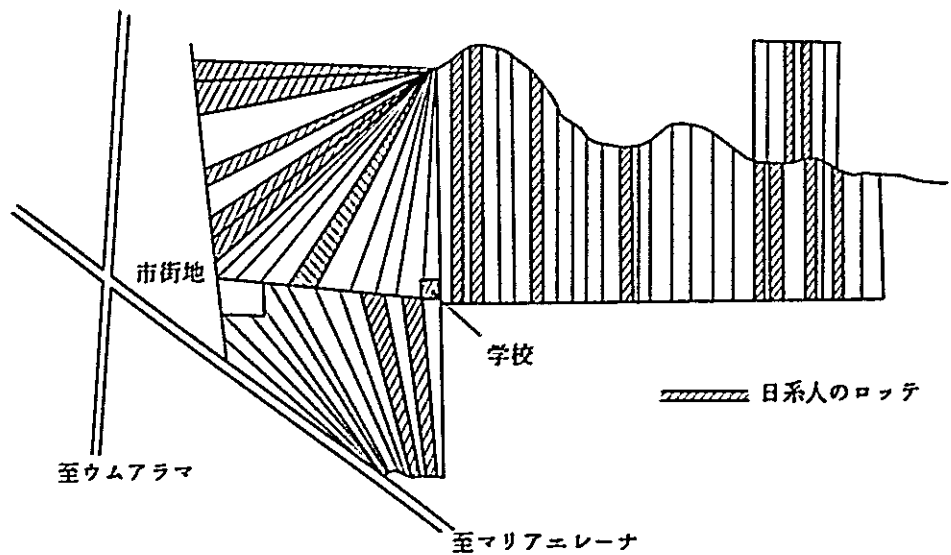
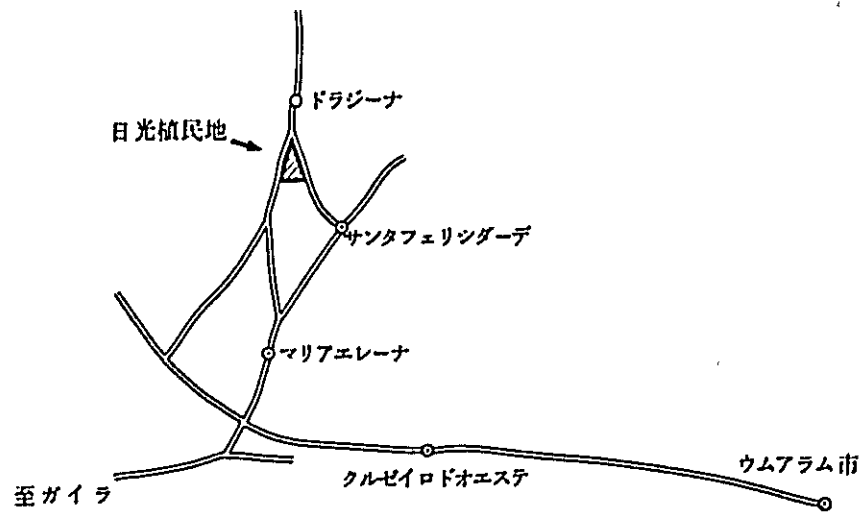
3 営 農

主 作 目	コーヒー、果樹(イタリアブドウ)雑作
営 農 状 況	コーヒーを主体に落花生、大豆、フェジョン等短期作を組合せた営農がおこわれているが、最近、果樹(イタリアブドウ)養蚕の導入が図られている。昭和 48 年度の農家一戸当り耕作面積平均は普通畑 3.6 ha、樹園地 24.9 ha、農業粗収入平均 6,432 千円、農業依存率 83 %、農家当り労働人数平均 4.3 人である。

農機具の普及状況	発動機0.2台、動力噴霧機1.2台、ポンプ0.5台、発動機0.2台、ミスト機0.4台トラクター0.08台（昭和48年調べ、農家一戸当り平均）
営農指導機関	事業団サンパウロ支部。移住地並びに近傍には特になし南伯産業組合中央会よりの専門家による指導が時にあり。
利用金融機関	銀行、事業団
主作物の販売機関	主産物は南伯産組に出荷。棉は仲買人による。
農家所得一戸当り平均（均昭和48年度）	530千円（11,243 cr \$）

4 組織活動

自治会	日光植民地日本人会昭和38年結成49年 Associação Cultural e Esportiva de Vila Formosa として登録
農協	南伯産業組合に全戸が加入している。 その下部組織として日光植民地生産物出荷組合、昭和38年9月設立、（任意）がある。 南伯産組はウムアラマに事務所及び倉庫をおく。



移住地名 桜・高森

1 地区概要

所在地	サンパウロ州グワラレーマ部 SOCIEDADE DOS AGRICULTORES DA COLONIA CEREJEIRA MUNICIPIO DE GUARAREMA, ESTADO DE SÃO PAULO
-----	---

所在地	管理者	Sociedade dos Agricultores da Cerejeira (桜農組)
	入植開始年度	昭和37年

経緯	経緯	日系コロニアの有力者足立小平治氏が昭和35年白人耕主の土地の委任を受けて日本人移住者に、分譲することとなった。当初同氏の出身県である岐阜県から受入れたが、後全国から受入れることとなった。入植者は日本直来と現地からとあわせて54世帯となった。
	緯	

自然条件	位置	W 46° 05' S 23° 20'
	地形	緩い起伏の丘陵、小川、谷川、湧水等豊富
	地質・土壌	壤土
	植生・林相	再生林を含む草原地帯
気候	年平均気温 17℃ 年間降雨量 1,500 mm	

社会条件	交通	近傍各都市へバス便頻繁にあり
	市場	サンパウロ市並びにリオデジャネイロ市
	近傍主要都市	サンパウロ市 人口 約700万人 57 Km ジャカレー市 " 7万人 12 Km モジダスクルーゼス市 " 14万人 30 Km グアラレーマ市 " 1万人 6 Km
	医療・教育	移住地内に医療機関はないが、グワラレーマ市に州立病院あり。 移住地内に小学校1校(事業団建設・木造)教師2名 日語学校(専任教師1名) 中学校並に高等学校はグワラレーマ市 モジダスクルーゼス市にバス通学。
	治安	良好 グワラレーマ警察署管下

入植戸数と人員 (内地)	年度	37	38	39	40	41	42	43	44	45
	戸数	39	0	4	3	1				
	人員	171	0	19	11	3				
	年度	46	47	48	39		現 地 入植者	合 計	定着数	
戸数						98	145	107		
人員						469	673	439		

退耕者の主なる転住先	モジダス クルーゼス	スザノ	サンパウロ	帰 国	そ の 他
率 (%)	20	10	60	10	10

主なる出身県名	岐 阜	長 野	広 島	そ の 他	合 計
戸 数	54	20	6	27	107

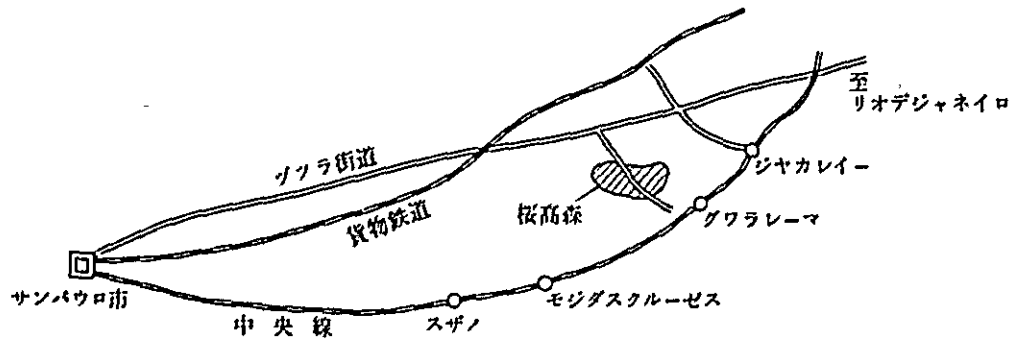
総 面 積	200 ha
ロ ッ テ 面 積	1 ロ ッ テ 約 5 ha
分譲条件及価格	一括払い ㊤ 52万円 ㊦ 28.8万円 分割払い 頭金並びに1年以内
地 権 取 得	取得済 一部分割払未了の者が494号法律(1971年10月1日付法律5709号)の制限にかかり未取得である。
電 気 ・ 飲 料 水	電化自力で済み、一部事業団融資 飲料水 井戸 (但し、桜地区の極一部に水のないロッテあり)
地 区 内 道 路	良好
主 要 施 設 与 事 業 団 貸 与	小学校 倉庫 日本人会館、教員宿舎

3 営 農

主 作 物	花卉(バラ)
営 農 状 況	露地バラの栽培専業農家がほとんどで、一部柑橘との複合経営および養鶏を営む。
農機具の所有状況	
営農指導機関	事業団サンパウロ支部協力機関としてコチャ産組等
利用金融機関	銀行、事業団
主作物の販売取扱機関並に主市場	花卉は主として個人 野菜、鶏卵、鶏肉、果実は主として組合 サンパウロ市・リオデジャネイロ市
農 家 所 得 一 戸 当 り 平 (均昭和 年) 度	

4 組 織 活 動

自 治 会	桜・高森日本人会(昭和44年結成)全戸加入
農 協	Sociedade dos Agricultores da colonia Cerejeira



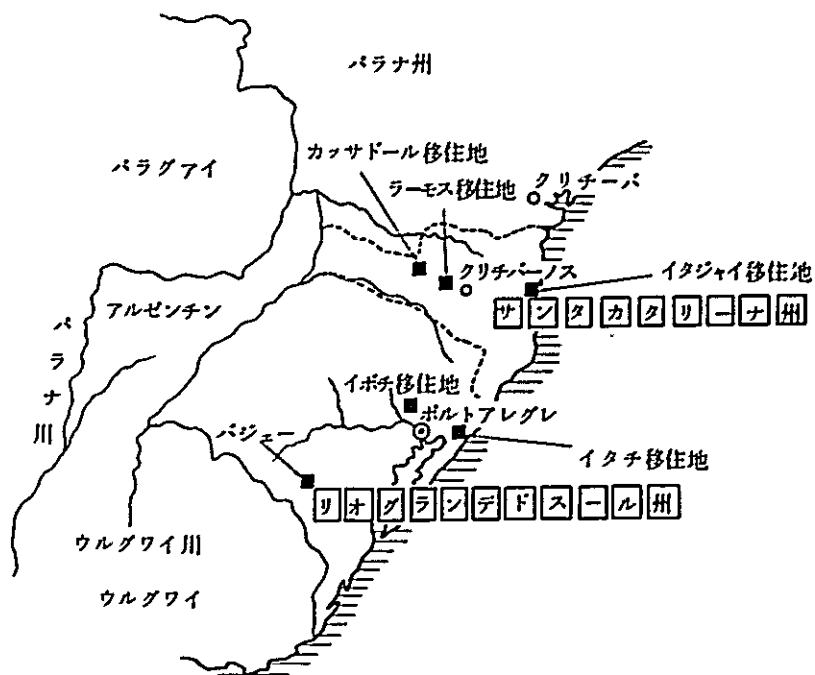
V ポルトアレグレ支部管内

支部機構

- ポルトアレグレ支部 (ポルトアレグレ市)
- └ ラーモス出張所 (ラーモス移住地)

管轄州

- リオグランデ・ド・スール州
- サンタカタリーナ州



移住地名 ラーモス

1 地区概要

所在地	所在地	サンタカタリーナ州、クリチバーノス郡フレイ、ロジェリオ地区 DISTRITO DE FREI ROGERIO, CURITIBANOS, SANTA CATARINA
	管理者	サンタカタリーナ州農地改革院 (IRASC) 事業団 (JAMIC)
	入植開始年	昭和39年

経緯	経	サンタカタリーナ州中山部地帯の農業振興のため同地域に適する温帯果樹及びその他の農作物並びに小家畜の飼育に専門的技術を有する日本人を導入することとして州直営で事業団と協定に基づいて創設した移住地である。
	緯	日本人の入植は昭和39年及び同40年に現地から16世帯日本からは昭和42年以降今日まで3世帯が入植している。 温帯果樹のネクタリンを中心にモモ、リンゴ等他短期作物として花卉、果菜類、雑作経営を営んでいる。

自然条件	位置	W 52°00' S 27°30'	
	地形	傾斜4～7°の丘陵地帯で地区内に細流多数	
	地質・土壌	母岩、玄武岩の壤土、植壤土、砂壤土、P.H 5～5.8	
	植生・林相	大部分再生林、灌木、雑草が繁茂、自然林地帯はパラナ松多し部分的にはタクアラド・スールといわれる竹もめだつ。	
気候	年平均気温	25.7℃	
	平均最高気温	24.5℃	平均最低気温 9.1℃
	年間降雨量	1,364.3 mm	

社会条件	交通	植民地～クリチバーノス市間 砂利道 定期バス1日2往復のほか入植者自家用車等がひんぱんに通っている。緊急連絡は入植者の車または事業団ジープによる。所要時間30分。 クリチバー市～クリチバーノス市～ラージェス市～ポルトアレグレ市間 大部分舗装。 クリチバー市～クリチバーノス市 定期バス4～5便 約5時間 クリチバーノス市～ラージェス市 定期バス4～5便 約2時間 ラージェス市～ポルトアレグレ市 定期バス日に2回 7時間
	市場	ネクタリン等果樹は主市場サンパウロ市直接共同出荷その他近傍都市が対象。

社 会 条 件	近傍主要都市	クリチパーノス市 人口約 1.5万人 約 23 Km
		ラージェス市 # 9万人 # 107 Km
		ポルトアレグレ市 # 90万人 # 450 Km
		クリチーバ市 # 60.9万人 # 300 Km
	医療・教育	<p>移住地内に医療機関なし。</p> <p>ただし、クリチパーノス市に総合病院（クレイ・ロ・ジュリオ病院）あり、事業団特約医契約を結んでおり割引価である。</p> <p>クリチーバ市、ポルトアレグレ市には各種医療・設備完備</p> <p>移住地内に小学校（4年制）1校 事業団補助 教師2名</p> <p>中学校・高等学校はクリチパーノス市、ラージェス市、ポルトアレグレ市に通学或いは寄宿。</p> <p>大学はクリチーバ市、ラージェス市及びポルトアレグレ市</p>
治安		<p>僻地性が強くなり不安があるが現在までのところ問題は発生していない。クリチパーノス市警察管下。</p>

2 入植状況

入植戸数 (内 地 人 員)	年度	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
	戸数					3	2	5		1	
	人員					19	8	16		4	
	年度	現地入植者		合計	定着数						
戸数	51		62	11戸							
人員	258		305	47人							

昭和49年9月末

退耕者の主なる転住先	サンパウロ	パラナ	帰国
率 (%)	40 (2戸)	20 (1戸)	40 (2戸)

連邦小変植民地、サンジョゼー地区在住者を含む。

主なる出身県名	北海道	長崎県	東京都	山口県	その他	合計
戸数	10	10	4	4	47	75

総面積	1,139 ha (50 ロッテ)
ロッテ面積	1 ロッテ 25 ha (12 ha のロッテもある)
分譲条件及価格	<p>土地代 (含住宅資材代) Cr \$ 1,997 3年据置 10年分割払い (無利子)</p> <p>44年9月以降 土地代 Cr \$ 1,000 3年据置 5年分割払い (無利子) 住宅資材は購入原価を8年後5年分割払い</p>

分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
		1,111.5 ha	—	22.5 ha
地権取得	現地入植者（全員第一次入植）は土地代払込未了であるが、地権取得済（但し借地売買権は13年後でないとは認めない条件付）日本人入植者は土地代払込完了時に地権取得確実。			
電気・飲料水	第1期地区は昭和44年度中に電化完了（INCRA農村電化計画第1号）昭和46年度入植者は現在電化準備中。 飲料水は素堀井戸（7～8m）水質良好、水量は豊富である。			
地区内道路	起伏多くひんぱんな維持補修を要するがIRASCがINCRA及び州政府の援助を受けてこれを実施している。 雨天通行には相当困難である。			
地区内主要施設	(1) 事業団貸与 小学校1 教員宿舍2			

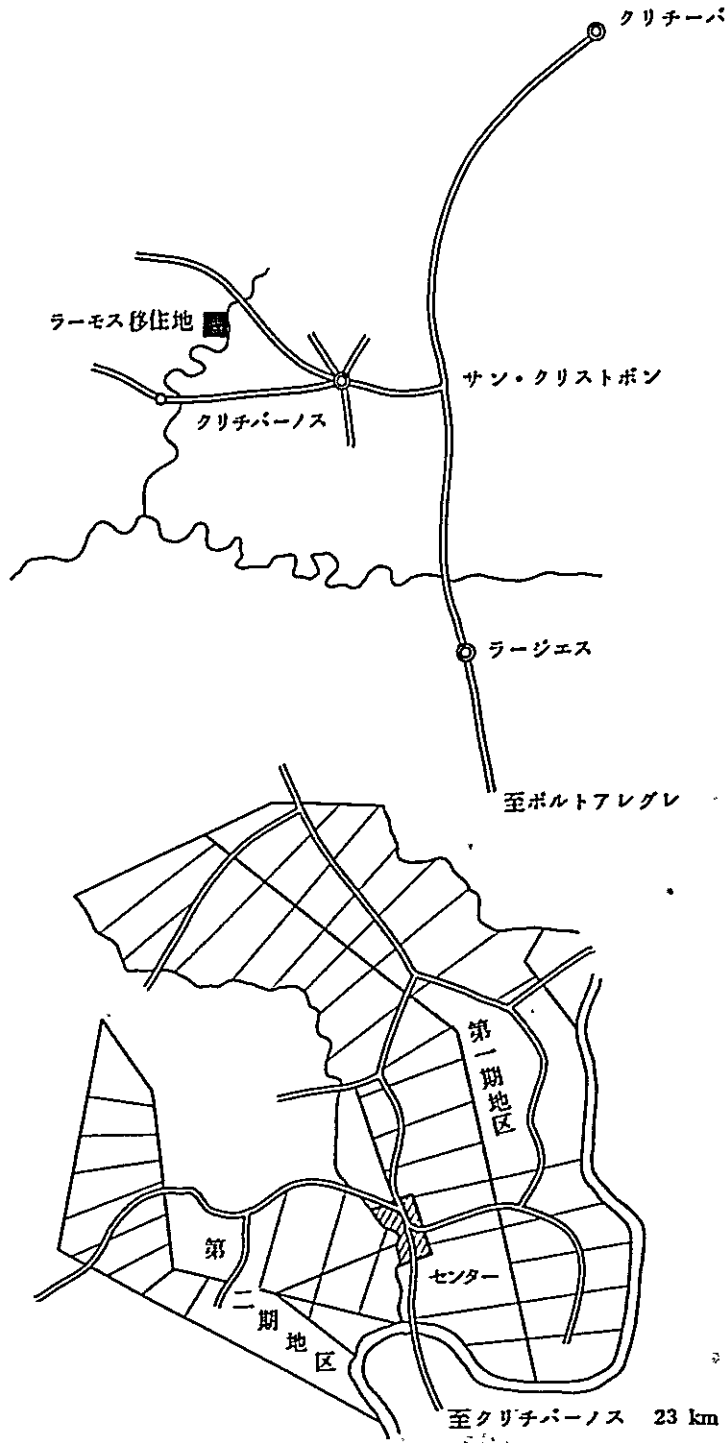
3 営 農

主 作 目	油桃（ネクタリン）、桃、トマト、カーネーション、リンゴ （油桃の栽培農家1戸当り平均栽培面積1.1ha）
営 農 状 況	農産物売上高の71%を油桃が占めており、永年作を主体とした営農を行っている。 リンゴ及び桃はまだ未成木が多く換金出来るに至っていないが将来油桃と並ぶ3本柱として期待されている。
農機具等の普及状況	動力噴霧機 0.5台 耕耘機 0.6台 発動機 0.3台 運搬用機械 0.3台 （昭和48年調べ農家1戸当り平均）
営農指導機関	事業団ポルトアレグレ支部、協力機関として国立試験場が近傍にあり（ビデイラ市60km）
利用金融機関	伯国銀行、南部三州開発銀行（フロリアノポリス市）
主作物の販売取扱機関並びに主市場	主作物油桃はコチア、南伯両農協を通じサンパウロ市へ共同出荷している。
農家所得（1戸当り平均昭和48年度）	457千円（9,689 Cr S）

4 組織活動

自治会	クリチバーノス日伯文化協会（法定）
-----	-------------------

農協	コチア産組，南伯産組にほぼ同数加入している他小安植民地農協（法定組合で伯人混合である）に若干名加入している。
----	--



移住地名 イ ボ チ

1 地区概要

所在地	所在地	リオ・グランデ・ド・スール州イボチ郡パン・ダス・パルメイラス地区 VALE DES PALME IRAS MUNICIPIO DE IVOTI RIO GRANDE DO SUL
	管理 者 入植開始年度	集団独立 昭和42年度

経緯	経緯	リオ・グランデ・ド・スール州分益農移住者が中心となり事業団の土地購入資金の融資を受けて昭和42年集団的に土地購入独立した地区である。ブドウ、養鶏の組み合わせの営農からはじめたが現在では養鶏は全面的に取りやめている。
----	----	---

自然条件	位置	W 51° 10' S 29° 35'		
	地形	谷から山頂まで200～300mあり北西に傾斜をなす丘陵の一角にイボチ移住地がある。標高400～500m。		
	地質・土壌	玄武岩、結晶片岩を母岩とする赤褐色ラテライトで有機質に富み水はけがよい。		
	植生・林相	再生雑木林、アカシアネグランド植林地が大部分である。		
気候	年平均気温	20.5℃		
	平均最高気温	25.7℃	平均最低気温	14.2℃
	年間降雨量	1,667.8 mm		
降霜	冬期数回			

社会条件	交通	ポルトアレグレ市より完全舗装道路（BR 116）43kmでイボチ町に至る。
	市場	ポルトアレグレ市、サンパウロ市、リオ市
治安	近傍主要都市	ポルトアレグレ市 人口 90万人 50km イボチ町 人口 2.5万人 3km ノーボハンプルグ市 人口 8.5万人 10km
	医療・教育	イボチ町、ノーボハンプルグ市に病院完備 ポルトアレグレ市に各種医療施設完備 移住地センター用地内に小学校が46年州予算で落成 イボチ町に小学校、中学校 高校はノーボハンプルグ市その他各所 大学はポルトアレグレ市
治安	治安	良好

2 入 植 状 況

入と 植人 戸数 員数 (内地)	年度	41	42	43	44	45	46	47	48	49	現地入植者	合 計	定着数
	戸数								2			42	44
人員								2			219	221	202

昭和49年9月末

退耕者の主たる転住先	サンパウロ	パラナ	ポルトアレグレ近郊
率 (%)	20 (1戸)	20 (1戸)	60 (3戸)

主なる出身県名	鹿児島県	北海道	山口県	熊本県	その他	合 計
戸 数	11	4	4	3	17	39

総 面 積	150 ha
ロッテ面積	1 ロッテ 5 ha
分譲条件及価格	数人の地主より独立期成会が一括購入(事業団の融資援助)事後各人に分割
地 権 取 得	取得済
電 気・飲 料 水	電化は州の補助を受け自力で導入。 飲料水は、ダム利用の簡易水道で濾過装置あり、水質良好で水量豊富である。
地 区 内 道 路	無舗装、雨天若干泥濘と化す。
地区内主要施設 事業団補助	なし

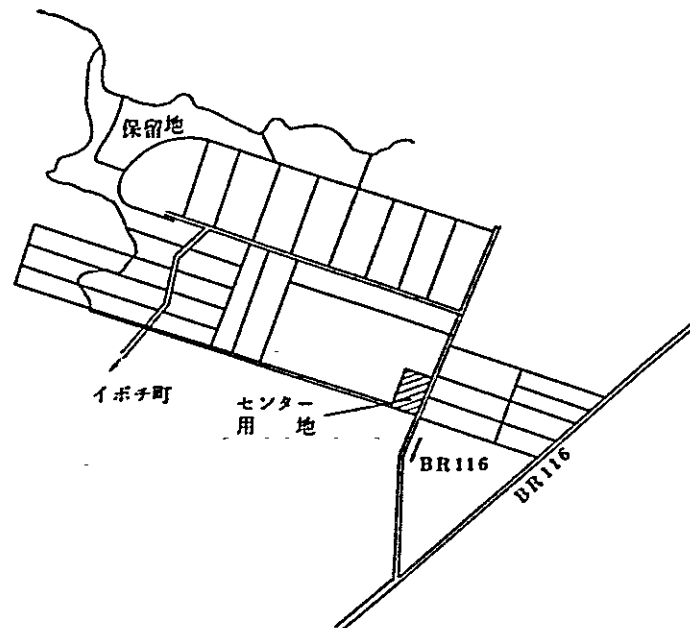
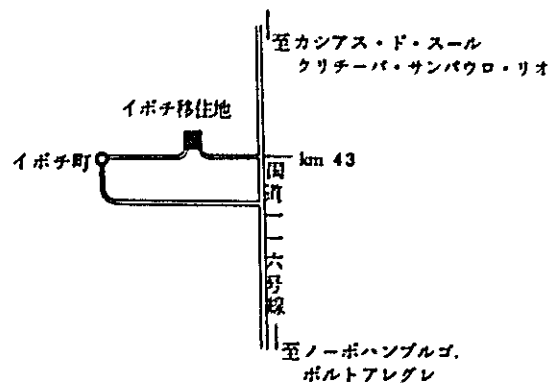
3 営 農

主 作 目	ぶどう (36.05 ha, 1戸平均 0.97 ha) 蔬菜
営 農 状 況	イタリヤ種、巨峰種などの生食用ぶどうを主体 (ただし未成木が多く47年度農産物売上高の20%)に蔬菜・花卉を組合せた営農を行っているが、借入金に依存した経営のため金利にも追われかなり苦しい状況にある。
農機具等の普及 状 況	発動機 0.7台 動力噴霧機 1.3台 耕耘機 0.3台 運搬用機械 0.1台 揚水ポンプ 1.35台 (昭和48年調べ農家1戸当り平均) なお共同防除機としてスピードスプレーヤー6台が事業団交付金で購入、イボチ農協に貸与されている。
営農指導機関	事業団ポルトアレグレ支部
利用金融機関	銀行、事業団
主作物の販売取 扱機関並主市場	ポルトアレグレ市へ出荷 ブドウの80%はサンパウロ、リオへ農協を通じ出荷されている。

農家所得 (1戸当り平均 昭和48年度)	345千円(7,318 Cr \$)
----------------------------	--------------------

4 組織活動

自治会 農協	イボチ移住地日本人会 イボチ入植者全戸でイボチ、オルチグランジェーラ混合農協(法定)を結成して購買、販売、機械利用事業を行っている。
-----------	---



移住地名 イ タ チ

1 地区概要

所在地	所在地	リオ・グランデ・ド・スール州オゾーリオ郡イタチ村
	管理 者	VILA ITATI, MUNICIPIO DE OSORIO, RIO GRANDE, DO SUL 集団独立
	入植開始年度	昭和42年

経緯	経緯	リオ・グランデ・ド・スール州の分益農移住者が中心となり事業団の土地購入融資を受けて昭和42年集団的に土地購入独立した地区である。
----	----	--

自然条件	位置	W 50°25' S 29°30'
	地形	東は河どまりで移住地の東半分はその河の沖積層の谷で西半分丘陵である。 谷と丘陵の間に小川と低湿地がある。
	地質・土壌	玄武岩、結晶片岩を母岩とする褐色のラテライトで有機質に富み水はけがよい。
	植生・林相	再生雑木林
	気候	年平均気温 17.9℃ 平均最高気温 21.7℃ 平均最低気温 14.4℃ 年間降雨量 1,423 mm (但し地区より60kmのトーレス市測候所 1,913～1,942平均)

社会条件	交通	オゾーリオ市ポルトアレグレ市とも完全舗装 (BR 101) であるが12kmは簡易舗装している。バス便は直行4便運行している。
	市場	ポルトアレグレ市が主市場、その他近傍都市
	近傍主要都市	イタチ村 人口 500人 3km オゾーリオ市 人口 1万人 70km ポルトアレグレ市 人口 90万人 170km
	医療・教育	医療 イタチ村は無医村、12kmの国道BR 101号線入口のフレイア村に救急病院がある。 教育 小学校、中学校はイタチ村にあり、高校はオゾーリオ市 (65km) にある。
	治安	良好

2 入 植 状 況

入及 植(内 戸地 数人員)	年 度	45	46	47	48	49	現地入植者	合 計	定 着 数
	戸 数							12	12
人 員							58	58	58

昭和49年9月末

退耕者 なし

主なる出身県名	福 島 県	熊 本 県	そ の 他	合 計
戸 数	5	2	5	12

総 面 積	139.5 ha			
ロ ッ テ 面 積	1 ロ ッ テ 平均 14 ha 但し一部入植者(6戸)は9.6 ha 幅26m~40m奥行3,500mの長方形のロ ッ テ			
分譲条件及価格	43年転入者 7戸 ha当り 850 Cr S 45年転入者 2戸 ha当り 1,200 Cr S			
分 譲 状 況	分 譲 済 面 積	未 分 譲 面 積	道 路 市 街 地 等 利 用 地	除 地
	139.5 ha	-	-	-
地 権 取 得	全戸取得			
電 気 ・ 飲 料 水	電気は導入されている。飲料水は井戸水を使用している。			
地 区 内 道 路	郡道が移住地境界をタチ川に沿って走り、砂利道であるが雨天でもバス運行中止はない。			
地 区 内 主 要 施 設				
事 業 団 体 与	なし			
組 合 所 有	集会所			

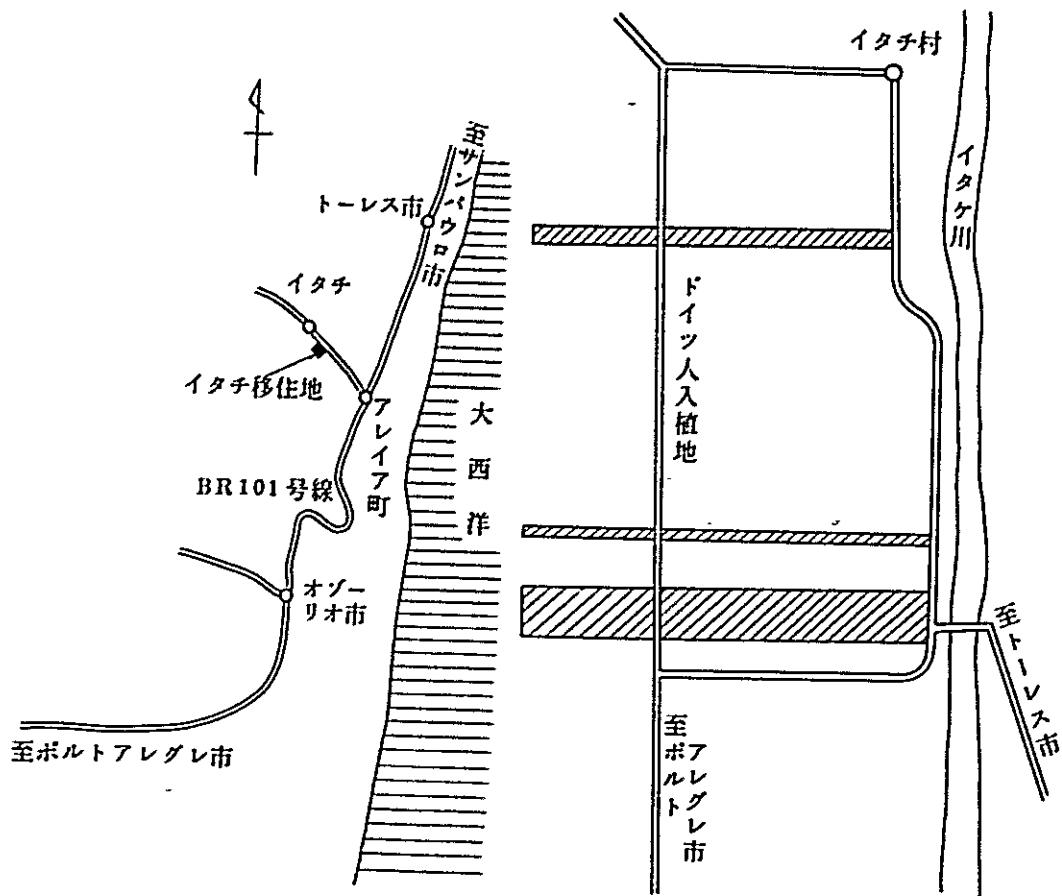
3 営 農

主 作 物	トマト、ピーマン、柑橘、バラ、キク、カーネーション、キウリ			
営 農 状 況	昭和48年度における1農家当り耕作面積平均は普通畑1.66ha、樹園1.66ha農業粗収入平均2,012千円。市場に近いので野菜を中心とした近郊農業を営んでいる。			
農 機 具 等 の 普 及 状 況	揚 水 ポンプ	2.5 台	動 力 噴 霧 機	1.7 台
			発 動 機	1.3 台
			耕 耘 機	1.1 台
	運 搬 用 機 械	1.2 台	(昭和48年度調べ農家1戸当り平均)	
営 農 指 導 機 関	事業団ポルトアレグレ支部			

利用金融機関	銀行
主作物の販売取扱機関並主市場	ポルトアレグレ市
農家所得 (1戸当り平均 昭和48年度)	737千円 (15,627 Cr S)

4 組織活動

自治会	自治会はないが日本人会がある。
農協	出荷組合がある。



移住地名 イタジャイ

1 地区概要

所在地	所在地	サンタ・カタリーナ州イタジャイ郡 NUCLEO COLONIAL "RIO NOVO" ITAJAI SANTA CATARINA
	管理者 入植開始年度	イタジャイ郡サンタ・カタリーナ州農地改革院 (IRASC)、事業団 昭和47年

経緯	経	昭和44年、ラーモス移住地ネクタリン祭の席上 IRASC 総裁、州農務長官、当時のブラジル農業開発院 (INDA) 駐在官等より近い将来、沿岸地帯に日本人を主とする蔬菜園芸移住地を設定することについて是非検討して欲しい旨要望があった。その後昭和46年5月に至って IRASC より正式にイタジャイ地区についての現地調査依頼があった。
	緯	従来イタジャイを始めとする近傍主要都市における蔬菜生産には殆どみるべきものがなく、果菜類の90%はサンパウロ、パラナ方面からの移入品に頼ってきたが鮮度が著しく落ちる上に高価であり市民の食生活は極めて低調であった。そこで日本人を中心とする蔬菜園芸移住地を設定して生産物を新設予定の市中央市場に直結させ、近傍主要都市の生鮮蔬菜類の供給を確立せしめるとの具体的構想を持つに至った。 市は土地の購入ロツテ造成、電気導入、住宅建設等を IRASC は、住宅建設費用の負担、州農業改良普及院 (ACARESC) は営農相談、融資あつせん、当団は日本人入植者の選考をそれぞれ担当し昭和47年に入植を開始したものである。

自然条件	位置	W 48° 40' S 26° 55'
	地形	沿岸平坦低湿地 標高 18 m
	地質・土壌	表層部は、100~150 cm の老朽有機物堆積 その下は水成岩を母岩とする砂質土と泥炭質粘土の混合土壌
	植生・林相	全面的に広葉樹の中に有用堅木が混生する原生林
	気候	多雨温暖性気候 1971 (昭和46年) の観測結果 年平均最高気温 27.66℃ 年平均最低気温 16.48℃ 年平均相対湿度 76.52% 年平均降雨日数 145 日で降雪なし降雨量は 1,589.8 mm である。

交通	移住地、イタジャイ市間は BR 101 号線南下 3 km 車で 5 分程度 BR 101 号線をひんぱんに通るバス便を利用
----	---

社 市 場		BR 101号線はフロリアノポリス市、ポルトアレグレ市およびクリチーバ市、サンパウロ方面に通じている。
	近傍主要都市	近傍主要都市を対象に主として蔬菜を供給している。 クリチーバ市中央市場にも一部出荷中。
会 条 件	ジョインピレ市	人口約 7万人 BR 101 北上約 80 Km
	イタジャイ市	人口約 7万人 BR 101 南下約 3 Km
	カンボリウ市	人口約 2万人 BR 101 南下約 5 Km
	フロリアノポリス市	人口約 16万人 BR 101 南下約 85 Km
	ブルノナウ市	人口約 9万人 西方約 35 Km
医 療・教 育 治 安	ブルスケ市	人口約 3.5万人 南西約 30 Km
		イタジャイ市まで3 Kmバス便よく医療・教育の各施設が完備されている。 良好

2 入 植 状 況

入 と 植 入 者 数 員	年 度						現地入植者	合 計	定 着 数
	戸 数						6	6	6
	人 員						23	23	23

昭和49年9月末

退耕者 なし

主なる出身県名	北 海 道	熊 本 県	高 知 県	そ の 他	合 計
現 戸 数	4	1	1		6

総 面 積	60 ha			
ロ ッ テ 面 積	1 ロ ッ テ 6 ha × 10 ロ ッ テ			
分譲条件及価格	1 ロ ッ テ 価 格 土 地 代 家 屋 建 築 費 造 成 費 の 合 計 Cr S 25,000 分譲条件 2年据置 10年払い			
分譲可能面積	6 ha			
分 譲 状 況	分 譲 済 面 積	未 分 譲 面 積	道 路 市 街 地 等 利 用 地	除 地
	54 ha	6 ha		
地 権 取 得	取 得 名 申 請 中 7 名 未 申 請 名			
電 気 ・ 飲 料 水	電 気 は 創 設 に 当 り 導 入 さ れ て い る 。 水道水をリオ・ノーボ川よりポンプアップして濾過送水する施設を工事中（現在は郡役			

地区内道路	所消防車により毎日給水をうけている) リオ・ノーボ川沿いに幅員 8 m の公共道路が貫通している。
-------	--

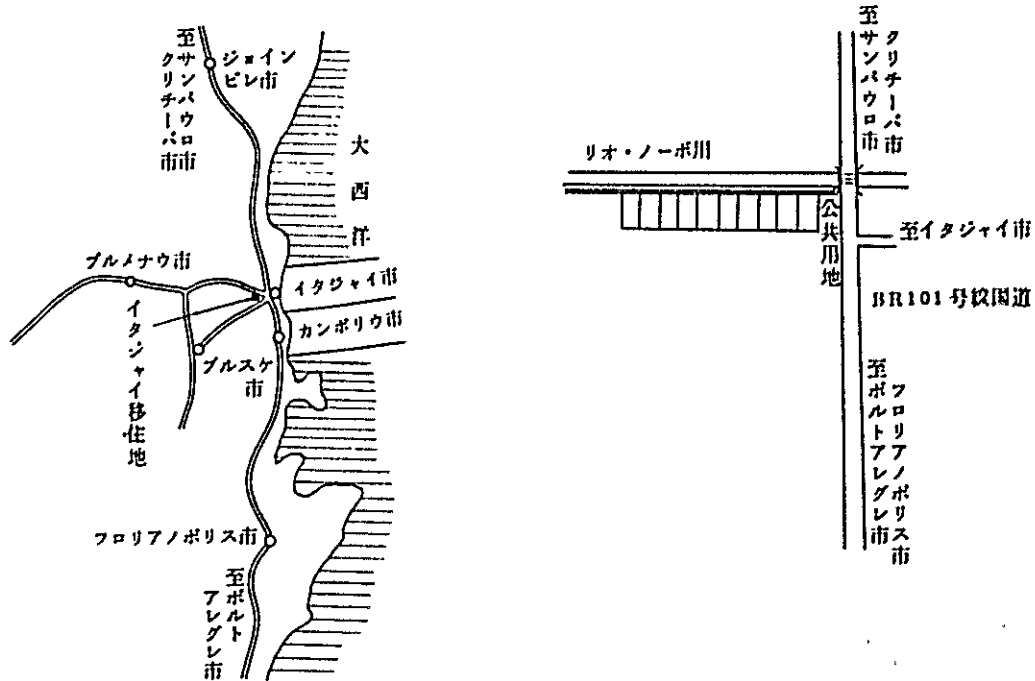
3 営 農

主 作 目	蔬菜(各種) 花、主にバラ、グラジオラス
営 農 状 況	各種作目の周年出荷栽培を推進している。
農機具等の普及 状 況	1戸当り平均 トラック 0.5台 耕耘機 0.7台 揚水ポンプ 1.3台 動力噴霧機 0.8台
営農指導機関	市菜園ポルトアレグレ支部、協力機関として農業改良普及協会 (ACARESC)
利用金融機関	銀行
主作物の販売取 扱機関並びに主 市 場	販売は個人出荷 市場は近傍主要都市、ジョインビレ、イタジャイ、カンボリウ、フロリアノポリス、ブルメナウ、ブルスケ、クリチーバの各都市
農 家 所 得 (1戸当り平均 昭和48年度)	昭和48年度(入植後1ヶ年分で実際の粗収入期間1973年1月～7月)5戸平均 1戸当り Cr S 12,000

4 組 織 活 動

自 治 会	部落会
農 協	なし

5 地区略図（移住地より近傍主要都市の略図）



移住地名 カッサドール

1 地区概要

所在地	サンタカタリーナ州カッサドール郡ゾナタ地区 NÚCLEO COLONIAL PAIOL VELHO CAÇADOR, SANTA CATARINA
管理者	サンタ、カタリーナ州農地改革院 (IRASC)
入植開始年度	昭和48年3月

経緯	昭和45年頃 ラーモス移住地における日本人農家の果樹栽培状況を視察したカッサドール市長は、その成果に鑑み同郡内にも日本人を中心とした温帯果樹栽培を主と
----	---

経緯	<p>する小植民地を創設すべく、その可能性について検討を行い適地を物色した結果、農地改革に協力的な地主の所有地に決定し、市がこれを買上げ IRASC の協力の下に移住地を設定した。一方日本人入植者の選考に当っては、在パラナ州サンパウロ州の希望者の中から、当団がカッサドール郡 IRASC と協議の結果 10 家族を選定した。</p> <p>即ち、昭和 48 年 3 月第 1 陣として 9 家族、翌 49 年 3 月 1 家族の合計 10 家族が入植した。現在 リンゴ、桃等の温帯果樹の植付管理に専念している。</p>
----	---

自然条件	位置	W 51° S 26° 46'
	地形	概ね波状型パラナ松よりなる森林にはかなり強度の傾斜が見られるが、全体的に見ればほんの一部である。標高 900 m ~ 1,100 m
	地質・土壌	玄武岩を母岩とする砂壤土。有機質が比較的豊富。特に森林部には粗大有機質が堆積している。 PH 4.5 ~ 5.5
	植生・林相	雑木原生林（若干の有用木混生）と再生林および牧草地 大部分広葉樹。針葉樹はパラナ松の外 2 ~ 3 種で 極く一部、森林は密でない
気候	同地における観測値（気温等）は無いが、概ねクリチバーノス市と同様であると推察される。 ただし、温度は 60 ~ 70 % と他の地区より低目であり果樹栽培に適している。	

社会条件	交通	移住地カッサドール市間は 8 Km カッサドール市から BR 116 号線まで 60 Km は、現在舗装工事中である。 BR 116 号線は、ポルト・アレグレ市およびサンパウロ市、クリチバー市に通じている。
	市場	リンゴ等果樹はサンパウロ市、クリチバー市等に出荷の予定（未生産のため出荷実績なし） トマト、花はクリチバー市、サンパウロ市に出荷中
	近傍主要都市	カッサドール市人口 3.1 万人、移住地から同市まで 8 Km ヴィディラ市人口 2.5 万人、移住地から同市まで 62 Km
	医療・教育	移住地内に医療機関はないが、カッサドール市に公立総合病院がありポルトアレグレ市、クリチバー市には各種医療機関がある。 カッサドール市に小学校、中学校、高校および専科大学（商科）がある。
	治安	良好。カッサドール市警察管下

2 入 植 状 況

入と 植 戸 数 (内地 人員)	年度										現 地 入 植者	合 計	定着数
	戸数										10	10	10
	人員										37	37	37

昭和49年9月末

退耕者 なし

主なる出身県名	福 岡	熊 本	大 分	静 岡	東 京	栃 木	茨 木	青 森	北 海 道	合 計
現 戸 数	2	1	1	1	1	1	1	1	1	10

総 面 積	250 ha			
ロ ッ テ 面 積	1 ロ ッ テ 25 ha			
分譲条件および 価 格	土地代(含家屋) Cr S 25,000 3年据置8年々賦無利子 通貨価値修正なし			
分譲可能面積	周辺に購入可能な私有地あり(時価ha当り Cr S 3,000~4,000)			
分 譲 状 況	分 譲 済 面 積	未 分 譲 面 積	道 路 市 街 地 等 利 用 地	除 地
	250 ha			
地 権 取 得	取得 10名 申請中 名 未申請 名			
電 気 ・ 飲 料 水	飲料水はロ ッ テ 毎 に 掘 抜 井 戸 施 設 あり 電気は架線方関係当局に申請中			
地 区 内 道 路	市員 6 m の 幹 線 道 路			

3 営 農

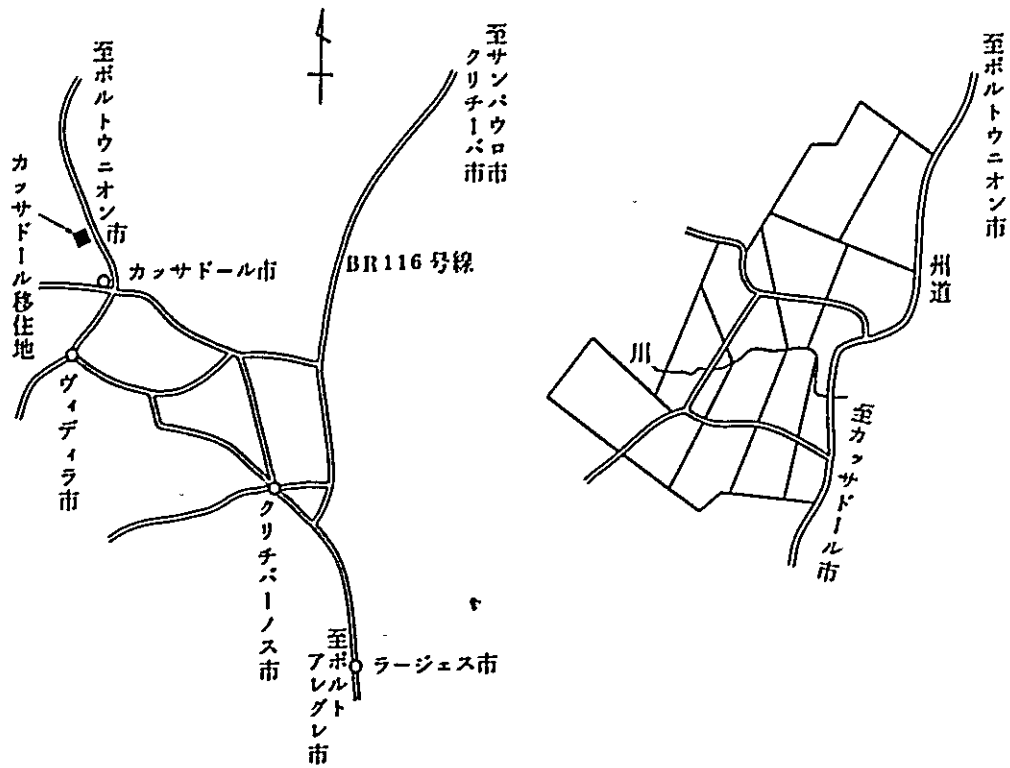
主 作 目	リンゴ、桃等温帯果樹
営 農 状 況	永年作が生産を開始するまでの間トマト、大豆、カーネーション、菊、イチゴ等を入植者出荷組合を中心に協同作付実施、次第に生産が軌道にのりつつある。
農機具等の普及 状 況	1戸当り平均所有台数 発動機1台、動力噴霧機0.6台、耕耘機0.6台、トラック0.5台、揚水ポンプ0.7台
営農指導機関	事業団ポルトアレグレ支部、協力機関として州農業改良普及院(ACARESC) 国立果樹試験場附属訓練センター(ヴィディラ市)があり、また市役所勸業課に州の改良普及技術員が常駐し指導にあっている。
利用金融機関	銀行

主作目の販売取扱機関並びに主市場	リンゴ、桃等果樹作物はサンパウロ市、クリチバ市に共同出荷予定（入植後、経過日数少いため）
農家所得（戸当り平均）（昭和年度）	調査実績なし（入植後経過日数少いため）

4 組織活動

自治会	自治体はないが、日本人会があり主に親睦を中心とした活動を行っている。
農協	農協はないが、出荷組合方式（共同出荷体制を取り入れている）。

5 地区略図（移住地より近傍主要都市略図）



移住地名 バ ジ ョ ー

1 地区概要

所在地	所在地	リオ・グランデ・ド・スール州バジェー郡フロレンサ村 VILA FLORENÇA, MUNICIPIO DE BAGÉ, ESTADO DO RIO GRANDE DO SUL.
	管理者 入植開始年度	集団独立 昭和44年3月

経緯	経緯	バジェー市近郊に昭和36年4月分益農で、外人農場に入植し以来段階的に借地営農にきりかえた4家族が、土地を共同購入して各ロッテに分割し、従来の蔬菜単作に果樹を加え、営農を安定させる計画をたて事業団が融資等でバックアップした独立移住地である。

自然条件	位置	W 54° 06' S 31° 20'
	地形	なだらかな波状地形、移住地の境界をなすバジェー川に向って、ゆるやかに傾斜している。
	地質・土壌	赤色プレリー土地帯に位置しているが、暗灰色味をおびた砂壤土である。心土層は白い粘土質で、表土は比較的浅く(50cm~40cm程度)軽い土で流亡しやすい。保水力も決して強い方でない、特に磷酸分が貧弱であるが、PHは5.5~6.5である。
	植生・林相	既成の牧場の1部である。
	気候	ウルグアイ型気象で、高原内陸性の夏乾冬湿がはっきりしている。年平均温度17.7℃、平均最高温度23.6℃、平均最低温度12.5℃、雨量1,414mm、降霜日数65日(1912年~1942年の平均資料による)

社会条件	交通	バジェー市中心街まで3Km、ポルトアレグレ市まで370Km、全線舗装されている。バジェー市の目抜き通りで、隔日移動朝市があるので直売小売を行うと共に市内の蔬菜取扱業者に卸売りをやっている。
	市場	又、ぶどうは1部ポルトアレグレ卸市場に共同出荷して、委託販売を行っている。
	近傍主要都市	バジェー市は、ウルグアイ国境より60Kmの地点に存在し、軍事上重要性をもち国境守備連隊が配置されている。又、大農場に広く取り囲まれた市で、商業も活況を呈し、また市全体として極めて落ちついた雰囲気をかもししている。市内人口約6万人
	医療・教育 治安	各病院は整備されており、教育は高校まで完備され、大学は経済・経理大学がある 良好

2 入 植 状 況

入と 植人 戸員 数	年度																			現 地 入 植 者	合 計	定 着 数
	戸数																			5	5	5
	人員																			22	22	22

昭和49年9月末

退耕者 なし

主なる出身県名	長 崎																			そ の 他	合 計
現 戸 数	4																			1	5

総 面 積	26 ha			
ロ ッ テ 面 積	5 ha ロ ッ テ 3 11 ha ロ ッ テ 1			
分譲条件および 価 格	ha 当り 2,000 CrSで購入			
分譲可能面積	周辺を購入可能(但し、時価CrS 10,000~12,000/ha)			
分 譲 状 況	分 譲 済 面 積	未 分 譲 面 積	道 路 市 街 地 等 利 用 地	除 地
	-	-	-	-
地 権 取 得	取得4名 申請中 名 未申請 名			
電 気 ・ 飲 料 水	電気は現在導入されていないが、郡役所に申請中。 飲料水は各ロッテに掘抜き井戸を設備している。			
地 区 内 道 路	私道であるが、良好な状態である。			

3 営 農

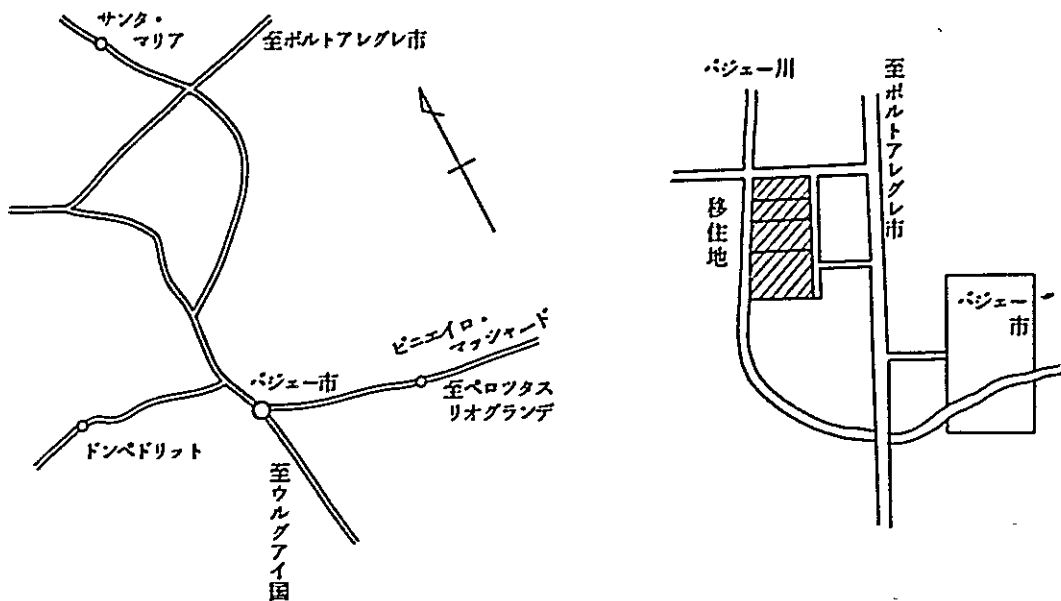
主 作 目	トマト、ぶどう、チシア、ニンジン
営 農 状 況	市場が比較的安定しているため、経営に無駄がなく営農の基礎が出来ている。 48年にポルト・アレグレ市場にぶどうを試験出荷した結果、後熟性がよく活かされた品種のため、高値を確保できているのでこれらを増産するとよい。
農 機 具 等 の 普 及 状 況	1戸当り平均 発動機 1.5 台、動噴 1 台、耕耘機 1.3 台、小型トラック 1 台、揚水ポンプ 1 台 (昭和48年度農経調査より)
営 農 指 導 機 関	① 事業団ポルトアレグレ支部 ② 協力機関として ③ 州農務局地区改良普及所

利用金融機関	銀行
主作目の販売取扱機関並びに主場	バジュー市朝市での小売直売およびぶどうのポルトアレグレ市場での委託販売
農家所得 (一戸当り平均) (昭和49年度)	53,800 CrS (推定)

4 組織活動

自治会	バジュー地区、日本人会(会員11名)があり新年会、勤労感謝祭等の慰安事業を行っている。
農協	農協はない、入植者千戸のグループ活動を中心としている。

5 地区略図



アルゼンチン国

〔政治〕

1810年スペインから独立し、1826年一応中央集権的な憲法が成立し「アルゼンチン共和国」の名称が決定した。その後、連邦主義派と中央集権派との争いが続き、大統領が次々と交代しパラグアイ戦争等を経て、19世紀末に政権は安定し豊富な農産物の輸出により、世界の富裕国の一つに数えられるに至った。その後1929年の世界恐慌の波を受け、軍事革命によって第二次世界大戦末期まで、地主階級による保守的政治体制が続いた。1946年第1次ペロン政権が誕生し、外国資本の排除と民族資本による自給自足体制の確立を目指し、強力に工業化を推進した。しかし、あまり急激な工業農業政策、或は国有化政策はドル不足、激しいインフレをひき起した。1955年にペロンの独裁政治は幕を閉じたが、1973年に再びペロン大統領が選出されるまでの18年間に10回の政権交代があり、政権は至って不安定であった。

アルゼンチンの政治を不安定にしている理由は、豊富な天然資源を有しながら慢性的なインフレに悩み、時代に適応した政策を実行しうる有能な政治家や政党が現われなかったことと、工業化が遅々として進まず、国民が農業生産だけで満足し得なかったこと、民衆と軍部の遊離、国民のナショナリズムの欠如等が挙げられる。

最近の政情は、1973年奇跡的にカムバックしたペロン大統領が、社会主義寄りの経済外交政策と意欲的な経済開発計画に乗り出したもの、ペロン党は極右から極左まで包含する寄合世帯で、内部の抗争がテロ行為の激化をひきおこし、政情不安が濃くなってきた。折しも1974年ペロン大統領の死去により、今後の政治の成行は予断を許さぬものがある。

〔政体〕 三権分立の立憲共和制である。

〔行政〕 中央行政権は、大統領が行使し地方行政区画は1連邦区22州、1直轄領よりなる。

〔立法・司法〕 立法権は議会にあり、69名の議員から成る上院と243名の議員とから成る下院の二院制で、司法権は最高裁判所及び下級裁判所がこれを行行使する。

〔政党〕 アルゼンチンは、元来小党分立であり、かつては100以上を数えたこともある。1973年の総選挙では、ペロニスタ解放戦線、急進党等が大政党として活躍した。また共産党も18年ぶりに合法政党となった。

〔経済〕

アルゼンチンの経済は、本来農牧業を基盤として発達してきたものであるが、第一次大戦後頃より急速な工業化を進めたあまり、膨大な資本財と技術を必要とし、却って農牧業の停滞と輸出の減少をきたし、高賃金政策はインフレを誘発し、経済のバランスが崩され1950年代より悪化の一途を辿っている。歴代の政権が苦慮してきたことは、経済成長を高めようとするインフレが昂進し、インフレを押えようとする経済成長が停滞するという悪循環であった。ここ数年の経済成長率は4%前後である。1972年の輸出総額19億3500万S、輸入総額18億9500万Sで1973年は27～8億ドルが見込まれている。主な輸出品目は食肉、羊毛、小麦、トウモロコシ、こうりゃん、皮革等で90%を占める。

〔農業〕 農業のアルゼンチン国内総生産に対する寄与率は13%にすぎないが、総輸出の85%を占める重要産業である。農牧生産の $\frac{3}{4}$ はパンパ平原からのもので、この平原の生産能力は世界有数とみられているが、資本投入量の不足、労働人口の過少、経営の非効率等により、生産性は低い。主要

農産物は小麦（並びにその他麦類）トウモロコシ、こうりゃん、ぶどう、牛肉等である。

林業資源は豊富で森林地帯は7000万haに及び、国際的に有名なタンニン原料に使われるケブラッチョ材は、世界供給量の60%を占める。水産業は比較的新しい産業である。

（工業） 歴史は新しいが、アルゼンチン経済に占める工業部門のウェイトは、1970年には35%以上に達している。近年発展の著しい部門は基礎金属、化学品、ゴム、プラスチック、金属機械部門等である。工業の大部分は大ブエノスアイレスに集っており、生産額の70%を占める。鉱物資源量はぼう大であるのに開発状況は緒についたばかりで、1.6%にすぎない。中南部アンデス山脈から大陸棚にかけて巨大な油田が存在する可能性があると見られている。

（社会）

南米大陸の南部の大半を占める面積277万6700平方km、1971年の調査では人口2430万人、人口密度1平方km 8.7名で人口増加率は1.5%と少い。住民の殆どはヨーロッパ系で、スペイン系とイタリア系が半々であり人口の $\frac{1}{3}$ がブエノスアイレス市に集中しているのが特長である。アルゼンチンは南米に於いて最もヨーロッパ的な国で、ヨーロッパ的生活様式をそのまま移植した感がある。各種商業活動の主導がユダヤ系に握られており、その数は多い。国民の大部分が移民の子孫で外国々籍をそのまま保持している一世も多く、出稼ぎ根性的なところがあり国民としての自覚はうすい。

衛生設備はアルゼンチンの高い生活水準を反映して非常によく普及しており、病院の設備もよい。

宗教は国民の85%がカトリック教である。

教育は、初等教育7年が義務教育で中等教育5年、大学は5～6年である。文盲率はラテンアメリカ中最低で、9%と推定される。

演劇が非常に盛んな国で劇場はブエノスアイレスだけで30もある。またスポーツでは、フットボールが盛んである。

アルゼンチン国民もラテン系共通の国民性を持ち、陽気である。

食事時間は、スペイン本国と同じ午後1時以後、夕食は8時半以後でブドウ酒を飲みながらゆっくり食事を楽しむ習慣がある。

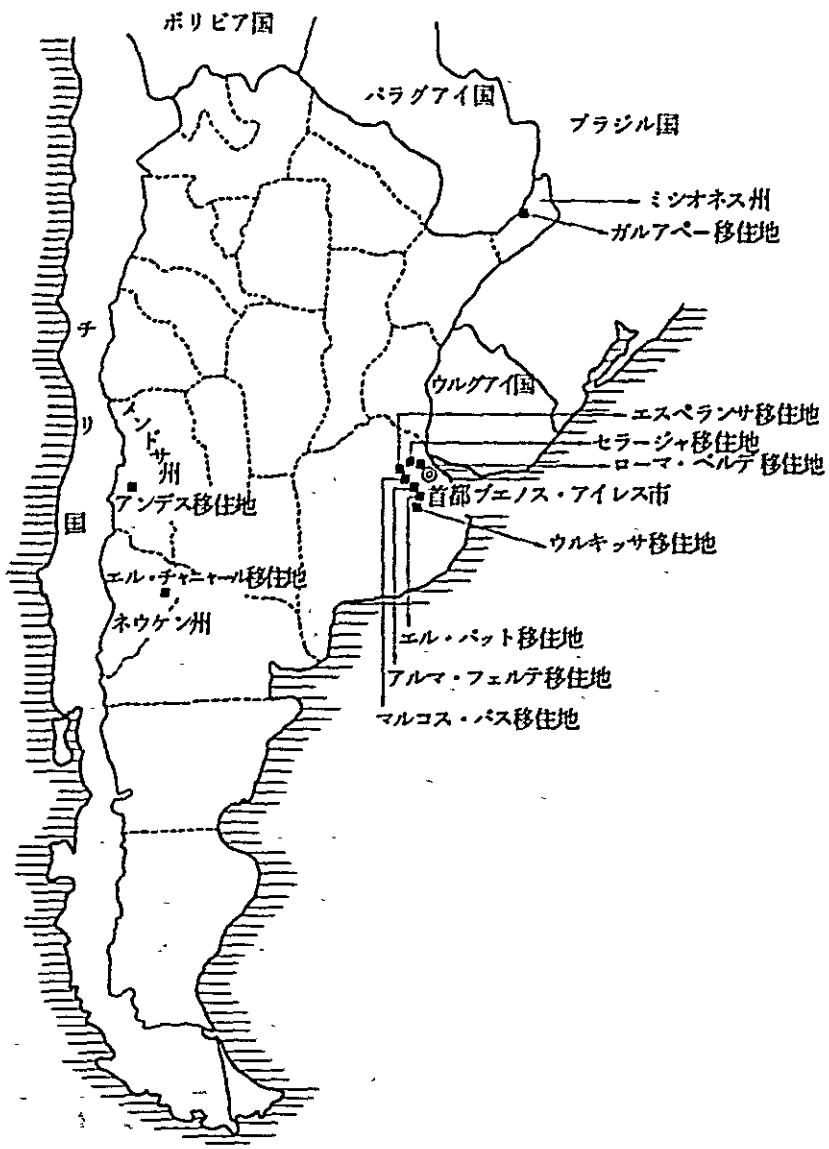
ブエノス・アイレス支部管内

支部機構

- ブエノス・アイレス支部 (ブエノス・アイレス市)
- ├ ガルアペー事業所 (ガルアペー移住地)
- └ アンデス事業所 (アンデス移住地)

管 轄

アルゼンチン国全域



移住地名 ガルアペー

1 地区概要

所在地	所在地	ミシオネス州リベルタドール・ヘネラル・サン・マルティン郡 GARUHAPE DEPARTAMENTO GRAL, SAN MARTIN PROVINCIA DE MISIONES
	管理者 入植開始年度	事業団 昭和34年

経緯	経	ガルアペー移住地の所在するミシオネス州は、移住者（戦前約100世帯、戦後約30世帯）がすでに在住してその大部分が農業に従事し、かなりの成功をおさめていたことから、亜国拓植協同組合（通称「亜拓」）が昭和30年 Luis M. Garacino 氏から220 haの土地を購入し、家族ならびに青年呼寄の母体として実習農場や種苗育成農場の経営をすゝめていた処、当地方の広大な土地を所有するGaracino 氏は日本人の勤勉さに目をつけ同氏の所有土地を日本人に分譲し、日本人移住地が実現すれば同地方の発展に大いに寄与するであろうとして亜拓に土地の分譲を申し入れた。これを契機に亜拓がアルゼンチン移民局に400家族の導入許可申請を行い昭和32年1月11日移民局から400家族の導入許可を取得して（但し1州80家族導入を限度とする）旧日本移住振興KKが同年8月3日 Garacino 氏所有土地の一部3,110 haを購入し、80家族の入植を目標とし移住地の造成が開始され昭和34年5月日本から第1陣4家族が入植した。
	緯	その後昭和40年までドミニカからの転住者12世帯を含めて84世帯が入植した。基幹作物としてとり入れた柑類にウィルスとみられる病害が発生したことで相当の被害を受け退耕するものがあつた。現在はブラジルから耐病性品種の導入、あるいは植林、牧畜、タバコ等作目の転換を計っており昭和49年8月25日電気も導入され安定の様相をみせつゝある。

自然条件	位置	W 54° 50' S 26° 50'
	地形 地質・土壌 植生・林相 気候	アルトパラナ河畔にあり、河に向かってゆるく傾斜している波状丘陵地標高250~300m 母岩は玄武岩、土壌でその風化土壌たるテラロソアは地味良、一部砂質地あり。 原生林・有用材木を含む。 雨期 乾期の別は判然としない。平均年間降雨量1,500 mm 内外最高平均気温33.3℃ 最低平均気温8.5℃
社会条件	交通	ミシオネス州の州都ポサダス市（人口約150,000人）より東北に160kmの国道12号線沿にあり、国道12号線はイグアスへの観光道路で舗装されている。

社 会 条 件	市 場	ボサードス市よりガルアペー間は、1日バスが数便あり所要時間約4～5時間である。
	近傍主要都市	本地区の中間市場はボサードス市、パラナ河を隔てた対岸のパラグアイ国エンカルナシオン市で主なる市場はブエノス市である。
	医 療・教 育	ボサードス市人口15万、陸路160Km、パ国エンカルナシオン市人口5万人、陸路160Km、水路2Km、プエルトリコ町人口5千人、陸路24Km
	治 安	地区内に診療所があり特約医師が週2日回診し看護婦が常駐している。急患はボサードス市の病院に護送することになっており移住地内には救急車1台が配属されている。小学校は州立86小学校が地区中央部にあり、中学校はプエルトリコ町にある。
		ア国警察官2名が常駐し移住地周辺の治安に当り警察屯所が2ヶ所あり、事業団より警備用オートバイ1台が貸与されている。

2 入 植 状 況

入植人員 (内地) 戸数と 人員	年 度	33	34	35	36	37	38	39	44	46	現 地 入植者	合計	定着数	
	戸 数	10	16	4	13	32	2	9	1	1	1	8	96	29
	人 員	53	86	19	59	175	6	27	6	3	3	30	464	143

(注) (1) 37年ドミニカ転住者12家族72名を含む。

昭和49年9月末

(2) 現地入植者には辻企業(3社)を1戸とし管理人1名。

(3) 退耕者ロッテ購入入植1戸を加え計上した。

(4) 分家完全独立1戸6名を加えて計上した。

退耕者の主なる転住先	ブエノス アイレス州	ミシオネス州	他 州	そ の 他	婦 国
率 (%)	71	20	3	0	6

主なる出身県名	北海道	長野	広島	宮崎	高知	亜国	韓国			その他	合 計
現 戸 数	4	3	3	3	3	1	1			11	29

総 面 積	3,110 ha			
ロッテ面積	30 ha 内外			
分譲条件および 価 格	一括払 521,300 円 分割払 頭金 52 千円 4年据置 5年分割払 利息 19%			
分譲可能面積	2,931 ha			
分 譲 状 況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除 地
	2,015 ha	916 ha	179 ha	0

地 権 取 得	取得3名 申請中7名 未申請18名
電 気 : 飲 料 水	昭和49年8月25日電化された(220ボルト) 飲料水は茶畑井戸14~15mの深さで極めて良質の水を得ることが出来る。
地 区 内 道 路	幹線は土道である。
主 なる 事 業 団 体	小学校1, 教員宿舍1, 診療所1, 警察屯所1
護 施 設	
車 輛	救急車1
組 合・所 有 施 設	組合事務所兼倉庫1
電 気 組 合	配電施設(配線距離 高圧20km 中圧40km)

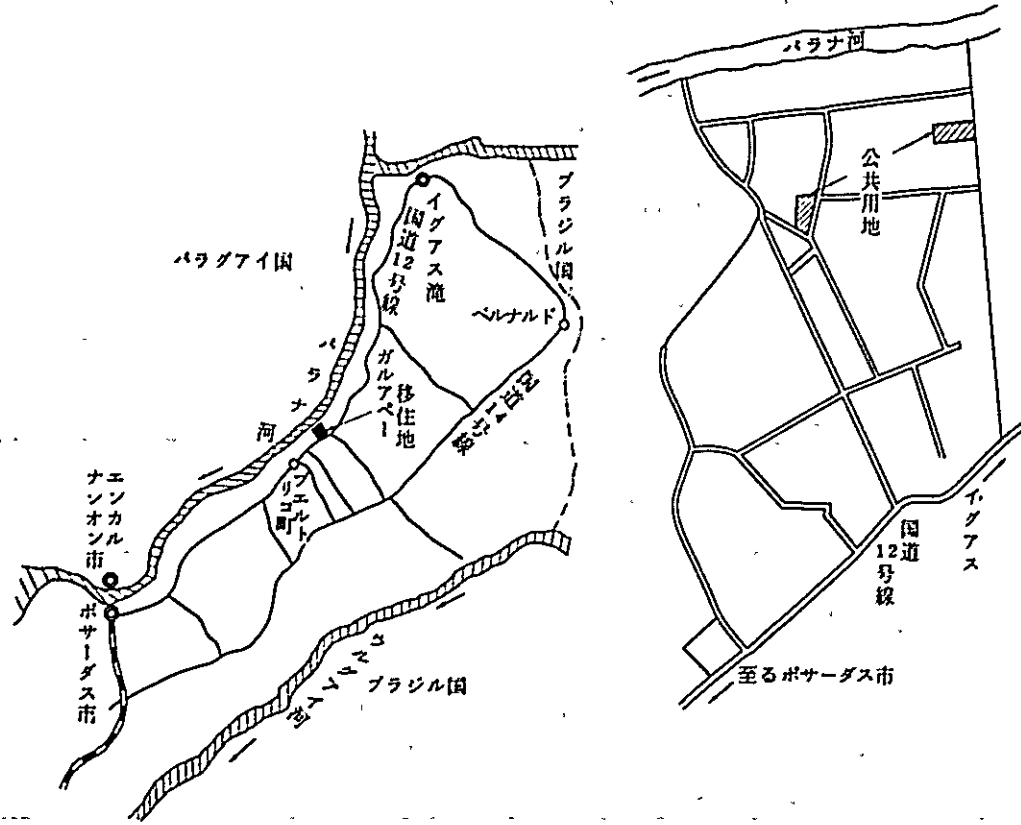
3 営 業

主 作 物	植林, 柑橋, タバコ, 植林用苗木, 牧畜, 油桐
営 農 状 況	柑橋および短期作のタバコが移住地の基幹作物となっているが, 営農のより一層の安定を図るため, 一部農家ですでに栽培, 飼育されている大豆, 肉牛, さらに植林が営農に組入れられつつある。
農 機 具 等 普 及 状 況	大型トラック0.1台, 小型トラック0.4台, トラクター0.5台, 動力噴霧機0.8台, 発動機0.4台, 耕耘機0.6台, 動力鋸0.9台, 乗用車0.1台(昭和48年度調べ農家1戸当り平均)
営 農 指 導 機 関	事業団ブエノス・アイレス支部, 同支部ガルアペー事業所 協力機関として, 農政庁外部団体のINTA(国立農業技術院)
利 用 金 融 機 関	銀行, 事業団
主 作 物 の 販 売 取 扱 機 関 並 び に 主 市 場	ガルアペー農協を通じ, 主にブエノス市であるがボサードス市にも出荷されている。
農 家 所 得 (一戸当り平均 昭和48年度)	1,017千円(36,018\$)

4 組 織 活 動

自 治 会	昭和42年から「ガルアペー日本人会」を結成している。 活動は学校, 治安, 道路維持の外, 会員相互の親睦を計っている。
農 協	組合員数20名の「ガルアペー農協」(法定)がある。
電 気 組 合	組合数26名(法定)

5 地区略図



移住地名 アンデス

1 地区概要

所在地	所在地	メンドサ州サンラフェル郡 ANDES DEPARTAMENTO DE SAN RAFAEL PROVINCIA MENDOZA
	管理 者	事業団
経緯	入植開始年度	昭和37年
経緯	経緯	アンデス移住地は、ガルアペー移住地に次いで集団移住地として旧日本海外移住振

経緯	経	興K.K.が、昭和34年5月、メンドサ州アトエルスード地区に1,312haの土地を購入し、亜拓が取得した日本人移住者導入許可条件（1州80家族を限度とする）に基づき、80家族の導入を計るべく設定されたものである。
	緯	同移住地一帯は年間雨量250～300mmの半乾燥地帯でアトエル川から灌漑用水を取り入れ灌漑を行っている典型的な灌漑農業地帯でぶどうを主体とし、アルゼンチンにおけるぶどう酒の主産地である。
条件	位	昭和35年現地入植を皮切りに昭和38年北米カリフォルニアで、派米短期農務者として就労経験をもつ青年10名が集団入植し、併せて昭和41年までに27家族が入植、うち4家族が退耕したが比較的安定率の高い移住地である。
	地	当移住地は気象災害が頻発し、特に霜害、雹害が初期の営農を大きく阻害して来たが最近ぶどう収穫量の増加と共に災害防除対策への関心も高まり、この数年で飛躍の期待される移住地である。

自然条件	位置	W 67° 50' S 34° 50'
	地形	標高600m、所々に起伏があるが概して東南に向ってゆるやかな傾斜をなす平坦地である。
条件	地質・土壌	植質土壌を含んだ砂質土で砂は粒子、頗る細かく粘土分も含まれているがその含有率は所により異なる。弱アルカリ性土壌でPHは7.5～8.0位。
	植生・林相	耐乾性の強い約40～70cm位の灌木類が密生しており、巨木はない。
条件	気候	1年を通じ最も暑い時期が1月で最高平均気温24.7℃、最も寒いのは7.9℃となっている。7～8月頃に1～2回雪の降ることがある。平均年間降雨量280mm

社会条件	交通	本地区は首都ブエノス・アイレス市より西方880km、州都メンドサ市より南々東330kmにある。ヘネラル・アルベアル市より西方14kmの地点にあり、ヘネラル・アルベアル市およびハイメ・ブラフン町（この間7kmは未舗装）レアル・デル・パドウレ町サン・ラファエル市に至る道路は舗装されている。
	市場	又、ブエノス・アイレス市、メンドサ市に至る鉄道もヘネラル・アルベアル市を起点として通じており、交通便至便である。
条件	交通	なお、メンドサ市へは毎日2回のバス便（所要時間約5時間半）があり、ブエノス・アイレス市へは汽車便（週2回）もあるが1日2往復（所要時間約15時間）の長距離バスが運行している。
	市場	航空便はサン・ラファエル市まで週3便、所要時間約4時間である。サン・ラファエル市からヘネラル・アルベアル市まで毎日3回のバス便（所要時間約2時間半）が運行されている。
条件	市場	本地区の所在するサン・ラファエル郡およびヘネラル・アルベアル郡にはブドウ酒醸造場が約100、缶詰および乾果工場が約70あり、その加工能力は非常に大きく全国を市場としている。なお、ぶどうの濃縮ジュース（モスト）ぶどう酒は、最近日

社 会 条 件	市場	本向け輸出も行われつつある。 生果は近傍都市で消費される外貨車およびトラックにてブエノス・アイレス市、コルドバ市方面へ出荷される。
	近傍主要都市	ハイメ・ブラッツ町人口7千、陸路7Km、ヘネラル・アルベアル市人口4万、陸路14Km、レアル・デル・パドレ町人口5千、陸路25Km、メンドサ市人口30万、陸路330Km、ブエノス・アイレス市人口3百万、陸路880Km
	医療・教育	医療は特約医が月1回回診している。病院はハイメ・ブラッツ町、ヘネラル・アルベアル市に総合病院がある外、ヘネラル・アルベアル市には十数軒の開業医院がある。 小学校は移住地入口より2Kmにあり、生徒は自転車または徒歩で通学している。なお、ヘネラル・アルベアル市には中学校、商業学校、農業専門学校、看護婦養成学校等がある。
	治安	治安状態は概ね良好、移住地より7Km地点のハイメ・ブラッツ町に駐在所があり警察官が常駐している。

2 入植状況

と 入 植 戸 数 員	(内地)	年度	38	39	40	41	現地 入植者	合計	定着数
		戸数	1	14	1	1	10	27	23
		人員	5	60	4	5	40	114	111

昭和49年9月末

退耕者の主なる転住先	メンドサ州	北米国	帰国
率 (%)	25 (1戸)	25 (1戸)	50 (2戸)

主なる出身県名	香川	佐賀	鹿児島	兵庫	岡山	熊本				その他	合計
現戸数	4	3	3	2	2	2				7	23

総面積	1,312 ha			
ロッテ面積	10 ha (標準ロッテ)			
分譲条件および 価格	一括払120万円 分割払 頭金12万円4年据置 5年分割利息19%			
分譲可能面積	1,240 ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	485 ha	755 ha	72 ha	0
地権取得	取得名、申請中名、未申請1名			

電 気：飲料水	昭和 42 年に全戸電化されている家庭用单相交流 220 V を使用。 飲料水は用水路に流れる灌漑水を地下水槽に貯水して利用している。 天水の利用も可能であり一部利用されている。
地区内道路	幹線は土道である。
主なる事業団援 護 施 設	宿泊所 1, 深井戸 4
車 輛	トラック 2 台, オートバイ 1 台, 給水タンク車 1 基
組合等所有施設	なし

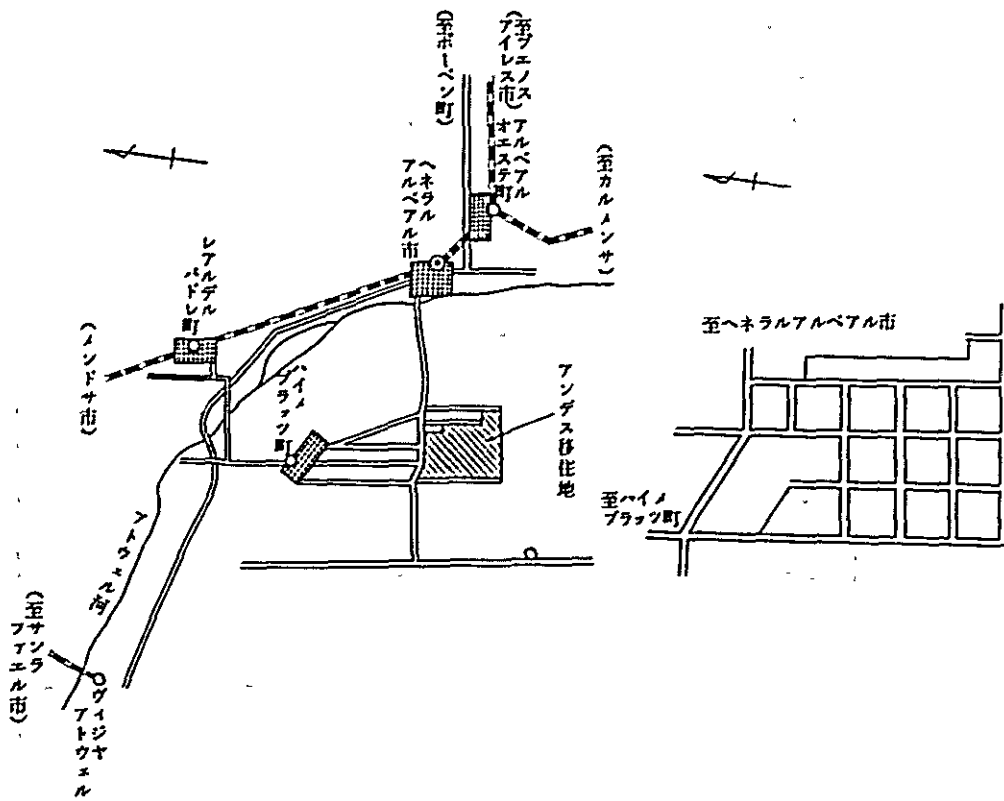
3 営 農

主 作 目	ブドウ、アルファルファ、桃、アズ、スモモ、トマト、イチゴ
営 農 状 況	永年作のブドウが営農の基幹をなし、これにより安定した収益をあげている。さらに半数近くの農家がトマト、アルファルファ（乾草）、イチゴをも栽培しており、一部カンピョウ、メロンの栽培もみられ、冬作として切干大根も有利な作目となっている。 なお、乾燥地帯であることからアルファルファ種子の採取も良く、また冬期の低温の苺苗の育成に適し早出し苺苗の需要が高まりつつある。
農機具等の普及 状 況	トラクター 0.32 台、小型トラック 0.36 台、動力噴霧機 0.34 台、セガドル 0.05 台、乗用車 0.23 台、オートバイ 0.36 台（昭和 48 年度調べ農家 1 戸当り平均）
営農指導機関	事業団でブエノス・アイレス支部、同支部アンデス事業所。 協力機関として国立農業技術院（INTA）
利用金融機関	銀行、事業団
主作物の販取 扱機関並びに主 市 場	<ul style="list-style-type: none"> ○ぶどう「日の出ぶどう醸造協同組合」 サンラフェエル市、ヘネラル・アルベアル市、ハイメ・ブラッ町各醸造所の外、半官半民の GIOL 醸造所と取引されている。 ○トマト レアル・デ・パドレ町、ヘネラル・アルベアル市の生果加工場と取引されている。 ○桃、アズ、スモモ 近傍乾果工場と取引されている。 ○カンピョウ、切干大根 「亜拓」その他ブエノス・アイレス邦人対象でかなりの需要がある。
農 家 所 得 (一戸当り平均 昭和 48 年度)	1,378 千円 (48,819 P)

4 組織活動

自治会	昭和49年アンデス協会が設立され、日語学校の運営、親睦等を目的として活動している外、先輩移住者を含む南部メンドサ日本人会が古くから結成されていて、会員相互の親睦と共にアルゼンチン中央日会に加入して当地方邦人の代表機関となっている。
農協	昭和39年5月「コロニアアンデス農業協同組合」(任意)を結成。現在は「日の出ぶどう醸造協同組合」(法定)と改称し、亜国系サン・ラファエル農協の傘下に入り、ブドウの集荷販売を主な事業としている。組合員数11名。

5 地図略図



移住地名 エスペランサ

1 地区概要

所在地	所在地	ブエノス・アイレス州モレーノ郡
		LUGAR MORENO PARTIDO: MORENO Peia BUENOS AIRES
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和42年

経緯	経緯	戦後移住した花卉青年等を対象に、その独立援護の一環として10～15戸（小移住地）の独立用地を事業団が概ね、ブエノス・アイレス市近郊50km内外に一括購入して、雇用契約満了後の青年に予約分譲方式によって分筆分譲して来たものである。独立用地は、当事業団ならびに独立希望者又亜拓の協力を得て、選定を行い現在までに7カ所の小移住地を設定76戸が入植している。当移住地は、その第1番目の小移住地である。

自然条件	位置	W 38° 45' S 34° 50'
	地形	全体として東南に向ってゆるやかな傾斜をなす。 平坦地、標高29～30 m
	地質：土壌	幾分粘土性のある黒色土、表土の深さ35～50 cm 排水性良好、地力は強く、カーネーション栽培に良。 地味は極めて肥沃である。
	植生・林相	牧草原野の一部で、樹木の自然植生は殆ど見られない。
気候	1～2月頃が最も暑い、最高平均気温22.4℃、6～7月が最も寒い、最低平均気温9.5℃ 平均年間降雨量850 mm	

社会条件	交通	国道197号線（舗装道路）を30分毎にバスが運行しておりホセ・セバス、モレーノに通じている。 ホセ・セバス、モレーノからブエノス・アイレスまで郊外鉄道線が通じている。
	市場	大半がブエノス・アイレス市である。
	近傍主要都市	ブエノス・アイレス市（首都）人口350万人、陸路50 Km、ホセ・セバス市人口11万、陸路15 Km、モレーノ市人口12万、陸路12 Km
	医療・教育	医療は近郊のホセ・セバス市モレーノ市の病院又は個人開業医院がある。 小学校は移住地より1.5 Kmに州立小学校がある。隣接地区入植の邦人子弟の中にはホセ・セバスの小学校にバス通学している者が多い。

治	安	治安状態は良好。
---	---	----------

2 入植状況

入植戸数 (内地)	年度	42	43	44	45	現入植者	合計	定着数
	戸数 人員					15 23	15 23	13 43

昭和49年9月末

(注) 全現地入植者。この外アンディーノ産組(法人)が1ロット購入し、バラ栽培を行っている。

退耕者の主なる転住先	ブエノス・アイレス近郊
率 (%)	100

主なる出身県名	東京	長野	神奈川	福山	その他	合計
現戸数	2	2	2	2	5	13

総面積	37 ha			
ロッテ面積	1.9 ha			
分譲条件および価格	一括払1,135千円 分割払頭金113,500円、4年据置、5年分割払利息19%			
分譲可能面積	35 ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	31 ha	4 ha	2 ha	0
地権取得	取得3名、申請中1名、未申請10名			
電気：飲料水	自家発電所有8戸、220ボルト使用 飲料水は深井戸60m前後で、良質水を豊富に得られる。			
地区内道路	土道である。			
主なる施設車輛	なし			

3 営農

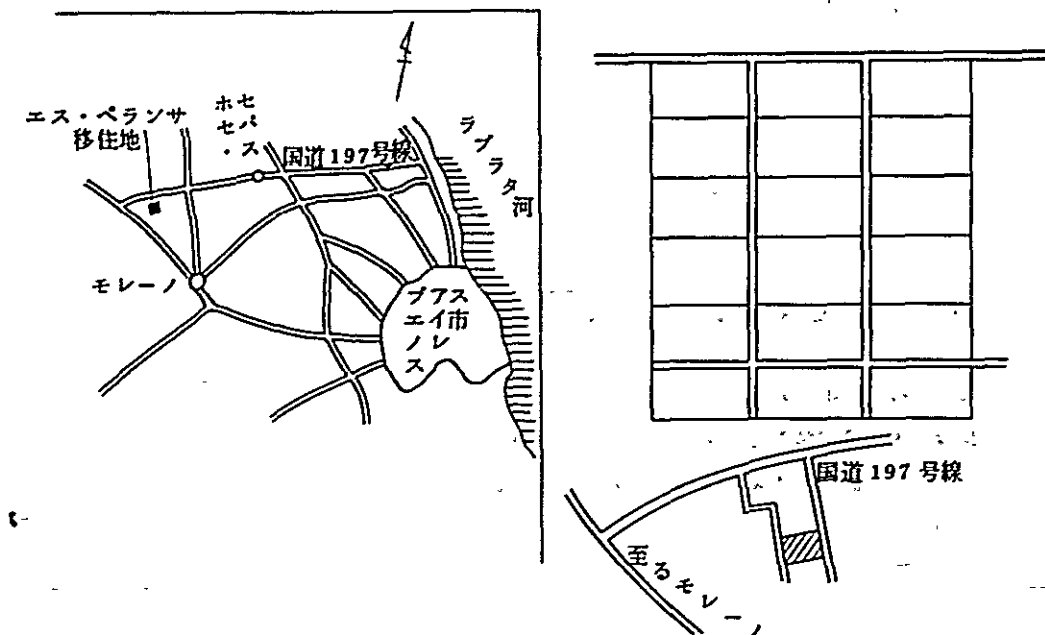
主作目	花卉、主としてカーネーション、バラ、イチゴ
営農状況	カーネーション、バラの切花を主体とし最近ではイチゴの温室内栽培を併せ行う者 菊の電照栽培も取入れる者が出てきている。
農機具等の普及状況	耕耘機8台、動力噴霧機7台、揚水設備(モートルポンプ)16基、発電機9基、 小型トラック10台、温室150棟
営農指導機関	事業団ブエノス・アイレス支部、協力機関としてINTA Jose C. Paz出張所。

利用金融機関	銀行, 事業団
主作物の販売取扱 機関並びに主市場	アルゼンチン花卉産業組合, ブエノス・アイレス市
農家所得 (一戸当り平均) (昭和49年度)	1,252千円(推定)

4 組織活動

自治会	なし
農協	近傍の「ニッパル花卉組合」(法定)に加入している。

5 地区略図



移住地名 アルマ・フェルテ

1 地区概要

所在地	ブエノス・アイレス州サンビセンテ郡 CUARTEL 8°- GLEW PARTIDO SAN VICENTE Pcia DE BUENOS
-----	--

所在地	所	AIRES
	管 理 者	事業団
	入植開始年度	昭和42年

経緯	経 緯	エスペランサ移住地を参照。独立用地の第2号移住地である。
----	-----	------------------------------

自然条件	位 置	W 58° 35' S 34° 45'
	地 形	全体に西に向ってゆるやかな傾斜をなす平坦地である。標高27~30m
	地 質・土 壤	表土は粘土性ある黒色土で、有機質に富み極めて肥沃である。表土の深さは平均40cmあり、花卉栽培に適している。
	植 生・林 相	牧草原野、自然生育の樹木はない。
気 候	乾期雨期の区分が明確でない。1~2月頃が最も暑い、最高平均気温28.4℃ 6~7月が最も寒い、最低平均気温6.0℃ 平均年間降水量890mm。	

社会条件	交 通	ブエノス・アイレス市からグリウまでは鉄道、バスが頻繁に往復している至便。グリウ駅からは本地区より200mの地点までバスが20分おきに往復しており道路は舗装されている。
	市 場	大半がブエノス・アイレス市である。
	近 傍 主 要 都 市	ブエノス・アイレス市人口350万人、陸路35km、グレイ市陸路3km
	医 療・教 育	本地より約3kmでグレイの市街中心地に達するので、その途中に小学校、診療所があり利用できる。
	治 安	治安状態は良好

2 入 植 状 況

人と(内地)植戸数員	年 度	43	現 地 入 植 者	合 計	定 着 数	(注) 全現地入植者 昭和49年9月末
	戸 数		15	15	15	
	人 員		44	44	57	

退 耕 者 な し

主なる出身県名	神奈川	その他	合 計	東京、宮崎、長野、福岡、静岡、群馬、愛媛、山梨、福島、秋田、鹿児島、新潟、熊本各1戸の計13戸
現 戸 数	2	13	15	

総 面 積	38 ha
ロ ッ テ 面 積	2.6 ha
分譲条件および価格	全区画分譲済

分 譲 状 況	分譲済面積
	38 ha
地 権 取 得	取得1名, 申請中1名, 未申請13名
電 気 : 飲 料 水	隣接市街地まで電気の供給があり近い将来電化される。 飲料水は深井戸60 m程度, 堀削すると良質の水が得られる。
地 区 内 道 路	土道である。
主なる事業団援護	
施 設	なし
車 輛	なし
そ の 他	なし

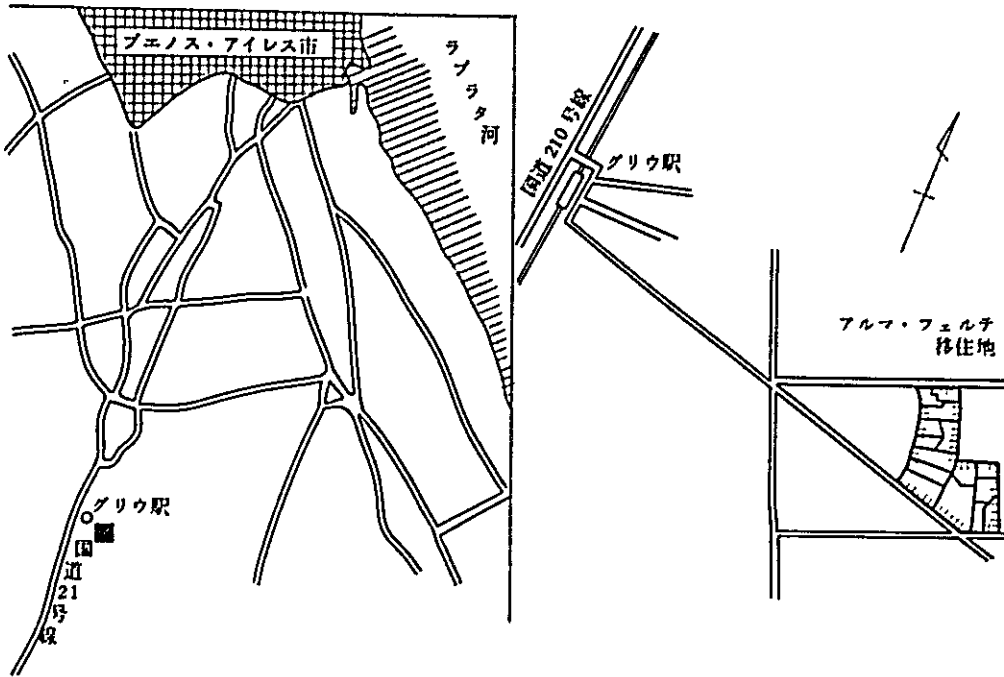
3 営 農

主 作 目	花卉, (カーネーション, パラ) イチゴ
営 農 状 況	花卉(カーネーション, パラ, 菊)の栽培を主体に, イチゴ栽培を併せ行っている者もあり, 営農は順調である。
農機具等の普及状況	トラクター7台, 耕耘機9台, 動噴9台, 揚漕水設備(モートルポンプ)14基, 温室136棟(1戸当り10棟), 小型トラック4台
営 農 指 導 機 関	事業団ブエノス・アイレス支部, 協力機関としてINTA Florencia Varela出張所。
利用金融機関	銀行, 事業団
主作目の販売取扱	アルゼンチン花卉産業組合
機関並びに主市場	ブエノス・アイレス市
農 家 所 得	1,361千円(推定)
(一戸当り平均) (昭和49年度)	

4 組 織 活 動

自 治 会	組織だったものは無い。邦人のグループとして交流親睦を行っているのみである。
農 協	なし

5 地区略図



移住地名 ローマ・ベルデ

1 地区概要

所在地	所在地	ブエノス・アイレス州エスコバル郡 COLONIA LOMA VERDE, DEPARTAMENTO BELEN DE ESCOBAR, Pcia DE BUENOS AIRES
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和44年

経緯	経緯	エスベラソサ移住地を参照。独立用地の第3号移住地である。
----	----	------------------------------

自然	位置	W 58° 43' S 34° 21'
	地形	平坦地で標高約30m程度、ゆるやかな傾斜が西に流れている。
	地質・土壌	沖積土地帯であり表土は粘土質の黒色土で有機質に富み肥沃である。表土の深さは平均40cm程度で花卉栽培に適している。

条 件	植生・林相 気 候	牧草原野 乾期雨期の区別が明確でない。1～2月頃が最も暑い最高平均気温29.8℃ 6～7月 が最も寒い、最低平均気温3.9℃、年間平均気温15.9℃、平均年間降雨量855mm
--------	--------------	---

社 会 条 件	交 通	ブエノス・アイレス市より陸路56kmである。道路は舗装されている交通至便
	市 場	大半がブエノス・アイレス市である。
	近傍主要都市	ブエノス・アイレス市 人口350万人、陸路56km、エスコパール市より8km(国 道9号線)
	医 療・教 育	移住地より8kmの地点にエスコパール市の中心に達するので市内の小学校、中学校、 病院等を利用出来る。
	治 安	治安状態は良好

2 入 植 状 況

人 と 植 入 者 数 員	年 度	44	45	46	現 地 入 植 者	合 計	定 着 数
		戸 数				15	15
教 員					34	34	52

昭和49年9月末

主なる出身県名	青 森	神奈川	その他	合 計
現 戸 数	2	2	10	14

総 面 積	42 ha	
ロ ッ テ 面 積	2.8 ha	
分譲条件および価格	全区分譲済	
分 譲 状 況	分譲済面積	道路市街地等利用地
	41 ha	1 ha
地 権 取 得	取得名申請中名未申請15名	
電 気・飲 料 水	昭和49年度に地区内の電化が完成、ブエノス・アイレス州電力局より配電をうけて いる。 飲料水は深井戸60m程度を掘削すると良質の水が得られる。	
地 区 内 道 路	土道である。	
主なる施設・車輛	なし	

3 営 農

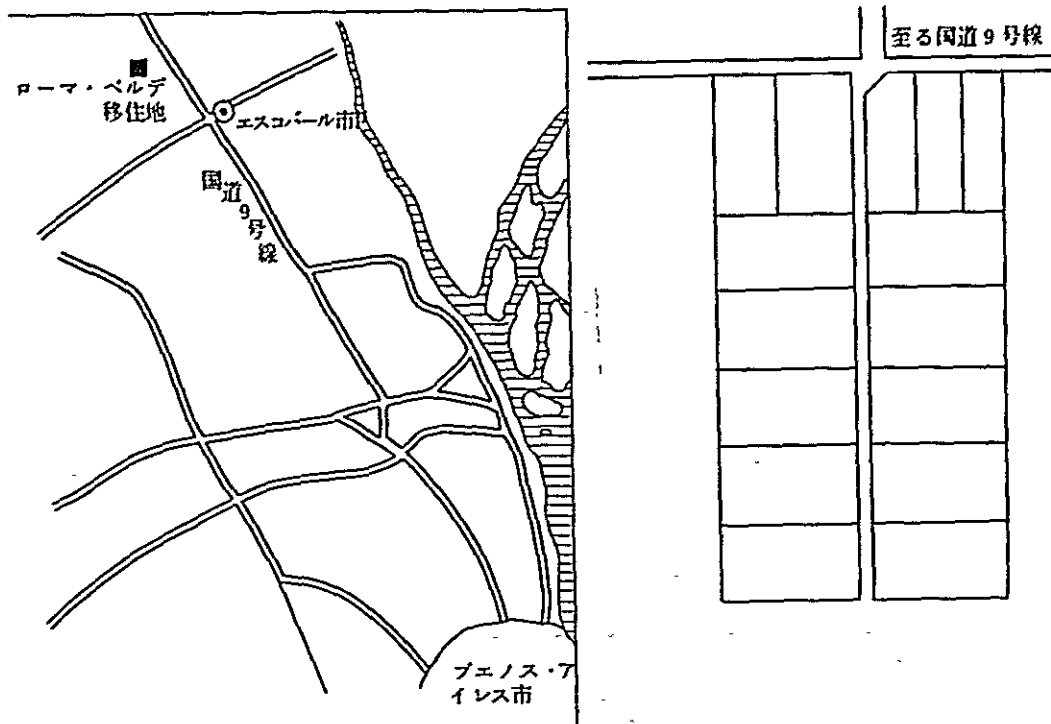
主 作 目	花卉、養豚
営 農 状 況	バラを主体にカーネーション、イチゴを栽培、養豚、養蜂を併せ行う者もある。

農機具等の普及状況	トラクター2台, 耕耘機9台, 動噴11台, 小型トラック8台, 温室120棟 (1戸平均12棟)
営農指導機関	事業団ブエノス・アイレス支部, 協力機関として INTA Delta 試験場
利用金融機関	銀行, 事業団
主作目の販売取扱機関並びに主市場	アルゼンチン花卉産業組合 ブエノス・アイレス市
農家所得 (1戸当り平均昭和49年度)	1,780千円 (推定)

4 組織活動

自治会 農協	組織だったものは無い。邦人のグループとして交流親睦を行っているのみである。 なし
-----------	---

5 地区略図



移住地名 マルコス・パス

1 地区概要

所在地	ブエノス・アイレス州マルコス・パス郡 MARCOS PAZ KM49, RUTA NO. 200 MARCOS PAZ Pcia BUENOS AIRES
管理者	事業団
地入植開始年度	昭和45年

経緯	エスペランサ移住地を参照。独立用地の第4号移住地である。
----	------------------------------

自然条件	位置	W 58° 51' S 34° 73'
	地形	東西に約 1270 m 南北に約 1.240 m の地形でゆるやかな傾斜が西より東に流れている標高平均 30 m
	地質・土壌	沖積土地帯であり表土は黒色の砂壤土で有機質に富み肥沃である。黒色表土の深さは約 30 cm であるがそれ以下 50 cm 程度まで褐色砂壤土であり花卉栽培に適している。
	植生・林相	樹木の植生は 1 本も見られない
気候	1~2 月頃が最も暑い最高平均気温 30.1℃, 6~7 月頃が最も寒い最低平均気温 4.5℃, 平均年間雨量 938 mm	

社会条件	交通	移住地よりマルコス・パス市まで約 2.5 km でブエノス・アイレス市とマルコス・パス市間は国鉄およびバス便があり所要時間は国鉄は約 1 時 20 分バス約 40 分交通至便
	市場	大半がブエノス・アイレス市人口 350 万人, 陸路 45 km, マルコス・パス市人口 25 千人
	医療・教育	マルコス・パス市に小学校 13 校, 中学校 2 校がある。
	治安	病院は慈善病院 1 院, 個人病院 4 院がある。 治安状態は良好

2 入植状況

人と(植人戸地数員)	年度	45	46	現地人植者	合計	定着数
	戸数					
人員				30	30	36

昭和49年9月末

退耕者 なし

主なる出身県名	東京	香川	沖縄	その他	合計
現戸数	3	2	2	7	14

(注) その他の内訳

千葉 山口, 高知, 神奈川, 北海道, 青森, 熊本各1戸の計7戸

総面積	40 ha
ロッテ面積	2.9 ha
分譲条件および価格	全区分譲済
分譲状況	分譲済面積
	40 ha
地権取得	取得3名 申請中名 未申請11名
電気・飲料水	昭和48年7月に電化された。飲料水は約50m程度堀削すると良質の水が得られる。
地区内道路	土道である。
主なる施設車輛	なし

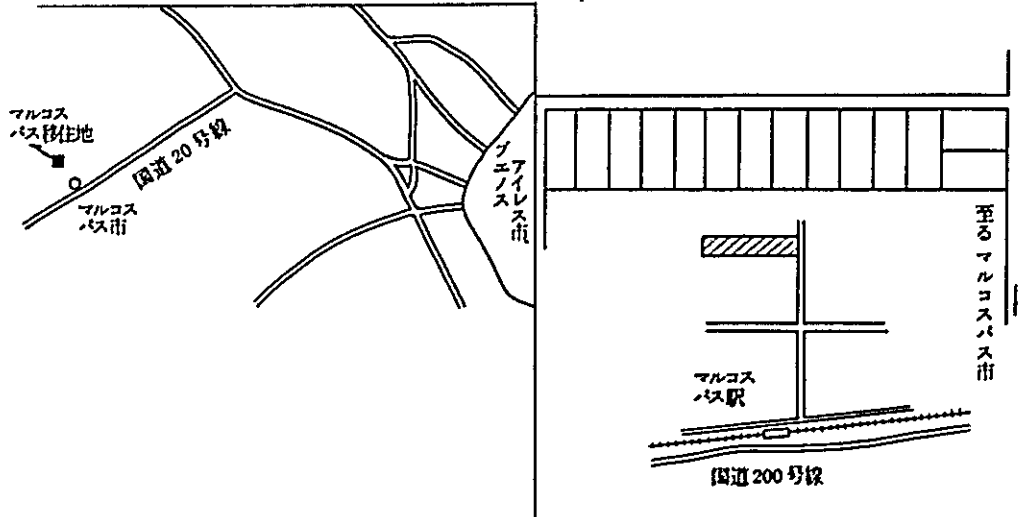
3 営 農

主 作 目	花卉, 養蜂
営 農 状 況	カーネーションを主体として営農を行っておりバラ, 電照菊の栽培を取入れつつある外一部養蜂もみられる
農機具等の普及状況	トラクター4台, 耕耘機8台, 動噴13台, 小型トラック7台, 温室120棟(一戸平均8棟)
営農指導機関	事業団ブエノス・アイレス支部
利用金融機関	銀行, 事業団
主作目の販売取扱機関並びに主市場	アルゼンチン花卉産業組合 ブエノス・アイレス市
農 家 所 得 (一戸当り平均昭和49年度)	1,385千円(推定)

4 組 織 活 動

自 治 会	組織だったものは無い。邦人のグループとして交流親睦を行っているのみである。
農 協	なし

5 地区略図



移住地名 エル・パット

1 地区概要

所在地	所在地	ブエノス・アイレス州ベラサテギ郡 KM41 RUTA NACIONAL PARTIDO DE BERAZATEGUI, Pcia DE BUENOS AIRES
	管理者 入植開始年度	事業団 昭和46年

経緯	経緯	エスペランサ移住地を参照 独立用地の第5号移住地である。
----	----	---------------------------------

自然	位置	W 58° 12' S 34° 55'
	地形	全体的にみて、やや波状形の平坦地で南方に向ってゆるやかに傾斜している。 標高平均 28 m
	地質・土壌	沖積土地で表土は若干粘土性のある黒色壤土で有機質に富み極めて肥沃である。 表土の深さは平均 40 cmで 50 cm以下は良質の粘土性を帯びた黒色土で花卉栽培に適している。

条件	植生・林相	樹木の植生は見られない。
	気候	1～2月頃が最も暑い，最高平均気温 28.4℃ 6～7月頃が最も寒い，最低平均気温 6.0℃ 平均年間降雨量 893 mm

社会条件	交通	移住地より東方約 1.5 Kmの地点には国道 2 号線（ブエノス・アイレス～マルデルプラタ）が通っており両市間ならびにブエノス～ラ・プラタ市間を往復するバスの外周部各都市を結ぶ長距離バスが頻繁に往復している。 国道 41 Kmの地点にバス停留所があり、これより北方 5 Kmのところエル・パットがある。 バス・鉄道何れによっても、ブエノス・アイレス市までの所要時間は約 1 時間程度である。
	市場	大半がブエノス・アイレス市
	近傍主要都市	エル・パット町 陸路 5 Km ノルチョール・ロメロ町 陸路 17 Km アバスト町 陸路 17 Km ラ・プラタ市（州首都）人口 50 万陸路 29 Km ブエノス・アイレス市人口 3 百 50 万人 陸路 41 Km
	医療・教育治安	移住地より東北にあるエル・パット町に小学校・診療所がある。 治安状態は良好，エル・パット町に警察駐在所がある。

2 入植状況

入と 植戸 数員 (内地)	年度	46	47	48	49	現地 入植者	合計	定着数
	戸数					13	13	13
	人員					52	52	59

昭和 49 年 9 月末

退耕者なし

主なる出身県名	福 岡	その他	合 計
現 戸 数	3	10	13

総 面 積	37 ha		
ロ ッ テ 面 積	2.6 ha		
分譲条件および価格	全区分譲済		
分 譲 状 況	分譲済面積	道路市街地等利用地	
	34 ha	3 ha	
地 権 取 得	取得 名	申請中 名	未申請 名
地 区 内 道 路	土道である。		

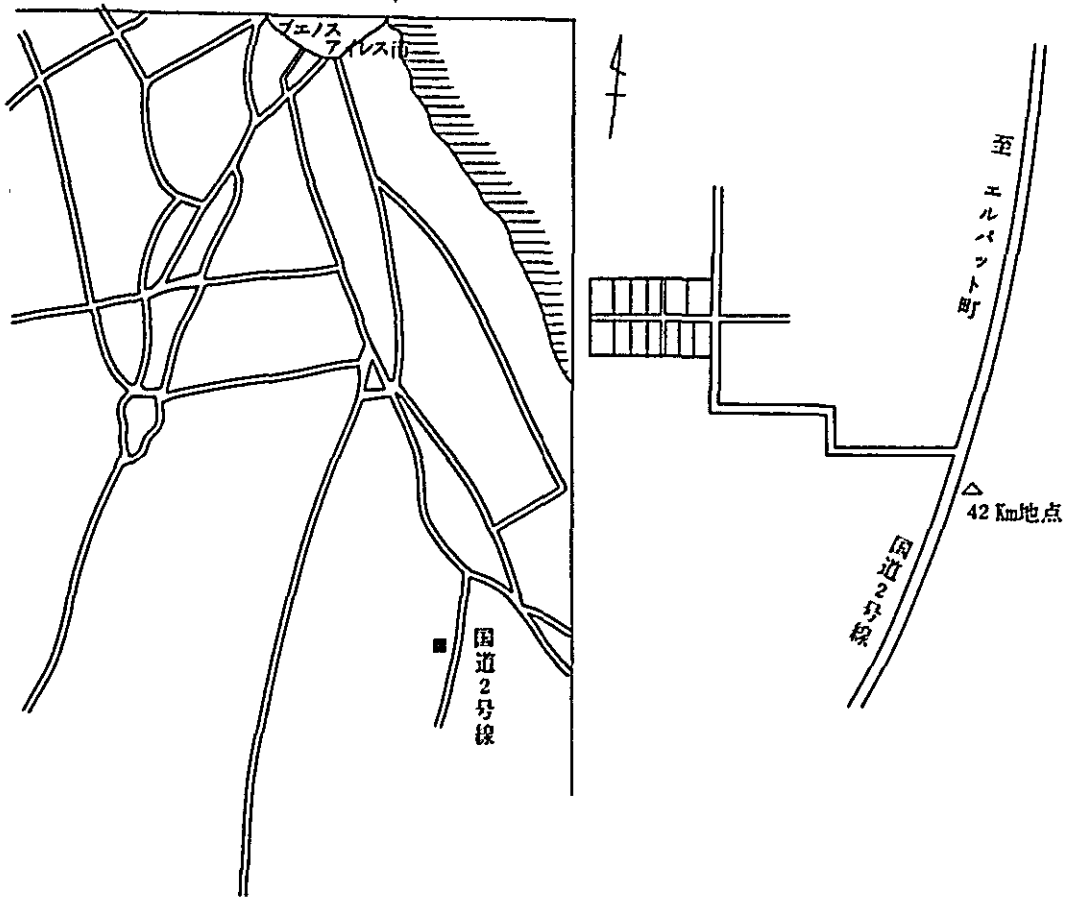
3 営 農

主 作 目	花卉、カーネーション
営 農 状 況	カーネーションを主体とした花卉栽培中他の小移住地に比し営農規模がやや小さいが順調な営農の進展を続けている。
農機具等の普及状況	トラクター3台、耕耘機3台、動噴10台、小型トラック6台 温室77棟（一戸平均7棟）
営 農 指 導 機 関	事業団ブエノスアイレス支部、協力機関としてINTA・Florencio Varela出張所
利 用 金 融 機 関	銀行、事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	アルゼンチン花卉産業組合 ブエノスアイレス市、ラ・プラタ市
農 家 所 得 （一戸当り平均） （昭和49年度）	1601千円（推定）

4 組 織 活 動

自 治 会	組織だったものは無い。邦人のグループとして交流親睦を行なっているのみである。
農 協	な し

5 地図略図



移住地名 セラージャ

1 地区概要

所在地	所在地	ブエノスアイレス州ピラル郡 BARRIO ZELAYA PARTIDO DE PILAR Pcia DE BUENOS AIRES
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和47年

経緯	経緯	エスベランサ移住地を参照、独立用地の第6号移住地である。
----	----	------------------------------

自然条件	位置	W 58° 52' S 34° 19'
	地形	全体的やや平坦な地で南方に向ってゆるやかに傾斜している。
	地質・土壌	沖積土地帯で表土は若干粘土性のある黒色壤土で有機質含有量は普通である。 表土の深さは 18 ~ 28 cm で下層は黒色粘土層である。
	植生・林相	一部 0.2 ~ 0.3 ha エーカリの植木があり放牧中の牛の日除けに利用されている外は 全面原生草地である。
気候	1 ~ 2 月頃が最も暑い、最高平均気温 29.8℃ 6 ~ 7 月頃が最も寒い、最低平均気温 3.9℃ 平均年間降雨量 855 mm	

社会条件	交通	移住地は国道 8 号線と 9 号線の中間地点にあり東方約 4 Km には州道 25 号線(ピラル市、エスコパル市)が通っており両市を往復するバスの外、ピラル市、エスコパル市地点では南北都市を結ぶ長距離バスが頻繁に往復している。 ブエノスアイレスおよびベルガミーノ市を結ぶ鉄道が移住地の北方を通過しており、700 m 北方にセラージャ駅がある。 バス・鉄道何れによってもブエノスアイレス市までの所要時間は約 1 時間 30 分程度である。
	市場	大半がブエノスアイレス市である。
	近傍主要都市	セラージャ町人口 4,000 人 陸路 700 m エスコパル市人口 5 万人 陸路 7 Km ピラル市人口 52,000 人 陸路 10 Km ブエノスアイレス市人口 350 万人 陸路 52 Km
	医療・教育 治安	移住地より北方 700 m にセラージャ町があり、小学校・診療所がある。 治安状態は良好、セラージャ町に警察駐在所がある。

2 入植状況

入と 植 戸 数 員 (内地)	年度	47	48	49	合計	定着数
	戸数				11	11
	人員				28	28

退耕者 なし (注) 全現地入植者 昭和 49 年 9 月末

主なる出身県名	北海道	その他	合計
現戸数	3	8	11

(注) その他の内訳
岩手、鹿児島、大阪、福島、愛媛、長野、青森、
群馬各 1 戸計 8 戸

総面積	30 ha
ロッテ面積	2.7 ha

分譲条件および価格 分譲状況	全区分譲済
	分譲済面積 30ha
地権取得 地区内道路 主なる事業団 援護施設 車輻 組合等所有 施設 その他	取得名 申請中名 未申請 11名 土道である。 なし なし なし なし

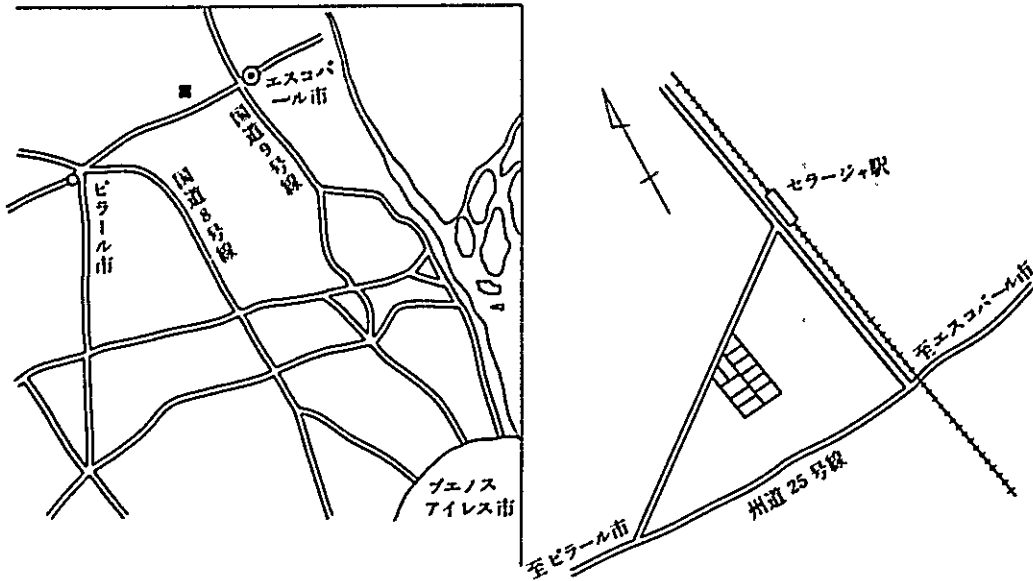
3 営 農

主 作 目	花卉（カーネーション・バラ）
営 農 状 況	カーネーション・バラを主体とした花卉栽培で入植の日も遅く営農規模も小さいが、営農は順調な進展を続けている。
農機具等の普及状況	耕耘機4台 動噴5台 小型トラック3台 揚水設備9基 温室59棟（1戸平均6.5棟）
営農指導機関 利用金融機関	事業団ブエノスアイレス支部、協力機関としてINTA Delta 試験場 銀行、事業団
主作物の販売取扱機 関並びに主市場	アルゼンチン花卉産業組合 ブエノスアイレス市
農 家 所 得 （一戸当り平均） （昭和49年度）	1,056千円（推定）

4 組 織 活 動

自 治 会	組織だったものは無く邦人のグループとして交流親睦を行なっているのみである。
農 協	なし

5 地区略図



移住地名 エル・チャニヤール

1 地区概要

所在地	所在地	ネウケン州アネロ郡 PROVINCIA DEL NEUQUEN DERARTAMENTO AÑELO
	管理者 入植地開始年度	事業団 昭和48年
経緯	経緯	エスペランサ移住地を参照 独立用地の第7号移住地である。今日迄の小移住地設定については花卉市場の将来性に対する懸念あるいは花卉栽培のみならず果樹栽培への希望者もあつてエル・チャニヤール移住地はブエノスアイレス近郊から離れてネウケン州にリンゴを中心とした果樹栽培移住地を設定した。
自然条件	地形	ネウケン河 河床地帯にて耕作可能、河岩巾(河の北岸)約4.5Km台地の距離約30Kmの平坦地であり標高約280mである。
	地質・土壌	リオ・ネウケンの沖積土壌であり砂質植壤土ないしは砂質壤土とみられる。色状は灰褐色を示し垂直分布は約2~3mであり下方は礫質である。 但し河岸に近いロッテ中には礫の混合している処もある。

自然条件	植生・林相	ハリヤ・ビーキリン・チャニヤール・サンバア等乾燥地特有の灌木が見られる。 高さ1m程度。又植林以外は自然発生の森林はない。
	気候	1～2月が最も暑い、最高平均気温 22.5℃ 6～7月が最も寒い、最低平均気温 6.9℃ 平均年間降雨量 209 mm
	市場	大半がブエノスアイレス市である。
	近傍主要都市	ブエノスアイレス人口 350 万人 陸路 1,196 Km ネウケン市人口 17,000 人 陸路 40 Km シボレエティ市人口 2 万人 陸路 46 Km
	医療・教育	ビジャ・マンサアノ町に小学校と中学校がある。 高等学校、大学校はネウケン市にある。 医療は簡単な医療施設はビジャ・マンサアノ町にあるが重症患者はネウケン市の病院に行かねばならない。
	治安	治安状態は良好である。

2 入植状況

入植もないため 昭和 49 年 9 月末 1 戸 4 名であるが、このほかに非居住 5 世帯でブエノス近郊に居住している。

総面積	76 ha
ロッテ面積	10.9 ha
分譲条件および価格	全区分譲済
分譲状況	分譲済面積 76 ha
地権取得	取得名 申請中 名 未申請 7名
電気・飲料水	ビジャ・マンサアノ町まで送電されて居り移住地内配電工事実施中 220 V 50 サイクル 3 相交流である。 飲料水は約 10 m 程度掘削すると水が得られる。
地区内道路	移住地内は砂利道である。
主なる施設車輛	なし

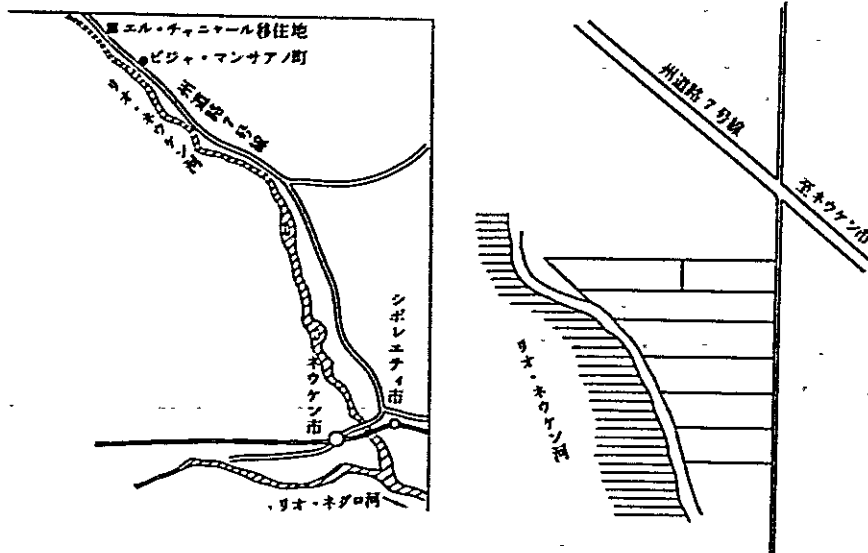
3 営 農

主 作 目	リンゴ、ナシ、アルファルファ
営 農 状 況	リンゴ栽培を主体とした営農を行なっている。 入植後日も浅くまた、1戸の入植者を除き6戸が未だブエノスアイレス近郊にて花卉栽培を続けながら、現地に管理人をおき営農を行なう形態を取っている。
農機具等の普及状況	リンゴ、アルファルファの生育は順調である。 トラクター5台 動噴7台 大型トラック3台 小型トラック4台 (注) ブエノスアイレス近郊花卉、蔬菜園にて使用中のものを含む。
営 農 指 導 機 関	事業団ブエノスアイレス支部、協力機関としてEl Chañar 移住地管理事務所
利 用 金 融 機 関	銀行、事業団
主 作 目 の 販 売 取 扱 機 関 並 び に 主 市 場	リンゴ出荷組合
農 家 所 得 (一戸当り平均) 昭和 年 度	昭和49年からリンゴの植付を開始したところで収入はない。

4 組 織 活 動

自 治 会	組織だったものは無い。
農 協	なし

5 地 区 略 図



ブエノスアイレス市近郊移住地

概 況

ブエノスアイレス市は、ラ・プラタ河の左岸に展開し、凡そ半径 50 Kmの範囲内をグラン・ブエノスアイレスと称されアルゼンチン総人口 2,336 万人（1970年センサス）のうち 36%に当る 835万人が居住している。このグラン・ブエノスアイレスの周縁に日本人の集団地ならびに当事業団創設の小移住地が散在し、アルゼンチン国政府農事審議会（Consejo Agrario Nacional）あるいはブエノスアイレス州政府創設にかかるとる移住地、その他個人所有土地の分割分譲地がある。

日本人の主な栽培作物は花卉栽培であり、カーネーション・バラ・菊が多くこの花卉栽培は戦前、北部のエスコパール方面から発展し戦後フロレンシオバレーラ・ウルキッサ方面にまで拡がりを見せ、小資本、小面積でしかも短期間に安定した収益を得られたため、戦後移住者で特に青年、またボリビア・パラグアイ国からの転住者の独立あるいは再起に最も有利な業種として広まりをみせている。

主な日本人集団移住地

移住地名 または地区名	所在地	日本人入植者数		経営主体
		戸数	人数	
ラス・バンデータス Las Banderitas ビジャ・エリサ Villa Eliza ポルテーニョ Porteño アルトゥーロセギー Alturo Sezui サンタ・モニカ Santa monica	Colonia Urquiza MELCHOR ROMERO LA PLATA (隣接のエスタンシャチーカ (Estancia Chica) 個人所有土地分譲地入植を含む)	戸 109	(22人) 553人	農事審議会 Consejo Agrario Nacional
	Colonia Las Banderitas	23	(1) 130	ブエノスアイレス 州政府
	CITY BELL LA PLATA			
	Villa Eliza	27	(1) 143	個人所有土地 分割分譲地
	CITY BELL LA PLATA			
	Porteño	3	11	個人所有土地 分割分譲地
	CITY BELL LA PLATA			
	ALTURO SEGUI LA PLATA	7	36	個人所有土地 分割分譲地
	EX Estancia Chica de Deker	36	(4) 179	個人所有土地 分割分譲地
	ABASTO LA PLATA			
		205	(28) 1,052	

注 ()内数字は単身者人数を示す。

以上の移住地はブエノスアイレス市から凡そ 50 Km 概ね南部に位置し、戦後に開発された地帯でウルキッサ移住地を除く他の移住地は雇用青年あるいはガルアペー移住地またはポリビア・バラグアイ 国からの転住者が相当数入植し、日本人集団地を形成して来た。

ウルキッサ移住地はアルゼンチン国農事審議会の直営移住地であってアルゼンチン人農業者の独立農創設とブエノスアイレス市ならびにラ・プラタ市へ蔬菜の供給を目的として創設されたものでアルゼンチン以外に ICEM (欧州政府間移住委員会) に 100 ロッテを留保し欧州からの移住者の入植を認めた。折しも 1961 年 (昭和 36 年) 12 月フロンデイン大統領訪日の際アルゼンチン側は派米農業青年制度に着目し、同制度修了者を導入すればアルゼンチン農業開発に大いなる貢献を行なうであろうとの期待のもとに特別措置として派米青年の入植を許可することとなった。最初は 9 戸 (90 ロッテ) であったが、日本側の追加申請により更に 3 戸 (3 ロッテ) が認められ最終的には 13 戸が入植することとなった。また本移住地には亜国人と同様に農事審議会に直接申請し、その選考を経て日本人が 13 戸入植し合計 26 家族で日本人入植者は移住地の約 1/3 を占めスペイン・イタリー・ポルトガルその他各国系入植者で構成されるウルキッサ移住地では大きな比重を占めるに至っているものである。

営農は、蔬菜を目的として創設された移住地であるが蔬菜の価格が極めて不安定のため温室による花卉栽培が始まり農事審議会もこれを認め、現在ではウルキッサを中心とした周辺は大きな花卉生産地として発展しているものである。

パラグアイ国

〔政治〕

当国は1940年（昭和15年）の新憲法制定以来現在まで軍部の行政権への関与等により、憲法上の諸原則は事実上死文化の状態にある。従ってその時の政府与党による独裁政治となり、反対党の政治活動は禁止されその首謀者の殆どが海外に亡命、反政府活動を行ってきている。現ストロエスネル大統領は、革命により政権を取得して以来、国家予算の40%近くを軍、警察関係に使い治安の強化に努め、3軍の最高司令官として軍部を掌握、独裁政治をおこなってきた。しかしながら、ラ米の独裁政権の相次ぐ崩壊とその民主化への風潮並びに米国よりの民主化への強い要望もあり1963年（昭和38年）の大統領及び国会議員の選挙においては、従来の与党の単独選挙を止め、反対党よりの立候補及び政治活動を認め、又1965年（昭和40年）実施された地方自治体選挙においては、公開投票方式であったが一応自由選挙を実施、除々に民主的政治形態を導入、民主化の方向に進みつつある。然るに、1966年（昭和41年）5月特別国民会議にて現憲法の一部改正が満場一致で決議され、1967年（昭和42年）5月の国民投票により国民議会代表120名の3分の2にあたる80名を与党が獲得、大統領の3選禁止を規定している。第47条を含む現憲法の改正、現政権の長期政権担当の方向に進みつつある。

〔政体〕 3権分立主義の立憲共和政体であり国の元首及び行政府の長として大統領、立法府として1院制の代議院、司法府として最高裁判所以下の裁判所がある。

〔行政〕 行政の長は大統領でその任期は5年就任6ヶ月前の国民総選挙により選出される、副大統領の制度はない。

〔立法・司法〕 立法政府である代議院は住民2万5千人に1人の割合で国民が選出する議員で構成され、任期は5年、改選は大統領選挙と同時にされる。司法権は3人の裁判官より構成され最高裁判官は国家評議会の同意を得て大統領が任命し任期は5年である。

〔政党〕 現在の議員定数は60名で与党のコロラド党40名、野党のリベラル革新党20名である。

〔経済〕

パラグアイの経済構造は多くの低開発国と同様、農牧林業の第一次産業に基礎を置いている。又同国は鉱物、石油等の天然資源の乏しい国であり伝統的な政治不安と相俟って経済開発は困難を極めたが近年漸く政情も安定し1961年（昭和36年）の「進歩のための同盟」成立以来、中期経済開発計画を策定し、世銀、米国等の援助により経済開発の途についた。

〔農牧林業〕 1971年（昭和46年）においては、1～3月の降雨、洪水による農産物の被害、輸出の伸び悩みと輸入の急増による国際収支の悪化等要因があり経済成長も70年の5.7%から4.5%程度に落ち込んだ。72年は農業生産の大幅な伸び特に製材、輸出用肉加工等の生産の大幅増加があり、経済成長は5.5%を記録し、又国際収支も農産物の輸出増加（肉製品、大豆、香料原料等）を反映し1,600万ドルの黒字を記録する等おおむね順調に推移した。

〔工業〕 工業の大部分は一次産業品の加工による消費財の生産に限定され軽消費財生産が総工業生産の70%を占めており大部分は私企業である。国営産業はセメント、食肉加工、アルコール精製の分野に限定されている。70年10月政府は工業開発促進のため経済及び社会開発のための投資法を制定し、旧法律に比して免税範囲、期間等に関し優遇措置を強化していることが注目される。

(社 会)

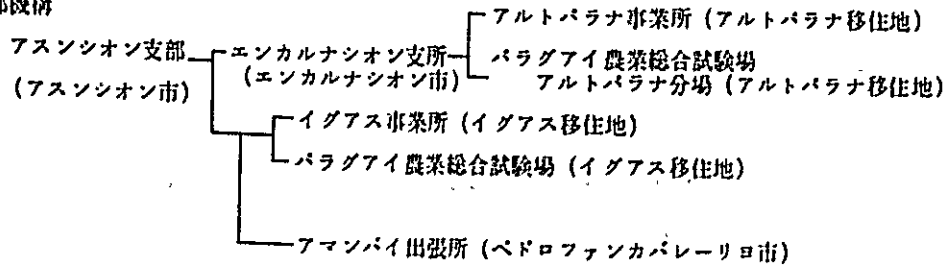
パラグアイ国民の中心を形成しているのは、原住民のグアラニー族とスペイン人との混血である。グアラニー族にはマヤ、アステカ、インカの様な高度の土着文化はみられず、16世紀後半から植民地時代にかけて移住してきたスペイン人等のヨーロッパ人との同化は、独立後の鎖国政策の影響もあり、急速に進み、他の南米諸国と異なり、国民の90%がいわゆるパラグアイ人と呼ばれる混血で占められている。又その文化は、ヨーロッパ文化とグアラニー・エスパニョールと呼ばれる文化形態を作り出している。このグアラニー・エスパニョールの精神が今日のパラグアイの民族思想の基礎となっており、当国民はラテン文化の伝統を受け継ぐと共に土着のグアラニー精神を堅持している事を非常な誇りにしている。公用語はスペイン語であるが国語は原住民の言葉であるグアラニー語であり都市部においては前述の2つの言葉が混合して使われているが地方においては日常会話は殆どが、グアラニー語である。信仰の自由は認められているが国教はカトリックで国民の殆どが熱心なカトリック信者である。

教育は文部省の管轄下であり普通教育と職業教育の2つに分かれる。普通教育は小学校(6年)中学校3年)高校(3年)及び大学(5~6年)があり、職業教育は、士官学校、警察学校、師範学校、商業学校、工業学校がありその修業年限は5~6年である。小学校は義務教育である。

一般大衆は食物が豊富で生活は割合楽に出来るため楽天的なんびりした生活を送っている。早朝5時頃には国民飲料ともいうべきマテ茶を一家で飲み談笑してから働きに出かける。昼食後1~2時間昼寝する習慣がある。

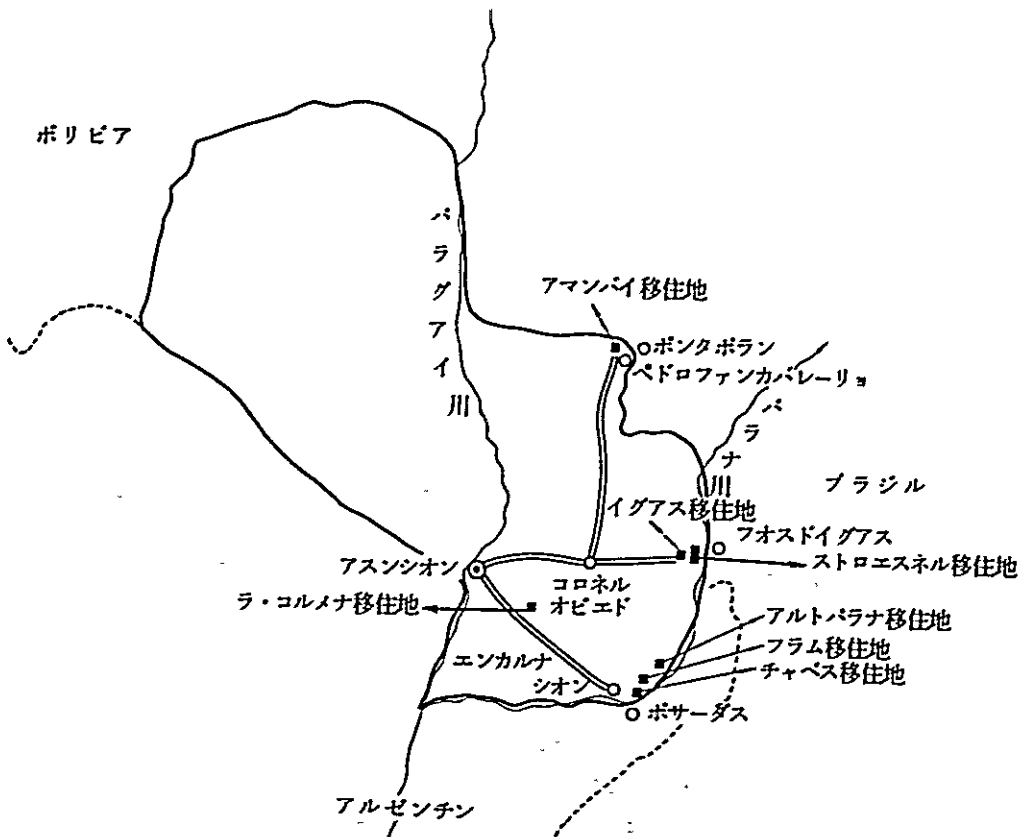
VI アスンシオン管内

支部機構



管轄地域

パラグアイ国全域



移住地名 フ ラ ム

1 地区概要

所在地	所在地	イタプア県カルメン郡(自治区アペレア)トリニダ郡 COLONIA FRAM JURISDICCION DE CARMEN DEL PARANA DEPARTAMENTO DE ITAPUA
	管理者 入植開始年度	事業団 昭和30年
経緯・位置・地形	経緯	海外移住振興会社が1956年(昭和31年)にフラム土地会社の所有地のうち16.057haを分割購入し造成した移住地である。 (購入価格 26.600千円) 1955年(昭和30年)フラム土地会社の分譲地に6家族が入植したのがはじまりである。 入植者のうち一部はアペレア地方のロシア人移住地の古い耕地を入手し落着いたものもある。 その後1956年(昭和31年)末には広島県沼津町を中心とした分村的移住、更には1957年(昭和32年)には高知県大正町を中心とした数ヶ町村からなる集団移住が行われる等、1960年(昭和35年)代にほぼ満植となり今日に至っている。
	位置	W 55° 50' S 27° 10' エンカルナシオン市の西北35 Kmに位置する。
	地形	パラナ河より奥地に向いゆるやかな傾斜で高まり移住地内は比較的起伏に富み、波状形を呈している。 地区内には、数本の小川が流れており、標高は最高200m最低180mで平均標高は約190mである。
	自然条件	地質・土壌 地質は極めて良好で玄武岩を母岩とした風化土壌で一般にテラロシャといわれている赤褐色粘土質土壌である。 低地ではテラロシャ土層薄く斜面にあつては、礫層岩盤が散見される。 土壌は表層は植壤土又は植土であり、下層は植土で粘土粒子であり、一般に微粒である。土壌構造は透水性通風性良くPHは5.5程度の弱酸性である。 植生・林相 高地は亜熱帯植林(グッタングー、カナフィスト、ラオ、等)が続き、低地は湿地性灌木材及び耐湿草本が繁茂している。 有用材はすでにその殆どが資材として伐り出されておりその量は僅かである。 気候 気温はアルトパラナ移住地と大差はない。最高平均気温29.5℃、最低平均気温15.3℃年間平均気温22.6℃である。

自然条件	気候	<p>乾期は12月～2月の最夏期、雨期は9月～11月の春先から初夏とされているが特に明瞭な区分はない。年間平均降雨量は2,000mm程度。</p> <p>降霜・降雹等</p> <p>降霜：冬期7日～12日（強度の降霜は年2～3回）</p> <p>降雹：9月～11月の春期に2～3回軽度の降雹あり。</p> <p>降雪：なし</p>
------	----	---

社会条件	交通	<p>アスンシオン市～エンカルナシオン市間370Kmでエンカルナシオン市から移住地中心まで約45Km（国道6号約18Km、国道から移住地約27Km）。</p> <p>その間国道6号は砂利舗装であり国道入口から道路は盛土による簡易造成道路となっている。</p> <p>なお国道6号線は近い将来、パラグアイ三角道路建設計画の一辺として完全舗装化される予定である。</p> <p>移住地とエンカルナシオン市間には毎日2往復のバス便が運行されている。（移住地間は幹線を走行）</p>
	市場	<p>エンカルナシオン市が最も近い市場であり、殆どの農産物はエンカルナシオン市で取引されるが、一部青果等は首都アスンシオンまで出荷・販売されている。</p> <p>国道6号線の舗装が実現すればアスンシオンという国内唯一の消費地と移住地が直結するということになり一段と国内消費向け生産物の市場拡大が予測される。</p>
社会条件	近郊主要都市	<p>エンカルナシオン市：人口5万、移住地中心より約45Km。</p> <p>ポサダス市：（アルゼンチン領）エンカルナシオン市パラナ河の対岸で渡舟約15分。</p>
	医療・教育	<p>移住地市街地（センター）に当事業団直営診療所（入院可能）があり、医師1名（日本より派遣）看護婦3名、その他2名が常駐している。救急車1台配置。</p> <p>余程の重症患者でない限り当診療所において治療・手術している。また週一回、当事業団現地特約医による歯科巡回診療が行われている。</p> <p>移住地には、小学校3校、中学校1校あり、それぞれ教員宿舎を設け、優秀教師の確保に努めている。</p> <p>特に中学校（Liceo Nacional de Fram）は、ペ国文部省（20%）当事業団（80%）両者の助成金により市街地に建設されたもので日系子弟中等教育の拠点となっている。（全員寄宿制）</p> <p>また移住地では移住者子弟の日本語教育を行うため、現地正規授業の余暇、土・日曜を利用して日本語学校が開校（3校）されており、国語教育を中心にそれぞれ地元父兄負担金、及び当事業団助成により運営されている。</p> <p>なお、現地日語教師を指導するため、昭和46年度より文部省推せんによる日語教師1名が派遣されパラグアイ管内の指導にあたっている。</p>

社会条件	治	安	<p>移住地市街地には、判事事務所があり、判事1、書記1が常駐し民事的な比較的軽易な案件を取扱っている。</p> <p>重要案件は、事務手続きのみ行い実際はエンカルナシオン地方裁判所に移行されている。</p> <p>また警察はサンタローサ、ラパス、富士の3ヶ所に屯所が設置されており各々署長1、兵士4名が常駐し移住地内の治安維持にあっている。</p>
------	---	---	---

2 入植状況

人植戸数(内と地)人数	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数		47	99	111	37	77	1			1		
	人数		294	495	540	196	397	6			4		
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49	現地入植者	合計	定着数	
戸数									83	456	229		
人数									443	2,375	1,307		

(注) 単身、呼寄を含まない。

昭和49年9月末

退耕者の主なる転住先	ブラジル	アルゼンチン	バ 国 内	婦 国	そ の 他
率 %	3	40	38	11	8

主なる出身県名	高 知	愛 媛	広 島	北 海 道	福 岡	徳 島	宮 城	熊 本	東 京	鹿 児 島	山 形	神 奈 川	そ の 他	合 計
戸 数	72	31	27	20	20	7	7	6	6	4	3	3	23	229

(注) 戸数は非農3戸を含む経営戸数。

総 面 積	16,056 ha			
1 ロ ッ テ 平 均 面 積	25 ha			
分 譲 条 件 及 び 価 格	25 ha 一括払、邦貨160千円。分割払、(4年据置4年均等年賦) 202千円。			
分 譲 可 能 面 積	15,493ha (4年据置4年均等年賦) 202千円。			
分 譲 状 況	分譲済面積	未分譲面積	道路、河川、市街地等	除 地
	15,216ha	277ha	563ha	0
地 券 取 得	農 地	取得342名 437通 申請中 2名 7通 未申請 2名 2通		
	市 街 地	" 9名 9通 " 6名 6通 " 4名 4通		
電 気 ・ 飲 料 水	電気はまだ導入されていない。燈火としては、一般的に石油圧縮ランプが使用されているが、市街地中学校、診療所等公共施設には自家発電による電気が供給されている。			
地 区 内 道 路	飲料水は各戸、各施設とも井戸水を利用している。			
	地区内の道路は毎年地区の道路委員会の負担により補修されているが、降雨時にお			

主なる事業団 援護施設 車輛 農協等所有 施設 車輛	ける損耗も激しく個所によっては、抜本的な改修を必要としている。 なお、チャベス移住地よりフラム移住地への幹線および地区内幹線・支線を併せ、道路延長は約180Kmに及んでいる。 小学校3（教員宿舎を含む）、中学校1（教員宿舎、寄宿舎を含む）、診療所1（医師、看護婦宿舎を含む）、判事事務所1、警官屯所3、公民館1、倉庫1、救急車1台、治安用オートバイ1台、トラック1台（アルトバラナと共有） 組合事務所3（チャベス支所は含まず）、倉庫2、宿泊所2、稚蚕共同飼育所1 トラック4台、オートバイ1台
---	--

3 営 農

主 作 目	永年作物：油桐 短期作物：大豆、とうもろこし、小麦 その他：養蚕
営 農 状 況	かつて主幹作物は油桐であったが低価が長く続いたことにしびれをきらしたことと手っとり早く雑作地を増やすため、これを伐採してしまった者も多く現在の主体は大豆または養蚕と変わってきた。 特に大豆はもともと日本人移住者がこの国に初めて持ち込んだ作物であるが、イタブア地方の肥沃な土壌によく成育し、その品質の良さと相俟ってバ国における植物油生産の伸びと共に需要が旺盛となりまた機械化による経営規模も拡大され、作付面積は年々増加している。養蚕についても日本からの乾繭工場進出と同時に導入されて以来年々順調に伸びてきており、石油ショック以来絹製品の需要が伸びないため少し低落気味ではあるものの製糸工場の進出も時間の問題であり将来なおいっそうの発展が期待される。
農機具等の普及状況	脱穀機1台、脱粒機0.3台、発動機1台、動力噴霧機0.7台、耕耘機0.4台、運搬用機械0.6台、トラクター0.4台、コンバイン0.05台（昭和48年度調べ農家1戸当たり平均）
営 農 指 導 機 関	移住地内には営農指導機関はないが、当事業団アルトバラナ試験場及びエンカルナルオン支所が指導に当たっており、また必要に応じてバ国関係当局の指導、協力を受けている。
利 用 金 融 機 関	銀行、事業団
主作物の販売取扱機 関並びに主市場	生産物はほとんど農協を通して出荷している。 販売先：大豆：輸出（ヨーロッパ方面）または国内搾油会社 油桐：国内搾油会社 蚕：日本からの進出会社
農 家 所 得 (昭和48年度一) (戸当たり平均)	819千円（1,843千円）

移住地名 チャベス

1 地区概要

所在地	所在地	イタプア県プレシデンテ、フェデリコ、チャベス COLONIA PRESIDENTE FEDERICO CHAVES DEPARTAMENTO DE ITAPUA
	管理者	パ国政府農村福祉局
地	入植開始年度	昭和29年

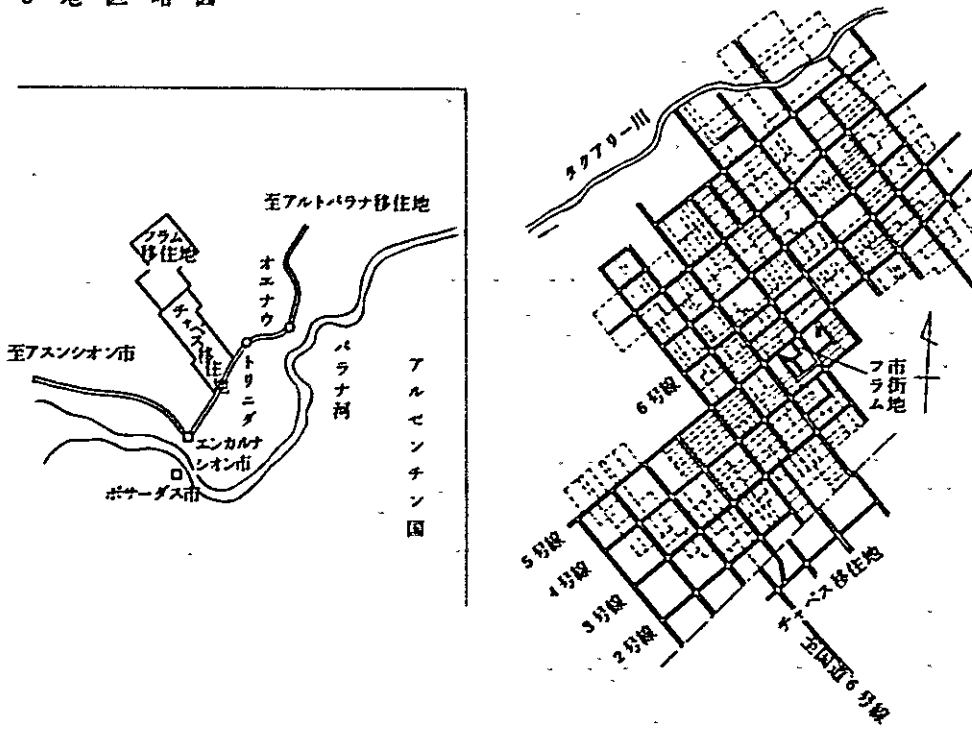
経緯	経	昭和28年パ国政府が貧民救済と農業国として繁栄をはかることを目的として国内の有望農業地帯であるイタプア県内の民有地を買収し当時の農業改良局管理のもとに創設されたもので、時の大統領の名前を記念してFEDERICO, CHAVES 移住地と命名した。
	緯	昭和27年有限責任ブラジル拓殖組合がラ・コルメナ移住地に日本人120世帯を導入の枠を取得したが入植適地が殆どなかったため受入不能の状態であった。当時在パの笠松、石橋氏等は、この状態の打開をかねて当チャベス移住地に日本人を導入すべく引受機関として「日芭拓殖組合」(戦後邦人移住者受入れの組合)を設立し併行して120家族(各戸当り20ha)受入の枠を取得した。そこで先ず第1陣として昭和28年にラ・コルメナ移住地より日本人家族8世帯(戦前移住者)が転住した。その後、昭和29年に日本から第1陣6家族を受入れ、以来昭和34年まで入植した。この地区は他のフラム、アルトパラナ等の事業団造成の移住と異り日芭混合の移住地である。 現在は58世帯に減少しているが転耕の主な理由は殆ど造成されず、移住の建設に参ってしまった者、仲間同志の感情的対立による者等をあげることが出来る。 移住者は現在、大豆、養蚕、桐実、牧畜、とうもろこし、棉等で経営を行い営農生活の安定をみるに至っている。

自然	位置	W 55° 40' S 27° 21'
	地形	パラナ河より奥地に向ゆるやかな傾斜で高まり移住地内は比較的起伏に富み波状形を呈している。地区内の数本の小川が流れており標高は最高200m最低180mで平均標高190mである。
	地質・土壌	地質は極めて良好で玄武岩を母岩とする風化土壌で一般にテラロシヤと言われる赤褐色粘土質である低地ではテラロシヤ土層薄く傾斜面にあつては表面近くに礫層岩盤が散見される。土壌の表層は植填土、または植土下層は植土で粘土粒子で一般に微粒である。土壌構造は透水性通風性よくPHは5.5程度の弱酸性である。

4 組織活動

<p>自治会</p> <p>農協</p>	<p>フラム自治会</p> <p>全戸が加入しておりサンタローサ、ラパス、フジ3地区自治会を統合したものである。</p> <p>(主たる業務)</p> <p>道路負担金徴収、諸届事務代行、治安、教育等関係事務。</p> <p>その他諸行事の企画、実施等。</p> <p>以上、業務を中心とした積極的な活動を行っている。</p> <p>「フラム農業協同組合」(法定)を組織し、販売部、購売部、信用部、運輸部、総務部の5部門があり、各部門毎に独立採算制で堅実な運営を行っている。下部組織として移住地を3分して「フジ支所」「ラパス支所」「サンタローサ支所」の3支所にチャベス移住地内「チャベス支所」がある。</p> <p>現在チャベス移住地を含み276戸農家で、231戸が組合に加入している。また、昭和50年1月にはレンガ2階建の新庁舎、職員宿舎、倉庫等落成し順調な発展を遂げている。</p>
----------------------	---

5 地区略図



条 件	植生・林相	高地は亜熱帯樹木グワタング、グワイカ、カナフィスト等が続き低地は湿地性樹木林及び耐湿草本が繁茂している。用材として利用される樹木類ラバーチ、ローロネグロ、インシュソン等は既に建材板材家具等の資材として伐り出されておりその量は少ない。
	気 候	9月～11月の春先から初夏にかけて雨期、12月～2月の夏期間が乾期と言われているが特に区分はない。冬期の年平均降雪数7～12日、9～11月の春夏期にて2～3回軽度の降雪があり降雪はない。最高平均気温 29.5℃ 最低平均気温 15.3℃ 平均年間降雨量 2248 mm

社 会 条 件	交 通	エンカルナシオン市の東北20kmに位置しているので交通は至便、道路は舗装されていないが良く管理されている。
	市 場	エンカルナシオン市と対岸ア国ボサーダス市およびアスンシオン市が主な市場である。
	近傍主要都市	エンカルナシオン市人口5万、陸路20kmア国ボサーダス市人口15万、陸路20km、水路2kmアスンシオン市人口40万、陸路390km
	医 療・教 育	移住地内小学校2校あり自転車等で通学している。中学校はフラム中学校に寄宿通学またはエンカルナシオン市内の中学校高等学校に下宿通学している。 医療は隣接のフラム移住地内にある事業団の診療所（日本より派遣医師常住）または、エンカルナシオン市の国立病院を利用している。
治 安	移住地内にはカピタンミランダ警察管轄の派出所があり警官1名、兵士4名が駐在して治安に当たっている。	

2 入 植 状 況

入と 植人 戸地 数員	年度	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	戸 数		9	99	21	2							
人 員		62	645	147	10								4

41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	現 地 人 植 者	合 計	定 着 数
	1									37	170	58
	6									155	1,029	325

昭和49年9月末

退耕者の主なる転進先	アルゼンチン国	ブラジル国	パ 国 内	そ の 他	帰 国
率 (%)	28	4	57	4	7

主なる出身県名	北海道	和歌山	宮城	山口	熊本	香川	愛媛	鹿児島	その他	合計
現戸数	14	10	8	6	3	3	3	2	9	58

総面積	68,000 ha			
ロッテ面積	20 ha			
分譲条件および価格	一括払20 haGS 44,000 分割払 据置なし 5年均等年賦GS 17,600			
分譲可能面積	65,500 ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除
	65,500 ha	0 ha	2,500 ha	0 ha
地権取得	取得700名 申請中300名 未申請200名			
電気：飲料水	フラム移住地、記載事項とほとんど同一			
地区内道路	幹線は砂利舗装支線は盛土である。			
主なる事業団援護施設	小学校2 教員宿舎1 組合事務所兼倉庫1 共同販売所1			
組合等所有施設	フラムと同一農協であるためフラムの項参照			

3 営 農

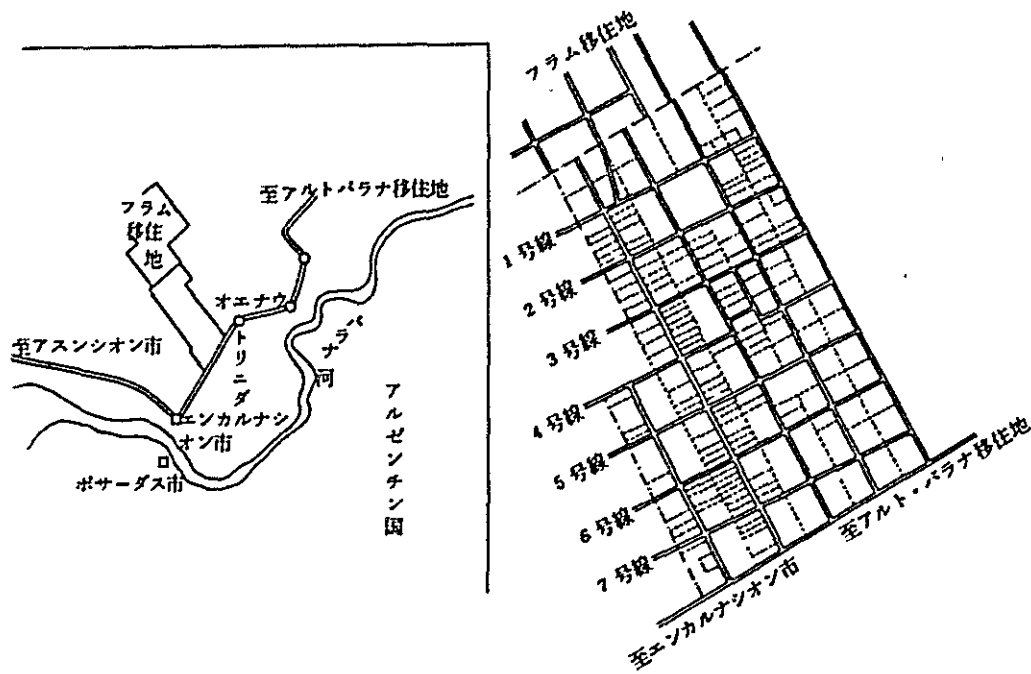
主 作 目	大豆、養蚕、油桐、野菜
営 農 状 況	フラム移住地とほぼ同じであるがエンカルナシオンに近いため近郊農菜として野菜栽培も盛んである。
農機具等の普及状況	トラクター0.2台、耕耘機0.2台、脱穀機0.1、脱粒機0.1台、動力噴霧機0.8台 発動機1台、運搬用機械0.5台、コンバイン0.1台 (昭和48年度調べ農家1戸当り平均)
営 農 指 導 機 関	移住地内には営農指導機関はないが当事業団アルトパラナ試験場およびエンカルナシオン支所が指導に当たっている。また必要に応じて関係当局の指導、協力を受けている。
利 用 金 融 機 関	銀行、事業団
主作目の販売取扱機関並びに主市場	大豆、油桐、蚕は殆ど農協を通じて販売しているが野菜、鶏卵等はエンカルナシオンの商店へ個々に直販売している。
農 家 所 得 (一戸当り平均昭和48年度)	601千円(1,352千円)

4 組 織 活 動

自 治 会	チャベス日本人会は会員相互の親睦と関係機関との連絡ならびに諸行事(映画会、
-------	---------------------------------------

農協	<p>体育会等) の開催を主な仕事としており他の自治体組織のような活発な動きはない。</p> <p>フラム農業協同組合とラポテンシヤ園芸農協があるがラポテンシヤ園芸農協は最近個人出荷が多くなり現在実質上消滅している。</p> <p>フラム農業協同組合の組織活動状況はフラム移住地概況の農協の項参照</p>
----	--

5 地区略図



移住地名 イグアス

1 地区概要

所在地	<p>アルト・パラナ県エルナンダリヤ部</p> <p>COLONIA YGUAZU K.M 41.S RUTA INTERNACIONAL, Dto. ALTO PARANA PARAGUAY</p>
管理者	事業団
入植開始年度	昭和36年

経緯	経	緯	<p>フラム・チャベス両移住地に入植した移住者は自給体制も確立して営農も安定期に入ったので満植の状態にあるため同地区の二、三男青年の今後の対策として昭和35年旧移住振興K.Kがマルチン商会所有地を購入造成した移住地である。</p> <p>当移住地には昭和36年8月第1陣14家族がフラム・チャベス両移住地から入植した。日本からの移住は、昭和38年が第1陣である。この頃から移住者は減少し毎年わずかずつとなった。このようにして今日まで167世帯が入植定着した。入植者は現在蔬菜に傾いているが肉牛・養鶏を主として大豆・とうもろこし等の雑作を組合せている者が増えている。また日本資本の農牧会社の設立に刺激され肉牛飼育の熱が高まり各戸の牧場の造成、肥育牛の導入が進められている。</p>
	緯		

自然条件	位置	<p>W 55° C 15' S 25° C 30'</p>
	地形	<p>標高は最低 182 m 最高 299 m で地域の北端をイグアス河、南端近くモンダウ河が流れており何れもパラナ河にそそいでいる。従ってこれら両河川の沿岸部は低地で東西に緩やかなスロープを描く丘陵地である。</p>
	地質・土壌	<p>肥沃な「テラロシヤ」と呼ばれる暗赤色のラテライト土壌が表土を深く占めている。100～150cm位あってその下層は黄赤色又は赤色となる。粘土質が50%以上あるところが多く適度の雨量がある場合は、土壌は植物にとって最高、雨が降らぬ場合地表は過度に乾燥し通気性を欠くようになる。自然カンボ(草原)の土壌は砂土黒泥土で一般に燐酸加里が不足し強酸性である。</p>
	植生・林相	<p>亜熱帯性の樹高30m前後の樹木が密生しており低位部の湿地附近は細く樹丈低い雑木が粗生しているが台地に向い密生原生林と変化していく。</p> <p>この亜熱帯林には各種の有用材がみられ現地名セドロ・ラパーチョ・グワタンク・ウピラロなどがある。</p>
気候	<p>大陸性亜熱帯気候圏に属するが1年間を明確に4季に分けることは適当でない、強いて分けるとすれば夏11月下旬～3月、冬5月中旬～9月気温は7月から10月の較差が極めて大きい例えば朝に於て0℃近くの気温が日中に於ては30℃以上に上昇することもある最高平均気温26.7℃ 最低平均気温21.5℃雨量は年間1800mm前後、冬期に年平均5～6回の降霜をみる。</p> <p>乾雨期の区別も明確でなく9～10月雨期11～1月乾期と言われる。</p>	

社会	交通	<p>移住地内に首都アスンシオン市より伯国大西洋岸のパラナグア港まで通じている国際道路であって両国を結ぶ動派で完全舗装されている。移住地より西へアスンシオンへの急行バス1日3往復所要時間5時間普通バスで1日数回途中のコロネルオピエド・カーレンズ・ビジャリカ市町に行くことが出来る。又東へストロエネルへのバス便もあり交通便至便、当移住地の中心部はブラジルとの国境から41kmの地点にある。</p>
	市場	<p>アスンシオン市が主な市場である。</p>
	近郊主要都市	<p>首都アスンシオン市人口40万陸路286kmビジャリカ人口3千陸路180kmコロネル・</p>

条件	近郊主要都市	オビエド人口3万陸路155 Kmカーレンズ人口2千陸路24 Kmストロエスネル人口2万陸路41 Km
	医療・教育	移住地内に診療所(入院可能)があり日本人医師が駐在し手術も可能である。余程の重症でない限りストロエスネル市またはアスンシオン市の病院に行く必要はない。救急車1台配置されている。
	治安	移住地内に小学校2校あり生徒はスクールバス等で通学している。中学校高等学校は20 Km先のストロエスネルにバス通学している。また高等学校、大学はアスンシオン市で下宿通学しているが昭和50年度にはアスンシオン市内に寄宿舎が完成する。パ国警察官2名兵士8名が常駐し移住地の周辺の治安に当たっている。警察署があり車業団より警備用オートバイ1台貸与されている。

2 入植状況

入植戸数と 人員 (内地)	年度	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	現地 入植者	合計	定着数
	戸数	13	13	14	9	11	6	10	4	7	7	2	6	138	240	167
	人員	50	57	54	46	48	29	45	11	19	20	6	16	618	1019	713

昭和49年9月末

退耕者の主なる転住先	ブエノス市近郊	伯国	パ国内	その他	帰国
率(%)	20	10	30	5	35

主なる出身県名	高知	岩手	北海道	東京	愛媛	長崎	鹿児島		その他	合計
現戸数	24	18	15	11	11	9	6		73	167

総面積	87.762ha			
ロッテ面積	30 ha と 60 ha			
分譲条件および価格	30 ha 一括払 40万円 分割払頭金4万円 9年据置 5年分割払 利息5%			
	60 ha 一括払 80万円 分割払頭金8万円 9年据置 5年分割払 利息5%			
分譲可能面積	66,000ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	26,825 ha	39,175 ha	2,307 ha	19,455 ha
地権取得	取得339名 申請中 名 未申請192名			
電気：飲料水	昭和49年8月に中庄の配線が完了し昭和49年度末に電化された。新規分譲ロッテは電化されていない。飲料水は井戸で深いもので20 m浅いもので6~10 mで湧水する移住地内を流れている小川も水質良好で飲料に適するが11月~2月頃枯渇する場合がある			

地区内道路	幹線、支線とも盛土である。
主なる事業団 援護施設	小学校2、教員宿舍3、診療所1、医師宿舍1、看護婦宿舍1、宿泊所1、警察屯 所1、警察宿舍1、運転手宿舍1、教会1
車輛 組合等所有 施設	診療車1、トラック2、オートバイ1、スクールバス1、ステーションワゴン1 自治会事務所1、自治会集会所1、農協事務所兼販売所1、農協倉庫1、農協車庫 1、農協販売所(アスンシオン市)1
車輛 その他	オートバイ1台、トラック3台、ジープ1台 ブルドーザー2台、トラクター4台、コンバイン1台

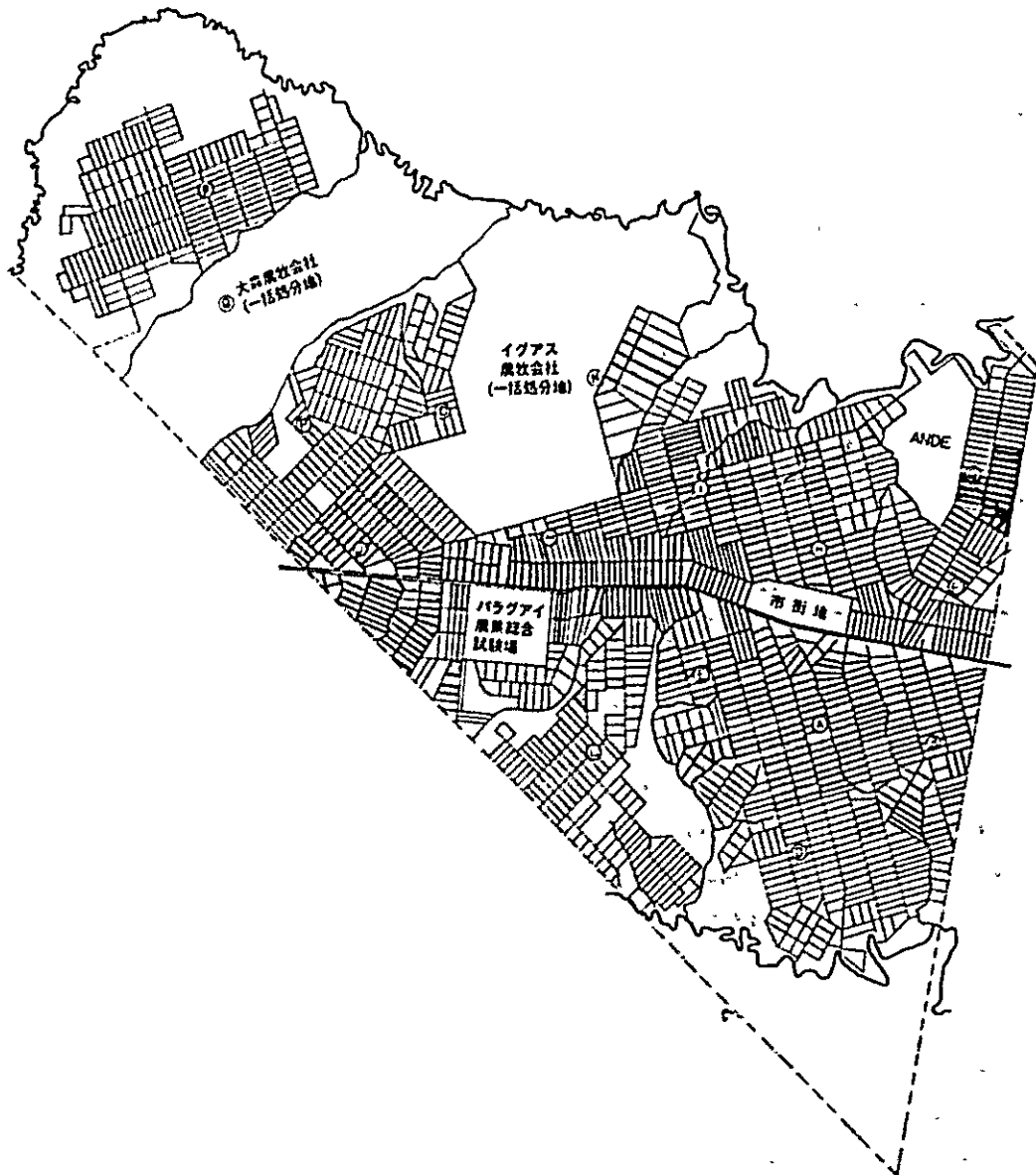
3 営 農

主 作 目	トマト、養鶏、大豆、養豚、肉牛、養蚕、ハツカ、その他
営 農 状 況	道路が良いためアスンシオンを市場としてトマト、養鶏が主体であるが需要に限度 があることと価格変動が激しいため、大規模機械化による大豆と肉牛、養蚕等が伸 び主作目が変わって行く傾向にある。
農機具等の普及状況	耕耘機 0.2 台、トラック 0.06 台、脱穀機 0.47 台、脱粒機 0.2 台、動力噴霧機 1.0 台 発動機 1.4 台、運搬用機械 0.4 台(昭和 48 年度調べ農家 1 戸当り平均)
営 農 指 導 機 関	移住地内にある当事業団のバラグアイ農業総合試験場が指導している。その他協力 機関として隣接ストロエスネル移住地に農牧省の植林学校がある。
利 用 金 融 機 関	銀行 事業団 農協
主作目の販売取扱 機関並びに主市場	生産物の殆どは農協およびアスンシオン市の商社を通じて販売している。トマト等 蔬菜、鶏卵、牛、豚等はアスンシオン市大豆は輸出又は国内搾油会社 蘭は日本からの進出企業(ISEPSA)
農 家 所 得 (一戸当り平均) (昭和 48 年度)	355 千円(799 千円)

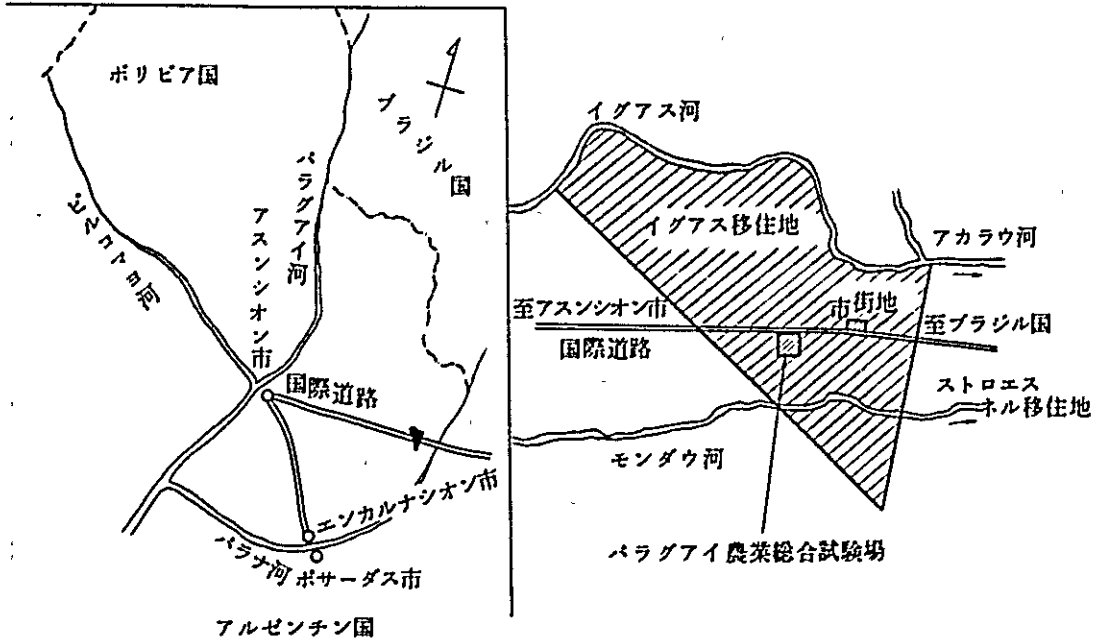
4 組 織 活 動

自 治 会	イグアス自治会があり入植者の自主自立的な各種活動のほか一部行政事務も行って いる。自治会構成は道路、治安、教育、営農促進等の委員会があり活動を行っている。
農 協	農協組織としては従来蔬菜栽培農家を中心とした拓植ジョポイラ農業協同組合と雑 作農家を中心としたイグアス機械利用組合の両組合があったが昭和 48 年 11 月 1 日 この両組合が合併し新たに拓進ジョポイラ農業協同組合(法定)として発足した。 組合加入者も増加しており経営内容も漸次充実している。

イグアス移住地入植状況 (昭和41年11月25日現在)



5 地区略図



移住地名 アルト・パラナ

1 地区概要

所在地	所在地	イタプア県ベラビスタ市 COLONIA ALTO PARANA, DESTRITO DE BELLA VISTA, Dto. DE ITAPUA, PARAGUAY
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和35年度

経緯	経緯	パラグアイ国内における第2の集団移住地としてフラム移住地(アルトパラナ移住地より西北方約50kmに位置)に次ぎ設定したもので昭和34年4月1日移住振興K.KがHarcastle植民会社外1名のパラグアイ人よりピラボ地区約22,200haの土地を購入したのが当移住地の始まりである。
		その後、隣接のカレンズ地区及びアカカラジャ地区の私有地を引き続き購入し、昭和35年5月現在のアルトパラナ移住地全土地の購入を完了した。同年8月2日日本より第1陣入植として26家族の移住者を迎えた。
		今日のアルトパラナ移住地は、大豆、養蚕、桐実、牧畜、とうもろこし、棉の生産地として市場に確固たる地歩を固めることに成功した。これらの関係企業が原料を求

経 緯	<p>めて移住地内に進出し、パラグアイ資本の搾油会社CAPSAは市街地近くに工場を建設し操業を開始している。</p> <p>また、待望の日系搾油会社(イタブア製油商工K.K. CAICISA)も日産処理能力大豆、50屯、桐実140屯の高効率の機械をもって移住地より80Kmのエンカルナシオンに工場を建設し昭和45年から操業を開始している。</p> <p>更に当移住地の養蚕の有望性を見込んだ日本の二大大手企業(片倉工業及び伊藤忠商事)はパラグアイ絹糸商工KK.(ISEPSA)を設立し、昭和45年この市街地に乾繭工場を建設した。</p> <p>なお、昭和51年には生糸工場を建設すべく準備をすすめている。</p>
--------	--

自 然 条 件	位 置	W 55° 40' S 27° 5'
	地 形	大波状の比較的起伏に富む地形を示し、全体的に北西部からパラナ河のある南東部にかけて傾斜して低くなっている。標高は最高348 m最低99 m、地区内最大の比高は250 mであるが全般的には比較的傾斜の多い地形といえる(平均標高約220 m)
	地 質・土 壌	当地区の高位部では土層一般に厚くテラロシヤ(玄武岩を母岩とする風化土壌である暗赤色ラテライト化土壌)が5 m~10 mに達し、低平な地域(ピラボ川マンドビジュ川の沿岸など)では一般にテラロシヤの土層薄く傾斜面にあつては表面近くに礫層、軽石または岩盤が散見される。なお概して森林下は膨軟、土壌構造も良く発達して角塊状を成しそのため透水性は粘土含有が高いに拘らず一般に良い土層は深く、通常4~5 m以上であり表層は腐植3%位、PHは5~6程度の弱酸性で可溶性の燐酸の含有は低い加里には一般に富む
	植 生・林 相	高地は林層が厚く中には周囲6 m樹高20 m近い巨木も存在する。樹種としてはグワタング・グワイカ、カナフィスト等が多くの用材として硬材として鉄木ともいわれる有名なラバーチヨを始めセドロ、ローネグロ、インシエンソがあるがその量は少ない。グワタング・グワイカは軟材であるが家具材板材等に用いられる。 低地部は林層が薄く灌木または耐湿草本が繁茂している。
気 候	<p>一般に6~9月の冬期が雨期、10~5月の夏・春が乾期とされているが特に明確な区分はできない。</p> <p>冬期の気温は大陸内陸部の三寒四温的な傾向をもって日温度較差は10~15℃冬期の平均降雪日数7~15日位と見られる。</p> <p>年間降雨量日数は60~90日、雨量は1,500~2,000 mmであつて当国最多雨地域に属している。</p>	

社 会 条 件	交 通	エンカルナシオン市までオエナウ・オブリガード経由70 Km小型バスで約2時間半であり1日5往復のバスの便がある。道路は舗装されていないが割合に良く管理されている。
	市 場	エンカルナシオン市と対岸ア国ボザードス市およびアスンシオン市が主な市場である。

社 会 条 件	近傍主要都市	オエナウ・オブリガード市街地戸数 300 戸陸路 40 Kmエンカルナシオン市人口 5 万陸路 70 Km ア国、ボサーダス市人口 15 万、エンカルナシオン市対岸水路 2 Km アスンシオン市人口 40 万陸路 440 Km
	医療・教育	移住地内に診療所（入院病室 4）があり日本人医師が駐在し、相当な外科手術も可能である。エンカルナシオン市に公立病院があるが余程の重症でない限り行く必要はない。またオエナウにも総合病院がある。 救急車が 1 台配置されている。 移住地内に 3 校の西語小学校があり校舎はすべて昭和 46 年、48 年、49 年にそれぞれレンガ建に建替えた。 パ国文部省から 5 名の教師が派遣され午前、午後の 2 部授業を行っている。 なお、西語小学校の休みである土曜日、夏休みを利用してそれぞれの学校で日本語学校が開かれている。日語教師は 12 名。 中学校は大部分が移住地より 35 Km のオブリガード市 60 Km のフラム移住地内にある中学校および 20 Km の農学校にそれぞれ下宿通学している。 高等学校大学はアスンシオン市で下宿通学しているが昭和 50 年度には同市内に寄宿舍が完成する。
治	安	警察署 1 ケ所分署が 2 ケ所ある。署長 1 名、分署 2 名、兵士 15 名が常駐している。定期パトロールを地区毎に実施している。判事事務所は 1 ケ所ある。

2 入植状況

人と 植戸 数 人員	年度	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47
	戸数	82	168	40	18	17	2	1						
	人員	437	912	213	95	94	11	4						

48	49	50	現地 人植者	合計	定着数
			121	449	340
			358	2,124	1,574

昭和 49 年 9 月末

退耕者の主なる転住先	アルゼンチン国	ブラジル国	パラグアイ国	イグアス移住地	帰国
率 (%)	50		20	10	20

主なる出身県名	岩手	高知	愛媛	北海道	鹿児島	秋田	福岡	宮城	その他	合計
現戸数	69	65	48	21	19	14	11	7	86	340

総面積	83,580 ha
-----	-----------

ロッテ面積	30 ha, 60 ha, 300 ha			
分譲条件および価格	30 ha一括払 35 万円, 分割払 頭金35千円, 9年据置 5年分割払利息 5% 60 ha 一括払70万円, 分割払頭金7万円, 9年据置 5年分割払 利息 5% 300 ha 頭金35万円据置なし 9年分割払い。			
分譲可能面積	68,400 ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	32,020 ha	36,380 ha	3,323 ha	11,857 ha
地権取得	取得967 ロッテ。			
電気：飲料水	電気は市街地のみ ISEPSA 乾蔵工場の発電機 (75 Kw) が供給受益者約30戸その他の農耕地居住者は自家発電電気が普及しつつありボサダスのTVを視聴するアンテナの数も増えた。 飲料水は全戸井戸使用で丘地部の高所では20余mに及ぶところもある。通常数mから12~13m堀削すると水質は良くまた豊富である。			
地区内道路	幹線、支線とも盛土で良好に整備されている。			
主なる事業団援施設	小学校3, 教員宿舍3, 診療所1, 医師宿舍2, 看護婦宿舍1 宿泊所2 警察署1 警察屯所2 判事事務所1 中央公民館1			
車輛	救急車1台, スクールバス2台, オートバイ1台, ジープ4台, トラック1台, ブルドーザー1台, グレーダー1台			
組合等所有施設	農協事務所1, 農協支所5, 稚蚕共同飼育所1, 地区公民館5			
車輛	トラック5台, ジープ1台, 農協乗用車2台, トラクター3台, ブルドーザー3台			

3 営 農

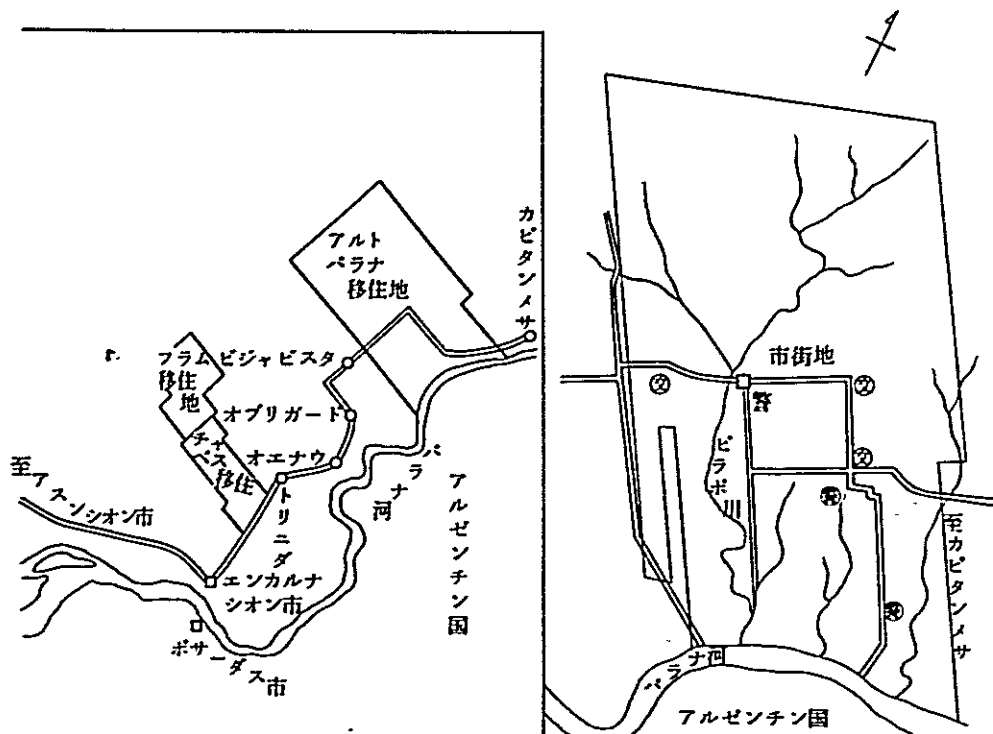
主 作 目	大豆, 養蚕, 油桐, トウモロコシ
営 農 状 況	フラム移住地と同じく大規模機械化による大豆栽培 (裏作小麦) または稼働力をフルに発揮した養蚕, および永年作としての油桐と3本柱でほぼ順調な営農を行っている。
農機具等の普及状況	脱穀機0.1台, 脱粒機0.5台, 発動機1.0台, 動力噴霧機0.5台, 耕耘機0.4台, トラクター0.4台, コンバイン0.01台 (昭和48年度調べ農家一戸当り平均)
営 農 指 導 機 関	事業団 (パラグエイ農業総合試験場アルトバラナ分場)
利-用 金 融 機 関	銀行, 農協, 事業団
主作目の販売取扱	主作目の販売は殆ど全てピラゴ農協を通じて行っている。
機関並びに主市場	大豆は輸出又は国内会社 蚕は進出企業 (ISEPSA) 油桐は国内搾油会社

農 家 所 得 (一戸当り平均昭和 48年度)	867千〇 (1,957千円)
-------------------------------	------------------

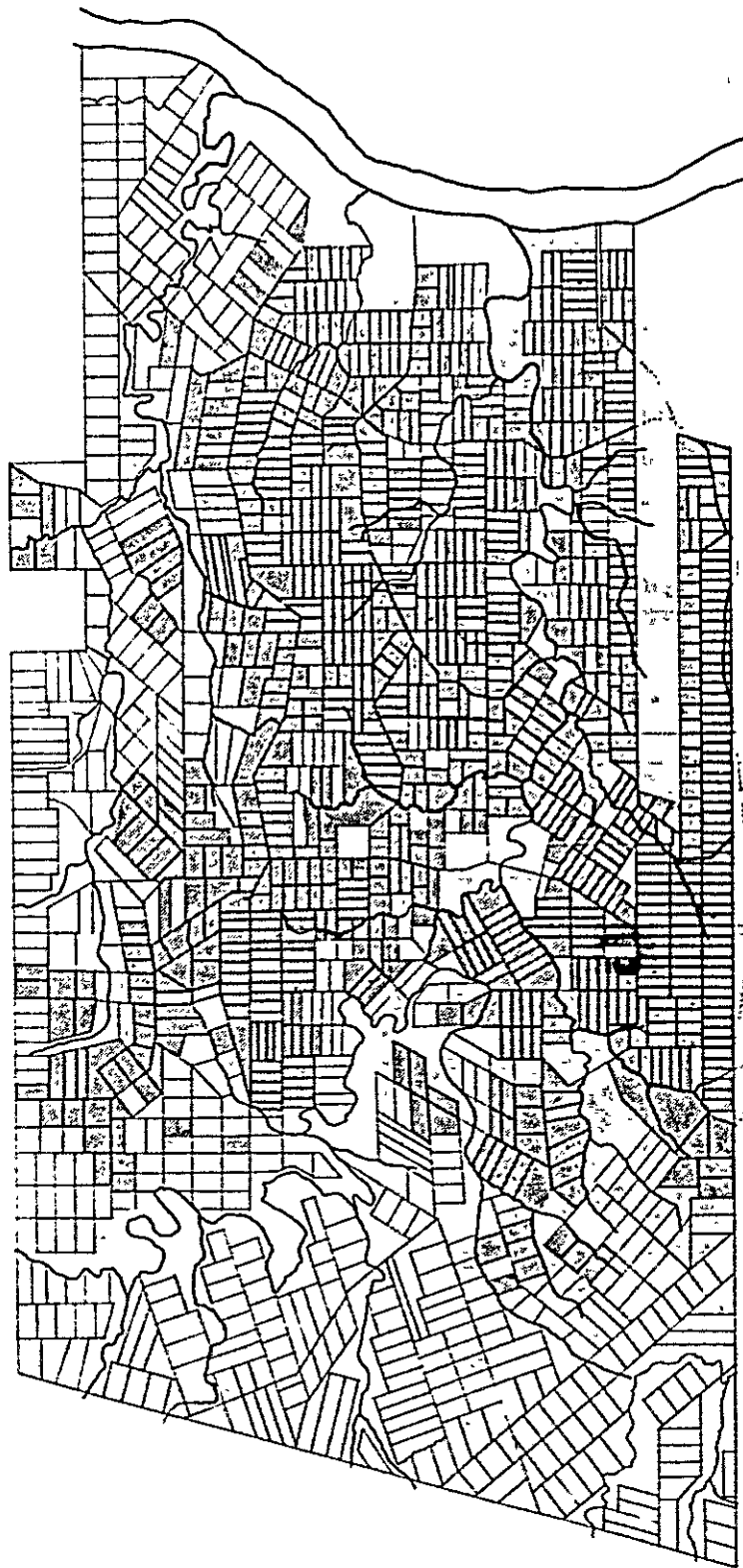
4 組 織 活 動

自 治 会	アルトパラナ自治会があり全戸が加入している。主なる業務は道路負担金の徴収事務、治安、教育、福利厚生である。自治会の下に設置されている任意団体には青年団と婦人会体育連盟などがある。
農 協	「アルトパラナ農業協同組合」(法定)を組織し販売部、購買部(第1~第5所)信用部運輸部、総務部、機械利用部、稚畜共同飼育部、総務部の7部門があり、各部署に独立採算制で堅実な運営を行っている。239戸が組合に加入している。他に「アカカラジャ農産組合」(法定)があるが殆ど活動していない。また「イタブア地区果樹産業組合」(法定)がある。この組合は日米混合であるが活動は活発である。

5 地 区 略 図



アルトバラナ移住地入植状況 (昭和30年2月26日現在)



移住地名 ラ・コルメナ

1 地区概要

所在地	所在地	パラグアリ県
	管理 者	COLONIA "LA COLMENA" DISTRITO LA COLMENA DPTO PARAGUARI REPÚBLICA DEL PARAGUAY
	入植開始年度	設立当初は「ブラ拓」、現在はパラグアイ政府 昭和11年

経緯	経	1934年(昭和9年)ブラジル拓植組合の専務であった宮坂国人氏の調査報告に基づき、1935年(昭和10年)～36年現地調査し、1936年(昭和11年)ブラ拓は400家族の日本人移住者を導入する目的で、11,000 haの土地を購入した。
	緯	同年6月第1回、7月に第2回、第3回とそれぞれブラジルより指導移住者が入植、翌8月に至り日本からの直来の第1回入植者11家族81名が到着し、現在のコルメナ35年の歴史の第1歩が記されると共に、対パラグアイ移住の歴史がはじまった。以後1941年(昭和16年)までの5年間に指導移住者3回、日本から28回と併せて123家族790名が相次いで入植した。

自然条件	位置	W 57° S 27°
	地形	緩傾斜の丘陵地で森林約60%、草原約40%である。移住地西南の小山脈の分水嶺が境界線となっている。標高平均250 m
	地質・土壌	草原の地質は主に神積土の腐植質に富む砂質土壌であるが、低湿地には粘土質の含有量も多い所もある。森林の土質は砂質であるが、低湿地には粘土質の含有量が多いところもある。
	植生・林相	有用材は開発され殆どない。草原にはCARAGUATAY TYDYCHO-MOATE等が自生している。
気候	冬期(5～8月)は大陸内部の三寒四温的傾向。降霜日数、年間10日前後。夏期(11月～3月)は平均28℃ 雨量は年間50～60日前後で1500 mm程度	

社会条件	交通	アスラジオン市東南140 Km、このうちカラベグアから56 Km土道で入る。
		ウブチミ 西北18 Km、馬4時間、土道極悪
		ウブクイ 南東44 Km、バス1.5時間、土道雨天交通止め
		アカアイ 南 24 Km 40分
		カラベグア 西 56 Km 2時間

社 会 条 件	市 場	パラグアリ 西 82 Km, バス2.5時間, 土道雨天交通止め
	近傍主要都市	主としてアスンシオン市 ウブチミ人口3,000, 小学校, 病院, IPS, 警察, 電話, 日用品販売店, 旅館あり ウブタイ人口6,000 同上 アカアイ人口4,500 同上 (以上, 電気・水道はない)
	医 療・教 育	カラベグア 人口1,2000 同, 上 但し電気あり パラグアリ 人口20,000 県庁所在地 パラグアリ町 小, 中, 高校, 病院, 警察, 軍隊, 電話, 日用品販売店, ホテル等あり 医療・市街地には社会保険(I.P.S) 派出所および健康センターがあり, 常勤の看護婦1名と医師が巡回しており, 主な予防注射は無料である。 また日本人医師1名, 1939年(昭和14年)入植以来, 日バ両国人に対して献身的に医療業務に当り, 特殊な患者を除いて大体移住地内で治療されている。 教育・移住地内に小学校2校(1校は4年制), 中学校1校(私立)があり, 日系人は義務教育完全就学である。 上級校は殆どアスンシオン市で寄宿。 日語教育は, コルメナ文化協会が主体となって専任教師をおいて実施している。 1969年(昭和44年)日本政府の一部補助を得て, 地元負担でレンガ建ての日語校舎が落成した。
	治 安	判事々務所と警察所があり, 治安は良好である。

2 入 植 状 況

入植戸数 (内地) 人員	年 度	昭和 11	12~16	17	29	30	31~49	現 地 入 植 者	合 計	定 着 数
		戸 数	11	102	—	3	6	122	18	262
	人 員									438

昭和49年9月末

退耕者の主なる転住先 アルゼンチン, ブラジル, アスンシオン, ウルグアイ

主なる出身県名	東 京	群 馬	福 島	長 崎	岩 手	その他	合 計
戸 数	9	6	6	5	5	42	73

総 面 積	11,000 ha (日本人所有地 3,500 ha)
ロ ッ テ 面 積	当初20haを1ロッテとしたが, 現在の土地所有状態はまちまちである。 (一戸当り平均土地所有面積56ha)
分譲条件及び価格	10年均等払い(頭金10%) 1ロッテ(20ha平均)Gs 2,000

分譲可能面積	9,100 ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	9,000 ha	100 ha	1,900 ha	
地権取得	地権発給は完了。			
電気・飲料水	近年になってからの分譲はない。土地の売買は個人対個人で行われている。 電気はない。 飲料水は全戸井戸使用。			
地区内道路	管理はコルメナ郡役所が行っているが、土質が砂質土のため雨の度に流亡が激しく、良好とはいえない。			
地区内の主要施設	小学校3, 分校3計6, 中学校1, 高等学校1, 日語学校1, 総合グラウンド, コルメナ日本人文化会館, 診療所, 市役所, 税務所, 銀行, 電話局, 郵便局, 農業普及所, 教会, 判事々務所, 警察署			

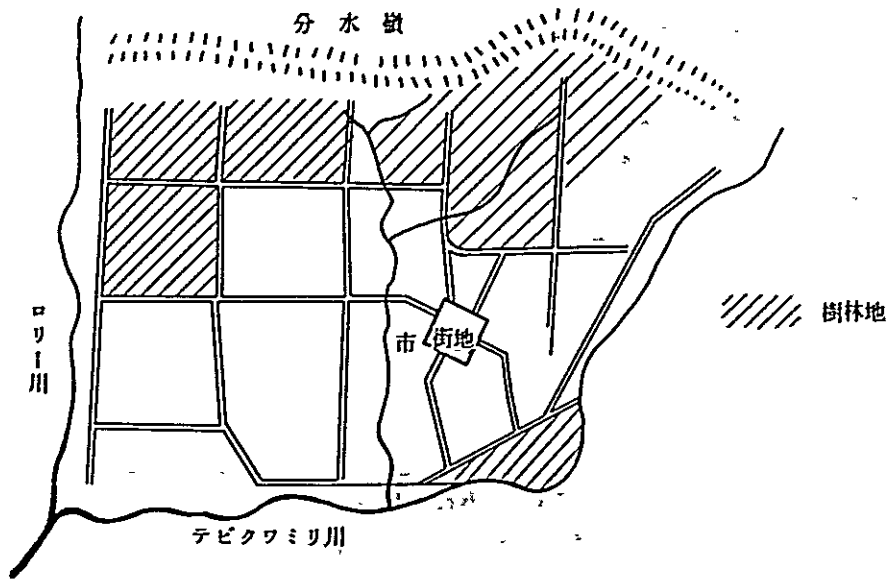
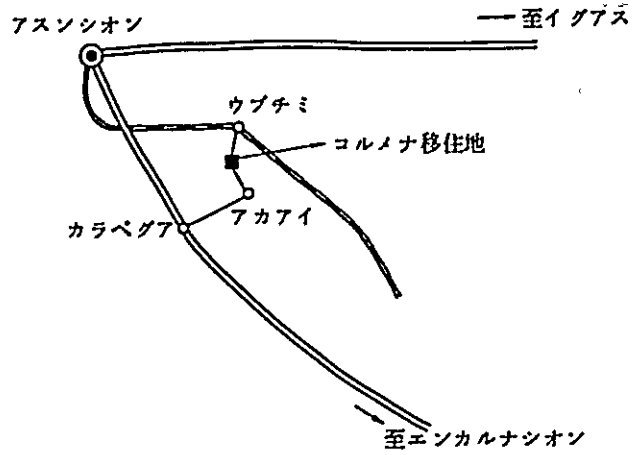
3 営 農

主 作 目	ブドウ, 野菜, 綿, 肉牛
営 農 状 況	永年作ブドウ(加工用)を中心に、地味ではあるが堅実な営農を行っている。 短期作としては棉およびアスンシオンを市場とした野菜栽培を行っている。また近年養蚕が導入され次第に伸びつつある。
農機具等の普及状況	耕耘機10台, トラクター7台, 脱穀機5台
営 農 指 導 機 関	事業団アスンシオン支部。 またコルメナ農協が若干の営農指導を行っている。
利 用 金 融 機 関	銀行, 事業団
主 作 物 の 販 売 取 扱 機 関 並 に 主 市 場	コルメナ農協, アスンシオン市
農 家 所 得 (一戸当り平均) 昭和49年度	404,870 Cs (推定)

4 組 織 活 動

自 治 会	日系人による自治組織の行政機関はなく、正式にはパラグアイ国行政組織につながらず、その末端の組織としてMunicipalidad de Colmenaがある。 ラ・コルメナ文化協会は渉外, 事業, 文化, 体育, 青年の5部を有し活発に活動を行っている。
農 協	ラ・コルメナ農業協同組合 1948年(昭和23年)創立の法定農協, 組合員数53名, 常勤職員14名(本所, アスンシオン販売所)

販売部・農産加工部・購買部・利用部・信用部より成る。
 農産加工部では、ブドウ酒醸造工場をもち「コルメニッタ」という銘柄のブドウ酒をつくっている。イグアス農協とコルメナ農協の2者により東パラグアイ農協連を結成し、主としてアスンシオンに於ける販売を受持っている。



移住地名 ストロエスネル

1 地区概要

所在地	所在地	アルト・パラナ県エルナンディア郡 COLONIA P.P. STROESSNER KM 16 S RUTA INTERNACIONAL Dto. ALTO PARANA PARAGUAY
	管理名 入植開始年度	パ国政府内務省 昭和36年

経緯	緯	ブラジル国境の地域開発並びにアルト・パラナ県の農業振興を目的として、パ国政府直営で創設した混合移住地である。この移住地の西側に隣接して、事業団直営イグアス移住地がある。日本人の入植は昭和36年頃からフラム、チャベス両移住地の転住者にはじまり、毎年わずかずつ国内の各地から入植し、今日10世帯を算えている。
	緯	主な作目は蔬菜であるが雑作・大豆・とうもろこし等も栽培している。 なお、この移住地は一部の面積に植林を義務づけられている

自然条件	位置 地形	W 54° 45' S 25° 30' 6,700haのうち8%は森林、残りはアカラウ・モンダウ両河に沿うカンボあるいは低湿地帯で、標高はパラナ河に向ってやや傾斜、南北はアカラウ・モンダウ両河に向い傾斜、移住地の中央を走る国際道路は分水嶺をなす。隣接のイグアス移住地よりは高く標高240～350m、パラナ河沿岸200m、イグアス移住地よりやや波状地形の波が少ない。
	植林・林相 気候	隣接のイグアス移住地とほぼ同じ。イグアス移住地概況の植林・林相の項参照。 隣接のイグアス移住地と同じ。イグアス移住地概況の気候の項参照。

社会条件	交通	首都アスンシオン市より移住地内、プエルト・プレシデンテ・ストロエスネル市經由伯国大西洋岸のパラナグア港まで通じている国際道路であって、両国を結ぶ動脈で完全舗装されている。アスンシオン市～プ・ストロエスネル市間急行バスが1日3往復、所要時間約5時間。 ブラジル国と国境を接しているので交通便、至便
	市場 交通	アスンシオン市が主な市場である。 首都アスンシオン市人口40万、陸路302Km 移住地市街地～プ・ストロエスネル市人口3,000人、陸路16Km
	医療・教育	邦人入植者は市街地形をなしており、移住地管理事務所をはじめ農協、診療所もある

	治 安	<p>り軽度な病症の場合、診療所を利用しているが重症者は隣接のイグアス診療所またはブ・ストロエスネル市の病院を利用している。</p> <p>移住地内には公立小学校10校、私立小学校4校、カトリック系中学校1校、ブ・ストロエスネル市内に公立小学校4校、私立小学校3校あり、邦人入植者の子弟は殆どバス通学で設備の整ったコレヒオ・サレンアノ小学校に通学している。コレヒオ・サレンアノ小学校は中学校、高等学校を併設している。</p> <p>邦人入植者はほぼルート沿線K.M14S地点に住んでおり、集団をなし、しかもブ・ストロエスネル特別区に近いので治安は良好である。</p>
--	-----	---

2 入 植 状 況

内地入植者はなし。現在戸数10戸で、現地入植者である。

主 なる 出 身 県 名	広 島	北 海 道	山 形	福 岡	合 計
現 戸 数	5	3	1	1	10

総 面 積	75,000ha
ロ ッ テ 面 積	20ha～40ha
分譲条件および価格	頭 金 土地代の20%
	残 金 60ヶ月の月賦償還
	価 格 国際道路より奥行 1KmまでGS 6,000/ha
	" 3 " GS 5,000/ha
" 5 " GS 4,000/ha	
" 7 " GS 3,000/ha	
分譲可能面積	約50,000ha
電 気 ・ 飲 料 水	殆どの家庭で自家発電を使用している。 飲料水は15m前後掘削すると良質の水が得られる。
地 区 内 道 路	盛土である。
主なる事業団援護	
施 設	なし
車 輛	なし
組 合 等 所 有	
施 設	拓進ジョボイラ農協と同じ。

3 営 農

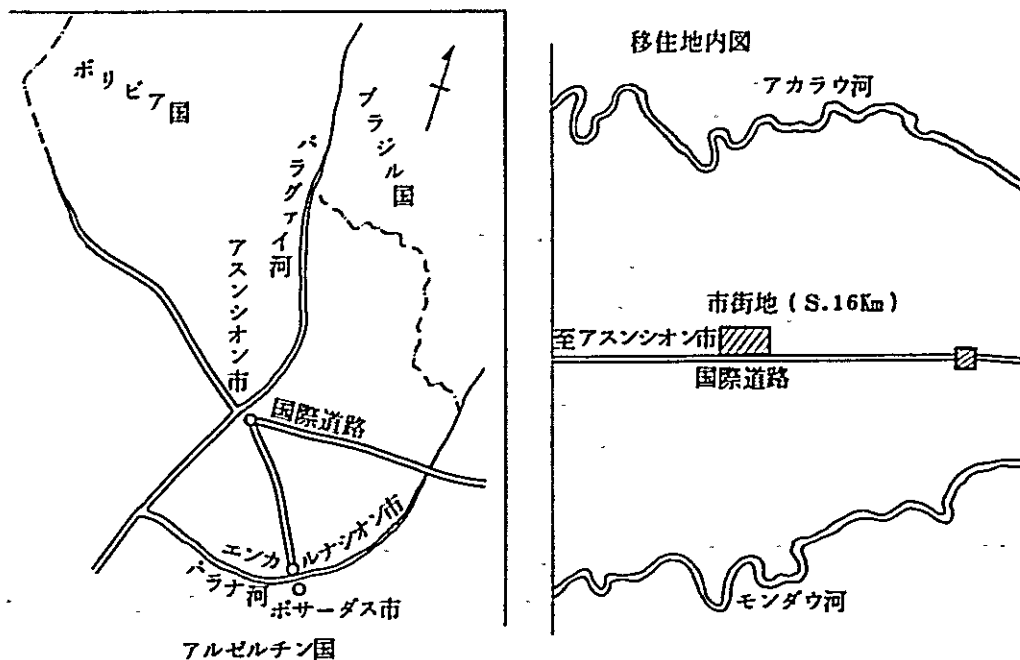
主 作 目	蔬菜、養鶏、大豆
営 農 状 況	イグアス移住地と同じ。

農機具の普及状況	トラクター5台, 耕耘機2台, エンジン16台, 大型トラック2台, 小型トラック2台, オートバイ16台
営農指導機関	事業団パラグアイ農業総合試験場 協力機関として, 農牧省植林学校
利用金融機関	銀行, 農協, 事業団
主作目の販売取扱機関並びに主市場	拓進ジョボイラ農協を通じ販売している。
農家所得 (一戸当り平均) (昭和47年度)	251千比 _₪ (628千円)

4 組織活動

自治会 農協	日本人移住者等でストロエスネル日本人会があるが, 殆ど親睦を目的としている。 隣接のイグアス移住地内にある拓進ジョボイラ農協(法定)に殆ど加入している。
-----------	---

5 地区略図



移住地名 アマンバイ

1 地区概要

所在地	所在地	アマンバイ県ペドロ・フォアン・ガバリエロ市 PEDRO JUAN CABALLERO DEPARTAMENTO DE AMAMBAY
	管理者	集団独立
	入植開始年度	昭和31年(1956年)

経緯	経緯	アマンバイ地区における日本人入植者は、旧C.A.F.E.会社にコーヒー栽培契約雇傭農として昭和31年に初めて入植したが、同会社は、人的災害から経営不振に陥り、最後の入植者が入植する頃には、脱耕者が続出し、昭和34年には、遂に到産した。その後残留日本人入植者は、同耕地を離れ多くは事業団援助により土地を購入し、自営農として独立した。同地区はこれらの人たちと、本国の他の地域から転住して土地を購入した日本人移住者の集団独立地である。移住者の多くは、永年作のコーヒー栽培に従事しているが、時折、降霜の被害を受け、安定作物とはいえない。それ以外の主作目としては、養鶏、柑橘類(主としてボンカン)、雑作(大豆、マイス、ヒマ等)があり、近年養蚕も導入されるに至った。

自然条件	位置	W 55° 44' S 22° 32'
	地形	地形はかなり起伏があり、一般に波状ないしは丘陵地形である。
	地質・土壌	テラロッシュの肥沃地と、低地は黒土の壤土砂土の湿地帯である。
	植林・林相	広葉常緑樹を豊富に包含した原生林である。
	気候	大陸性亜熱帯に属し、昼夜の気温差は、激しい。
	雨期	10月～3月 乾期 4月～9月 年間平均降雨量 1,589.2 mm 気温平均最高 26.3℃ 気温平均最低 16.7℃ 気温年平均 21.5℃

社会条件	交通	同移住地は、8地区ほどに分かれた移住地で、ペドロ・フォアン・カバリエロ市から4～110kmの距離間に位置しており、車での所要時間にして、10～210分程度有する。ペドロ・フォアン・ガバリエロ市からアスンシオンまで、バスが毎日2便運行、所要時間12～14時間、航空機は週6便、所要時間1時間20分を有する。コンセプション市まで、バスは毎日10～11便、所要時間5時間、運行している。

社 会 条 件	市 場	<p>コーヒーの大部分は輸出向で、それ以外は、国内消費用として現地の商社に販売している。</p> <p>蔬菜、柑橘、鶏卵等はボンタ、ポラン市を含む域内並びに、アスンシオン市が消費市場となっている。</p>
	医 療・教 育	<p>事業団の嘱託医による巡回診療が年1～2回、また、伯国の援護協会の診療も年1回同地区で実施されており、ペドロ・フォアン・ガバリエロ市にはI.P.S社会保険病院、国立保健病院、キリスト教系病院、個人診療所(5)等がある。</p> <p>地区内に、小学校3校あるが、移住地内には、上級学校がなく、中学以上に進学するには、何らかの形で市内に出なければならないが、昭和49年に寄宿舎が完成した。</p>
	治 安	<p>ペドロ・フォアン・ガバリエロ市には、小学校は分校を合わせると、7校、中学校、高校はそれぞれ3校あり、かつ、小、中、高課程に夜間部もある。</p> <p>地区内4カ所に駐在所があり、ペドロ・フォアン市内には、本部の他に2カ所の駐在所がある。</p> <p>治安は、国境の町であるので、市内は、物情騒然たるものがあるが、移住内はその割には平穏である。</p>

2 入 植 状 況

入 植 戸 数 と 内 地	年 度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸 数		54	53	30	0	0	0	0	1	0	6	6
	人 員												
	年 度	42	43	44	45	46	47	48	49	現 地 入 植 者	合 計	定 着 数	
戸 数	1	1	0	0	0	0	0	0	103	255	163		
人 員											913		

昭和49年9月末

退耕者の主なる転住地	パラグアイ国	ブラジル国	ボリビア国	アルゼンチン国	帰 国 (内地)
率 %	10	81	0	1	8

主なる出身県名	高知	北海道	熊本	和歌山	広島	福岡	鹿児島	香川	静岡	その他	合 計
現 戸 数	33	20	18	16	13	11	8	6	6	32	163

総 面 積	8,000 ha
ポ ッ テ 面 積	平均142 ha、但し50%の農家は20～30 ha
価 格	ha 当り 10,000～15,000G\$
地 権 取 得	取得75名、申請中15名、未申請5名

電 気 飲 料 水	電化されておらず、小農家が自家発電装置を有しているにすぎない。 主として、石油ランプ、プロパンガスにたよっている。 飲料水はすべて井戸水もしくは湧水を利用している。
地 区 内 道 路	幹線道路は、軍隊もしくは市により整備され、非幹線道路は入植者により整備されているが、雨期には、極めて悪い道路状態となる。
主なる事業団援護施設	寄宿舍1 (アマンバイ日本人会無償貸与)
車 輛	トラクター (MF44 IP) 1台 (アマンバイ農協へ無償貸与)
機 械	スピードプレーヤー
組 合 等 所 有 施 設	精米工場1棟、コーヒー工場 (兼乾燥工場) 1棟
機 械	エンジン3台、火力乾燥機1基、選別機1式、乾燥機2基

3 営 農

主 作 目	コーヒー、養鶏、雑作、蔬菜、養蚕
営 農 状 況	過去大部分がコーヒーを主体とした営農を行っていたが、数回の霜害に半減し、現在は、霜害の少ない土地はコーヒー主体、その他は養鶏、雑作、蔬菜、商店との兼業と多種多様である。最近、養蚕が導入され、コーヒー、養鶏と並ぶ3本柱として、主作物が固まってきた。
農機具等の普及状況	脱粒機0.2台、耕耘機0.3台、脱穀機0.3台、発動機0.6台、動力噴霧機0.4台、運搬用機械0.7台 (昭和48年度調べ農家1戸当り平均)
営 農 指 導 機 関	事業団アンシオン支部、同支部アマンバイ出張所
利 用 金 融 機 関	銀行、事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	コーヒー、繭はほとんど全て農協を通じて販売されているが、その他は庭先売と農協扱と半々である。
農 家 所 得 (一戸当り平均) (昭和48年度)	540千円 (1,215千円)

4 組 織 活 動

自 治 会	アマンバイ日本人会 創 立 1970年1月 (昭和45年) 会 員 数 113名 主要事業 現地機関との折衝、大使館業務の取継ぎ、
-------	--

農協

自治, 教育, 厚生, 教育, 医療対策, 各種行事の主催

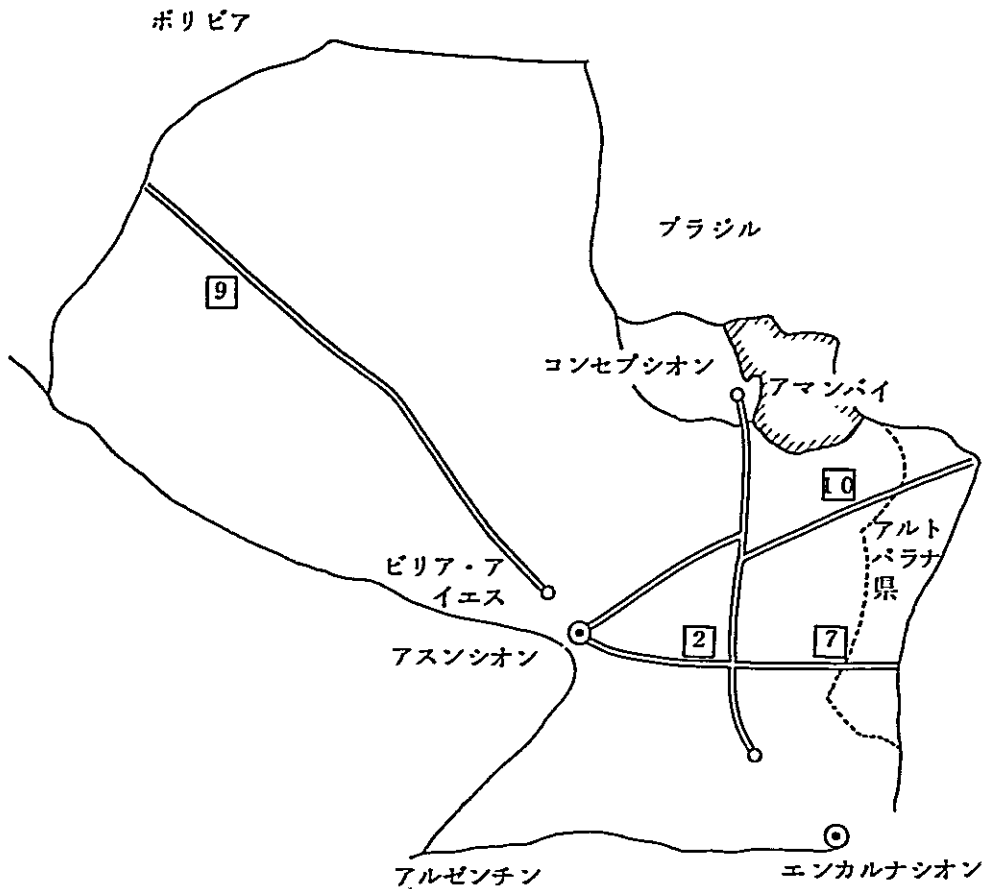
支 部 P.J.C.市に本部があり, 地方に3つの支部を有する。

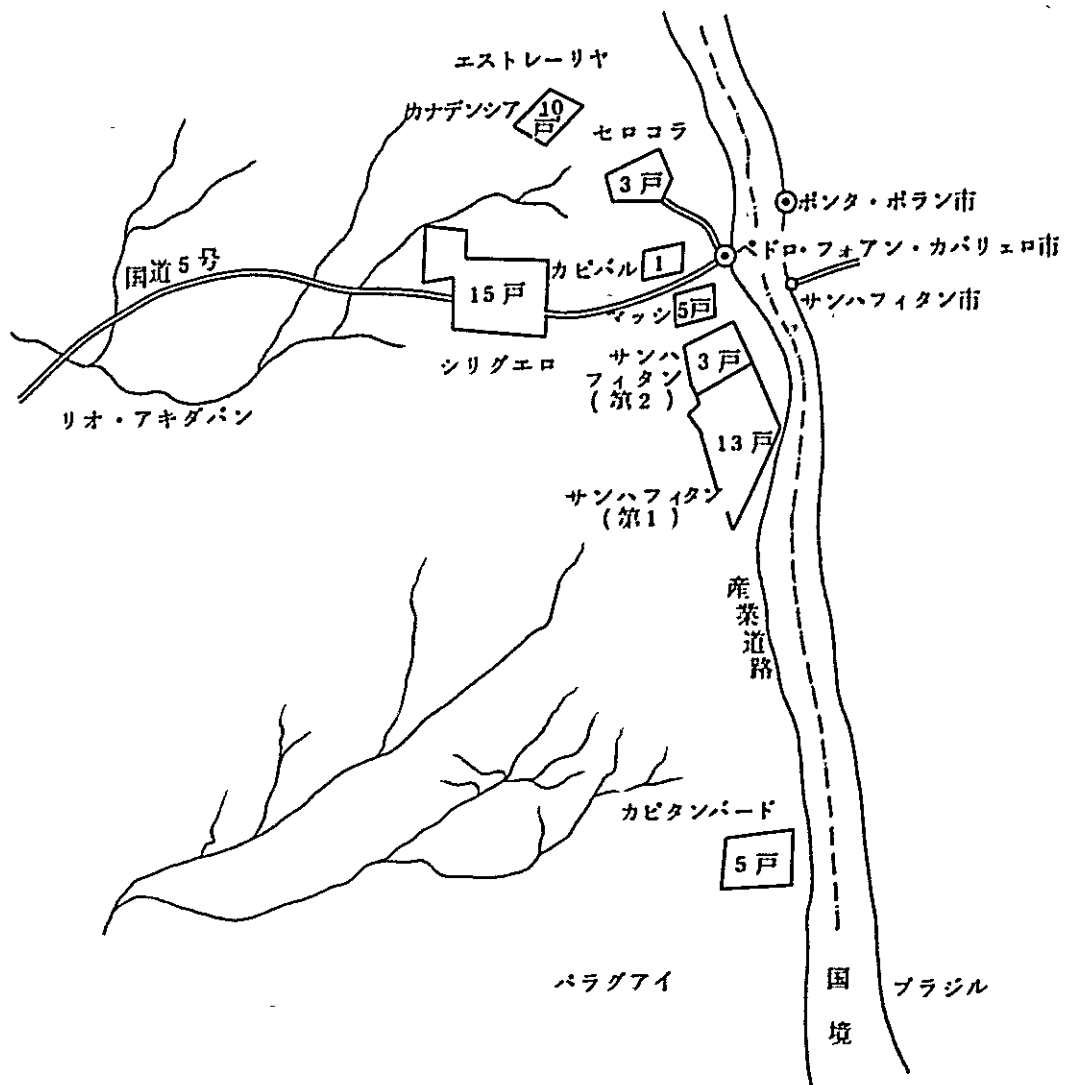
「アマンバイ農協」および「エストレーリヤ農協」の2組合がある。

そのうち, アマンバイ農協は, 1961年(昭和36年), ジョンソン耕地独立と同時に創立, 一時は組合員100名近くに達したが, その後, 移住地営農の不振による退耕, 離農によって, また, 組合の放漫経営によって脱退者が続出。現在ではわずか43名となったが, 手固く堅実に運営, 少しずつ過去の債務を返済しつつある。なお, 主要事業は, 販売, 購買事業とコーヒーの乾燥, 精選事業, 生繭の乾繭事業, 機械利用事業(トラクター)もあり, このうち販売事業の主な取扱い生産物は, コーヒー, 繭, 大豆である。

一方, エストレーリヤ農協は, コーヒーの精選と販売加工のみを目的とした組合で, 1969年(昭和44年)に創立, 現在組合員は10名である。

5 地図略図





ボリビア国

〔政治〕

ボリビアは1825年独立以来今日まで政変につぐ政変のため豊富な資源を擁しながら国運が遅々として展しない一方チリの太平洋戦争による敗北のため海岸線を失い内陸国となり、またパラグアイとのチャコ戦争により有望な石油地帯を失った上、甚大な人的物的損失を蒙ったため国力は極度に疲弊した。

前々大統領オパンド前大統領トーレス、両政権時代には労働組合、学生等極左勢力の伸長によって著しく左傾したが、これを不満とする軍部民族革命運動党(MNR)ボリビア、フアランへ社会党(FSB)二大政党の支持を得て1971年(昭和46年)8月現バンスセル政権が誕生した。

現政権は政治的に反共を基盤とするナショナリズムを標榜し、経済的には私企業活動の尊重、外交的には親米、親自由主義諸国等を基本路線としている。

このような現政権の政治路線に対しては国民一般も好感をもって迎えているが、政権の将来の安定度は一に実権を握っている軍部MNR、FSBの三大政治勢力の協調関係の成否にかかっている。

今年7月には閣僚をすべて軍人に配置がえしている。政体は立憲共和制で1826年以来何度も憲法改正があり現行憲法は1967年(昭和42年)改正されたものである。大統領は国の元首であると同時に行政府の首班である。地方行政は9州にわけられている。国会は閉鎖されているが、27名の上院と102名の下院とからなる。

〔経済〕

ボリビアは豊かな鉱物資源に恵まれた国であり錫については世界の3大生産国の1つである。鉱産物輸出はボリビアの外貨収入の約80%を占めるにもかかわらず、国内総生産に対する鉱業の寄与率は8~9%に過ぎず、国民の60%は農業に従事し国内総生産への寄与率は18%である。全人口の80%を占める高原、渓谷地帯は零細なミニフンディオ(土地所有者:古い制度上のことば)で新技術が不足し、平原地帯は約30万7千平方キロメートルのうち耕作面積は約8万平方キロメートルである。農業生産の平均成長率は1968~71年(昭和43年~46年)の間5%で拡大してきたが、これはサンタクルース地区の綿花、米、砂糖、牛肉生産の伸長に基因する。

鉱物生産は全体として1971年(昭和46年)は労働不安と国際価格の不調で減少し1972年(昭和47年)は鉱山公社の技術改善により若干回復している。錫の生産は1972年(昭和47年)に3万1千トンで前年比5%増大、亜鉛の生産は1968年(昭和43年)1万1千トンから1969年(昭和44年)は2万6千トンと増大し、さらに1970年(昭和45年)は4万6千トンと飛躍したが、1971年(昭和46年)はマチュルデ鉱山国有化により正常化に時間を要して減産しているが4万トン台を維持している。一方銀、鉛、アンチモニー銅などは近年減少傾向にある。政府の開発目標は、生産の多様化、国内精錬、錫廃品の減少、試掘の強化等に向けられている。

国際的には自由主義諸国および世界、全米開発銀行など国際金融機関からの援助もとみに活発化しており国内経済活動も徐々に活発化して行くものと期待されている。

〔社会〕

インカや植民時代から近代にまで引継がれてきた厳しい階級制度のために、教育は一部の支配層だけのものであった。かつては原住民のほとんどは農村地域で伝統的生活様式に固執し、自給自足の経済から脱

け出ようとしな。彼らは自家製の粗末な衣服をまとい、馬鈴薯、とうもろこし、バナナ、米を主食としていた。その住居も一般に極めて貧弱であった。

これに比べ、都市の生活はより近代的である。都市住民のほとんどはヨーロッパ風の衣服をまとい、その食・住生活も西欧化されている。

つまりボリビアでは、前近代的文化と西欧的文化とが溶け合うことなく共存しているのである。1952年（昭和27年）革命後、各地に開設された農村学校と成人教育によって、かつては60%と言われた文盲率も急速に改善されてきている。殊に近年トランジスタ・ラジオの普及は、広いアンデス高原に散在する原住民に耳からの教育が行われるようになった。なかでも鉱山地帯や、ラ・パス市近辺の農村の若い世代には新しい教育を受けよりよい生活を求めようとする気運が生れつつある。

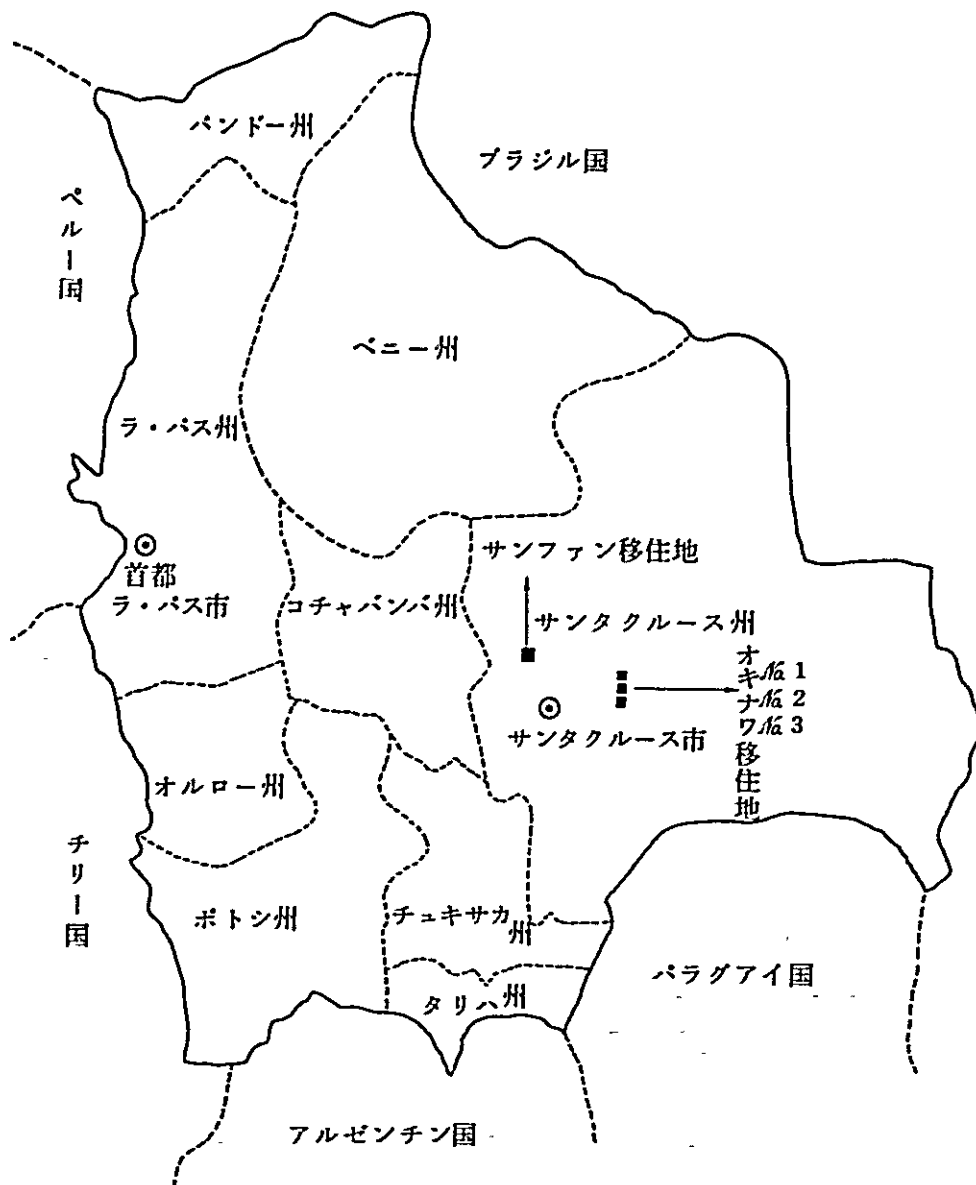
初等教育は義務制で6年、中等教育は6年、大学は5～7年である。

サンタ・クルース支部管内

支部機構

サンタ・クルース支部 (サンタ・クルース市)

- サンファン事業所 (サンファン移住地)
- サンファン試験農場 (")
- オキナワ事業所 (オキナワ第2移住地)
- スエバ・エスベランサ (オキナワ第2移住地) 畜産試験農場



移住名 サンファン移住地

1 地区概要

所在地	所在地	サンタ・クルース県イチロー郡
		COLONIA SAN JUAN SAN CARLOS PROVINCIA ICHILO
		DEPARTAMENTO SANTA CRUZ
	管理者	事業団
	入植開始年度	昭和30年(1955年)

経緯	経緯	<p>戦後の移住は1953年(昭和28年)ボリビア政府が当時兼轄していた在ベルー日本公使館に対し、日本移住者を歓迎する旨の意向を表明したことが動機となった。これに対し日本政府は早速具体化するため種々検討の結果、翌1954年(昭和29年)ボリビア政府と直接交渉を行うとともに現状把握のため現地調査団を派遣しその結果、ヤバカニ河沿いの国有地が移住地適地と決められ、これが現在のサンファン移住地である。</p> <p>1955年(昭和30年)に最初の移住者(西川移民)14戸88名がサンファン移住地の一角に入植した。以来1973年(昭和48年)9月(最終入植)までに第28次に亘り297家族1,648人が入植した。入植初期の段階には、立地条件の不良等々の理由もあったので多くの脱耕者があり、これらの転耕者の多くは伯国、亜国等へ転住した。</p> <p>入植者の経営は当初は焼畑式の陸稲栽培に頼っていたが、最近従来の焼畑農法から逐次永久耕地下がなされ養鶏の導入および大豆栽培が盛んになっている。</p> <p>現在ほぼ営農生活の安定をみるに至っている。</p>
	緯	

自然条件	位置	W 63° 51' S 17° 21'
	地形	大部分は平坦で小川により浅谷が南東から北西に走っている。
	地質・土壌	沖積層台地で砂土、土壌が混交、PH 4.5～5.6
	植生・林相	ビロングワヤボ等の熱帯樹木が繁茂し直径30cm以上のものが1ha当り200～250本程度、樹高平均20m
	気候	雨期12～3月、乾期5～9月、気温平均最高29.0、平均最低19.9、平均年間降雨量2,000mm

交通	首都ラ・パス市より陸路サンタ・クルース市経由1,028km、空路ラ・パス市～サンタ・クルース市570km、サンタ・クルース市より移住地入口まで約125kmの国道が通じており完全舗装されている。この国道はヤバカニ河を渡りコチャパンパ市に通じる計画
----	--

社 会 条 件	社	である。目下架橋工事中で10月末完成の予定。
	市	移住地内道路は全ロッテに通じている、サンタ・クルース市より移住地センター（地区内12Km地点）まで1日2往復のバス便があり、また移住地入口まで1日3往復のバスの便がある。
	市場	サンタクルース市が最も近い市場でありこの他にコチャパンバ市、ラ・パス市が産米の主な販売市場となっている。 将来はヤバカ=河を渡りボ国第2都市コチャパンバ市に通じる最速道路が完成すると一段と市場が拡充される。
	近傍主要都市	サンタクルース人口は12万人、陸路140Km、モンテローロ市人口2万人、陸路86Km、コチャパンバ市人口16万、陸路630Km
医療・教育	移住地センターに診療所（入院可能）があり、日本医師が駐在し開腹手術も可能であり、余程の重症でない限りサンタクルース市の病院に行く必要はない。救急車1台配属されている。	
治安	小学校は移住地内に2校あり、生徒は自転車、スクールバスで通学、センターに中学校1校があり寄宿舎が完備している。義務制で6歳以上の者が入学し期間は小学校5年、中学校3年、高校4年（ボ国学制）である。 ボ国警察官が常駐し移住地周辺の治安に当たっている12Kmおよび26Kmに、各々2名と警察屯所があり設備は完備している。事業団より警備用オートバイ各1台貸代されている。	

2 入植状況

入植（戸内数と地人）	年 度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸 数	17		46	88	1	5	111	18	19			1
人 員	88		252	438	1	31	626	98	80			6	
年 度	42	43	44	45	46	47	48	49	現 地 入 植 者	合 計	定 着 数		
戸 数	3	6	3	1		1	3	1		324	224		
人 員	7	6	10	1		1	3	1		1,649	1,267		

昭和49年9月末

退耕者の主なる転住先	ブラジル国	アルゼンチン国	ボリビア国内	そ の 他	帰 国
率 (%)	32	22	20	3	23

主なる出身県名	長 崎	福 岡	北 海 道	高 知	東 京	熊 本	香 川	そ の 他	合 計
戸 数	117	25	14	9	7	7	5	40	224

総面積	27.132 ha			
ロ ッ テ 面積	50 ha			
分譲条件および価格	無 償			
分譲可能面積	20.060 ha			
分 譲 状 況	分 譲 済 面 積	未 分 譲 面 積	道路市街地等利用地	除 地
	20.060 ha	0	800 ha	6.272 ha
地 権 取 得	取得 332名 申請中 101名 未申請 30名			
電 気 : 飲 料 水	電気は自家発電(220ボルト使用)普及率約3.1%、飲料水は3m~10m(平均7m)の深さで水を得ることが可能であり、自家掘り井戸で賅っている。一部の家庭では打込井戸(5基)を使用している。			
地 区 内 道 路	幹線は砂利道、支線は盛土である。			
主なる事業団援護施設	小学校4、中学校1、教員宿舍7、寄宿舍1、診療所1、医師宿舍1、看護婦宿舍1、警察屯所1、組合事務所1、組合クラブ1、共同販売所1			
車 輛	救急車1、治安用オートバイ2、トラック2、ブルドーザ2、広報車1			
組 合 等 所 有 施 設	精米所1			
車輛機材等	トラック3、スクールバス1			

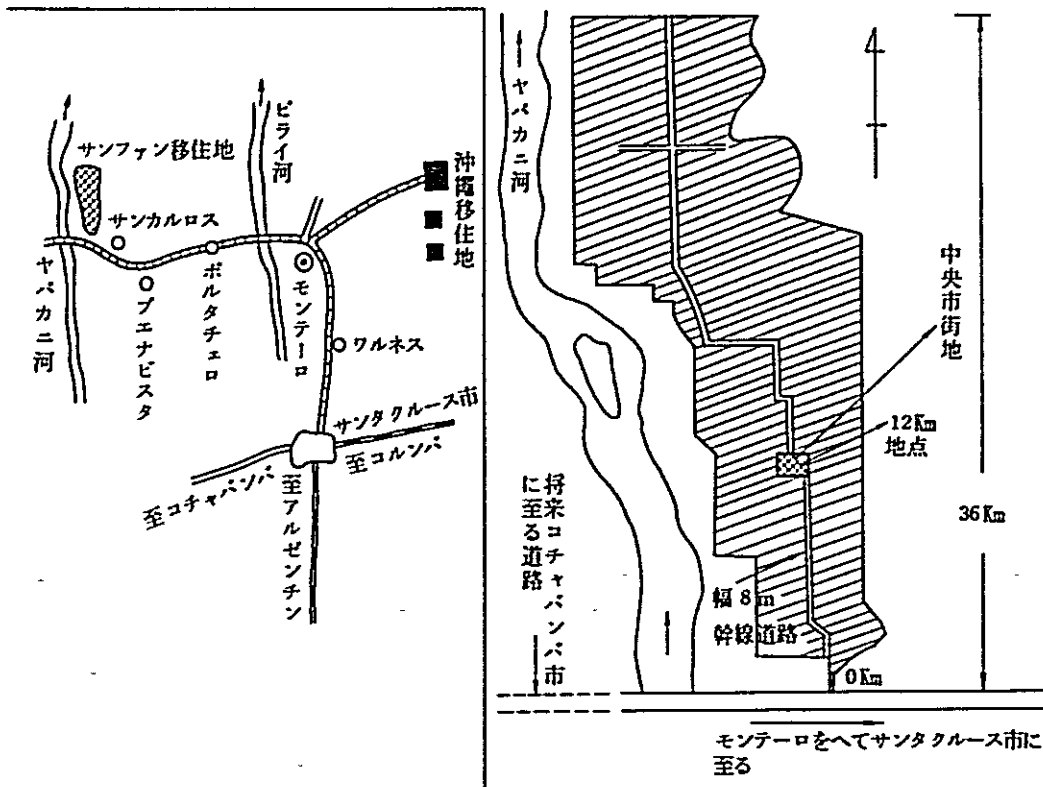
3 営 農

主 作 物	養鶏、陸稲、大豆
営 農 状 況	入植来の米作偏重から脱却し、サンタクルース州というとうもろこし等飼料作物の大生産地をバックにした養鶏、また市場性に富んだ大豆と、これらを3本柱に資金の蓄積を行ない、将来はこれを牧畜へと還元すべく営農の進展を図っている。
農機具等の普及状況	脱穀機0.7台、脱粒機0.3台、発動機1.1台、動力噴霧機0.6台、耕耘機0.2台、運搬用機械0.1台、精米機0.3台(昭和48年度調べ農家1戸当り平均)
営 農 指 導 期 間	事業団サンファン試験農場が担当し主に基幹作目の試験を実施しつつ指導を行っている。また必要に応じ事業団のヌエバエスベランサ畜産試験農場の協力があるほか、随時、モンテローロ市近郊にあるボ国樹のサベドラ試験場の協力を受けることができる。
利 用 金 融 機 関	銀行、事業団
主 作 物 販 売 取 扱 機 関 並 び に 主 市 場	サンファン農牧総合協同組合 サンタクルース、コチャパンバ、ラ・パス
農 家 所 得 (一戸当り平均 昭和48年度)	1,050千円(68,138 S b)

4 組織活動

自治会	<p>「サンファン村」を組織し、教育、土木、治安の事業を行っている。 自治会は、西川、中央、栄町、富士、ビクトル、共働、大和の7区に区分され、それぞれ区長が置かれている。他にサンファン連合青年会、サンファン連合婦人会があり、それぞれ地区全域で活動を行っている。</p>
農協	<p>「サンファン農牧総合協同組合」(法定)を組織し、管理部、購販売部、業務第一部(機械利用)、業務第二部(精米加工輸送)の4部門があり、堅実な運営を行っている。 現在、181戸農家で162戸が組合に加入している。</p>
搾油兼飼料工場	<p>養鶏ブームに伴ない、大豆の搾油ならびに飼料配合事業を1973年(昭和48年)7月に開始した。同年9月より本格操業に入り、1年半経過した現在、搾油機飼料配合機の更新導入計画し50年4月に機械到着の予定 従業員は、日本人6、ポ国人12計18名の8時間勤務で、移住地内の需要を満たしている。</p>

5 地区略図



移住地名 オキナワ第1移住地

1 地区概要

所在地	所在地	サンタクルース州ワルネス郡ロス、チャコス村 CANTON, LOS CHACOS PROVINCIA WARNES DEPARTAMENTO SANTA CRUZ
	管理者 入植開始年度	事業団・昭和42年7月以降(1967.7以降) 昭和34年(1959年)

経緯	経	昭和28年ボリビア国リベラルタ市の沖縄出身の在留邦人は、「古今未嘗有の大戦争の激戦地になった沖縄の同胞を援護することは人道上の必然的義務である」という趣旨のもとに沖縄県人のボリビア移住促進計画が開始され「うるま農産組合」を結成して、ボ国政府に働きかけ昭和27年サンタクルース県に国有地の払下げを受け移住地を創設したのが、「うるま植民地」である。琉球政府より調査員を派遣しボ国政府と交渉し移住地の調査を実施した結果、移住開始が確定した。この「うるま植民地」には昭和29年8月第一陣278名同年9月第二陣127名が入植したが間もなく病名不明の熱病が流行し犠牲者も出たため、地区の移転を計画しボ国政府と折衝し昭和30年同県のパロメテリへ全員移転した。しかし移って見たものここでは付近地主の反対、定着条件に欠けること等があり、三転して昭和30年現在地に移転を開始翌年9月移転を完了した。
	緯	さらに第2の移住地候補についてボ国政府に交渉しその結果南方22kmのワボモーというところに移住地を得た。前の移住地をオキナワ第1移住地といい、これをオキナワ第2移住地とした。そして昭和36年12月にはオキナワ第2移住地の南方16kmから始まる地点にさらにオキナワ第3移住地を得た。 この間沖縄から移住は引続き行われ移住したが一部の転耕者もあった。 昭和34年1月琉球政府の「ボリビア移住地駐在事務所」が開設され又昭和38年6月「琉球海外移住公社ボリビア出張所」が開設された。 この移住地は従来琉球政府が経営主体となり指導、援護を行っていたが昭和42年7月沖縄祖国復帰にさきかけて事業団に移管し今日に至っている。 当初の営農は陸稲が中心であったが最近では肉牛飼育熱が高まっているほか綿花栽培が盛んになっている。現在ほぼ営農生活の安定をみるに至っている。

自然条件	位置	W 62° 55' S 17° 10'
	地形	リオグランデ河およびパイロン川にはさまれた平坦地 標高 319 m ~ 307 m
	地質・土壌	リオグランデ・パイロン州沖積層(泥、粘土、砂土から成る) 植、植壤、壤土および微砂質壤土砂質土。PH 4.5 ~ 6.5

自然条件	植生・林相	北部は樹高20～35mアホー、サバイモシー、プランキリオ、モタクー、オチョオの闊葉樹、南部はクーチ、クルパウなどの針葉樹に大別される。一般に樹高は20～25mである。湿水地帯の再生林では二次的にサウヤが密生している草生は禾本科が多いが亜熱帯草も多い。
	気候	雨期10～3月、乾期4～9月、気温平均最高29.0、平均最低20.1、平均年間降雨量775mm

社会条件	交通	首都ラ・パス市より陸路サンタ・クルース市経由999km空路ラ・パス市～サンタ・クルース市570kmサンタ・クルース市より移住地南方約96kmで国道が通じており完全舗装されている。バスの便は頻繁にあり所要時間約2時間
	市場	サンタクルース市が最も近い市場であり、このほかにもモンテローロ市が主な販売市場となっている。輸出向の綿もサンタクルース市で取引されている。
	近傍主要都市	サンタクルース市人口12万、陸路96kmモンテローロ市人口は2万、陸路42km
	医療・教育	移住地内に第一分院があり日本医師が駐在し入院も可能であり殆ど治療出来る。病状によれば中央診療所(第2移住地)より日本医師が出張している。救急車1台配備されている。移住地内にコロニア神橋第1小中学校(小学5年、中学3年)あり生徒は自転車、スクールバスで通学、高校生はモンテローロに事業団が貸与しているサンタクルース学生寮(日ボ文化協会)に寄宿し通学している。
治安	ボ国警察官(署長1兵2)が常駐し移住地周辺の治安に当たっている。治安事務所があり施設は完備している。事業団より警備用オートバイ1台貸与されている。	

2 入植状況

入植(戸数と地人員)	年度	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数	153	39		44	91	81	58	72	81	36	23		
	人員	405	122		214	437	453	309	482	509	198	102		
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49	現地入植者	合計	定者数		
戸数		11	6	1		4		1		701	256			
人数		26	34	5		19		1		3,316	1,691			

(注) オキナワ移住地 第1、第2、第3合計

昭和49年9月末

退耕者の主なる転住先	ブラジル国	アルゼンチン国	ボリビア国内	その他	帰国
率(%)	48	17	12	3	20

主なる出身県名	沖縄							合計
現戸数	123							123

総面積	21,800 ha			
ロッテ面積	50 ha			
分譲条件および価格	無償			
分譲可能面積	17,980 ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	17,980 ha	0	200 ha	3,620 ha
地権取得	取得90名 申請中 名 未申請35名			
電気：飲料水	電気は自家発電（220ボルト）を使用、わずかに市街地の数軒が点灯しているにすぎない。 飲料水は大半は自家掘り浅井戸で賄っていたが現在は殆ど深井戸が堀削されている。50m～130m堀削すると自噴の可能性あり水質も良好である。			
地区内道路	移住地中央部に国道が貫通（モンテローロ～ロス・トロンコス間）しており舗装されている。地区内は盛土である。			
主なる事業団援護施設	小学校1、医師宿舎1、治安事務所1			
車輛	救急車1、スクールバス1、治安用オートバイ1			
組合等所有施設	精米所1、組合事務所兼売店1、小学校3、診療所1			
車輛	トラクター2			

3 営 農

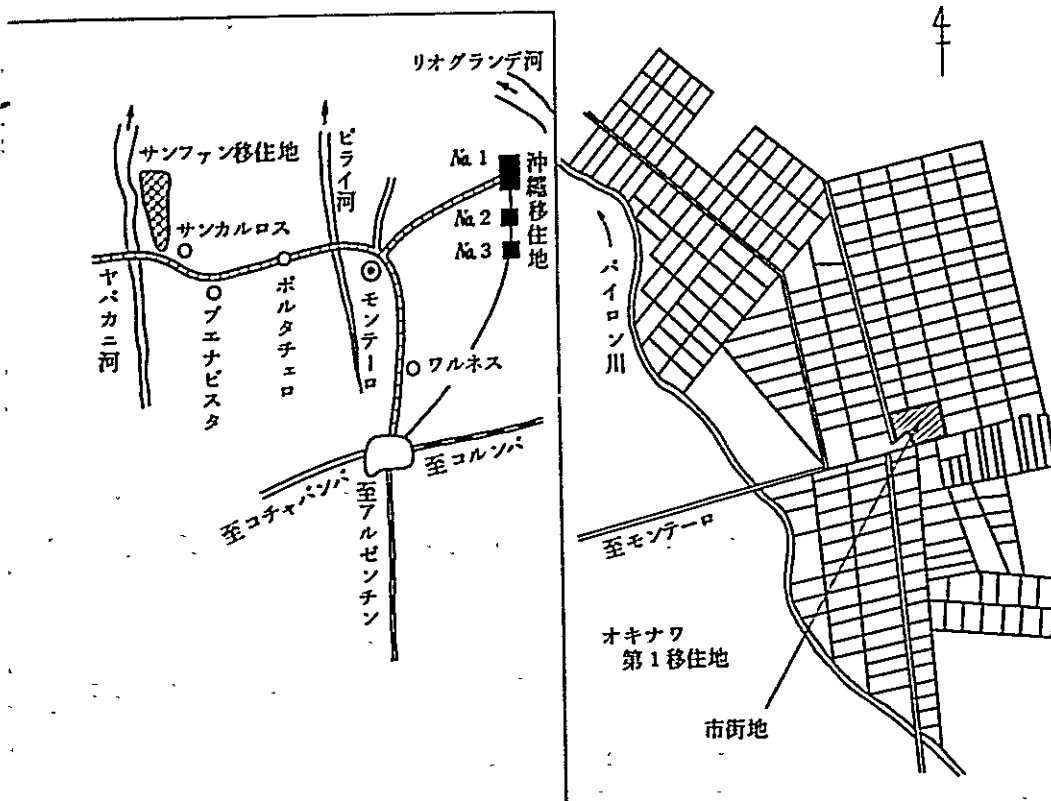
主 作 目	綿、牧畜（肉牛）、養豚、養鶏、さとうきび
営 農 状 況	雨量が少ないという地域の特性を生かし、牧畜（3,200頭）及び綿作（2,200ha）が営農の基幹作物となっているが、特にここ数年綿作の伸びが著しい。さらに、とうもろこしの自給による養豚、養鶏も盛んである。また、さとうきびは販売権を持つ一部農家で栽培されている。長年に亘り移住地の基幹作物であった陸稲は価格の不安定等から現在は自家用程度しか栽培されていない。
農機具等の普及状況	脱穀機0.2台、脱粒機0.03台、発動機0.3台、動力噴霧機0.4台、運搬用機機0.6台、トラクター0.4台（昭和48年度調べ農家1戸当り平均）
営 農 指 導 機 関	ヌエパエスベランサ畜産試験場が担当し、主に基幹作物の試験および指導を行っている。また、必要に応じてモンテローロ市近郊にあるボ国側のサベドラ試験場並びに当団サンファン試験農場から協力を受けている。
利 用 金 融 機 関	銀行・事業団
主作物の販売取扱機関並びに主市場	コロニア沖縄農牧総合組合（CAICO） サンタクルース、コチャパンパ、ラ・パス、ブラジル、日本、他（綿）

農家所得 (一戸当り平均昭和 48年度)	1,375千円(89,234 \$ b)
----------------------------	----------------------

4 組織活動

自治会 農協	<p>なし。一時自治会を結成したが現在は農協に業務を統合し解放した。</p> <p>「コロニア沖縄第1農業協同組合」(任意)がある。</p> <p>オキナワ移住地各単協は任意組合であるが、これらを統括した組合即ちコロニア沖縄農牧統合協同組合(略称CAICO)(法定組合)がある。</p> <p>主なる業務は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 繰綿工場の運営、 2. 農産物の購販売、 3. 病院の運営をしている。 <p>従って各移住地の単協はCAICOの支所的性格となっている。またオキナワ移住地は農協と自治会の完全分離は行っておらず、農協内に専属職員を配置し行政問題を処理している。</p>
-----------	---

5 地区略図



移住地名 オキナワ第2移住地

所在地	所在地	サンタクルース州ワルネス郡ヌエバエスベランサ村 CANTON NUEVA ESPERANZA PROVINCIA WARNES DEPARTAMENTO SANTA CRUZ
	管理 者 入植開始年度	事業団・昭和42年7月以降(1967.7月以降) 昭和34年(1959年)

経緯	経緯	オキナワ第1移住地参照
	緯	昭和34年ポ国移民受入委員の活躍により沖縄からの移住者受入地としてポ国政府より土地の払下げを受けた移住地である。入植は、昭和34年第1移住地からの転住者を第1陣として今日まで178世帯が入植したが現在は89世帯が定着している。 従来、陸稲を主体とし飼料作物のmaisを間作または裏作とした営農が続けられてきたが昭和47年度から沖縄移住地に於ける耕種収入の本命を棉花作と決定し本格栽培が行われた。 これと併行して同年第2移住地に採綿工場が建設され3月採葉が開始された。

自然条件	位置	W 62° 55' S 17° 20'
	地形	リオグランデ河およびパイロン川にはさまれた平坦地 標高319~348 m
	地質・土壌	リオグランデ川沖積層、植土約25%、植填土・微砂填土約50%、砂質・砂填土約25%、PH 5.5~6.5
	植生・林相	一般にグランキリオ・サバイモーン、コモモン、パーロサント、カリカリが多く樹高20~30 mであるが低湿地帯では蔓性化しており樹高8~15 mと低い。草はクラバター(野性パイナップル)ウンギーリョ(ガマの木)が多い。 一般地には森林地に多肉植物・再生林に禾本科植物が多く植生している。
	気候	雨期10~3月、乾期4~9月、気温平均最高30.4、平均19.2、平均年間降雨量966 mm

社会	交通	サンタ・クルース市よりメノニータ経由で62 km 盛土道路および砂利舗装で所要時間約1時30分 また、オキナワ第1移住地経由でサンタクルース市に通じることも出来る。
	市場	オキナワ第1移住地同様サンタクルース市が最も近い市場であり主な販売市場となっている。
	近傍主要都市 医療・教育	サンタクルース市人口12万、陸路62 km 移住地内に中央診療所があり日本医師が駐在し手術および入院は可能であり余程の

条	重症でない限りサンタクルース市の病院に行く必要はない。
件	救急車2台配属されている、なお第3分院（オキナワ第3移住地）を管轄している。学校はヌエバ・エスペランサ小中学校があり生徒は自転車、またはスクールバスで通学している。
治	オキナワ第1移住地同様が国警察官（署長1、兵1）が常駐し移住地周辺の治安に当たっている。治安事務所があり施設は完備している。事業団より警備用オートバイ1台貸与されている。
安	

2 入植状況

入植戸数と人員はオキナワ第1移住地参照

退耕者の主なる転住先	ブラジル国	アルゼンチン国	ボリビア国内	その他	帰国
率（％）	70	16	4	0	10

主なる出身県名	沖縄					合計
現戸数	83					83

総積	16,744 ha			
ロッテ面積	50 ha			
分譲条件および価格	無償			
分譲可能面積	16,171 ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	12,721 ha	3,450 ha	573 ha	0
地権取得	取得197名、申請中55名、未申請名			
電気：飲料水	電気は導入されていない。 飲料水はオキナワ第1と同様である。			
地区内道路	移住地内の幹線砂利舗装である。			
主なる事業団援護施設	医師宿舎2、教師宿舎1、治安事務所1、 小中学校1、管理用宿舎1			
車輛	救急車2、スクールバス1、オートバイ1			
組合等所有施設	診療所1、精米所1、組合事務所及び売店1			
車輛	ブルドーザ2台、グレーダ1台、トラクター2台			
CAICO所有	繰綿工場 ジープ3台、コンプレッサー1台、トラクトール1台、小型トラック1台			

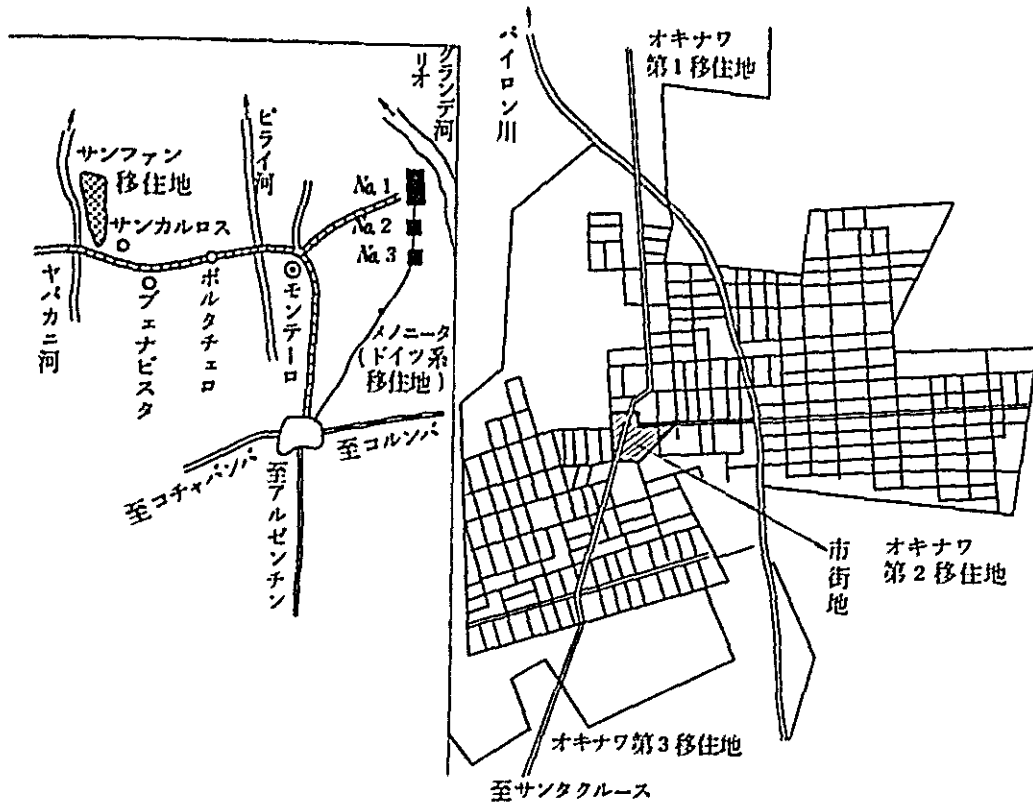
3 營 農

主 作 目	綿, 牧畜(肉牛), 養豚, 養鶏
営 農 状 況	雨量が少ないという地域の特性を生かし, 牧畜(2,900頭)および綿作(900ha)が営農の基幹となっているが, 特にここ数年綿作の伸びが著しい, またとうもろこしの自給による養豚, 養鶏も盛んであるが, 米作は自家用米程度である。
農機具等の普及状況	脱穀機 0.3 台, 脱粒機 0.02 台, 発動機 0.24 台, 動力噴霧機 0.1 台, 運搬用機械 0.2 台, トラクター 0.2 台(昭和48年度調べ農家1戸当り平均)
営 農 指 導 機 関	スエパニスベランサ産試験農場が担当し, 主に基幹作目の試験および指導を行っている。また必要に応じモンテロー市近郊にあるポ国側のサベドラ試験場並びに当団, サンファン試験農場から協力を受けている。
利 用 金 融 機 関	銀行, 事業団
主 作 物 の 販 売 取 扱 機 関 並 び に 市 場	コロニア沖縄農牧総合協同組合(CAICO)サンタクルース, コチャパンバ, ラ・パス, ブラジル, 日本, 他(綿)
農 家 所 得 (1戸当り平均 昭和48年度)	804千円(52,206 \$ b)

4 組 織 活 動

自 治 会 農 協	なし, 農協が代行している。 「第2コロニア沖縄農業協同組合」(任意)がある。125戸農家が加入している。他に上部組織のCAICOがある。業務はオキナワ第1と同様。
--------------	---

5 地区略図



移住地名 オキナワ第3 移住地

所在地	サンタクルース州ワルネス郡モンテクリスト村 CANTON MONTE CRISTO PROVINCIA WARNES DEPARTAMENTO SANTA CRUZ
管理者	事業団、昭和42年7月以降(1967.7以降)
入植開始年度	昭和37年(1962年)

経緯	オキナワ第1 移住地参照。 オキナワ第2 移住地に引続いて昭和35年にポ国政府より払下げを受けた移住地である。入植は昭和37年から始まり今日までに128世帯が入植したが現在は57世帯となっている。なお引続き受入中である。 この移住地の営農はオキナワ第1及び第2 移住地とほぼ同様である。
----	---

自 然 条 件	位 置	W 62° 55' S 17° 31'
	地 形	リオグランデ河およびパイロン川にはさまれた平坦地 標高 332 ~ 384 m
	地 質・土 壤	リオグランデ沖積層、植土、植填土約 80%、填土、砂質填土砂質土約 20%、PH 5.5 ~ 6.5
	植 生・林 相	フルパウ、タヒーボ、モラーウ、クータ、クセー、イチトリキ、ワヤカン、ブラン キリオが多く樹高 15 ~ 30 m。低湿地または湿地には草性ガラバター、アロシーリ ヨが目立つ。 森林、再生林はオキナワ第 1、第 2 と大差はない。 雨期 10 ~ 3 月、乾期 4 ~ 9 月、気温はほぼ第 2 移住地と同様、平均年間降雨量 960 mm

社 会 条 件	交 通	サンタクルース市よりメノニータ経由で 44 Km 盛土道路で所要時間約 1 時間
	市 場	オキナワ第 1、第 2 移住地同様、サンタクルース市が最も近い市場であり主な販売 市場となっている。
	近 傍 主 要 都 市	サンタクルース市人口 12 万、陸路 62 Km
	医 療・教 育	移住地内第 3 分院があり第 2 移住地の中央診療所が管轄しており日本医師が週 2 ~ 3 日中央診療所より回診している。入院は日系看護婦が常駐しているので可能であ る。急患は中央診療所に救急車で搬送している。 学校はモンテクリスト小中学校があり生徒は自転車等で通学している。 治 安 オキナワ第 1、第 2 移住地と同様ボ国警察官（署長 1、兵 1）が常駐し移住地周辺 の治安に当たっている。 治安事務所があり施設は完備している。 事業団より警備用オートバイ 1 台貸与されている。

2 入 植 状 況

入植戸数と人員はオキナワ第 1 移住地参照

選抜者の主なる転住先	ブラジル国	アルゼンチン国	ボリビア国内	そ の 他	帰 国
率 (%)	31	33	3	13	20

主なる出身県名	沖 縄					合 計
現 戸 数	50					50

総 面 積	15,610 ha
ロ ッ テ 面 積	50 ha
分譲条件および価格	無 償

分譲可能面積	7,496 ha			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	5,746 ha	1,750 ha	204 ha	7,910 ha
地権取得	取得名, 申請中 82名, 未申請名			
電気：飲料水	電気は導入されていない。 飲料水はオキナワ第1, 第2と同様である。			
地区内道路	移住地内の幹線砂利舗装である。			
主なる事業団援護	移住者宿泊所1, 教師宿舍1, 治安事務所1			
施設	オートバイ1台			
組合等所有	組合事務所及び売店1, 小学校1, 精米所1, 診療所1			
施設	ブルドーザ1台, トラクター4台, トラック2台, トラクトール1台			
その他				

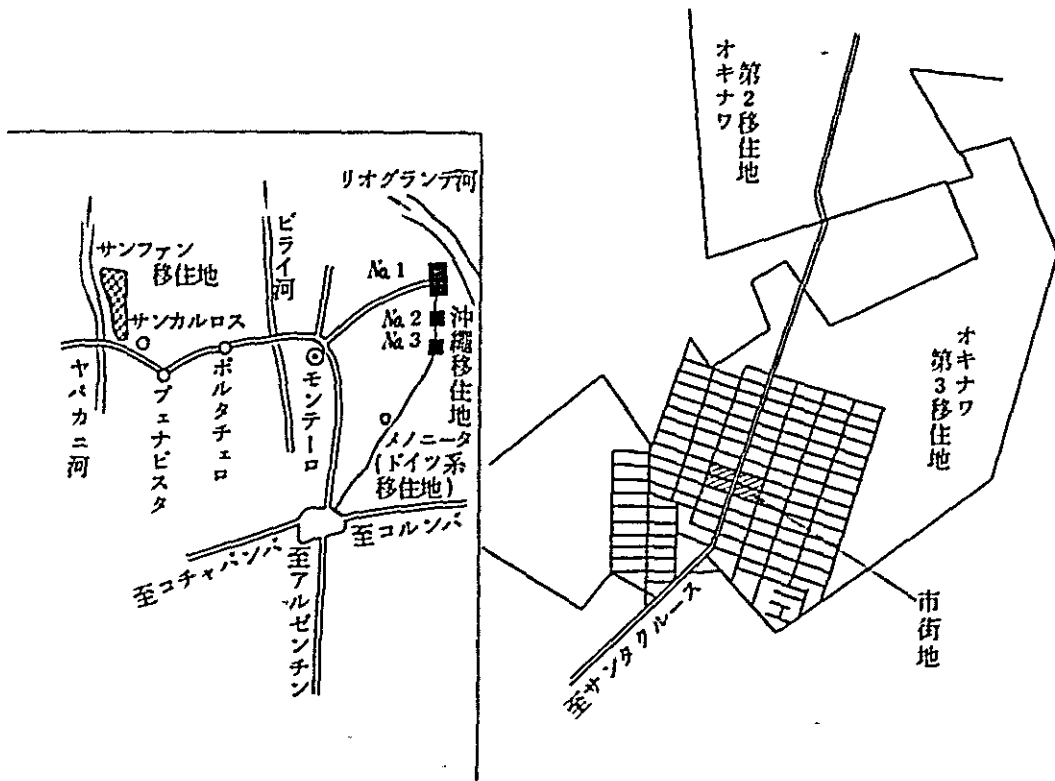
3 営 農

主 作 目	綿, 牧畜(肉牛), 養豚 養鶏 さとうきび
営 農 状 況	雨量が少ないという地域の特性を生かし, 牧畜(800頭)および綿作(800ha)が営農の基幹作目となっているが特にここ数年綿作の伸びが著しい。さらにとうもろこしの自給による養豚 養鶏も盛んである。また販売権を持っている一部農家ではさとうきび栽培が行われている。
農機具等の普及状況	脱穀機0.4台, 脱粒機0.1台, 動力噴霧機0.3台, 運搬用機械0.2台(昭和48年度調べ農家1戸当り平均)
営 農 指 導 機 関	スエパエスペランサ畜産試験農場が担当し, 主に基幹作目の試験および指導を行っている。また必要に応じモンテローロ市近郊にあるボ国側のサベドラ試験場並びに当団サンファン試験農場から協力を受けている。
利 用 金 融 機 関	銀行, 事業団
主作物の販売取扱 機関並びに市場	コロニア沖縄農牧総合協同組合(CAICO), サンタクルース, コチャパンパ, ラ・パス, ブラジル, 日本, 他(綿)
農 家 所 得 (1戸当り平均 昭和47年度)	682千円(44,232 \$ b)

4 組織活動

自治体 農協	なし。農協が代行している。 「第3コロニヤ沖縄農業協同組合」(任意)がある。53戸農家が加入している。 他に上部組織のCAICOがある。業務はオキナワ第1と同様。
-----------	---

5. 地区略図



ドミニカ国

〔政治〕

ラファエル・レオニダス・トルヒーロ將軍が1930年(昭和5年)に大統領に推挙されて以来32年にわたるトルヒーロの独裁は、半植民地的地位にあったこの国に一応近代国家としての体系を築き上げた。その反面、独裁者共通の独断専行、反対派の徹底的な弾圧を行い、警察国家として民衆を抑え、強権政治を施行したので国内に不満が高まり、しばしば反政府運動が醸成された。加えて、1935年(昭和10年)6月ベネズエラ大統領暗殺未遂事件がからみOAS(米州機構)20ヶ国からド国に対し経済封鎖が行われ、更に、1961年(昭和36年)5月には日本人誘入の提唱者であったトルヒーロ將軍暗殺事件が勃発し、彼の死後、政情の混乱を招いたが、このような重大な事態を収拾すべき指導者に恵れず政局は混乱した。これが「ドミニカ革命」であり遠くはトルヒーロの独裁の余影による政治的・社会的・経済的混乱から発した特権階級と自由職業、農民労働大衆との対決が原因であった。

その後、米軍の介入、米州機構平和軍の創設とその駐留を経て紆余曲折の後、終結せしめる妥協が成立し臨時大統領としてガルシア・ゴドイが就任し、ドミニカの内乱に終止符を打つこととなった。しかし、左右勢力の対立による政情不安は依然として続き、米州平和軍の存在により内乱の再発を避け、1966年(昭和41年)6月に大統領選挙を施行し、中道右派のパラゲールが当選し、同年7月ここに立憲大統領が就任した。1974年(昭和49年)5月16日に行われた大統領選挙にも出馬し、三選を達成した。

ドミニカは、三権分立主義に基いた共和国である。議会は2院制で上院は各県及び首都圏より各1名、下院は住民5万人につき1名である。政党は8党が公認されている。与党は改革党、最大野党はドミニカ革命党であった。

〔経済〕

ドミニカ経済は、トルヒーロの独裁政権の崩壊後同国をめぐる不安定な政治情勢や主要輸出品である砂糖の世界市場価格が落ちこんだためもあり停滞を続け、内乱発生前の1963・64年(昭和38・39年)の平均経済成長率は5.8%であった。1965年(昭和40年)4月の内乱発生により1億ドル以上の物的損失を被り1965・66年(昭和40・41年)の2年間の経済成長率は全くストップしたが、米国の経済援助を受け一応危機を脱した。その後、干ばつのためもあり農業生産は振わず経済成長率は年々2%の停滞を続けた。1969年(昭和44年)に農産物、特に砂糖の増産で国内総生産は12.2%増となり、その後も平均9.8%の成長を続けた。同国では、人口の半分は農業人口であり、全輸出額の4分の3は農業生産物である。近年、生産が著しく増加しているのはタバコであり、新しい品種と栽培方法が導入され、また、ピーナツ・とうもろこし・トマト・米の生産も増加している。気候風土は牧畜に適しており、牧牛も盛んである。製造工業について同国は初期の軽工業の域を脱していない。しかし、何と云っても、この国の重要産業は精糖業であり、輸出額の半分以上を砂糖で占めている。

〔社会〕

面積は5万5,600 km²、人口417万、人口増加率は3.6%である。公用語はスペイン語で、国民の大部分がカトリック教徒である。スペイン文化の影響は、次第に薄れ、アメリカ文明の強い影響を受けており、人種的には白人と黒人の混血が大半占め、人種差別は余り見受けられない。人口は都会に集中している。政府は文盲撲滅・職業専門教育に力を入れており、義務教育は日本式の小学校が6年、中学校が2年であ

る。高等学校は4年でそれから大学と進むこととなっている。首都以外の地方では、施設のみならず教員の質と数が不足している。芸術一般について、スペイン文化が根底になっているが、上層階級は米国生活様式を取り入れ、下層階級は米国映画・TVの影響でアメリカ化が促進されている。文学的には、目立ったものは見当たらない。国民はスペイン気質、アフリカの性質、アメリカ化が混ざり合わさった気質を加味している。

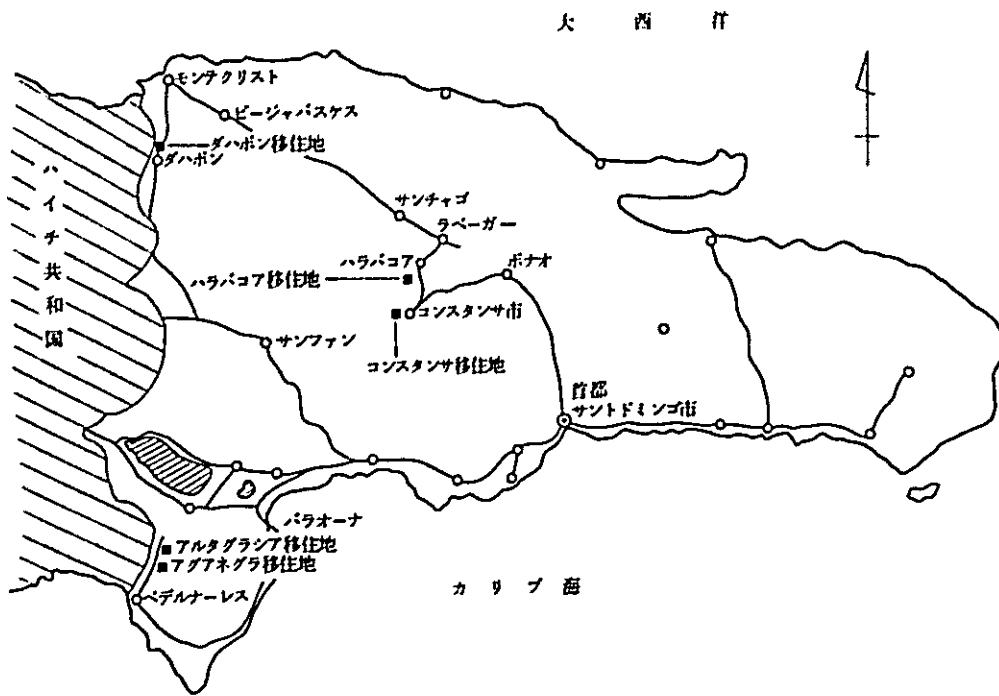
※注 親日家であったトルヒーロ將軍の死に伴い、移住者の間にも動揺を来たし、遂に集団帰国、他国への転住となった。これが、所謂ドミニカ集団転住である。日本政府はこれらの転住者に特別救済措置をとることにより、事態の収拾を図った。この結果、帰国者は自費帰国者を含め133家族672名、南米転住者70家族377名、ドミニカ残留者は276名となった。

サント・ドミンゴ支部管内

支部機構

サント・ドミンゴ支部 (サント・ドミンゴ市)

管轄 ドミニカ国全域



移住地名 ダ ハ ボ ン

1 地区概要

所在地	所在地	ダハボン県ラ・ビヒア
		COLONIA LA VIGIA DAJABON
	管理者	ドミニカ国政府
	入植開始年度	昭和31年(1956年)

経緯	経緯	国境地帯開発のため創設された国営移住地で1956年(昭和31年)7月29日、28戸、185名の日本人移住者が、初めて入植した。しかし、募集要項どおりの土地配分がなされなかったこと、灌漑水の絶対量が不足したこと。さらに、動乱等により転出者が続出し、かつては日本人大移住地として、最成期には58戸が入植したが現在は8戸まで減少している。営農主体は、米作と一部野菜の組み合わせによる農業を行っているが、毎年水不足に悩まされているため、営農状況は一般に低い方である。

自然条件	位置	' W 71° 40' N 19° 31'
	地形	一部小丘を除き概ね平坦であるが水利上、南から北へわずかな傾斜をなしている。
	地質・土質	酸性暗色の埴壤土または埴土であるが、河沿低地帯は肥沃である。
	植生・林相	樹木は繁茂しているが、河沿いより離れるに従い乾燥地帯特有の幹の細い葉の小さい灌木林となっている。
	気候	気温平均最高(8月頃)28.4℃気温平均最低(1月頃)22℃夏季は相当に暑いが、夜は比較的涼しく夜ぎ易い。平均年間降雨量1,200～1,300mm 1月～3月は乾季で、降雨量は極端に少い。

社会条件	交通	移住地より東方2.5km地点にダハボン・モンテクリスティ間のアスファルト道路があり移住地から、これらの町へは随時乗合タクシーが連結している。
	市場	ダハボン市及びサンチャゴ市が主な市場である。
	近傍主要都市	ダハボン市(人口6,000人)、南東6.5km、モンテクリスティ市(人口8,500人)北北東27.5km。
	医療・教育	地区内には、医療施設がないが、当団で毎年1回巡回診療を実施している。また最近、外務省で大学医学部員を派遣し、移住者の健康相談を実施している。首都サント・ドミンゴ市は各種医療施設が完備しており、当団では特約医をおいている。
		以上のことは、以下各移住地にも共通している。学校は、地区に小学校、ダハボン

治	安	市に小学校、中学校併用の初等校(8年)と高校がある。 ダハボン市の警察管下におかれている。
---	---	--

2 入植状況

入植戸数と人員 (内地)	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数		58										
	人員		338										
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49	現地入植者	合計	定着数	
戸数									3	61	8		
人員									22	360	25		

昭和49年12月末

退耕者の主なる 住先	ブラジル国	パラグアイ国	ドミニカ国内	帰国	その他
率 (%)	13.8	1.7	48.2	36.2	

主なる出身県名	高知	山形	福井	山口	福岡	鹿児島			合計
戸数	3	1	1	1	1	1			8

総面積	1,200 ha			
ロッテ面積	6 ha			
分譲条件および 価	無償、土地は入植8年後に無償譲渡			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	1,200 ha			
地権取得	取得7名。 (全員本地権交付済)			
電気：飲料水	電気は導入されていない。自家発電機による。飲料水は共同水道、燃料はプロパンガス。			
地区内道路	地区内道路は、舗装されていないがきわめて良好。			
主なる事業団 援護施設	灌漑用深井戸(エンジン、ポンプ付)1			
車輛	なし			
機械	発動機1、カッター1、発電機1			
組合等所有 施設	なし			
車輛機械等	なし			

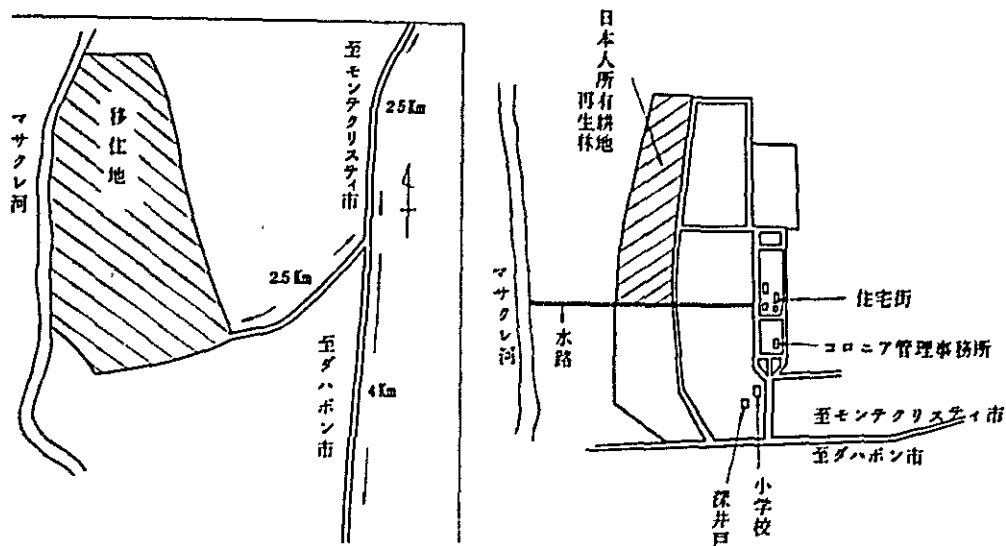
3 営 農

主 作 目	水稲, 蔬菜
営 農 状 況	水稲2期作が主体で、一部農家において小面積蔬菜の作付がおこなわれている。当移住地の営農上の問題は、水稲作付期の水不足であるが、昭和47年度深井戸の試掘がおこなわれ、水量、水質とも良好な結果を得ている。昭和48年度の調査によれば、一農家平均耕作面積水田10.05 ha, 畑0.64 ha, 樹園地0.04 ha 農業粗収入は2,385千円である農業依存度45%農家1戸当り家族労働人数1.7人
農機具等の普及状況	精米機0.25台, コンバイン0.13台, 発動機0.13台, 動力噴霧機0.38台, 耕耘機1.25台, トラック0.25台, 揚水ポンプ0.13台 (昭和48年度調べ農家1戸当り平均)
営 農 指 導 機 関	事業団サント・ドミンゴ支部
利 用 金 融 機 関	銀 行
主作物の販売取扱	ドミニカ食糧公団、民間精米所への個人売渡し。
機 関 並 に 主 市 場	蔬菜は地元ダハボン市向け。
農 家 所 得 (一戸当り平均昭和 48年度)	1,103千円(4,073 RDS)

4 組 織 活 動

自 治 会	ダハボン日本人会を結成している。
農 協	昭和49年灌溉用深井戸管理にあたる水利組合が結成された。

5 地区略図



移住地名 コンスタンサ

1 地区概要

所在地	所在地	ラ・ベガ県コスタンサ
		COLONIA JAPONESA CONSTANZA LA VEGA
	管理者	ドミニカ国政府
	入植開始年度	昭和31年(1956年)

経緯	経緯	昭和31年に初めて日本人移住者17家族120名が入植したがそれ以前には、スペインからの移住者も入植している。当地は野菜を充足するため設定した蔬菜園芸移住地で、最初の土地配分が狭少のため転住者を募って土地を確保し、土地問題は解決したが、ハラバコア移住地が野菜をつくることによって生産過剰となり、また連作による地力消耗ならびに投機的作付によって行き詰まりトルヒーヨ将軍暗殺後、帰国ならびに、南米転住者が続出した。現在の入植戸数は11で、そのうち各種野菜を常時栽培し出荷する安定農家とニンニク栽培で高値を期待する農家に分けられ後者の経営は不安定である。
----	----	---

自然条件	位置	W70°45' N 18°55'
	地形	この国の中央部セントラル山脈内のコンスタンサ盆地にあり標高1,200 mの高原地帯である。
	地質・土壌	土壌は黒色又は黒褐色の埴土で酸性である。
	植生・林相候	樹木は乱伐が激しく減少の一途をたどっている。 年間平均20度前後で風光明媚の景勝の地である。 気温最高平均25.8°C, 最低平均10.9°C, 年平均18.3°C 雨期5～10月, 乾期11～4月, 年間平均降雨量1,060 mm

社会条件	交通	乗合タクシーが一般の交通機関となっており, 移住地～サントドミンゴ間も乗合タクシーが利用されている。
	市場	トラック輸送でラ・ベータ, サンチャゴ, サント・ドミンゴの各市場に出荷している。またスーパーマーケットに直接販売する大手生産者もいる。
	近傍主要都市	ハラパコア市人口6500人, 東北43 Km, サンチャゴ市人口155,000人, 北92 Km, ラ・ベータ市人口31,000人, 東北48 Km, サント・ドミンゴ市人口100万人, 東南140 Km
	医療・教育	地区内に医療施設はない。地区外のコンスタンサ市には公立病院1, 公立保健所1, 私立病院2がある。 地区内に学校はないがコンスタンサ市に小学校, 中学校併用の初等校と高校(夜間)がある。
治安	コンスタンサ市の警察管下におかれている。	

2 入植状況

入植戸数と人員 (内地)	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数		29	1		5							
	人員		188	7		25							
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49	現地入植者	合計	定着数	
戸数									13	48	11		
人員									62	282	47		

昭和49年12月末

退耕者の主なる転住先	ブラジル国	ボリビア国内	ドミニカ国内	帰国	その他
率 (%)	22.6	6.5	25.8	41.9	3.2

主なる出身県名	鹿児島	山口	広島						合計
戸数	6	3	2						11

総面積	900 ha			
ロッテ面積	5 ha			
分譲条件および価格	無償。土地は入植10年後無償譲渡			
分譲状況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除地
	900 ha			
地権取得	取得6名、申請中2名、未申請名			
電気：飲料水	全戸都市電気でありTV、ラジオ、電気冷蔵庫等をおいている。燃料はプロパンガス。 飲料水は都市水道である。			
区内道路	幹線は住宅地区まで完全舗装されており、区内道路は舗装されていないが雨天の際も途絶することなく良好である。			
主なる事業団援護施設	なし			
車輛	トラクター1			
材料	揚水ポンプ1			
組合等所有施設	なし			
車輛機械等	トラック1(事業団より譲渡)			

3 営 農

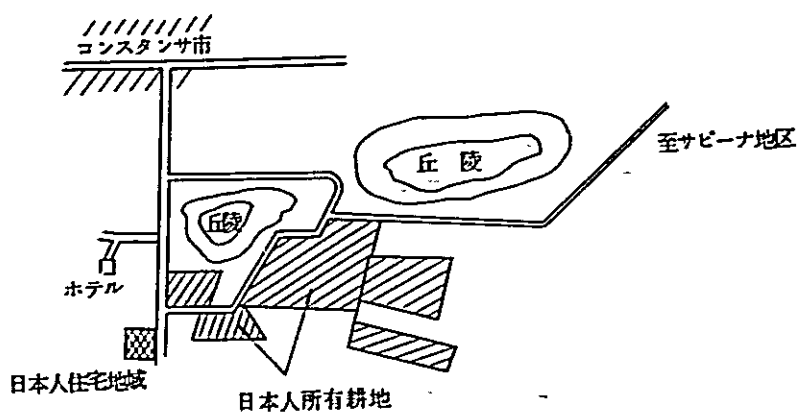
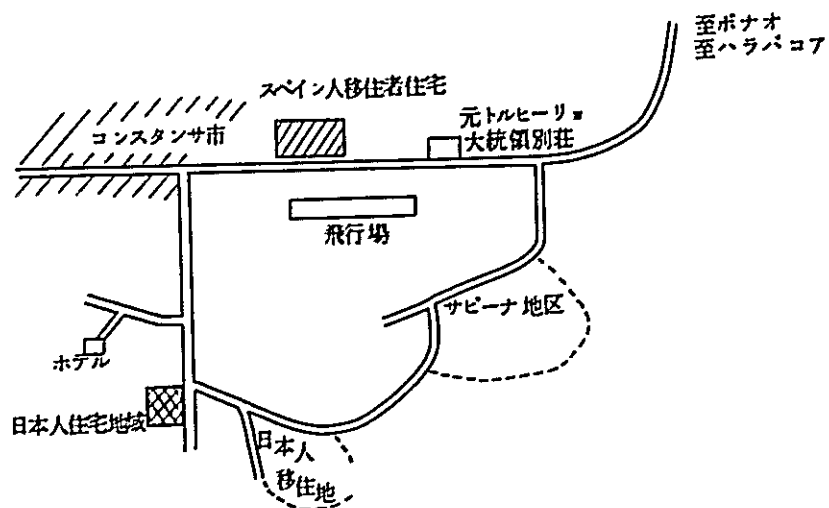
主 作 目	トマト、ニンニク、ニンジン、馬鈴薯、レタス、ピーマン、カリフラワー等の蔬菜類
営 農 状 況	蔬菜栽培の適地であるため蔬菜集約型農家の営農収支は良好であるが一部ニンニク投機の営農は不安定である。 昭和48年度の調査によれば、一農家平均耕作畑面積は4.9 ha、農業粗収入4,917千円、農業依存度は96%、農家1戸当り家族労働人数2.4人
農機具等の状況	トラクター0.1台、発動機0.1台、動力噴霧機2.3台、トラック0.6台 (昭和48年度農家調査)
営農指導機関	事業団サント・ドミンゴ支部
利用金融機関	銀行
主作物の販売取扱機関並びに主市場	業者に直売と市場へ個人出荷、サント・ドミンゴ市のスーパーマーケットへの直売の3つがある。

農家所得 (1戸当り平均) (昭和48年度)	2,349千円(8677RDS)
------------------------------	------------------

4 組織活動

自治会	コンスタンサ日本人会を結成している。
農協	なし

5 地区略図



移住地名 ハラバコア

1 地区概要

所在地	所在地	ラ・ベータ県 COLONIA JAPONESA, JARABACO, LA VEGA
	管理者 入植開始年度	ドミニカ国政府 昭和32年
経緯	経緯	同国の中央セントラル山脈内のハラバコア盆地に位置し、気候にめぐまれて交通の便もよく、文化的にもよい移住地である。1958年(昭和33年)コンスタンサ移住地より、転住者15戸により入植が初まった。土地配分は100タレアとなっているも1家族平均75タレア、野菜指定移住地でトマト、ナスを主作としてきたが、気候が良い理由で転入者は多く、一時は86家族までとなったが、市場の伸び悩みと、カナルの完成によって水稲が栽培されるようになり、当初の野菜移住地は水稲移住地に変ぼうした。
	緯	ここでも過剰入植と動乱から転出者が税出、現在の戸数は13戸で営農状況は徐々に向上している。
自然条件	位置	W 70° 38' N 19° 07'
	地形	セントラル山脈内の標高 600～700 m の谷間の台地で傾斜が多い。
	地質・土壌	表土 40～50 cm で黒褐色の壤土または埴壤土で酸性。 石灰岩質の礫が多く含まれている所もある。
	植生・林相	本地区周辺は、樹高20m以上の木からなる森林地帯であり、椰子類が多く含まれている。
気候	気候	雨期 5～10月、乾期 11～4月、年間平均降雨量 1,456 mm で年間平均しているが特に5月が最も多い 最高気温 29.3℃、最低平均 16.3℃、年平均 22.8℃
	社会	国土の中央に位置し、各主要都市に最も近く交通も至便である。 移住地は首都サント・ドミンゴ市北西 155 Km、サンチャゴ市南々東49Km、ラ・ベータ市北西29Km地点にあり、当地区はハラバコア市の南 0.5 Km の町はずれに在る。ハラバコア市は最近、特に避暑別荘地として急速に開発が進められている。
社会条件	市場	ドミニカ食糧公団、民間精米所への個人売渡し
	近傍主要都市	サント・ドミンゴ市人口 100 万人、東南 155 Km、サンチャゴ市人口 155,000 人、北々西49Km、ラ・ベータ市人口 31,000、東南29Km、ハラバコア市人口 6,500 人、北 0.5

社会条件	医 療・教 育	Km 地区内に医療施設はない。隣接のハラバコア市には公立病院1、私立病院2がある。またハラバコア市には、小学校・中学校併用の初等校と高校がある。移住者子弟のために日本語学校も開かれている。
	治 安	ハラバコア市の警察管下におかれている。

2 入植状況

入植へ内数と地人	年 度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸 数			13	3								
	人 員			68	17	2				2		1	
	年 度	42	43	44	45	46	47	48	49	現 地 入 植 者	合 計	定 着 数	
	戸 数									70	86	13	
	人 員									333	423	41	

昭和49年12月末

退耕者の主なる転住先	ブラジル国	パラグアイ国	アルゼンチン国	帰 国	そ の 他
率 (%)	14.3	28.6		57.1	

主なる出身県名	鹿 児 島	福 島	熊 本	山 形	高 知	徳 島	合 計
戸 数	5	3	2	1	1	1	13

総 面 積	470 ha			
ロ ッ テ 面 積	4.6 ha			
分譲条件および価格	無償。土地は入植10年後無償譲渡			
分 譲 状 況	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除 地
	470 ha			
地 権 取 得	取得7名、申請中3名、未申請 名			
電 気：飲 料 水	全戸都市電気であり、TV・ラジオ・冷蔵庫等を所有している飲料水は都市水道を利用し、燃料は各戸プロパンガスを使用している。			
地 区 内 道 路	地区内道路は舗装されていないが、雨天の際も途絶することなく通行は可能である。			
主なる事業団援護施設	な し			
車 輛	トラクター1、トラック1			
材 料	揚水ポンプ1、発動機1、カッター1			
組合等所有施設	な し			
車 輛 機 材 等	な し			

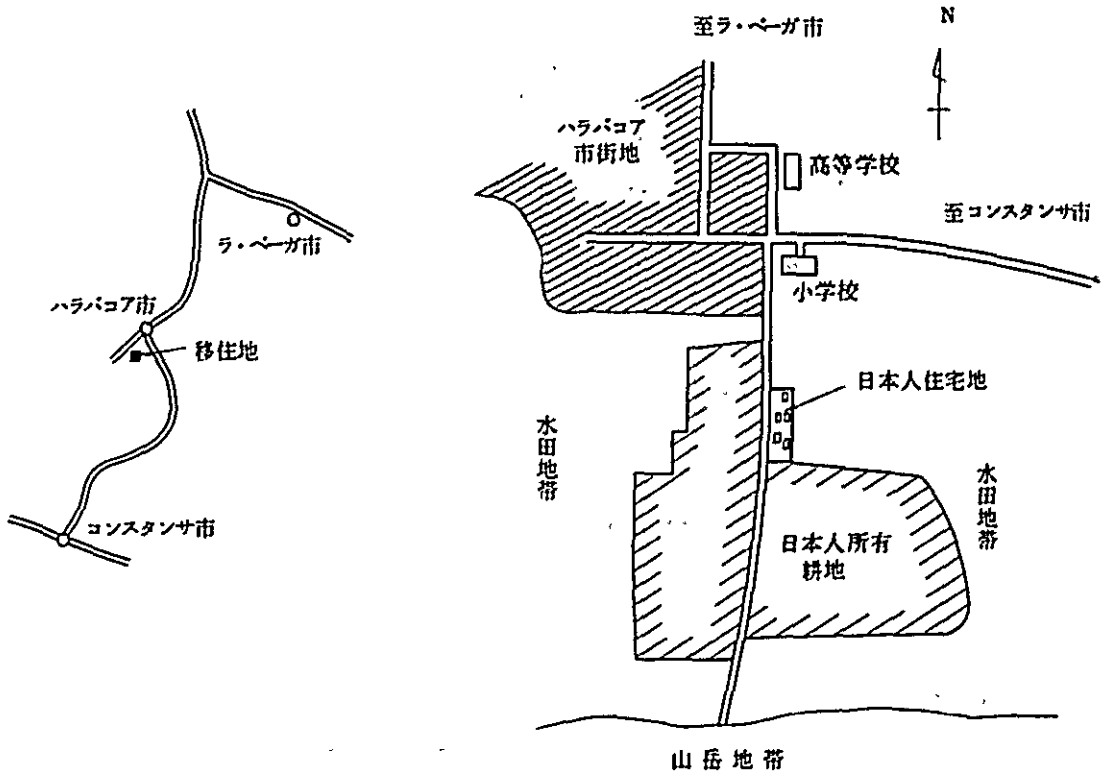
3 営 農

主 作 目	水稲, 蔬菜
営 農 状 況	水稲(2期作)を中心として, 農家によって一部蔬菜の作付が見られる。昭和48年調査によれば, 農家平均耕作面積, 水田 4.5 ha, 畑 1.5 ha, 農業粗収入は 1,976 千円である。農業依存度 40% 農家 1 戸当り家族労働人数 1.7 人
農機具等の普及状況	精米機 0.25 台, 乾燥機 0.13 台, 発動機 0.25 台, 動力噴霧機 0.88 台, 耕耘機 2.62 台, トラクタ 0.25 台 (昭和 48 年度・農家調査)
営農指導機関	事業団サント・ドミンゴ支部
利用金融機関	銀行
主作物の販売取扱機関並に主市場	ドミニカ食糧公団への出荷, 民間精米所への個人販売, 蔬菜付庭先販売
農家所得 (一戸当り平均 昭和48年度)	1,141 千円 (= 4,215 R D S)

4 組織活動

自治会 農 協	ハラバコア日本人会を結成しておりまとまりが良い。 なし
------------	--------------------------------

5 地区略図



移住地名 アグアネグラ (アルタグラシアを含む)

1 地区概要

所在地	所在地	ペデルナーレス県アグアネグラ, 同アルタグラシア COLONIA AGUAS NEGRAS, PEDERNALES COLONIA LA ALTAGRACIA, PEDERNALES
	管理者	ドミニカ国政府
	入植開始年度	昭和33年

経緯	経緯	本移住地はこの国の最西南のハイチとの国境にあり、コーヒー栽培移住地に指定され、1958年(昭和33年)5月28年と同年6月26日の2回に亘り、コーヒー栽培の目的で入植した。同地区は早くからハイチ人、ドミニカ人によってコーヒーが栽培されていた。コーヒー栽培は山岳地帯が主であるため、土地は1戸当り200タレアの配分であるが、傾地かつ立地条件が劣り急傾斜、岩石が多いことから成果を上げないうちに大量の帰国移住者を出した。
		現在残る2家族は、これら転出者の農地を買増して大規模にコーヒー栽培を行っており、今日なお新植をつづけている。

自然条件	位置	W 71° 42' N 18° 08'
	地形	標高6～700 mに位置して、平坦地は殆どなく、雨期は急流の通路となる。
	地質・土壌	黒褐色または褐色の埴土および埴壤土で酸性であり、表土は既して浅い。
	植生・林相	
	気候	気温 最高平均29.5℃、最低平均16.4℃、年平均22.9℃ 雨期5～10月、乾期11～4月、年間平均降雨量914 mm

社会条件	交通	移住地より南方30 Kmにベデルナーレス市があり、ここよりパラオーナまでは乗合タクシーの便がある。また、サント・ドミンゴ市方面へは、パラオーナで乗合タクシーに乗替え、この間は常時乗合タクシーが往復している。
	市場	主に輸出であるが一部国内にも出荷している。
	近傍主要都市	ベデルナーレス市 人口5,300人、南30 Km、パラオーナ市 人口37,000人、東160 Km、サント・ドミンゴ市 人口100万人、東360 Km
	医療・教育	地区内には小学校、ベデルナーレス市には小学校、中学校、高校がある。
	治安	地区には医療施設がないが、ベデルナーレス市には国立病院がある。
		ベデルナーレス市警察管下におかれている。

2 入植状況

入植戸数と人員 (内地)	年度	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41
	戸数				57								
	人員				315								
	年度	42	43	44	45	46	47	48	49	現地入植者	合計	定着数	
戸数									5	62	2		
人員									25	340	7		

昭和49年12月末

退耕者の主なる 転住先	ブラジル国	アルゼンチン国	ドミニカ国内	他 国	そ の 他
率 (%)	23.2	19.6	12.5	41.1	3.6

主なる出身県名	鹿児島	北海道							合 計
戸 数	1	1							2

分譲条件および 価 格	無償、土地はアグアネグラ入植10年後、アルタグラシア同8年後、無償譲渡			
	分譲済面積	未分譲面積	道路市街地等利用地	除 地
分譲状況	116.36 ha			
地 権 取 得	取得2名 (交付済)			
電気・飲料水	飲料用として井戸水を使用している。			
地区内道路	道路は既に管理されていない。 ベデルナーレス市からの30kmは目下舗装工事中。			

3 営 農

主 作 目	コーヒー
営 農 状 況	コーヒーの単作営農を行っている。
営 農 指 導 機 関	事業団サント・ドミンゴ支部。
利 用 金 融 機 関	銀 行
主作物の販売取扱 機関並に主市場	バラウーナ市仲買人との個人取引。
農 家 所 得 (一戸当り平均) (昭和47年度)	1,811千円(6,000 RDS)推定。

4 組 織 活 動

自 治 会	な し
農 協	な し

移住地概要(50年度版)正誤表

ページ	位置	誤	正	ページ	位置	誤	正
5	上から5行目	パラグアイ	パラグアイ	151	下から14行目	グレウ	グレイウ
18	下"9"	ブラジルの植民地改革院	ブラジルの植民地改革院	153	"10"	フエノス	フエノス
33	上"7"	12834	1283千円	156	"11"	約/時20分	約/時間20分
43	"17"	5年利	5年割	160	上"7"	Florençia	Florençia
65	下"15"	派状地形	派状地形	164	下"12"	DEPARTAMENTO	DEPARTAMENTO
75	上"11"	林植	林植	172	"6"	土壌構造	土壌構造
76	"11"	主なる事業用援助	主なる事業用援助	176	"14"	移住と異なり	移住地と異なり
86	"4"	営業	営業	178	"2"	転住先	転住先
"	"5"	相構	相構	181	上"10"	W55°5'S25°30'	W55°5'S25°30'
89	"9"	近効	近効	"	左側(中) "	然条件	自然条件
91	"8"	耕運機	耕運機	183	上から15行目	耕運機	耕運機
95	下"4"	キヤタピラD4 /	キヤタピラD4 /	188	"11"	アンテ	アンテ
102	上"14"	植生・材相	植生・林相	203	"3"	圃地が運々として展し	圃地が運々として発展し
106	"12"	(相構等)	(相構等)	204	下"5"	文官半	文官半
108	"3"	事業用	事業用	207	上"18"	貸代	貸与
"	"3"	年数間	年数回	210	下"3"	標高319m~307m	標高307m~319m
113	"9"	起伏	起伏	215	"17"	総積	総積
119	"9"	援助	援助	218	上"17"	3日	3回
149	下"21"	山植	山植	229	下"6"	農機具等の〇〇状況	農機具等の普及状況
151	"4"	山本	山本	233	"9"	野菜付移住状況	野菜付移住状況
"	"13"	グレウ	グレイウ				

